

板橋区障がい者実態調査
報告書

令和3年3月

板 橋 区

目次

I	調査の概要.....	1
II	調査結果.....	2
1	一般区民調査.....	2
	(1) 回答者属性.....	2
	(2) 障がい者福祉への関心について.....	4
	(3) 障がいのある人の就労・教育などについて.....	10
	(4) 障がいのある人に対する理解について.....	11
	(5) まちの環境や福祉施策について.....	14
2	障がい者調査.....	17
	(1) 回答者属性.....	17
	(2) 障がいの状況について.....	19
	(3) 医療や健康管理について.....	27
	(4) 介助・援助の状況について.....	29
	(5) 保護者の方について.....	31
	(6) 相談や情報入手の状況について.....	37
	(7) 福祉サービスについて.....	46
	(8) 日中の過ごし方について.....	61
	(9) 就労の状況について.....	62
	(10) 外出や余暇の過ごし方について.....	68
	(11) 差別や権利擁護などについて.....	71
	(12) 区の取り組みなどについて.....	76
3	障がい児診断者調査.....	79
	(1) 回答者属性.....	79
	(2) 障がいの状況について.....	81
	(3) 医療や健康管理について.....	86
	(4) 介助・援助の状況について.....	88
	(5) 保護者の方について.....	90
	(6) 相談や情報入手の状況について.....	96
	(7) 福祉サービスについて.....	105
	(8) 日中の過ごし方について.....	114
	(9) 外出や余暇の過ごし方について.....	116
	(10) 差別や権利擁護などについて.....	118
	(11) 区の取り組みなどについて.....	124

4 発達障がい等診断者調査	127
（1）回答者属性.....	127
（2）障がいの状況について.....	129
（3）介助・援助の状況について.....	130
（4）保護者の方について.....	131
（5）相談や情報入手の状況について.....	136
（6）日中の過ごし方について.....	143
（7）差別や権利擁護などについて.....	146
（8）区の取り組みなどについて.....	147

I 調査の概要

1. 調査の目的

障がい者計画・障がい福祉計画（第6期）・障がい児福祉計画（第2期）の策定基礎資料として、調査を実施しました。

2. 調査対象

板橋区在住の障がい者、障がい児の方を中心に、区民の方を無作為抽出

3. 調査期間

令和2年2月28日（金）から令和2年3月31日（火）

4. 調査方法

郵送による配布・回収

5. 回収状況

調査区分	配布数（件）	有効回収数（件）	有効回答率
一般区民	1,000	363	36.3%
障がい者	4,100	1,684	41.1%
（内訳） 身体障がい	1,200	514	42.8%
知的障がい	900	381	42.3%
精神障がい	1,200	448	37.3%
難病	800	341	42.6%
障がい児	800	328	41.0%
（内訳） 身体障がい	400	134	33.5%
知的障がい	300	155	51.7%
精神障がい	100	39	39.0%
手帳を所持しない幼児※ （児童発達支援事業者利用者）	100	38	38.0%
（合計）	6,000	2,413	40.2%

※の調査については調査票を事業者経由で利用者に配布した

6. 調査結果の表示方法

・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。

・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合があります。

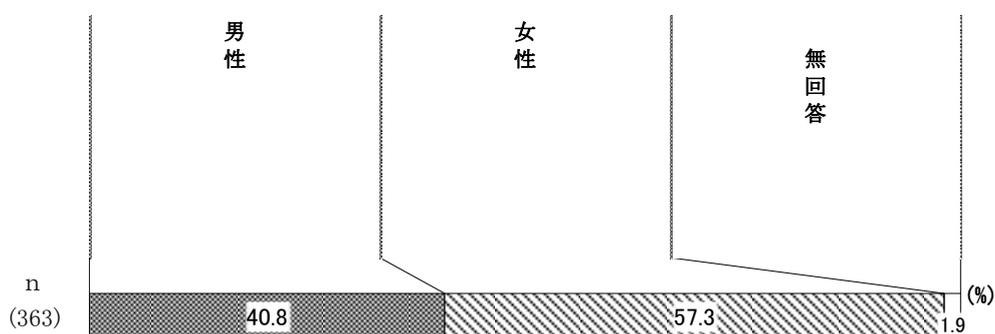
Ⅱ 調査結果

1 一般区民調査

(1) 回答者属性

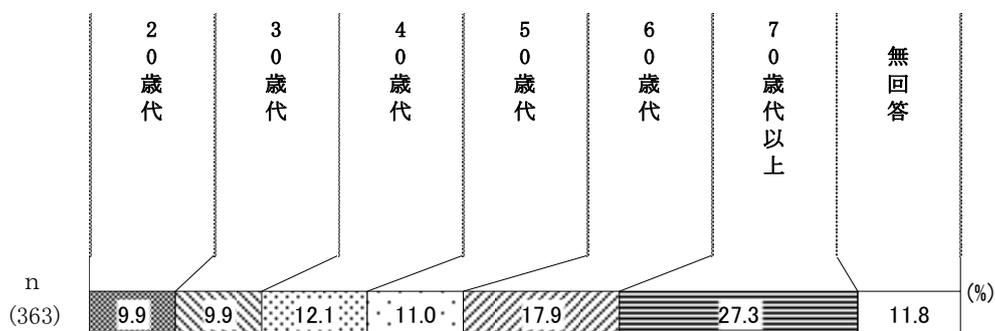
問1 あなた（調査票が郵送された宛名の方）の性別をお答えください。（○は1つ）

回答者の性別は、「男性」が40.8%、「女性」が57.3%と女性の割合が高くなっています。



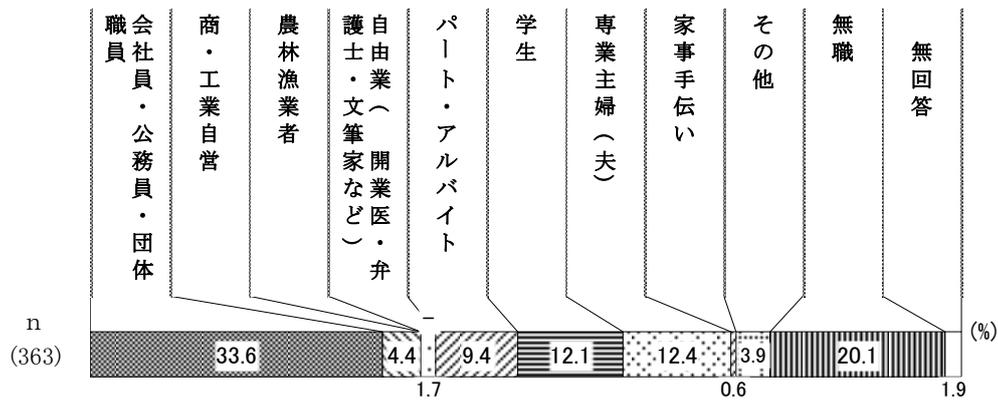
問2 あなたの年齢（令和2年2月1日現在）を記入してください。

回答者の年齢は、「70歳代以上」が27.3%と最も高く、次いで「60歳代」が17.9%となっています。



問3 ご本人の、現在のお仕事についておうかがいします。(〇は1つ)

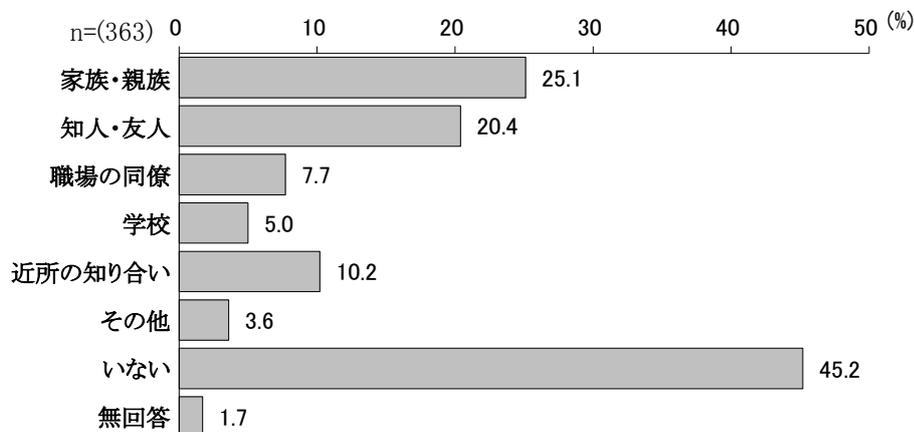
回答者の職種は、「会社員・公務員・団体職員」が33.6%と最も高く、次いで「無職」が20.1%となっています。



(2) 障がい者福祉への関心について

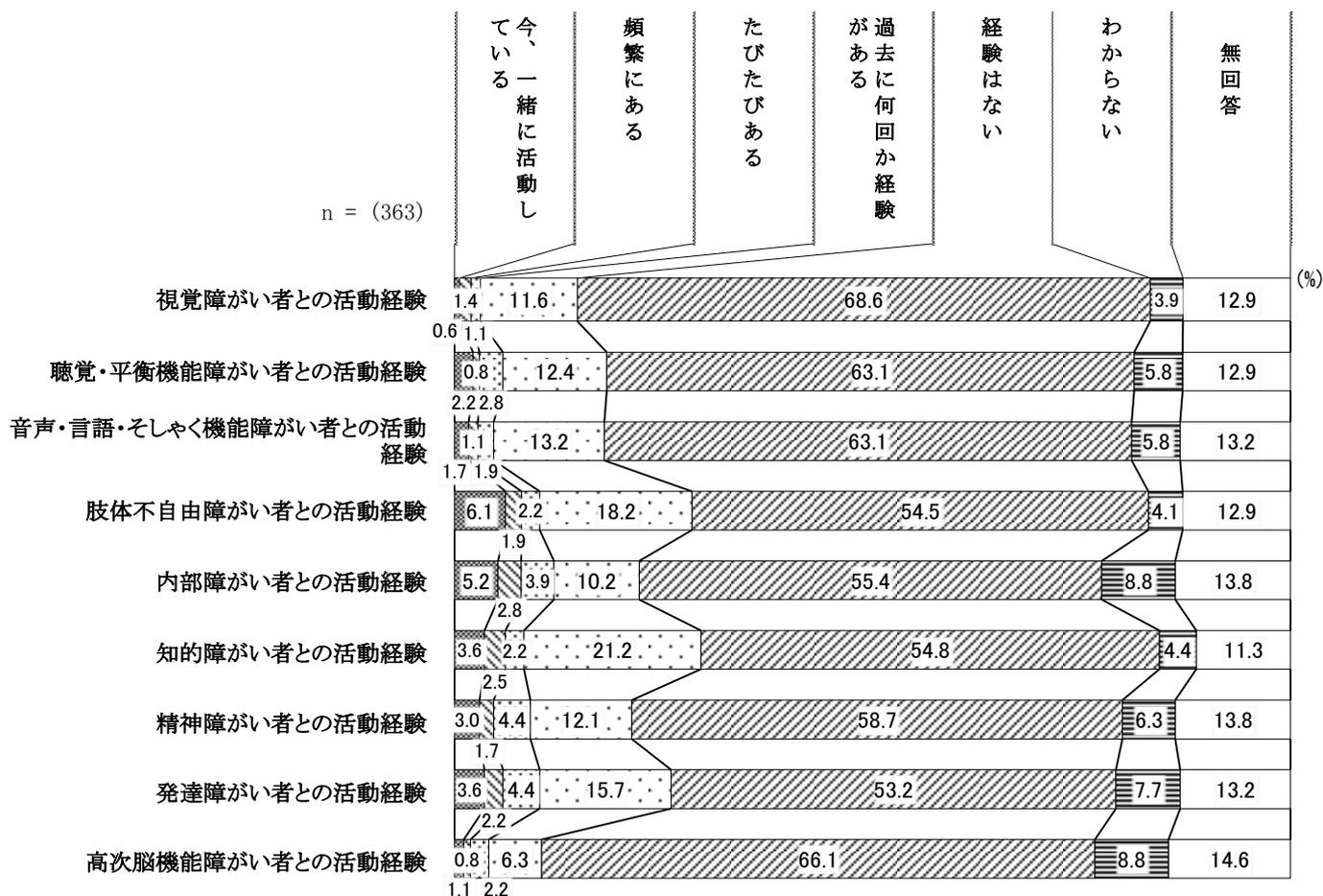
問4 あなたは、知り合いに障がいのある人はいますか。(〇はいくつでも)

回答者の障がい者の知人の有無は、「いない」が45.2%と最も高く、次いで「家族・親族」が25.1%となっています。



問5 あなたは、次の障がいについて、障がいのある人といっしょに活動をした経験をお持ちですか。(それぞれ、あてはまるものに1つだけ〇をつけてください。)

回答者の障がい者との活動経験は、いずれの障がいについても「経験はない」が50%以上と最も高く、次いで「過去に何回か経験がある」が10%台前半から20%台前半となっています。



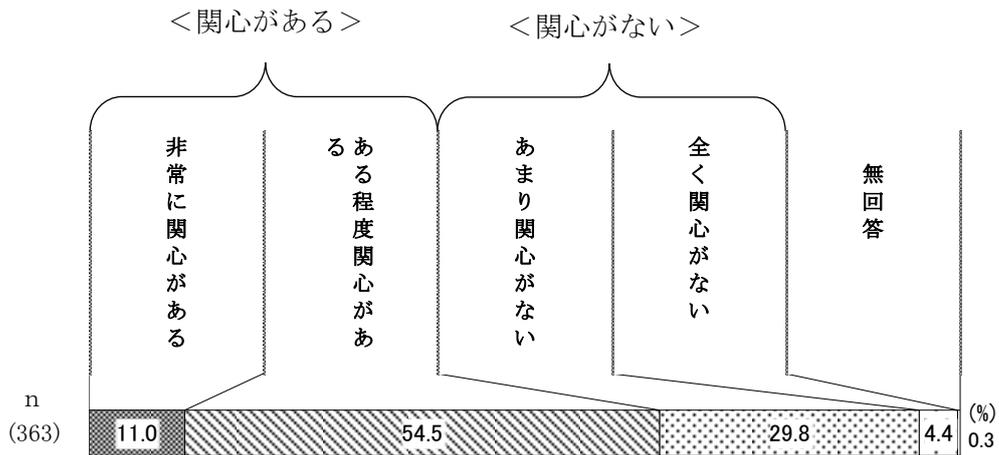
問6 問5で回答した障がいのある人といっしょに活動をした経験について、感じたことや印象深かったことをお書きください。

- ・障がい者の方々もみんなと交流をもって、楽しくふれ合いたいのだなと思いました。
- ・自分が何気なく行っていることが出来ないという不自由さを、障がいを持つ人が感じているのかと思い、助けが必要な時は動けるようになりたいと思いました。
- ・「障がい者」と言われているが、普通に障がい者と言われていない人とあまり変わらないし、逆に素直だから接しやすい。
- ・障がいをのりこえて、たくましく活動していると思った。
- ・障がいを持っていても、希望を持ち行動しているところ。
- ・学生の頃、盲学校などとの交流があった程度ですが、合唱や折り紙、手話、点字、朗読などを見てもらったり一緒に行う中で、障がいのある生徒さんの笑顔は自分たちと変わらないと感じました。
- ・できないこともあるが、まわりの人と変わらない。その人の特性で、みんなが楽しくさせてくれたり助けてくれたりする。
- ・社会的に関心度が低い。バリアフリー、駅エレベーターなど、ハード面での対策が少ない。防災訓練に参加したが、手助けする健常者、積極的に参加する障がいのある方がそれぞれ少ない（ひきこもってしまう傾向）。一部の特定した人になりがち→健常者、障がい者、両方とも。社会に出やすい環境を「特別」にではなく、「普通」に行えるようになれば。
- ・知的障がいでも、一つのことをまじめにやっているし、みんなとコミュニケーションをとろうとして努力している姿は、認める必要があります。私の親族に視覚障がいや知的障がいがありますが、やはり社会にとけこもうとして努力しています。その方々を私達は普通の人と同じように接することで、何か感じることもあるのではと思います。
- ・中途弱視者だったが、常に注意を払っていないと予測できないことが起きる。しかし、会話を非常に楽しんでいるので、誰かと居ることが本人の喜びであることが良く理解できた。
- ・実父が脳の病気で（硬膜下出血）障がいを持った。1～10までやさしく注意を促し、楽しく明るく接することがお互いのHAPPYにつながっていったと感じる（3年前に他界）。

- ・皆さん心が本当に温かい方々ばかり、こちらがパワーをもらいます！
- ・初めての時は戸惑いもあったが、活動を重ねるうちに違和感なく理解できるようになりました。子ども同士では、特に自然に活動できていたようです。
- ・前向きに明るい方が多かったように感じます。
- ・本人は懸命に生きていて、他人に差別や偏見をされたくないと思って生きていると思った。
- ・知的障がいのある方に対し、配慮しながら対応することがなかなか難しいながらも、コミュニケーションを重ねて行くことで少しずつお互いを理解し合える形が取れた。
- ・ボランティアのつもりでやったが、3回くらいで根を上げてしまった。中途半端な気持ちではできないと感じた。
- ・障がいのある人の出来ることと、出来ないことの理解が必要であること。出来ることを伸ばしていく援助が必要であると感じた。
- ・健常者の同僚が、障がいのある人に対して“上から目線”の態度をとることに憤りを感じている。
- ・過去に母方の従姉が、多分知的障がいだったのでは、と今思えば思いあたることがありますが、まわりの人達はただ知恵遅れと言う扱いだっただけがとても残念に思って、彼女の希望の道を閉ざしていたように思い、心が今となっては悼む日々です。
- ・生まれつきのものなのに、いじめられて可哀想だった。
- ・相手が「何が出来て、何が出来ないか」、自分は「何をすべきで、何をしなくて良いか」が初めのうちはわからないが、次第に分かってくればそれ程特別なことではないと感じた。
- ・自分よりつらい状態なのに、自分より明るくてすごいと思った。
- ・障がい者は健常者とは違うと思い込んで接してしまいがちだが、特別扱いされるのではなく、普通に接して欲しい、自分でできることは自分でやりたいと思っていることがわかった。障がいについての知識を身に付けて接したいと思った。
- ・一生懸命歩こうとしたりしゃべろうとしたりしていて、最初は気を使ったけど、途中から楽しく遊んだりしたのが印象深い。

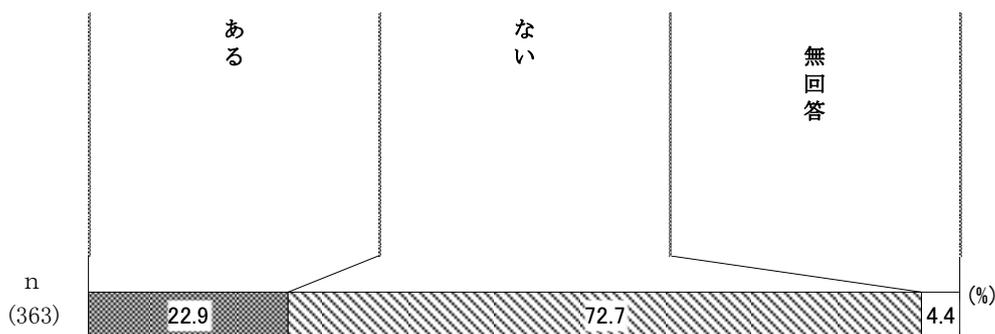
問7 あなたは、福祉に関する活動に関心がありますか。(〇は1つ)

福祉に関する活動について、「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を<関心がある>、「あまり関心がない」と「全く関心がない」を<関心がない>とした場合、<関心がある>が65.5%と過半数を占めています。



問8 あなたは、福祉に関する活動をしたことがありますか。(○は1つ)

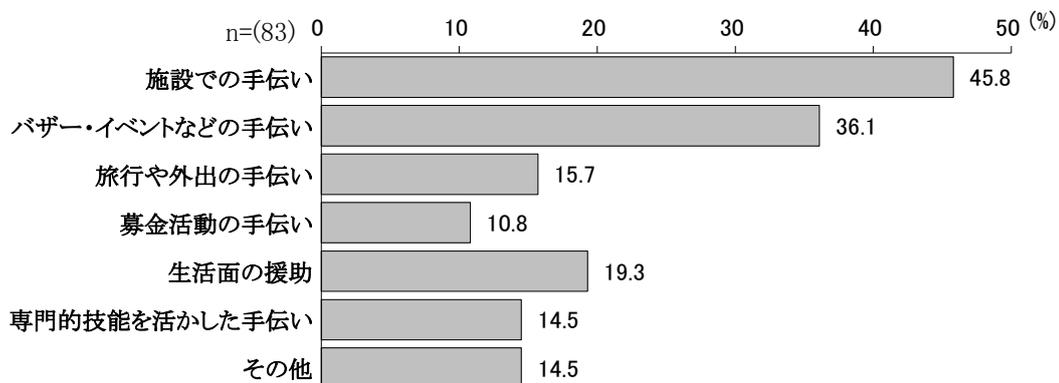
福祉に関する活動経験の有無を聞いたところ、「ある」と答えた人が22.9%、「ない」答えた人が72.7%と約4分の3を占めています。



次の問9は、問8で「1. ある」と答えた方におうかがいします。

問9 それは、どのような活動ですか。(○はいくつでも)

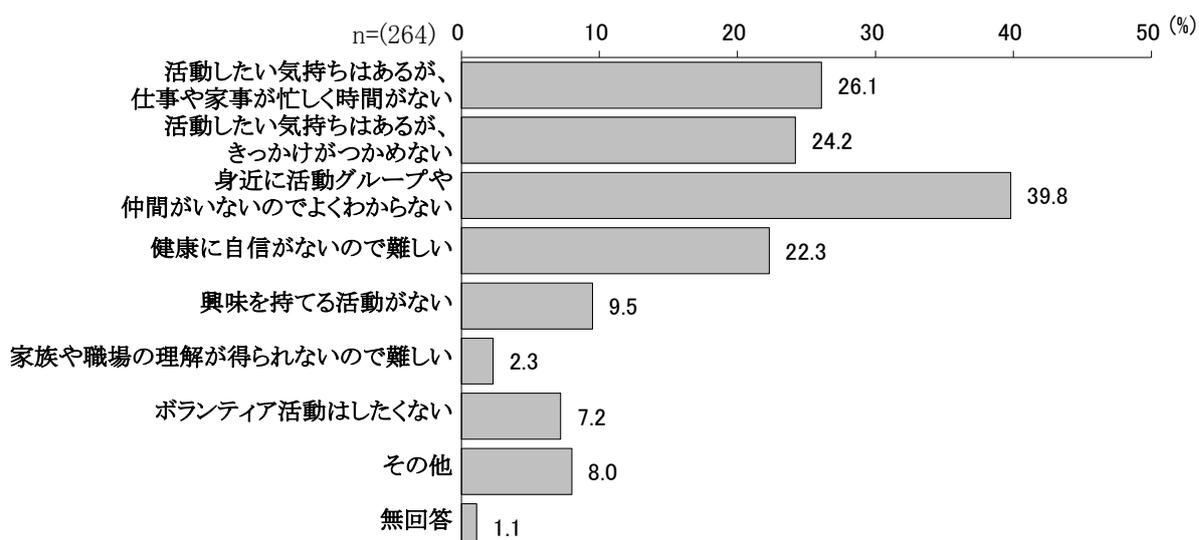
どのような活動か聞いたところ、「施設での手伝い」が45.8%と最も高く、次いで「バザー・イベントなどの手伝い」が36.1%となっています。



次の問 10 は、問 8 で「2. ない」と答えた方におうかがいします。

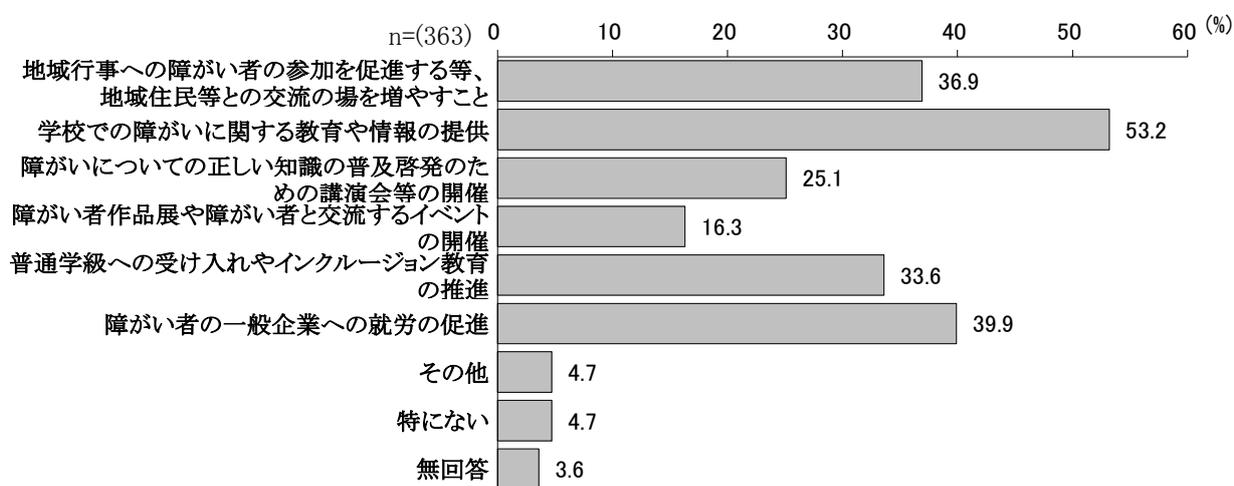
問 10 ボランティア活動について、したことがない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

ボランティア活動をしたことがない理由を聞いたところ、「身近に活動グループや仲間がないのでよくわからない」が 39.8%と最も高く、次いで「活動したい気持ちはあるが、仕事や家事が忙しく時間がない」が 26.1%となっています。



問 11 障がいのある人もない人も共に地域で普通に生活できるように地域の理解を進めていくために、特に力を入れるべきことは何だと思えますか。(〇は3つまで)

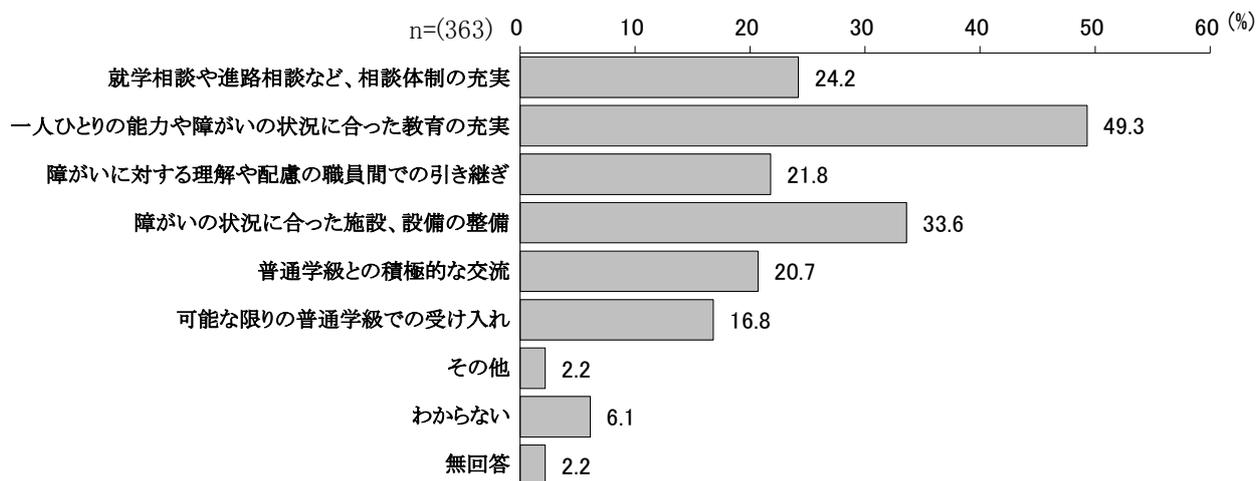
特に力を入れることを聞いたところ、「学校での障がいに関する教育や情報の提供」が 53.2%と最も高く、次いで「障がい者の一般企業への就労の促進」が 39.9%となっています。



(3) 障がいのある人の就労・教育などについて

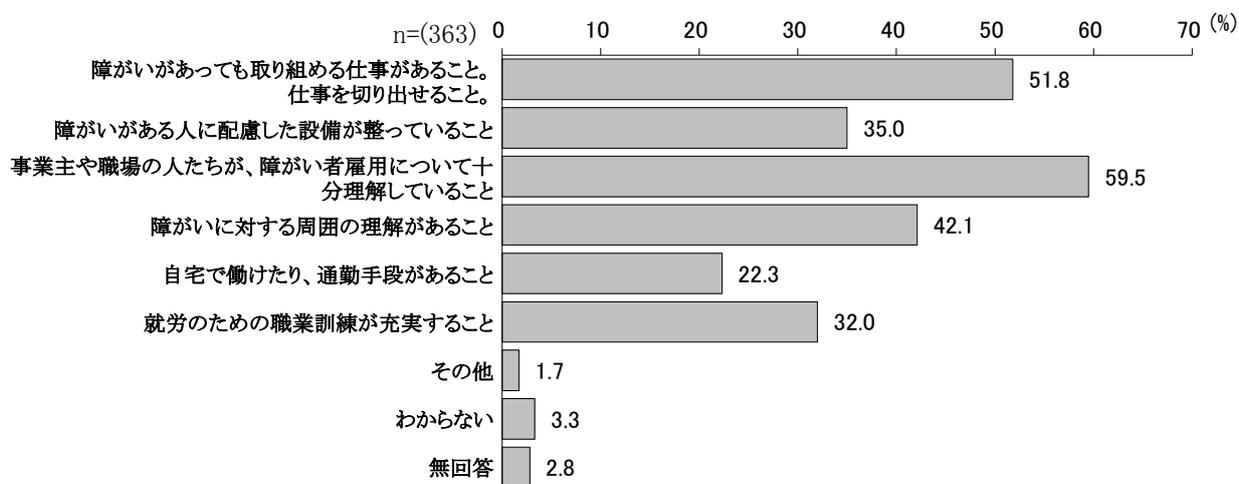
問12 あなたは、障がいのある児童・生徒の教育に関し、どのようなことが必要であると思いますか。(〇は2つまで)

教育で何が必要かを聞いたところ、「一人ひとりの能力や障がいの状況に合った教育の充実」が49.3%と最も高く、次いで「障がいの状況に合った施設、設備の整備」が33.6%となっています。



問13 現在、障がいのある人への就労支援施策が推進されています。あなたは、障がいのある人が働くために、どのような条件が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

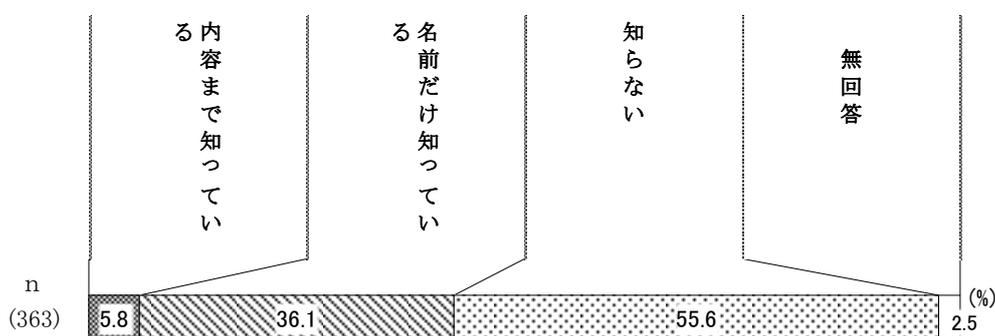
障がいのある人が働くために必要なことを聞いたところ、「事業主や職場の人たちが、障がい者雇用について十分理解していること」が59.5%と最も高く、次いで「障がいがあっても取り組める仕事があること。仕事を切り出せること。」が51.8%となっています。



(4) 障がいのある人に対する理解について

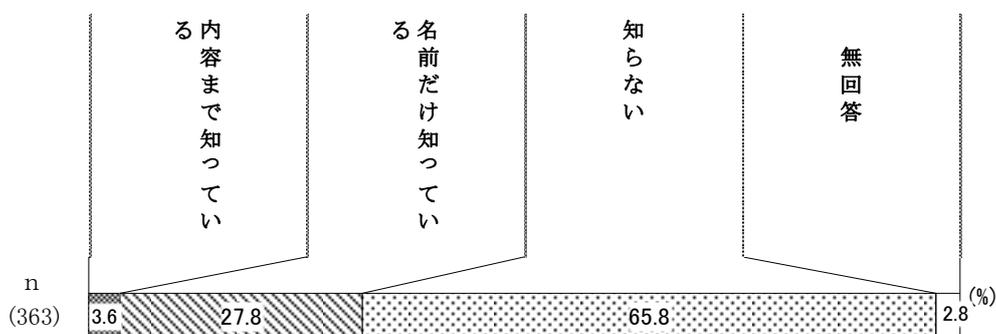
問 14 障がいのある人に対する虐待を防ぐため、平成 24 年 10 月に障害者虐待防止法が制定されましたが、あなたは「障害者虐待防止法」について知っていますか。(〇は 1 つ)

障害者虐待防止法を知っているか聞いたところ、「知らない」と答えた人が 55.6%と最も高く、次いで「名前だけ知っている」が 36.1%となっています。



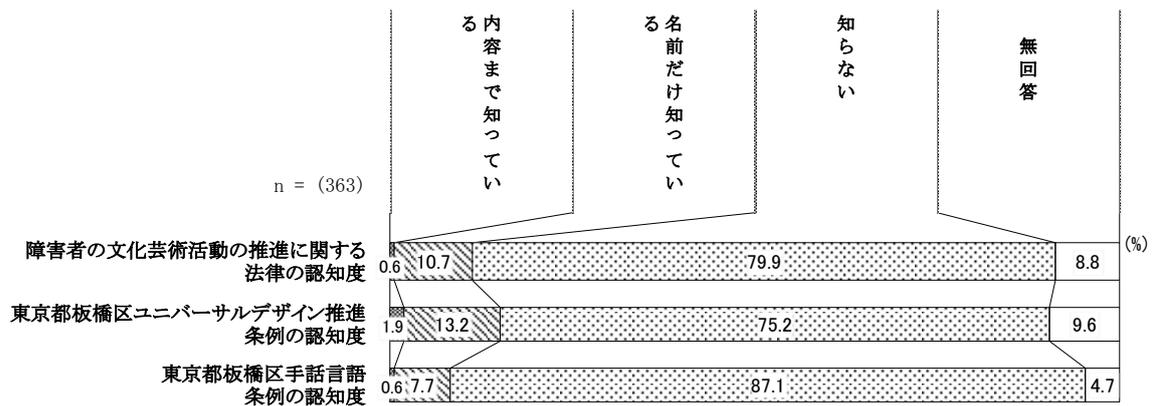
問 15 障がいのある方々への差別をなくすことを目的として、平成 28 年 4 月 1 日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、このことを知っていますか。(〇は 1 つ)

障害者差別解消法を知っているか聞いたところ、「知らない」と答えた人が 65.8%と最も高く、次いで「名前だけ知っている」が 27.8%となっています。



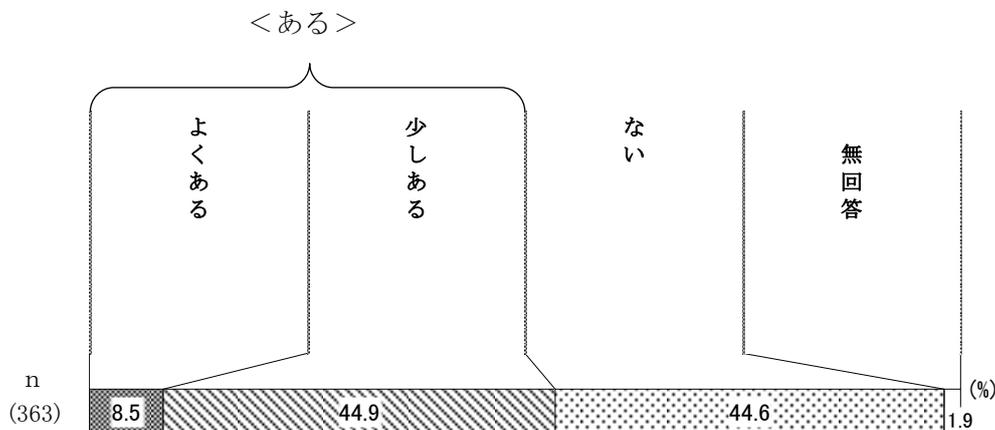
問 16 平成 29 年以降に施行された次の法律や条例を知っていますか。(〇は 1 つ)

平成 29 年以降に施行された法律や条例を知っているか聞いたところ、すべて「知らない」と答えた人が 70% を超えて最も高く、次いで「名前だけ知っている」が 10% 前後となっています。一方、すべて「内容まで知っている」と答えた人は 2% 以下と低くなっています。



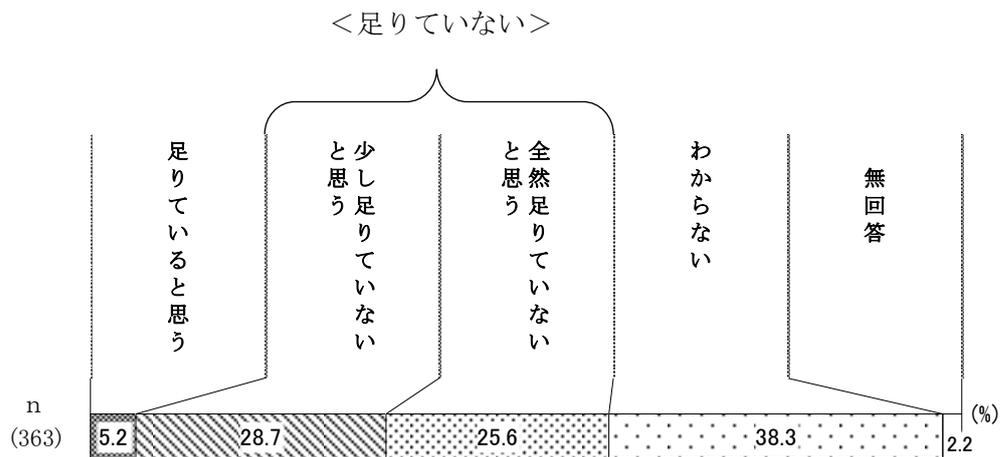
問 17 あなたは、障がいのある人に対する、障がいを理由とする差別や偏見を直接見聞きしたことがありますか。(〇は 1 つ)

「よくある」と「少しある」を合わせて〈ある〉とした場合、差別や偏見を見聞きしたことが〈ある〉が 53.4% と過半数を占めています。



問 18 あなたは、区民や地域の、障がいのある人への対応や理解が足りていると思いますか。(〇は1つ)

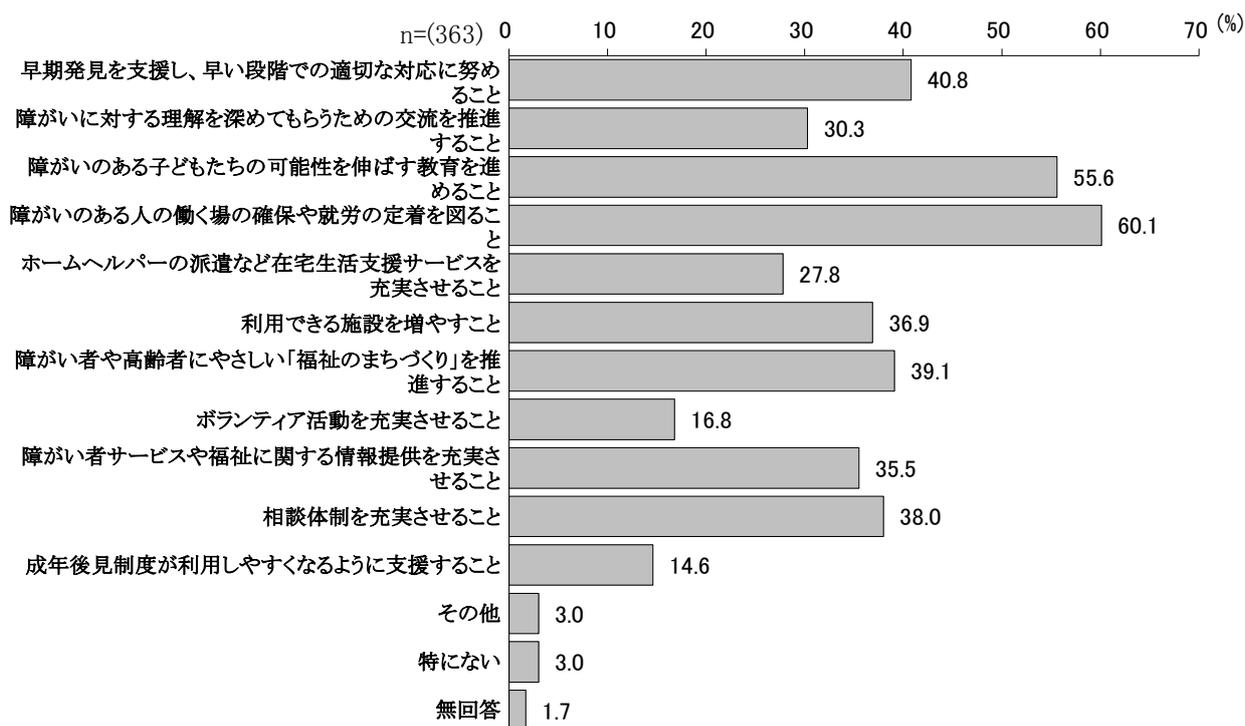
「少し足りていないと思う」と「全然足りていないと思う」を合わせて<足りていない>とした場合、<足りていない>が 54.3%と過半数を占めています。



(5) まちの環境や福祉施策について

問 19 今後、障がい者施策を進めていくにあたって、区は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。(〇はいくつでも)

何を充実させていけばよいか聞いたところ、「障がいのある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」が 60.1%と最も高く、次いで「障がいのある子どもたちの可能性を伸ばす教育を進めること」が 55.6%となっています。



問 20 最後に、区の障がい者施策について、ご意見やご提案などがありましたら、ご自由にお書きください。(自由記入)

- ・障がい者や高齢者が住みやすい、生きやすい街になるには、まず彼らに対する周囲の人間の理解は必須です。本調査のようなことでも、周囲の人間は多少なりとも障がい者に対する理解を深めることができますし、福祉に対して関心を持つきっかけとなるかもしれません。なので、このようなアンケートはぜひ続けて欲しいです。また、子どもたちに対して「障がい」について教育を行うことは重要かと思います。障がいを持った子どもたちが、自ら未来の選択肢を減らさなければならぬような社会ではなく、そのような子どもたちも大いに活躍できる社会を目指して、頑張ってください。
- ・障がいのある方でも高額所得者がいます。この方達を含めた委員会を設け、障がい者が自立出来る学習、制度、施設等、具体的な町づくりを推進してはいかがでしょうか。「障がい者が、障がい者に手を差しのべる」それを健常者がよりサポートして行く時代になったらと思います。健常者でも格差が広がってきています。障がい者にも助けられる時代がきます。
- ・他区で図工の教員をしています。障がいのある子どもたちとも、作品をつくったり遊んだりします。その活動中の子どもの姿や作品は、他の人を良い意味で巻き込む魅力があります。アウトサイダー・アートなどとも言われますが、障がいのある人もそうでない人も、一緒に楽しめて面白さを共有できる経験ができればよいのではないかと思います。子どもたちも障がいを持った友達がいる環境が不自然なことではない、と感じて育てて欲しいです。一つの案としてですが、アートでつなぐことはできませんか？
- ・障がい者として差別するのではなく、同じ人間で同等に扱うことが大切だと思う。利用できる施設を増やした方がいいと思う。同じ学生としてできるだけ普通学級に入れて欲しいと思う。
- ・区の職員も、障がいに対しての理解がない人がたくさんいると思いました。まず、職員への理解をもっと進めるべきだと思います。非常に困っている人がたくさんいると思います。
- ・障がい者に対する条例や法律があることを全く知らなかった。行政はもっと積極的に知らせるべきだと思う。健常者が障がい者に差別的な考えや行動をすることは、正しい理解がないからだと思う。現状、自分の周囲では健常者が障がい者を人として平等に扱っているように見えない。バリアフリー等の設備を整えることも重要だが、その前に障がい者への正しい理解ができるような教育が必要だと思う。

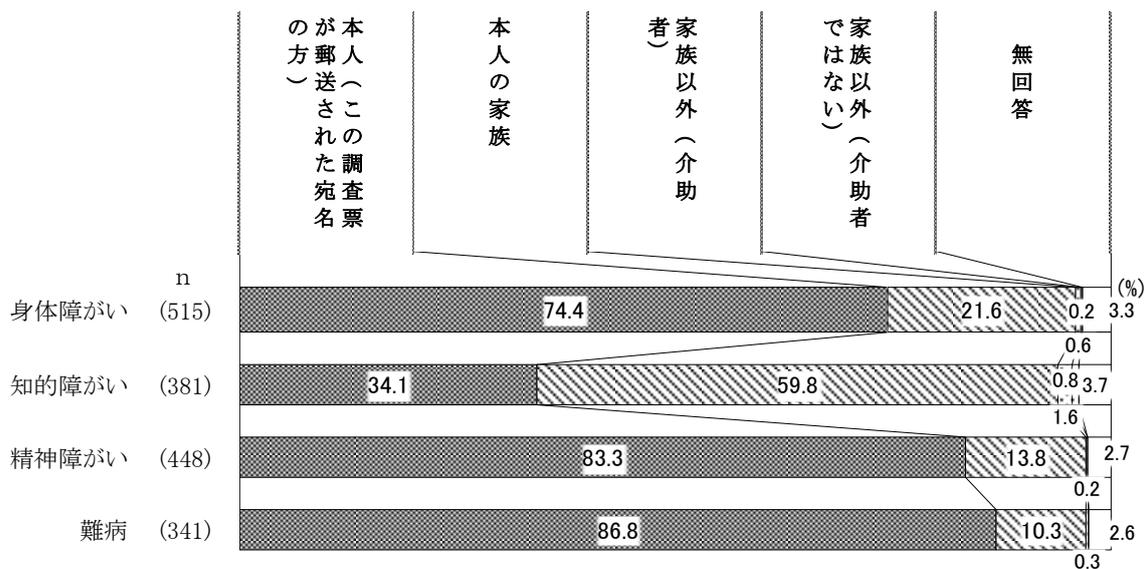
- ・障がいの有る方がもっと社会に出て、区議会議員、都議会議員、又国会議員の方々になれるように、周りの方々の理解を重ねてすべての方々には平等になれる日々が送れるように希望します。又なぜか、街の中があまり障がいの有る方にはやさしくないバリアが有りすぎです。アメリカに行くと障がい者は普通の生活が出来るような街、道路、店、乗り物。日本のバスはなぜ車椅子の方が使いにくく、又運転手さんが一度降りて車椅子の補助をするなんてナンセンスです。私がN Yのバス、又はハワイのバスを30年前から見て思っていたことです。運転席でボタン一つで入口のリフトを降ろせるようになっていないのが不思議です。議員の方は本当に海外に行って福祉を学んで来ていますか？観光客になって税金を使わないで下さい！スーパーマーケットのレジも見習って下さい！
- ・障がい者雇用に積極的な企業にて就業中です。実際身近で見ると、障がいのある方をお願いするために切り分けした業務の難度が、実際に業務にあたる人のレベルにあっていないと思うことも多く、マッチングは難しいなと感じています（知的障がいの方ができる単純すぎる業務は、メンタル障がいの方だとやりがいを感じられないようで、モチベーション維持できず辞めることが多い）。障がい者側は早い段階から、できることに合わせた業務スキルを身につける+社会としても1つの業態として、障がいのある方が対応できる分野を確立させないとならないと思います。
- ・障がいの状況により、可能な限り障がいのない人達と一緒に働いたり、教育を受けることができれば良いと考えますが、そのために小学生程度の段階から、障がいのある子ども達との交流と一緒に学ぶような環境が必要だと感じます。障がいのある人も、それぞれの状況にもよりますが、ある程度の手助けにより出来ることもたくさんあることを、子どもの頃から理解することが大切であると感じます。まずは知ることが必要と考えます。
- ・障がい者の方が、いろいろな手続きをする際に分かりやすい仕組み（理解しやすく）、簡単に手続きができるようにしてほしい。障がいのある人が利用しやすい役所を作って増やして欲しい。
- ・発達障がいや障がい者の方に、高齢者は偏見を持っていて理解がないと思う。昔は障がいを隠していたからかもしれないからなのか。色々な人に知ってもらいたい。障がいを持った人だけでなく、その家族や介護をする人への支援、理解を。ステップアップ教室（小学校）に入れない知人がいます。受け入れ体制、職員の人員確保の対応をお願いします。

2 障がい者調査

(1) 回答者属性

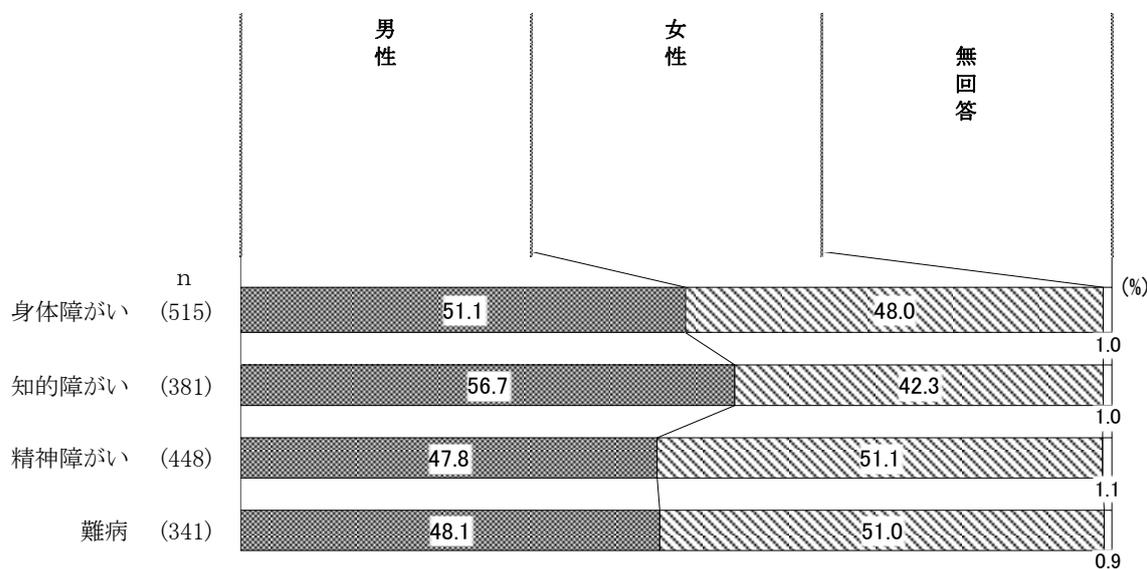
問1 お答えいただくのはどなたですか。(○は1つ)

回答者の属性は、身体障がい者では74.4%、精神障がい者では83.3%、難病の方では86.8%と、「本人」の割合が最も高くなっています。知的障がい者では、「本人の家族」が59.8%と最も高くなっています。



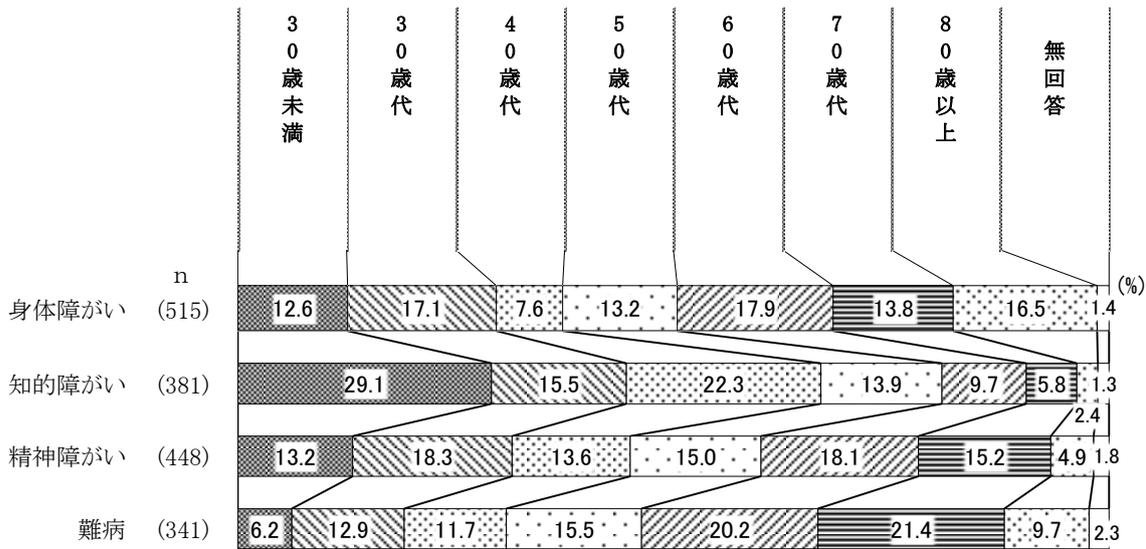
問2 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

回答者の性別は、身体障がい者では51.1%、知的障がい者では56.7%と、「男性」が多くなっています。精神障がい者では51.1%と難病の方では51.0%と、「女性」が多くなっています。



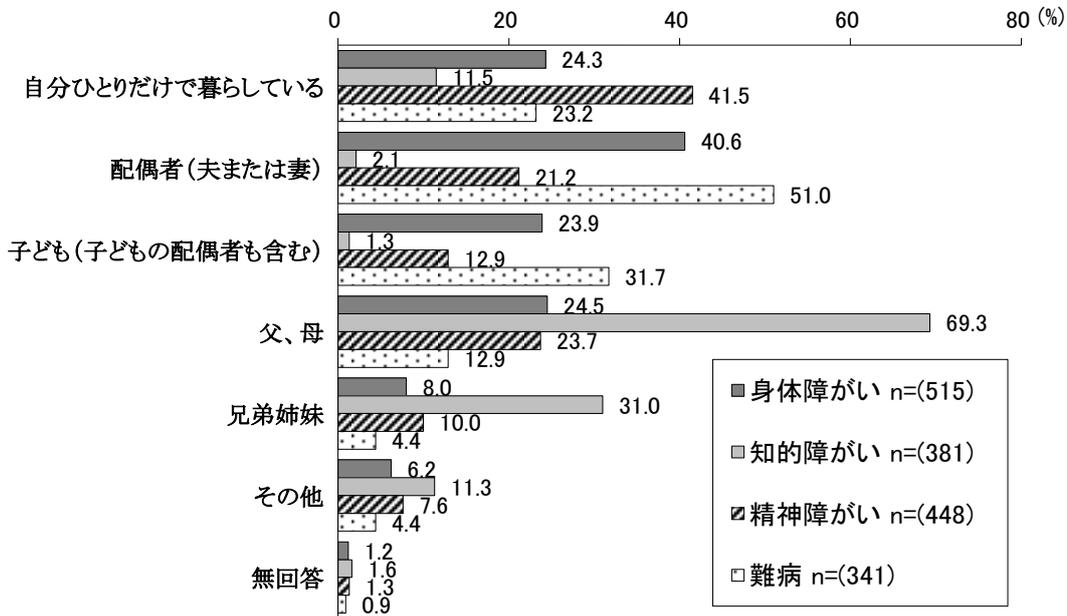
問3 あなたの年齢（令和2年2月1日現在）を記入してください。

回答者の年齢は、身体障がい者では、「60歳代」が17.9%と最も高く、次いで「30歳代」が17.1%となっています。知的障がい者では「30歳未満」が29.1%と最も高く、次いで「40歳代」が22.3%となっています。精神障がい者では、「30歳代」が18.3%と最も高く、次いで「60歳代」が18.1%となっています。難病の方では、「70歳代」が21.4%と最も高く、次いで「60歳代」が20.2%となっています。



問4 あなたは現在、どなたと一緒に暮らしていますか。（〇はいくつでも）

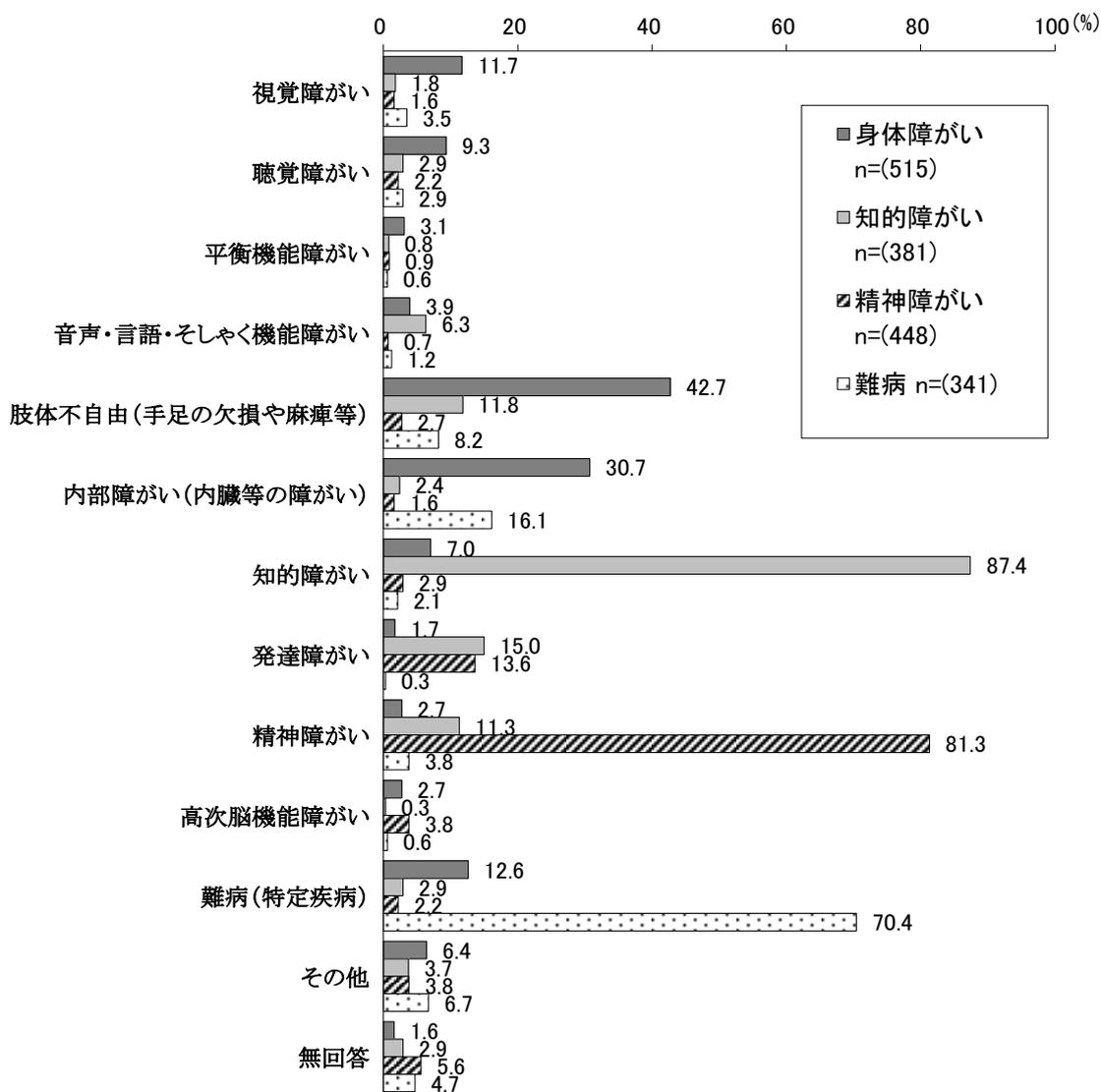
誰と一緒に暮らしているかを聞いたところ、身体障がい者では40.6%、難病の方では51.0%と、「配偶者」が最も高くなっています。知的障がい者では「父、母」が69.3%と最も高く、精神障がい者では「自分ひとりだけで暮らしている」が41.5%と最も高くなっています。



(2) 障がいの状況について

問5 あなたの障がいは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

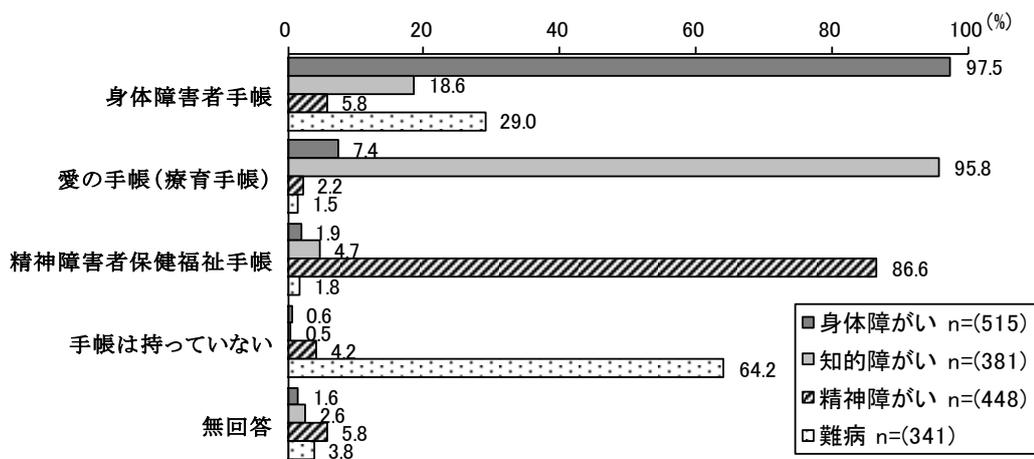
障がいは何かを聞いたところ、身体障がい者では「肢体不自由」が42.7%に次いで、「内部障がい」が30.7%となっています。知的障がい者では「知的障がい」が87.4%に次いで、「発達障がい」が15.0%となっています。精神障がい者では「精神障がい」が81.3%に次いで、「発達障がい」が13.6%となっています。難病の方では「難病」が70.4%に次いで、「内部障がい」が16.1%となっています。



問6 あなたがお持ちの手帳の種類はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

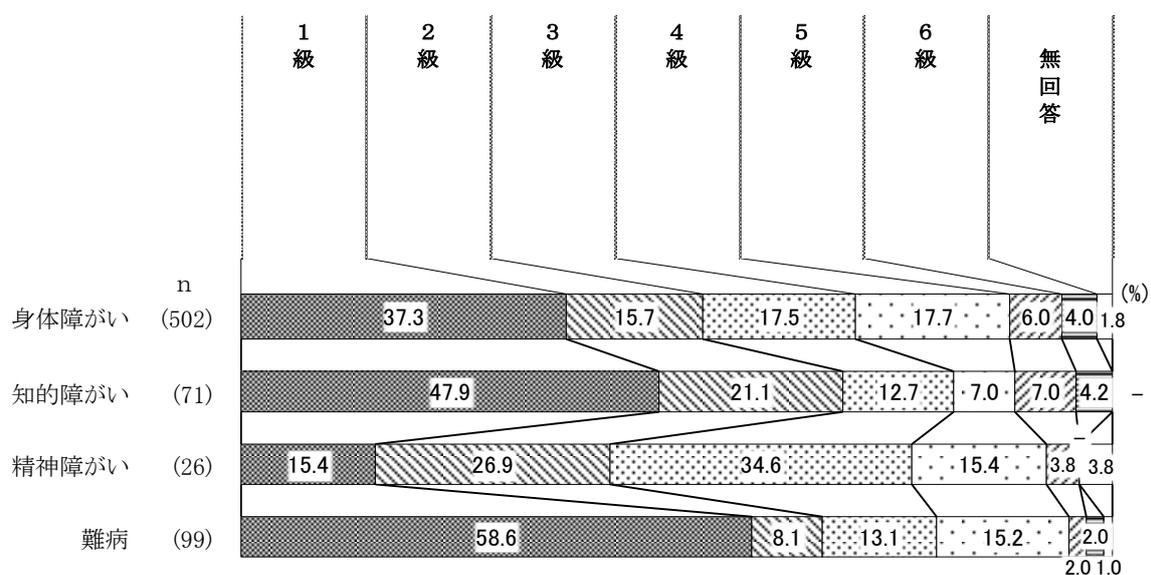
・手帳の種類

手帳の種類を聞いたところ、身体障がい者では「身体障害者手帳」の保持が 97.5%となっています。知的障がい者では「愛の手帳」の保持が 95.8%に次いで、「身体障害者手帳」が 18.6%となっています。精神障がい者では「精神障害者保健福祉手帳」の保持が 86.6%に次いで、「身体障害者手帳」が 5.8%となっています。難病の方では「手帳は持っていない」と回答した人が 64.2%と高く、次いで「身体障害者手帳」が 29.0%となっています。



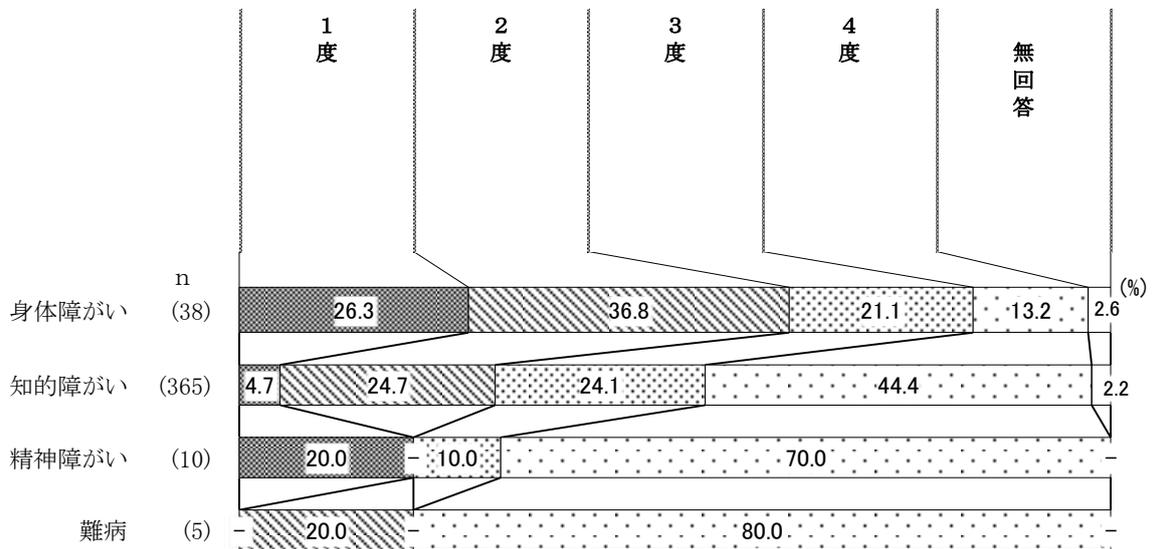
1. 身体障害者手帳

身体障害者手帳の等級を属性別で見ると、身体障がい者では「1級」が37.3%と最も高く、次いで「4級」が17.7%となっています。知的障がい者では「1級」が47.9%と最も高く、次いで「2級」が21.1%となっています。精神障がい者では「3級」が34.6%と最も高く、次いで「2級」が26.9%となっています。難病の方では「1級」が58.6%と最も高く、次いで「4級」が15.2%となっています。



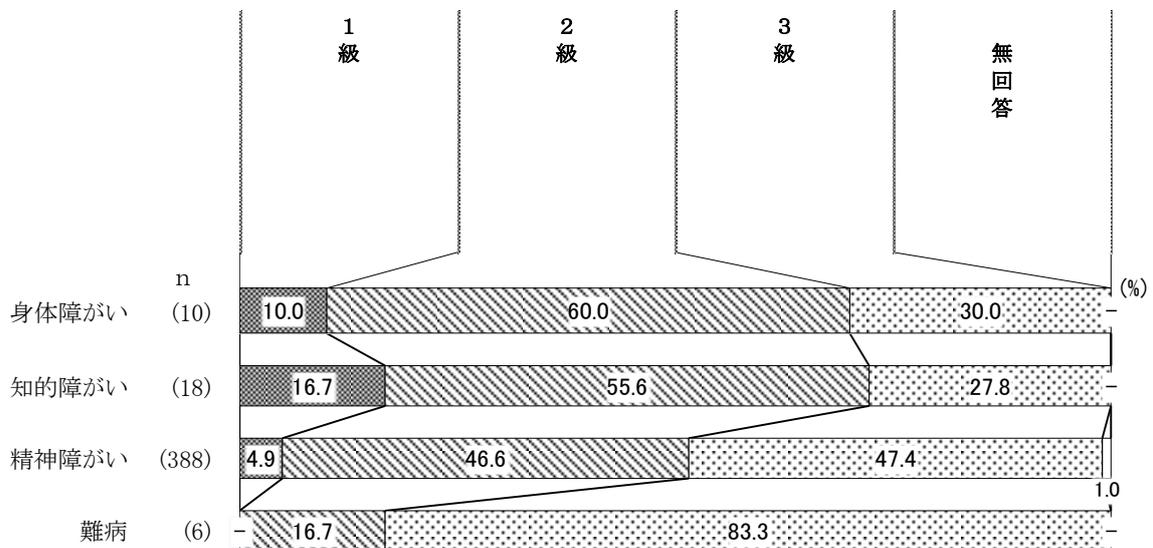
2. 愛の手等（療育手帳）

愛の手帳の等級を属性別で見ると、身体障がい者では「2度」が36.8%と最も高いですが、知的障がい者では44.4%、精神障がい者では70.0%、難病の方では80.0%と「4度」が最も高くなっています。



3. 精神障害者保健福祉手帳

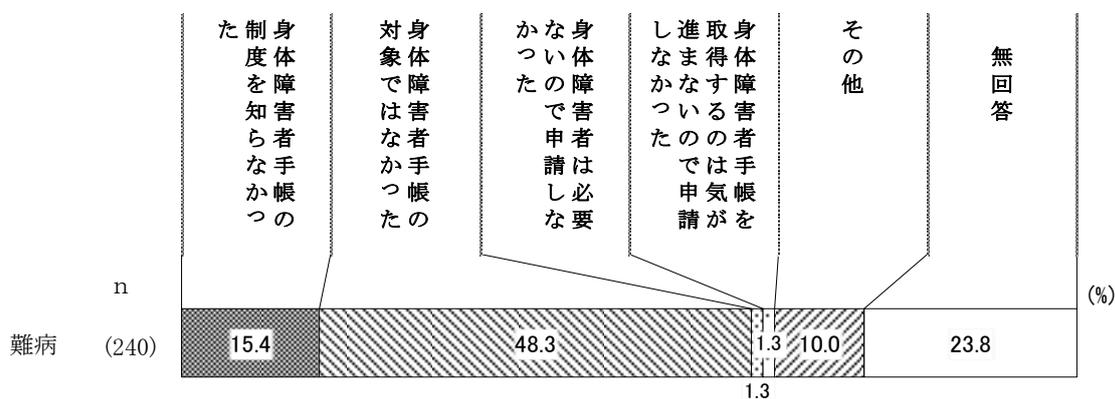
精神障害者保健福祉手帳の等級を属性別で見ると、身体障がい者では60.0%、知的障がい者では55.6%と「2級」が最も高くなっています。精神障がい者では47.4%、難病の方では83.3%と「3級」が最も高くなっています。



次の問6-2は、問5で「11. 難病（特定疾病）」かつ問6で「4. 手帳は持っていない」と答えた方におうかがいします。

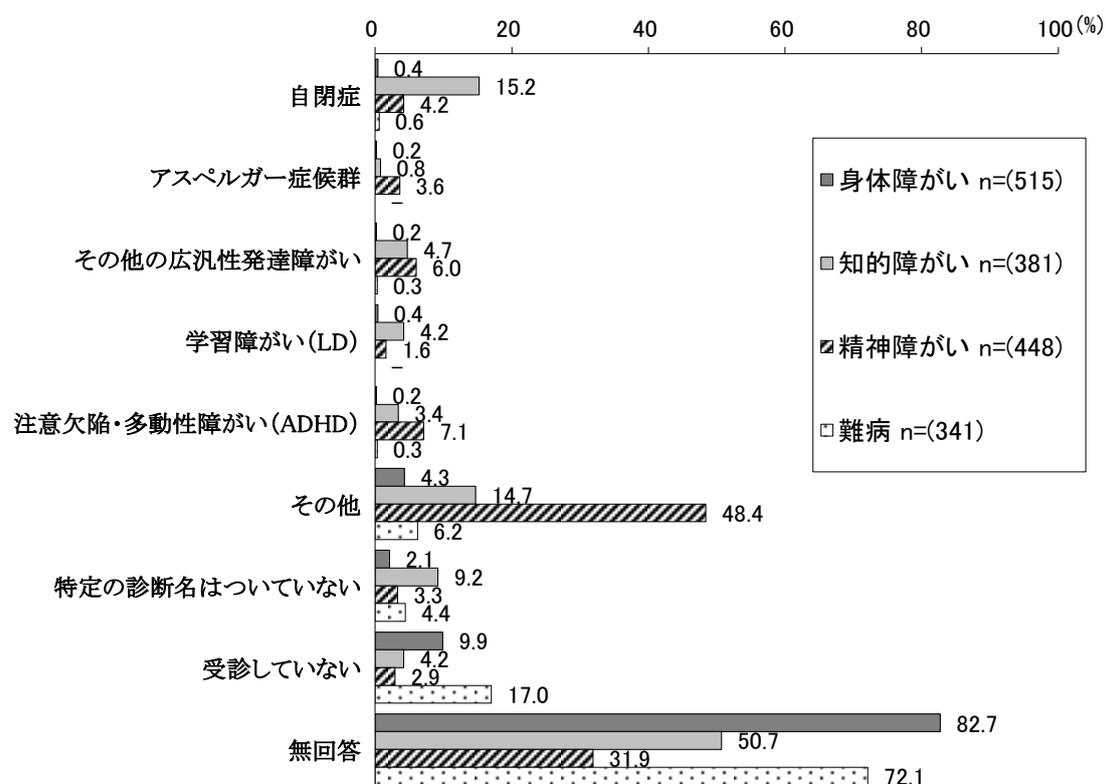
問6-2 あなたが、身体障害者手帳を取得していない理由は何ですか。（○は1つ）

手帳を取得していない理由を聞いたところ、「身体障害者手帳の対象ではなかった」が48.3%と最も高く、次いで「身体障害者手帳の制度を知らなかった」が15.4%となっています。



問7 発達障がいに関する診断名などありましたらお答えください。(あてはまるものすべてに○) なお、精神障がいの方は「6. その他」に病名をお書きください。

発達障がいの診断名を聞いたところ、身体障がい者では9.9%、難病の方では17.0%と、「受診していない」が最も高く、次いで身体障がい者では4.3%、難病の方では6.2%と、「その他」となっています。知的障がい者では「自閉症」が15.2%と最も高く、次いで「その他」が14.7%となっています。精神障がい者では「その他」が48.4%で最も高く、次いで「注意欠陥・多動性障がい(ADHD)」が7.1%となっています。



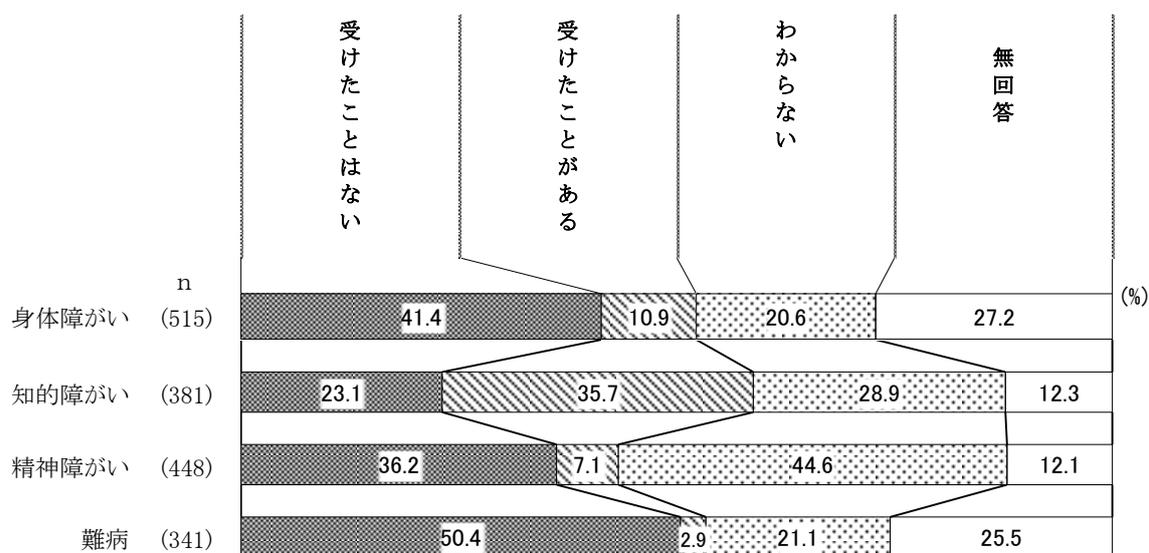
問8 最初に診断を受けたのは何歳のころですか。(1つに○)

最初の診断をいつ受けたか聞いたところ、身体障がい者では8.2%、精神障がい者では56.0%、難病の方では11.4%と「18歳以上」が最も高くなっています。知的障がい者では「3歳未満」が18.4%と最も高くなっています。

	3歳未満	3歳～就学前	小学生 (1～3年)	小学生 (4～6年)	中学生	15 (中学卒業後) ～18歳	18歳以上	無回答
身体障がい (n=515)	5.0	1.2	0.2	0.6	0.2	0.8	8.2	83.9
知的障がい (n=381)	18.4	15.5	6.8	2.4	4.2	1.8	8.7	42.3
精神障がい (n=448)	0.9	0.9	2.7	1.6	1.8	4.9	56.0	31.3
難病 (n=341)	0.9	0.6	-	0.3	0.3	-	11.4	86.5

問9 あなたは、「障害支援（程度）区分」の認定を受けたことがありますか。ある場合には、区分にも○をつけてください。（○は1つ）

「認定」を受けたかを聞いたところ、身体障がい者では41.4%、難病の方では50.4%と、「受けたことはない」が最も高くなっています。知的障がい者では「受けたことがある」が35.7%と最も高く、精神障がい者では「わからない」が44.6%と最も高くなっています。



・区分

「認定」の区分を属性別で見ると、身体障がい者では46.4%、知的障がい者では30.9%と、「区分6」が最も高くなっています。精神障がい者では「区分2」が25.0%と最も高く、難病の方では「区分1」が30.0%と最も高くなっています。

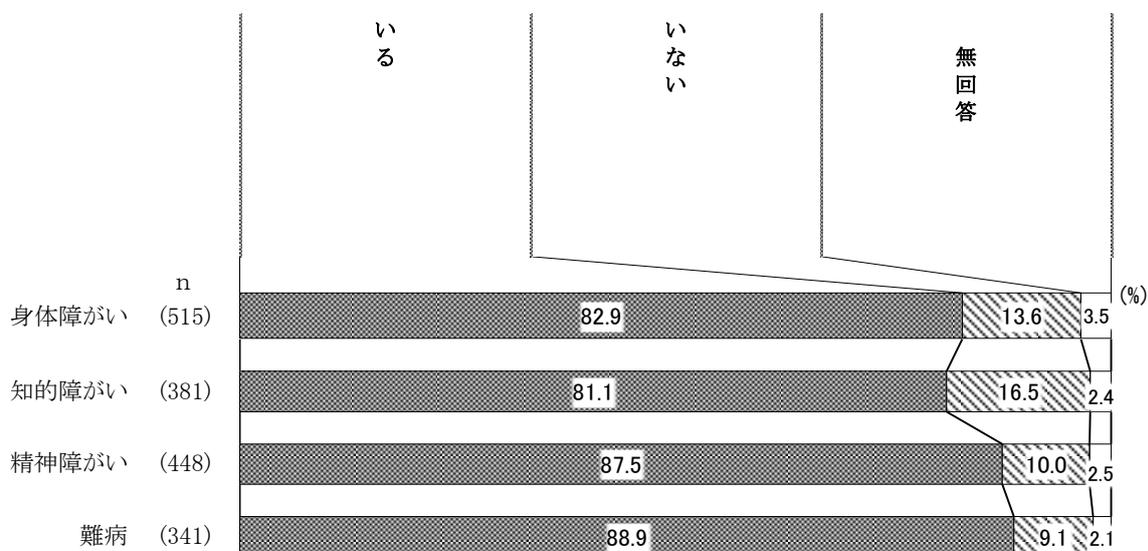
	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1	非該当	申請中	無回答
身体障がい (n=56)	46.4	8.9	10.7	8.9	7.1	1.8	3.6	1.8	10.7
知的障がい (n=136)	30.9	14.0	20.6	17.6	8.1	1.5	0.7	1.5	5.1
精神障がい (n=32)	-	15.6	6.3	9.4	25.0	12.5	3.1	9.4	18.8
難病 (n=10)	10.0	-	-	10.0	10.0	30.0	-	20.0	20.0

(3) 医療や健康管理について

問10 あなた自身やあなたの家族の健康相談や治療をしてくれる身近な医師等（かかりつけ医）はいますか。（〇は、かかりつけ医、かかりつけ歯科医、それぞれ1つ）

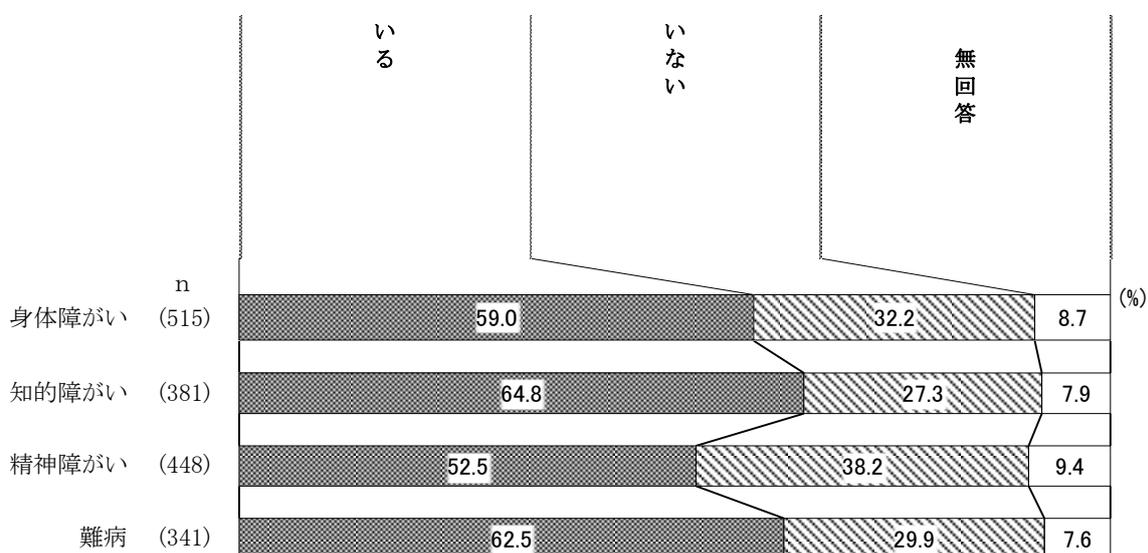
① かかりつけ医

すべての属性で、かかりつけ医が「いる」と答えた人が8割以上となっています。



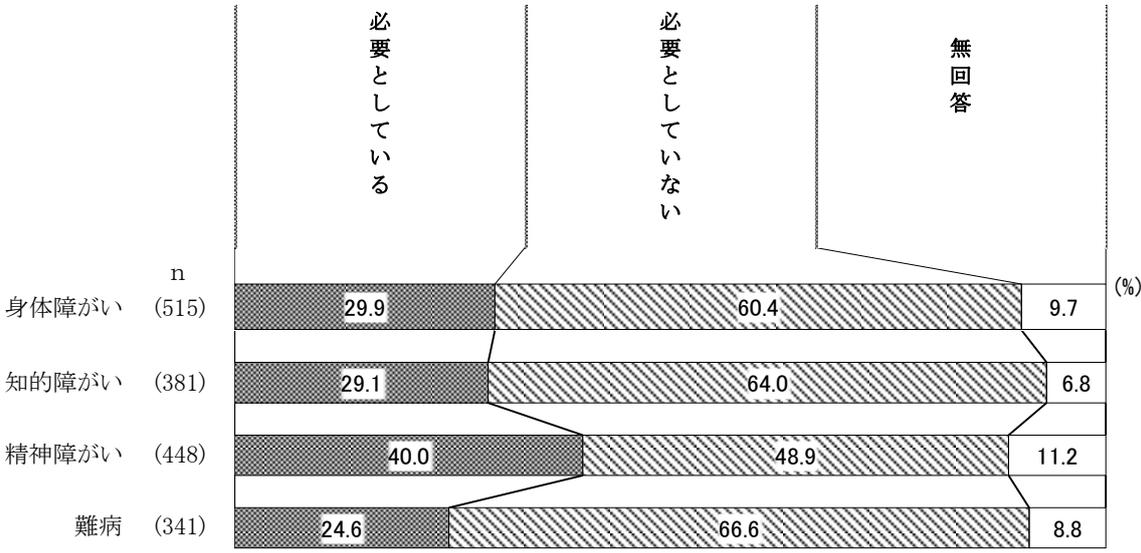
② かかりつけ歯科医

すべての属性で、かかりつけ歯科医が「いる」と答えた人が5割以上となっています。



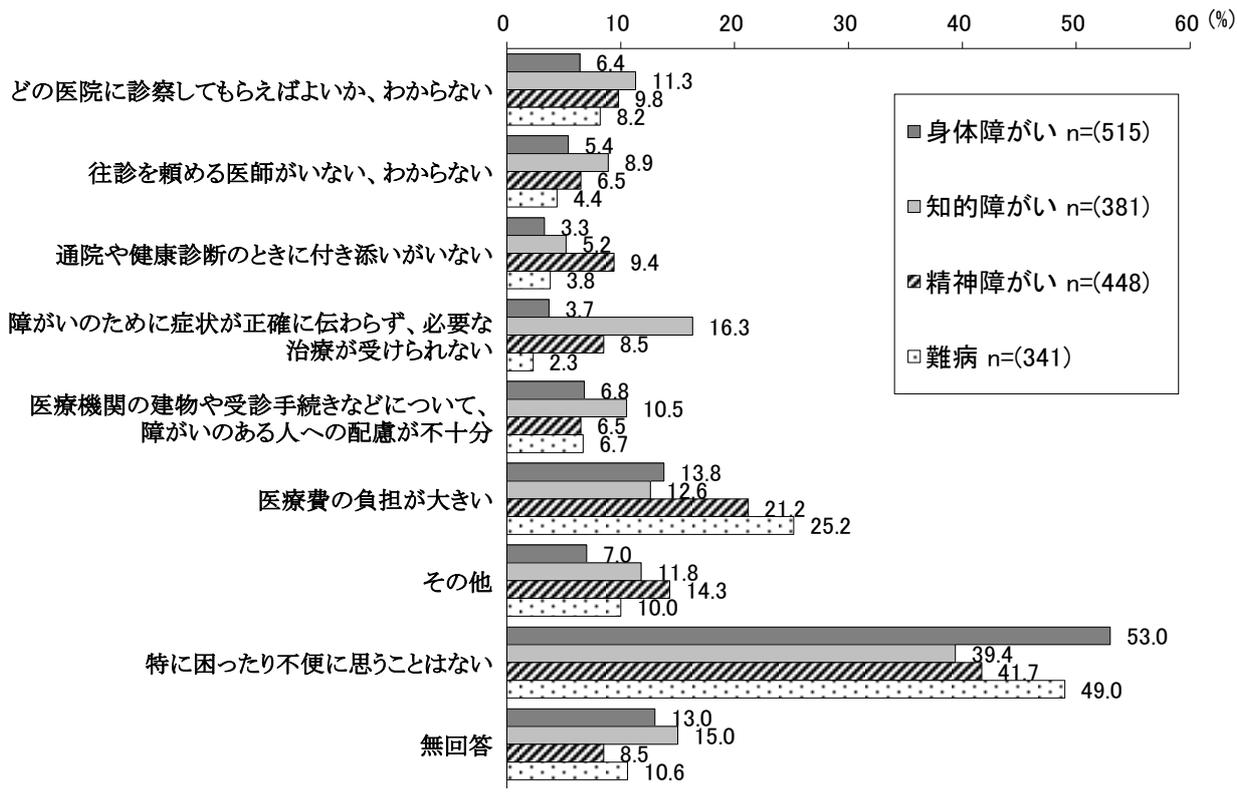
問11 あなたは、普段の生活で医療的なケアを必要としていますか。必要としている場合には、具体的な内容もお書きください。(〇は1つ)

ケアを必要としているか聞いたところ、身体障がい者では 60.4%、知的障がい者では 64.0%、精神障がい者では 48.9%、難病の方では 66.6%と、いずれの属性も「必要としない」が最も高くなっています。



問12 健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありますか。(〇はいくつでも)

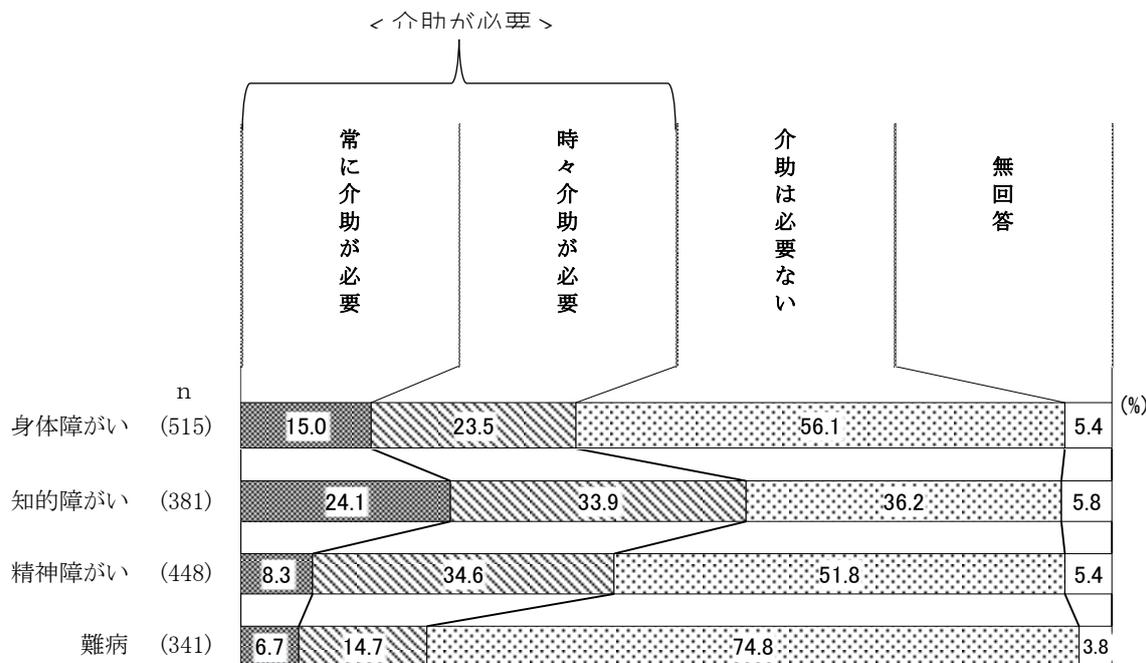
困っていることを聞いたところ、すべての属性で「特に困ったり不便に思うことはない」が約4割前後で最も高くなっている一方、知的障がい者では「障がいのために症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない」が 16.3%、難病の方では「医療費の負担が大きい」が 25.2%と他の属性よりも高くなっています。



(4) 介助・援助の状況について

問 13 ふだん、あなたは日常生活で介助・援助が必要ですか。(○は1つ)

「常に介助が必要」と「時々介助が必要」を合わせて<介助が必要>とした場合、知的障がい者では<介助が必要>が58.0%と高くなっています。一方、身体障がい者では56.1%、精神障がい者では51.8%、難病の方では74.8%と、「介助は必要ない」が高くなっています。



次の問は、問 13 で「1. 常に介助が必要」「2. 時々介助が必要」と答えた方におうかがいします。

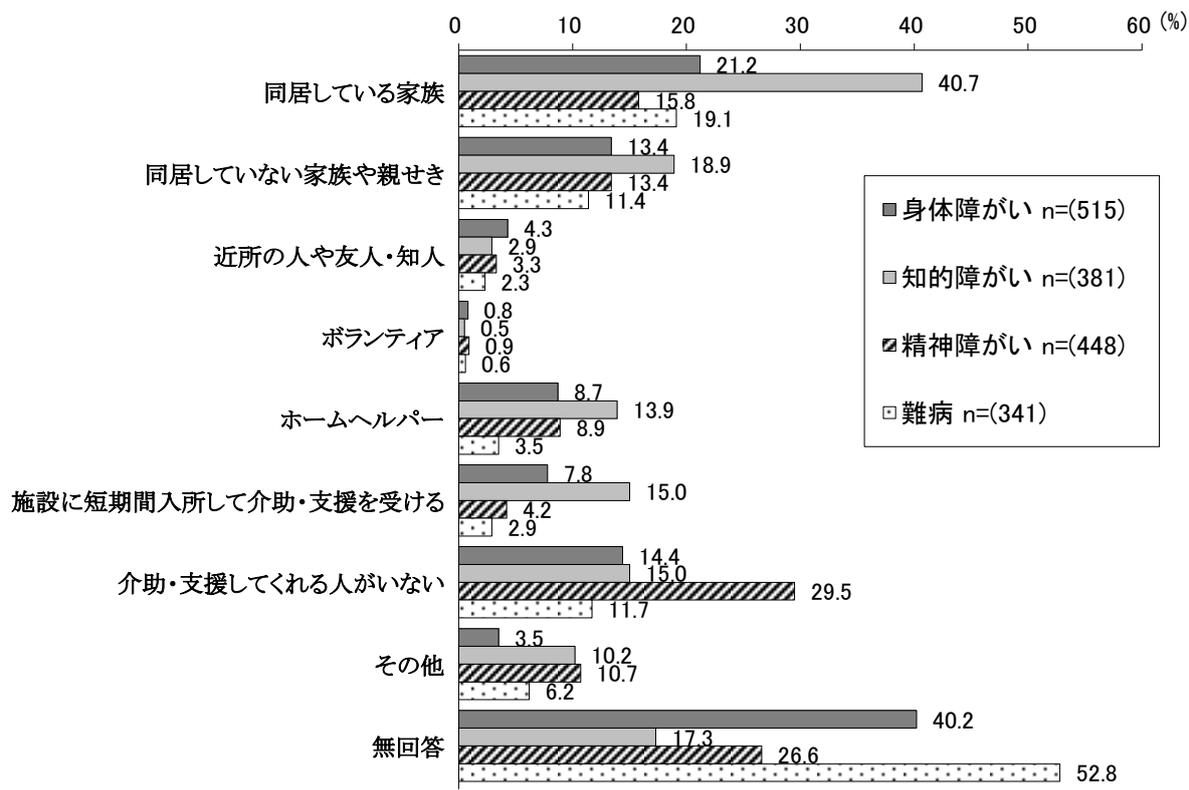
問 14 ふだん、あなたを主に介助・支援しているのはどなたですか。(○は1つ)

主な介助者を聞いたところ、身体障がい者では35.4%、知的障がい者では77.4%、精神障がい者では24.0%と、「父・母」が最も高くなっています。難病の方では「配偶者」が38.4%と最も高くなっています。

	父、母	配偶者 (夫、妻)	子ども、子どもの配偶者	兄弟姉妹、親せき	ホームヘルパー等の福祉サービス事業者	その他	誰もいない	無回答
身体障がい (n=198)	35.4	23.7	14.1	2.5	15.7	4.5	2.5	1.5
知的障がい (n=221)	77.4	-	0.5	10.4	7.2	4.1	-	0.5
精神障がい (n=192)	24.0	22.9	8.3	3.6	21.4	11.5	8.3	-
難病 (n=73)	13.7	38.4	20.5	2.7	19.2	4.1	1.4	-

問 15 あなたを主に介助・支援している方が、病気のときや外出をしなければならないときなどは、代わりにどなたが介助・支援していますか。(〇は3つまで)

主な介助者の代わりに介助・支援してくれる人を聞いたところ、身体障がい者では 21.2%、知的障がい者では 40.7%、難病の方では 19.1%と、「同居している家族」が最も高くなっています。一方、精神障がい者では「介助・支援してくれる人がいない」が 29.5%と最も高くなっています。



(5) 保護者の方について

問 16 性別・年齢についてお答えください。

① 性別

保護者の方の性別は、属性に関係なく「女性」が高くなっています。

	男性	女性	無回答
身体障がい (n=153)	13.7	39.2	47.1
知的障がい (n=170)	15.9	78.2	5.9
精神障がい (n=141)	8.5	37.6	53.9
難病 (n=65)	4.6	23.1	72.3

② 年齢

保護者の方の年齢を聞いたところ、身体障がい者では 22.9%、精神障がい者では 19.9%、難病の方では 13.8%と、「60 歳代」が最も高くなっています。知的障がい者では「50 歳代」が 45.3%と最も高くなっています。

	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答
身体障がい (n=153)	-	1.3	3.3	17.6	22.9	6.5	-	48.4
知的障がい (n=170)	-	0.6	10.0	45.3	34.1	4.1	-	5.9
精神障がい (n=141)	-	-	3.5	18.4	19.9	4.3	-	53.9
難病 (n=65)	-	-	1.5	7.7	13.8	4.6	-	72.3

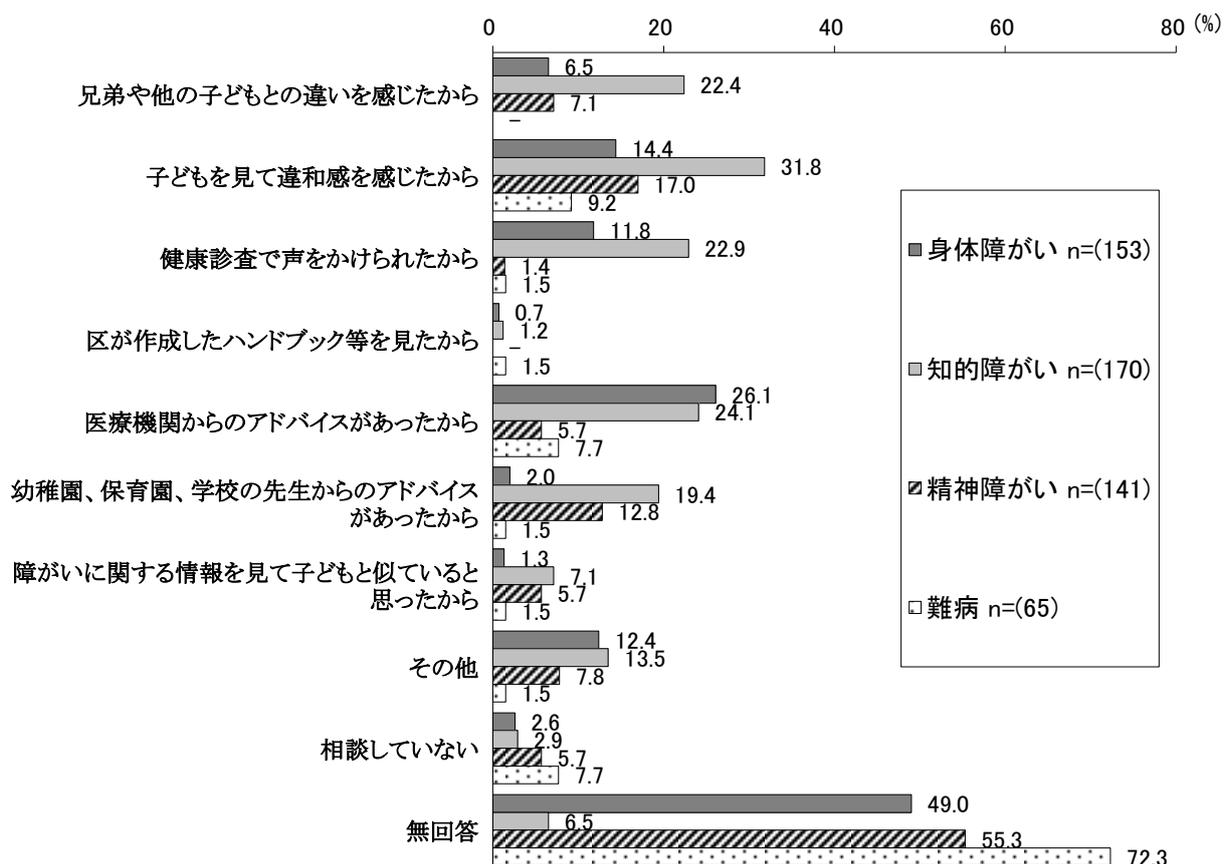
問 17 ご本人の発達や行動などについて気になり始めたのは何歳のころですか。(1つに○)

発達や行動などについて気になり始めたのはいつかを聞いたところ、身体障がい者では 22.9%、知的障がい者では 30.0%と、「6 か月健診」が最も高くなっています。精神障がい者では 10.6%、難病の方では 10.8%と、「18 歳以上」が最も高くなっています。

	6か月健診	1歳半健診	3歳未満	3歳～就学前	小学生 (1～3年)	小学生 (4～6年)	中学生	15 (中学卒業後) ～18歳	18歳以上	無回答
身体障がい (n=153)	22.9	6.5	4.6	2.6	1.3	-	-	0.7	5.2	56.2
知的障がい (n=170)	30.0	16.5	17.1	10.0	8.8	1.8	1.2	1.2	2.4	11.2
精神障がい (n=141)	2.1	5.7	3.5	4.3	5.0	2.1	3.5	7.8	10.6	55.3
難病 (n=65)	1.5	3.1	1.5	-	1.5	-	4.6	-	10.8	76.9

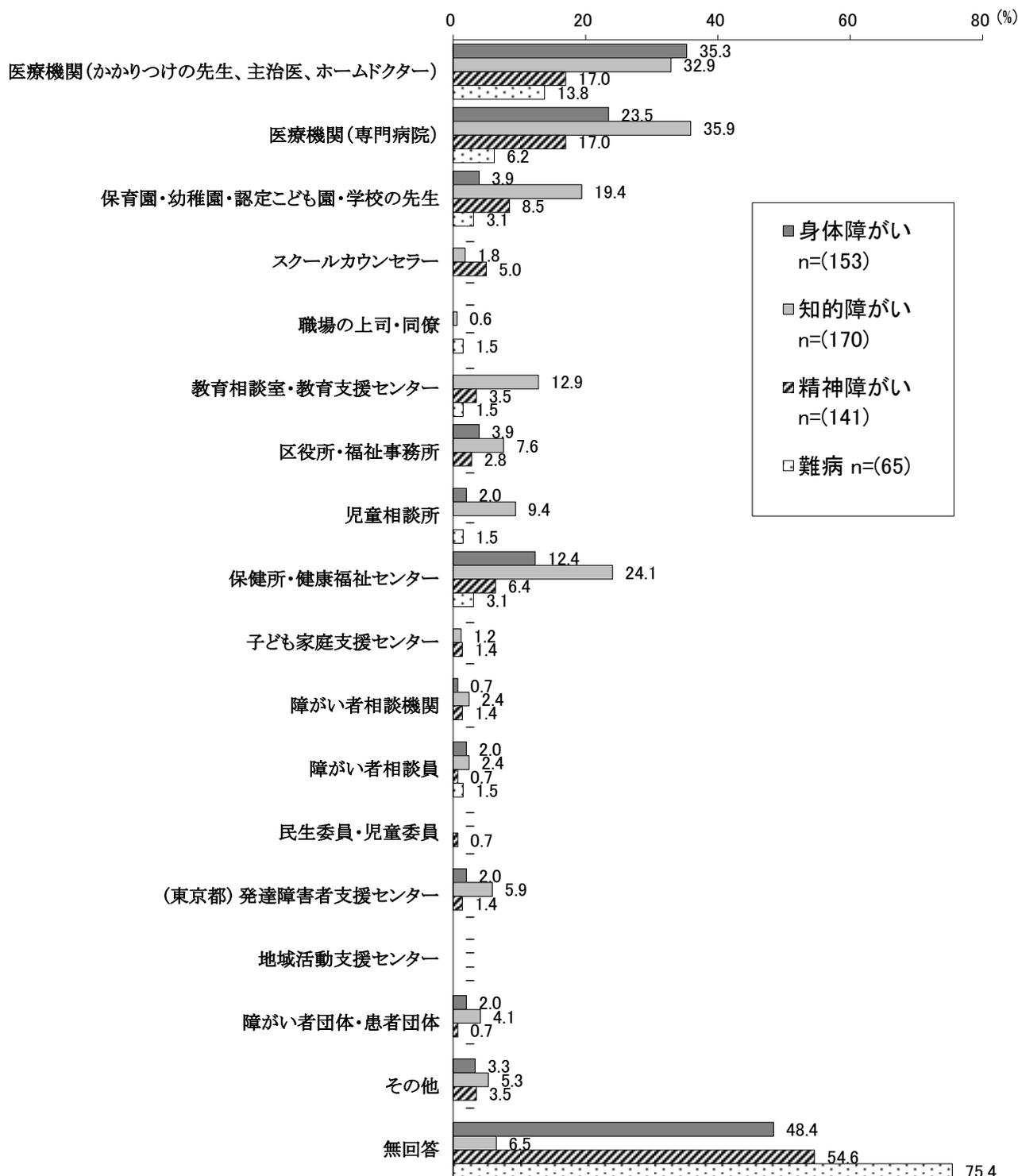
問 18 ご本人の障がいや発達、行動などについて相談した直接のきっかけは何でしたか。(〇は3つまで)

相談した直接のきっかけを聞いたところ、身体障がい者では「医療機関からのアドバイスがあったから」が26.1%と最も高く、知的障がい者、精神障がい者、難病の方では「子どもを見て違和感を感じたから」が最も高くなっています。



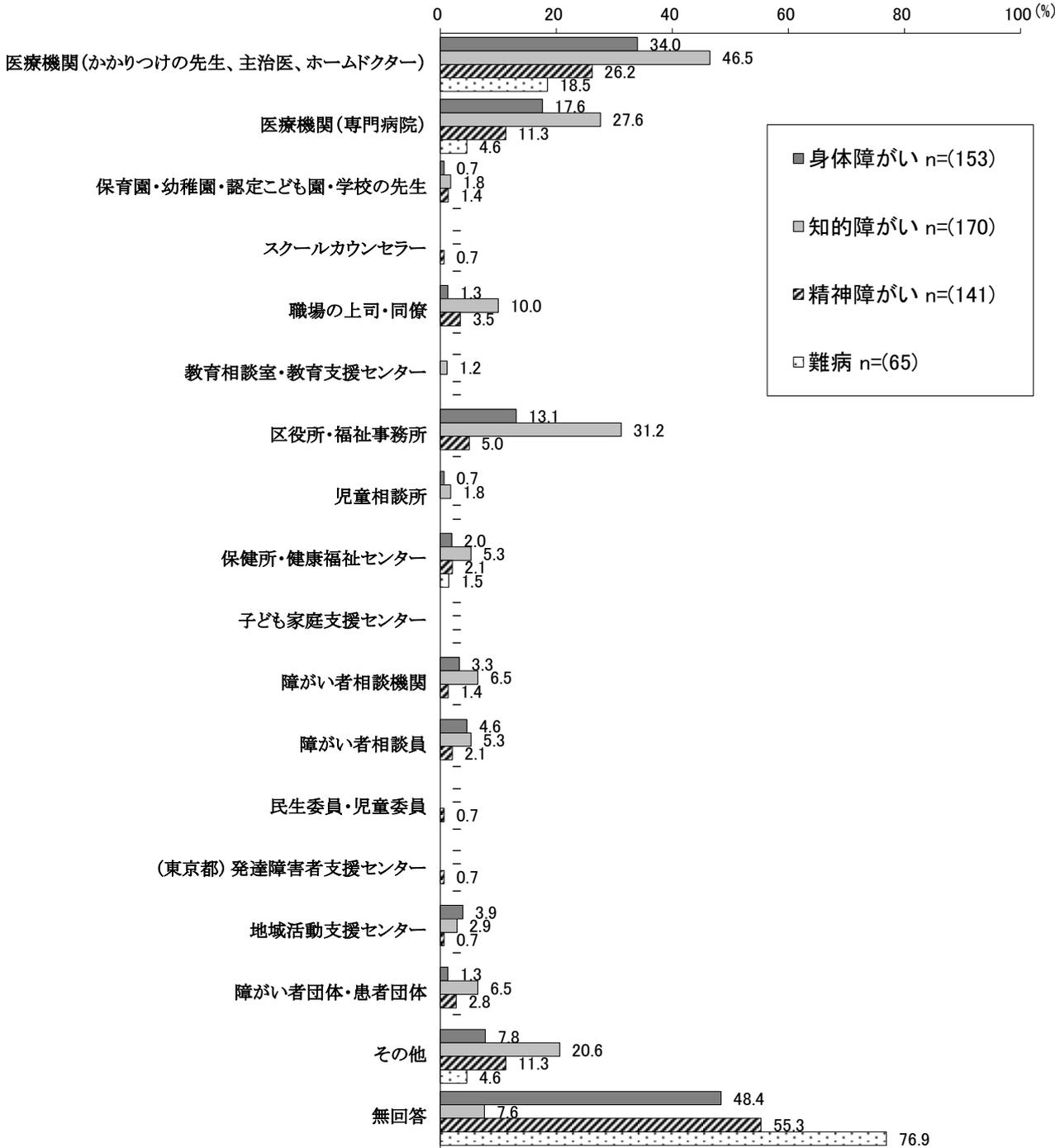
問 19 家族、知人以外で、気になったことについて最初にどこで（誰に）相談しましたか。（○は3つまで）

最初に誰に相談したかを聞いたところ、身体障がい者では35.3%、難病の方では13.8%と、「医療機関（かかりつけの先生、主治医、ホームドクター）」が最も高くなっています。知的障がい者では「医療機関（専門病院）」が35.9%と最も高く、精神障がい者では「医療機関（かかりつけの先生、主治医、ホームドクター）」と「医療機関（専門病院）」がともに17.0%と最も高くなっています。



問 20 保護者の方は、今、障がいについて、主にどこで相談していますか。(〇はいくつでも)

保護者の方が主にどこで相談しているか聞いたところ、身体障がい者では 34.0%、知的障がい者では 46.5%、精神障がい者では 26.2%、難病の方では 18.5%と、いずれの属性も「医療機関(かかりつけの先生、主治医、ホームドクター)」が最も高くなっています。



問 21 保護者の方の現在の就労状況をお答えください。(1つに○)

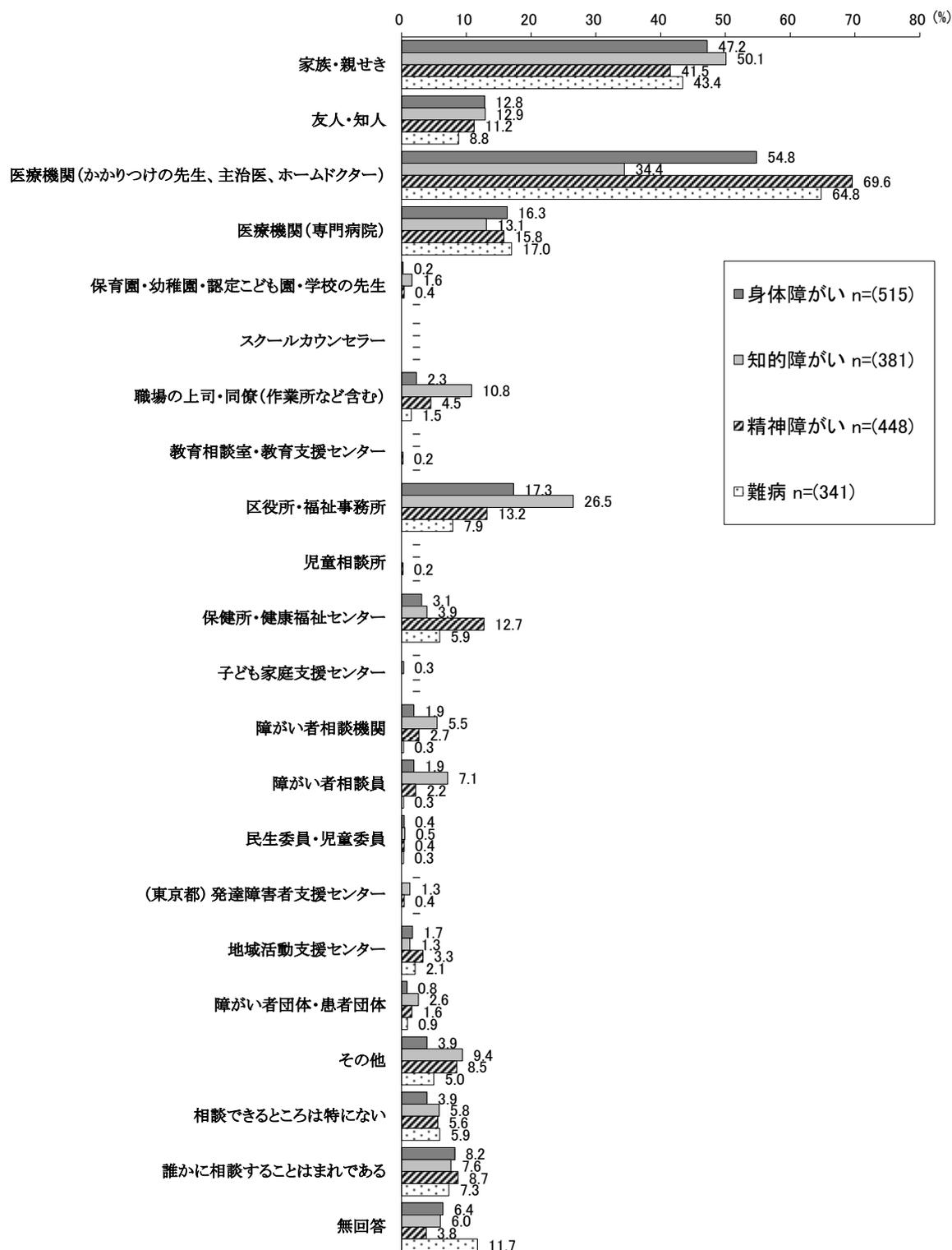
保護者の方の就労状況を聞いたところ、身体障がい者では 23.5%、知的障がい者では 38.8%、精神障がい者では 23.4%と、「ある程度希望に沿った就労をしている」が最も高くなっています。一方、難病の方では「働く必要はない」が 12.3%と最も高くなっています。

	ある程度希望に沿った就労をしている	介護・看護のため、非常勤で時間を調整しながら働いている	介護・看護のため、働けない	働く必要はない	無回答
身体障がい (n=153)	23.5	7.2	13.1	8.5	47.7
知的障がい (n=170)	38.8	17.1	20.0	15.3	8.8
精神障がい (n=141)	23.4	5.7	6.4	8.5	56.0
難病 (n=65)	10.8	1.5	1.5	12.3	73.8

(6) 相談や情報入手の状況について

問 22 あなたは、障がいについての悩みごとや心配ごとがあるとき、まず相談するところはどこですか。(〇は3つまで)

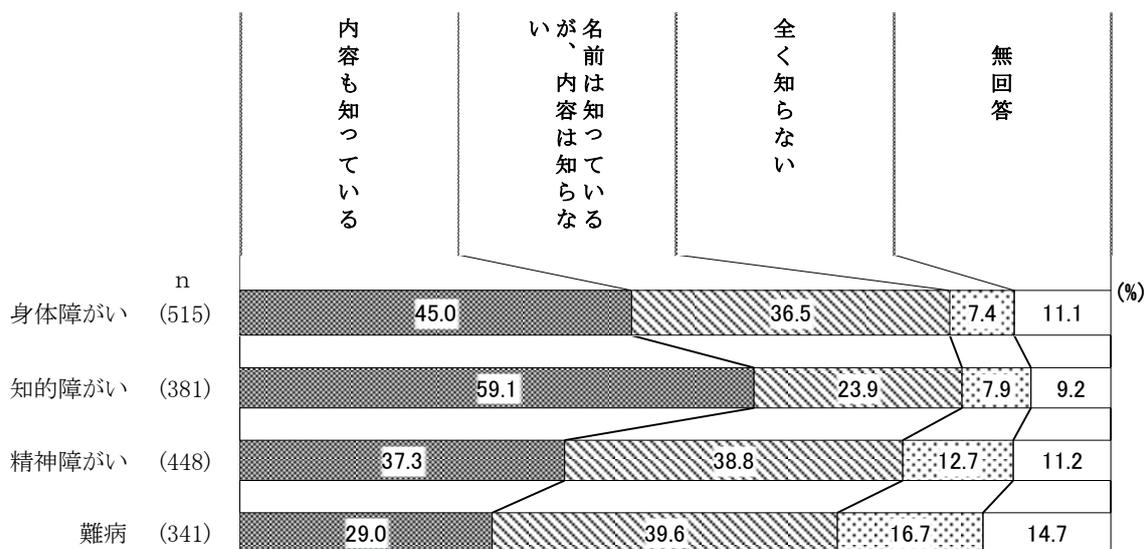
最初の相談先を聞いたところ、身体障がい者では54.8%、精神障がい者では69.6%、難病の方では64.8%と、「医療機関(かかりつけの先生、主治医、ホームドクター)」が最も高くなっています。知的障がい者では「家族・親せき」が50.1%と最も高くなっています。



問 23 悩みごとや心配ごとを相談する場として、知っているものはどれですか。
 (①～⑧ごとに1つずつお答えください。)

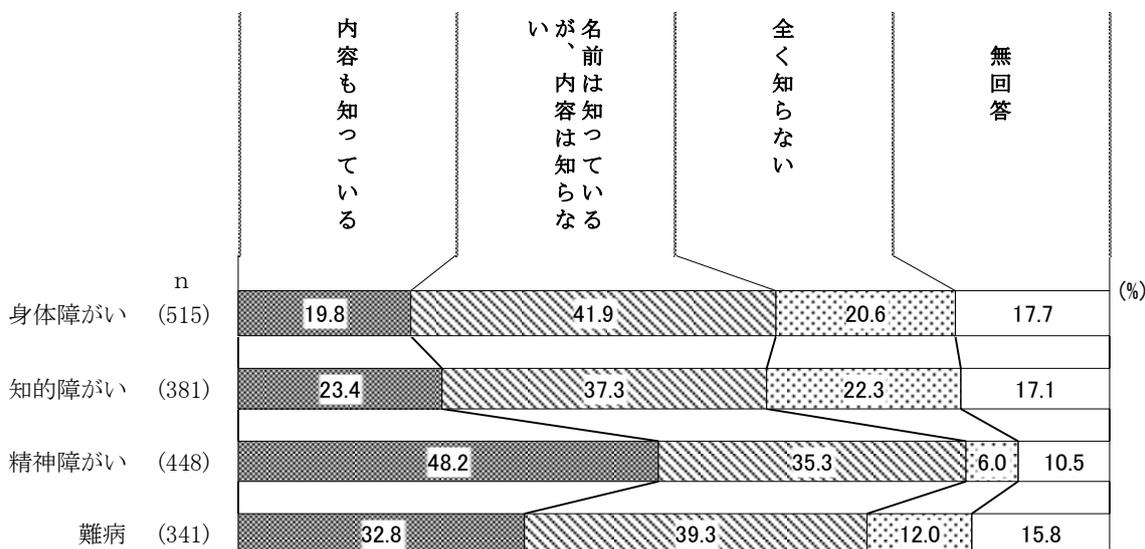
① 福祉事務所（板橋、赤塚、志村）

身体障がい者では45.0%、知的障がい者では59.1%と、「内容も知っている」が最も高くなっています。精神障がい者では38.8%、難病の方では39.6%と、「名前を知っているが、内容は知らない」が最も高くなっています。



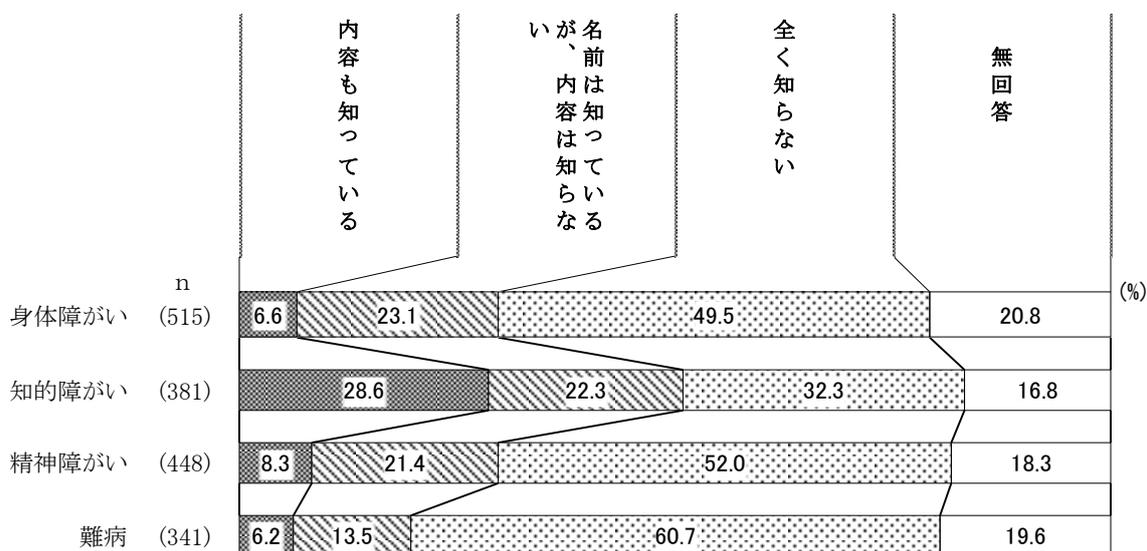
② 健康福祉センター（板橋、上板橋、赤塚、志村、高島平）

身体障がい者では41.9%、知的障がい者では37.3%、難病の方で39.3%と、「名前を知っているが、内容は知らない」が最も高く、精神障がい者では「内容も知っている」が48.2%と最も高くなっています。



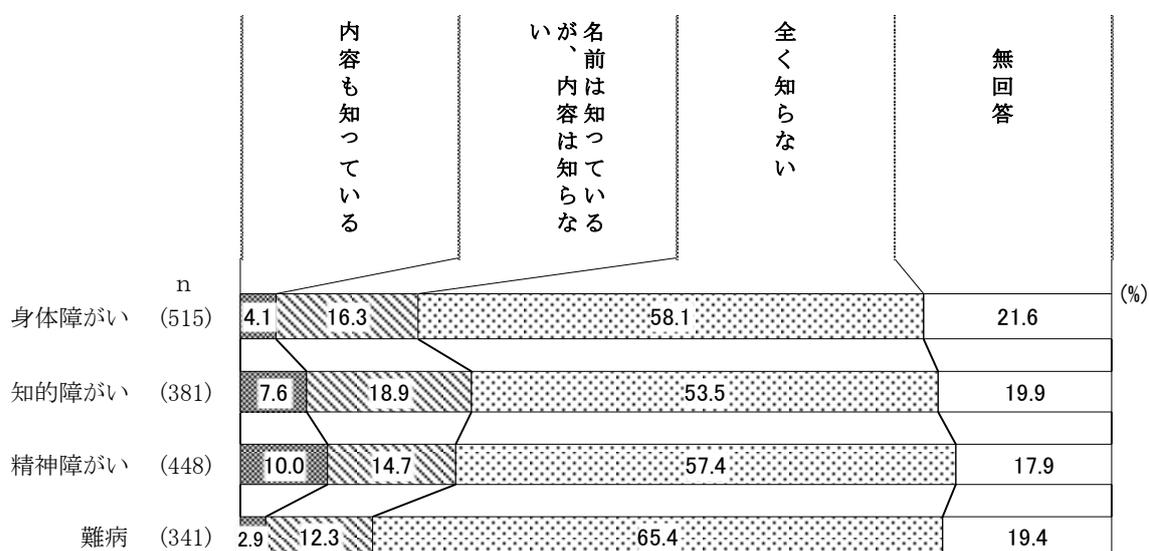
③ ハートワーク（障がい者就労支援センター）

身体障がい者では49.5%、知的障がい者では32.3%、精神障がい者では52.0%、難病の方では60.7%と、いずれの属性も「全く知らない」が最も高くなっています。



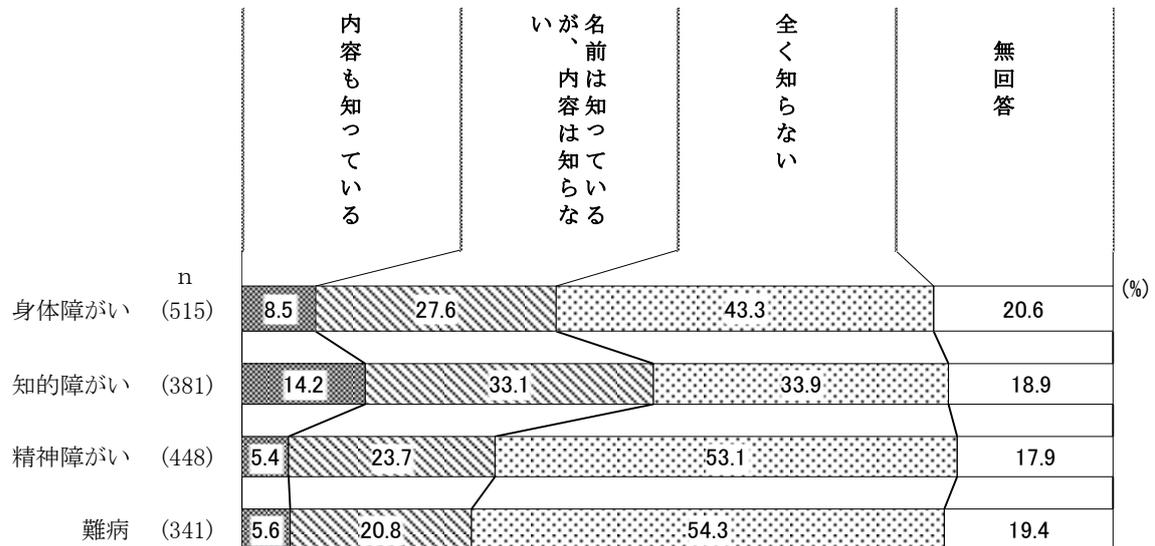
④ ワーキング・トライ（障害者就業・生活支援センター）

身体障がい者では58.1%、知的障がい者では53.5%、精神障がい者では57.4%、難病の方では65.4%と、いずれの属性も「全く知らない」が最も高くなっています。



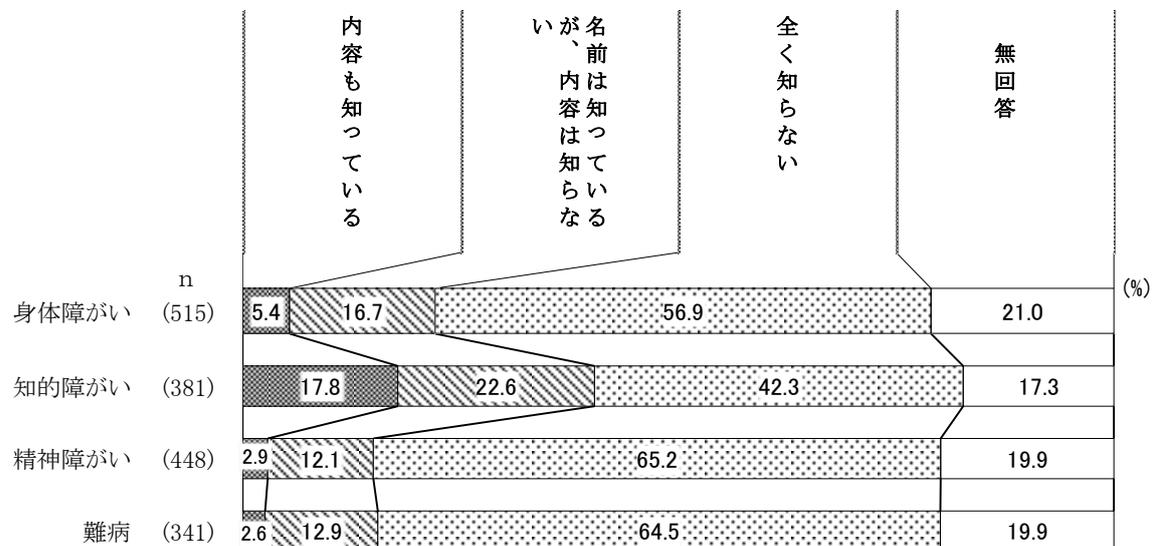
⑤ 障がい者福祉センター（高島平）

身体障がい者では43.3%、知的障がい者では33.9%、精神障がい者では53.1%、難病の方では54.3%と、いずれの属性も「全く知らない」が最も高くなっています。



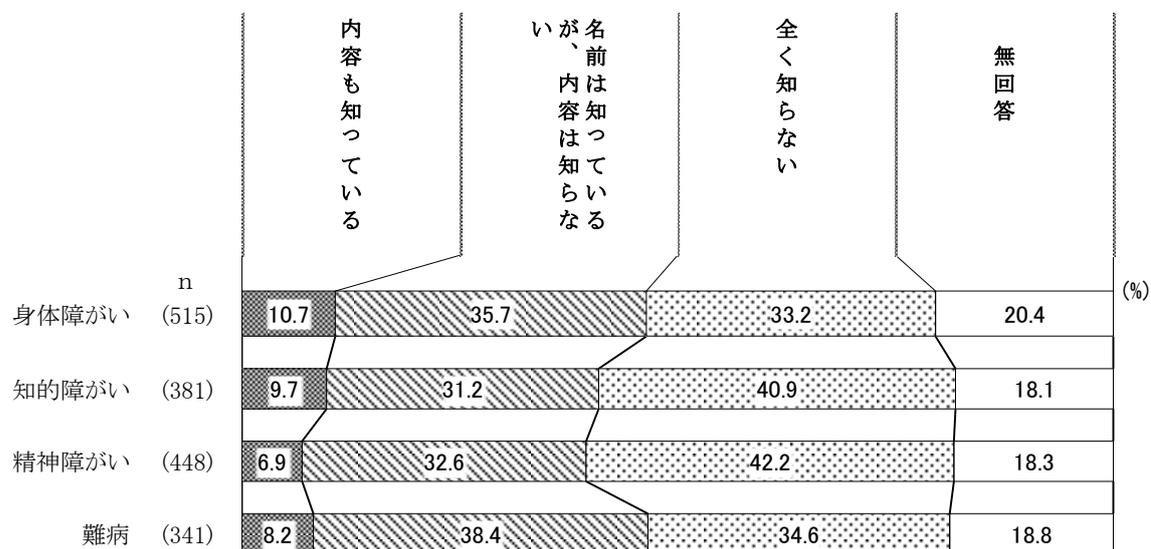
⑥ （身体・知的）障がい者相談員

身体障がい者では56.9%、知的障がい者では42.3%、精神障がい者では65.2%、難病の方では64.5%と、いずれの属性も「全く知らない」が最も高くなっています。



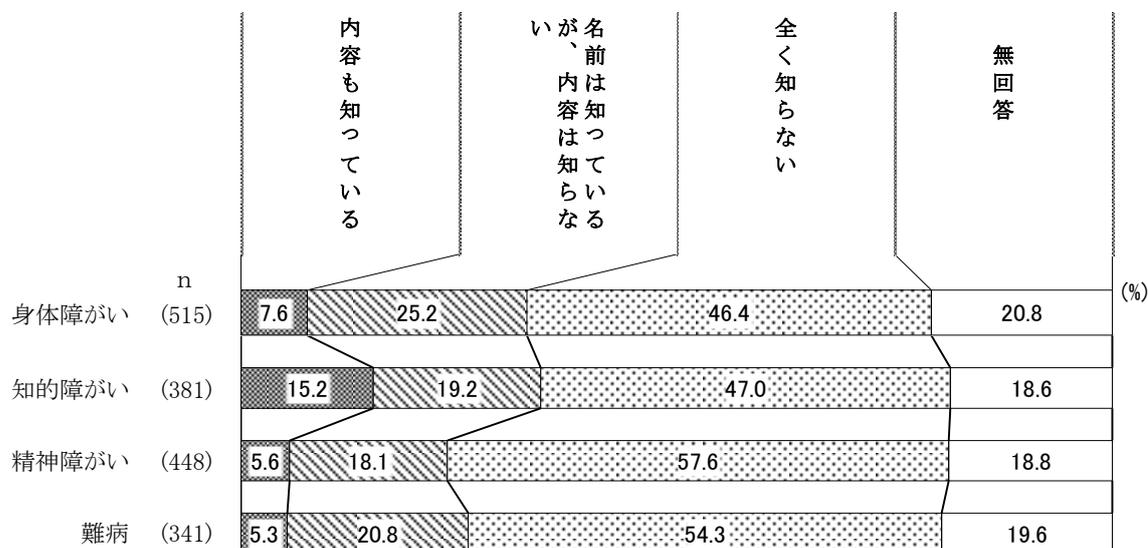
⑦ 民生委員・児童委員

身体障がい者では35.7%、難病の方では38.4%と、「名前は知っているが、内容は知らない」が最も高くなっています。知的障がい者では40.9%、精神障がい者では42.2%と、「全く知らない」が最も高くなっています。



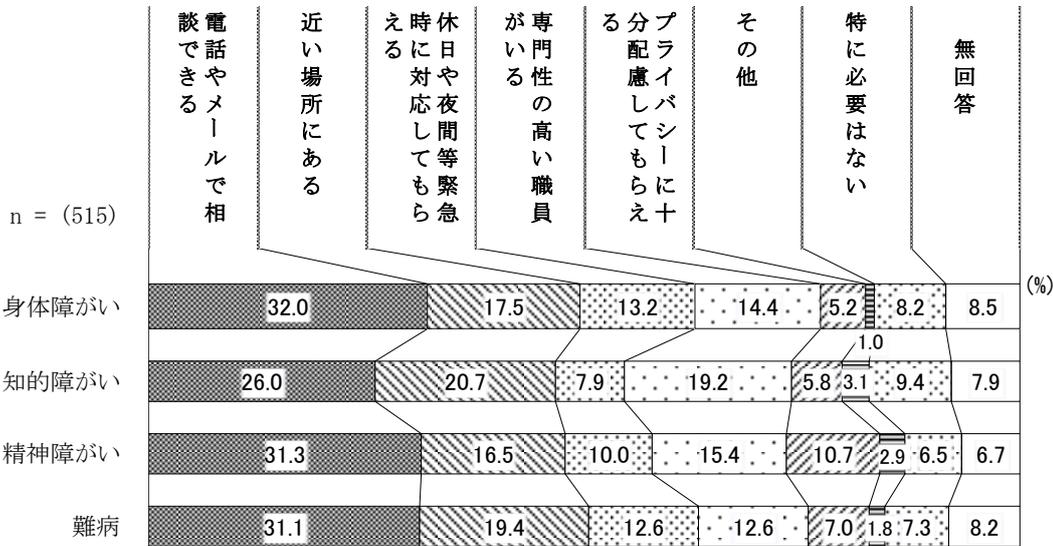
⑧ 障がい者団体・患者団体

身体障がい者では46.4%、知的障がい者では47.0%、精神障がい者では57.6%、難病の方では54.3%と、いずれの属性も「全く知らない」が最も高くなっています。



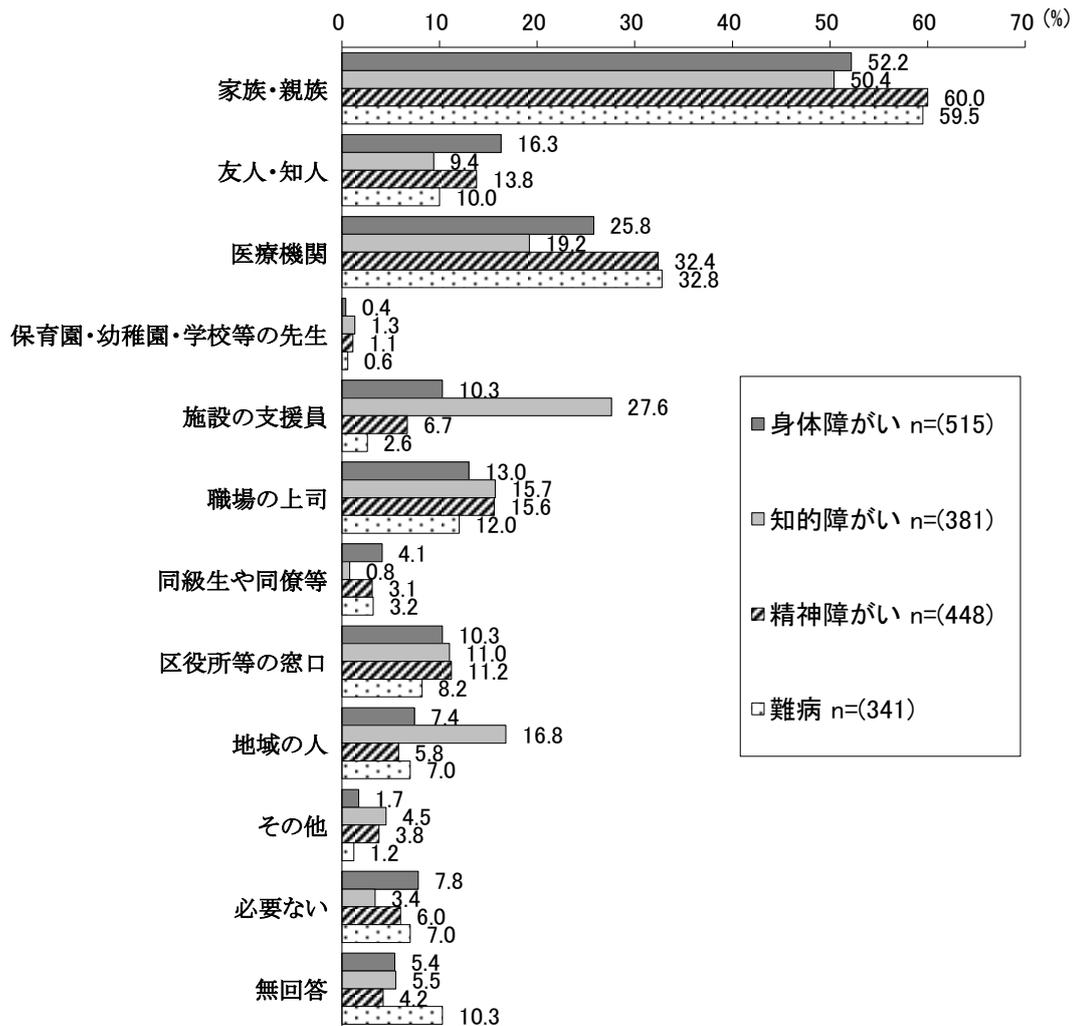
問 24 必要なときに気軽に相談するために、特に、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は1つ。)

相談するために必要なことを聞いたところ、身体障がい者では32.0%、知的障がい者では26.0%、精神障がい者では31.3%、難病の方では31.1%と、いずれの属性も「電話やメールで相談できる」が最も高く、次いで身体障がい者では17.5%、知的障がい者では20.7%、精神障がい者では16.5%、難病の方では19.4%と、いずれの属性も「近い場所にある」となっています。



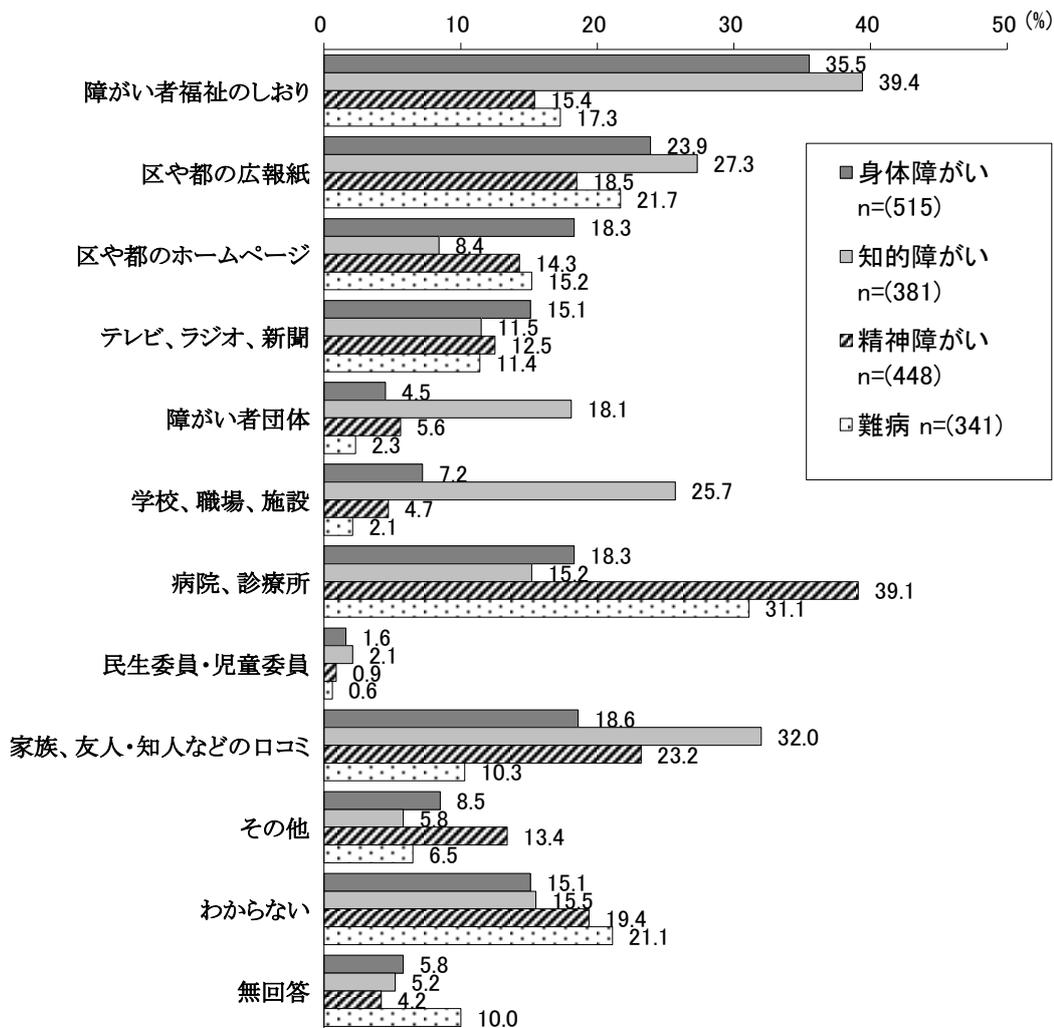
問 25 障がいについて、最も理解してほしい人はだれですか。(2つまでに○)

理解してほしい人を聞いたところ、身体障がい者では52.2%、知的障がい者では50.4%、精神障がい者では60.0%、難病の方では59.5%と、いずれの属性も「家族・親族」が最も高く、次いで身体障がい者では25.8%、精神障がい者では32.4%、難病の方では32.8%と、「医療機関」が高く、知的障がい者では「施設の支援員」が27.6%となっています。



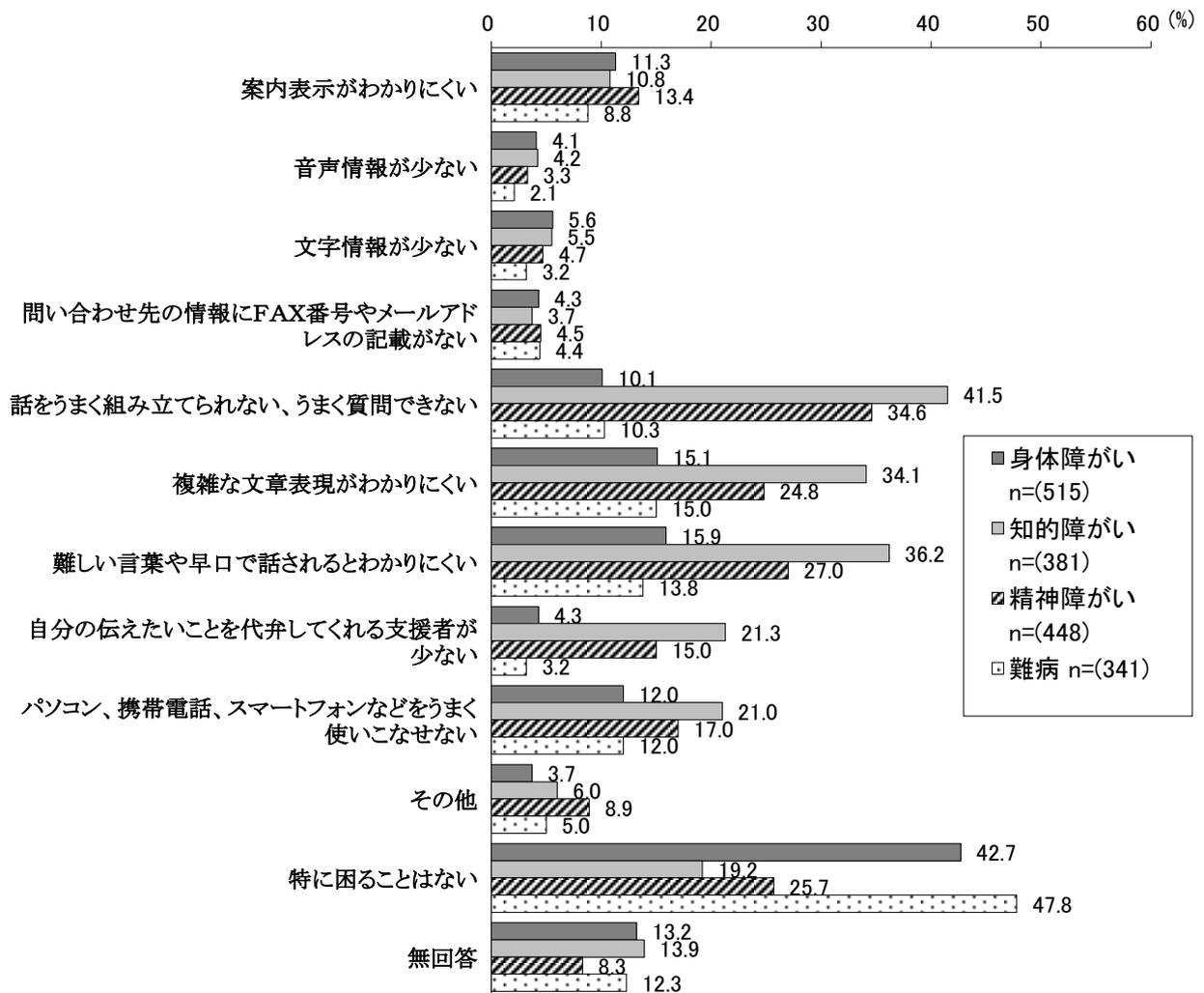
問 26 障がい支援に関する情報を主にどこから得ていますか。(〇はいくつでも)

情報をどこから得ているか聞いたところ、身体障がい者では 35.5%、知的障がい者で 39.4%と「障がい者福祉のしおり」が最も高くなっています。精神障がい者では 39.1%、難病の方では 31.1%と「病院、診療所」が最も高くなっています。



問 27 相談でのコミュニケーションや情報取得をするうえで困ることはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

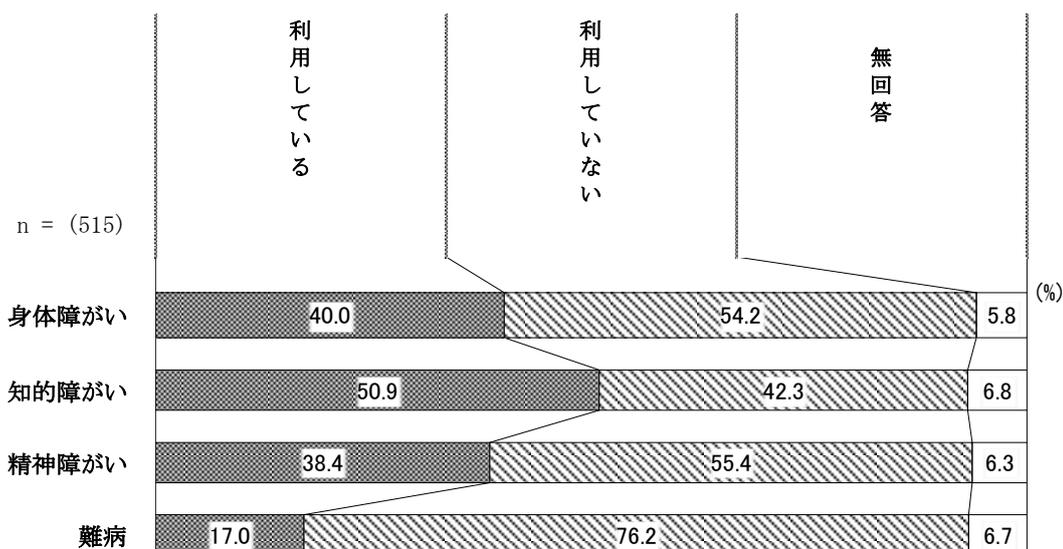
困ることは何か聞いたところ、「特に困ることはない」を除くと、身体障がい者では15.9%、難病の方では13.8%と「難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい」が最も高くなっています。知的障がい者では41.5%、精神障がい者では34.6%と、「話をうまく組み立てられない、うまく質問できない」が最も高くなっています。



(7) 福祉サービスについて

問 28 あなたは、障がいサービスを利用していますか。(○は1つ)

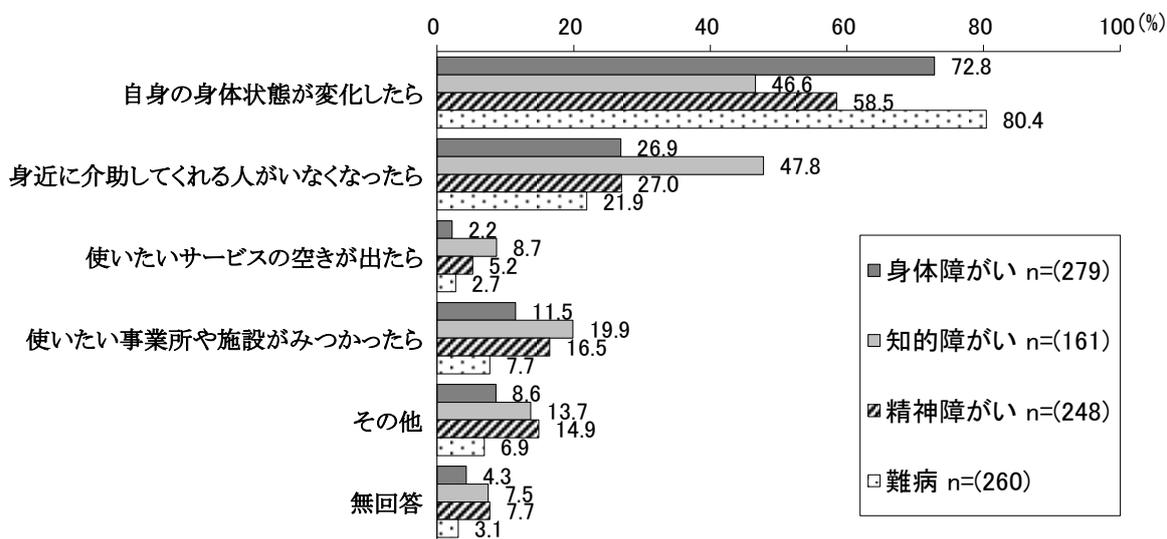
障がいサービスの利用有無を聞いたところ、身体障がい者では54.2%、精神障がい者では55.4%、難病の方では76.2%と、「利用していない」が高くなっています。知的障がい者では、「利用している」が50.9%と高くなっています。



次の問は、問 28 で「2. 利用していない」と答えた方におうかがいします。

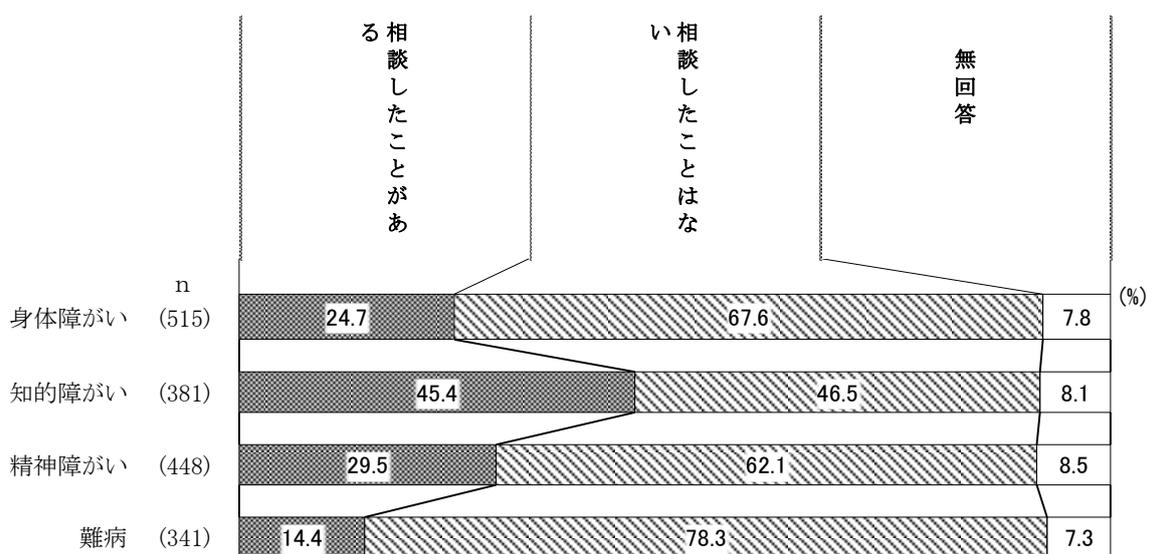
問 29 どのような状況になったら障がい者サービスを利用したい、または必要になると考えていますか。(○はいくつでも)

利用が必要になる状況を聞いたところ、身体障がい者では72.8%、精神障がい者では58.5%、難病の方では80.4%と、「自身の身体状態が変化したら」が最も高くなっています。知的障がい者では「身近に介助してくれる人がいなくなったら」が47.8%と最も高くなっています。



問 30 あなたは、サービスの利用に関して相談支援事業所に相談したことはありますか。(〇は1つ)

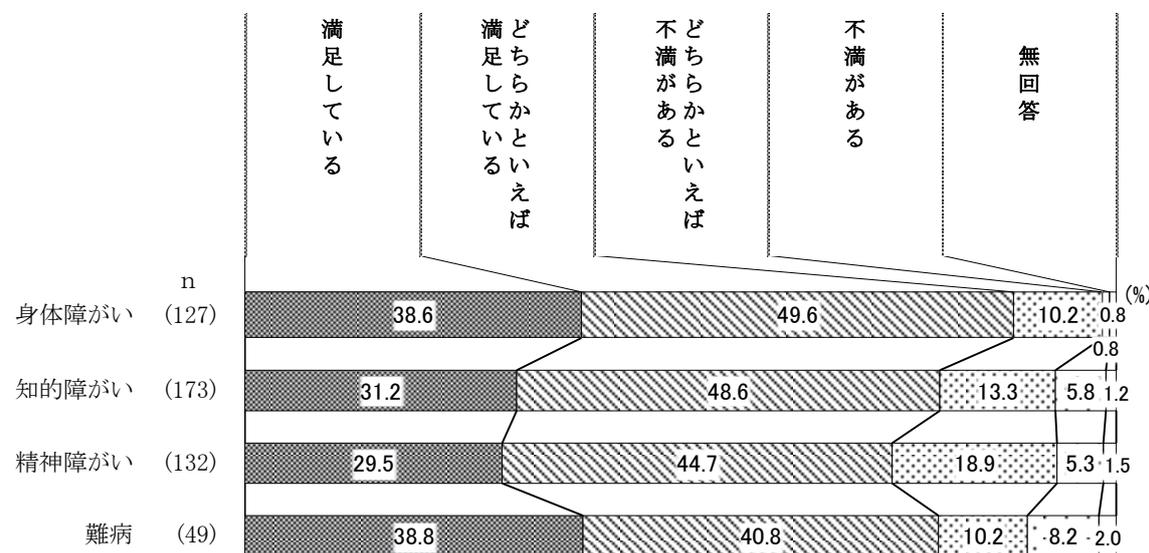
相談支援事業所に相談したことがあるかを聞いたところ、身体障がい者では 67.6%、知的障がい者では 46.5%、精神障がい者では 62.1%、難病の方では 78.3%と、いずれの属性も「相談したことはない」が高くなっています。



次の問は、問 30 で「1. 相談したことがある」と答えた方におうかがいします。

問 31 サービス等利用計画の満足度はどうですか (〇は1つ)

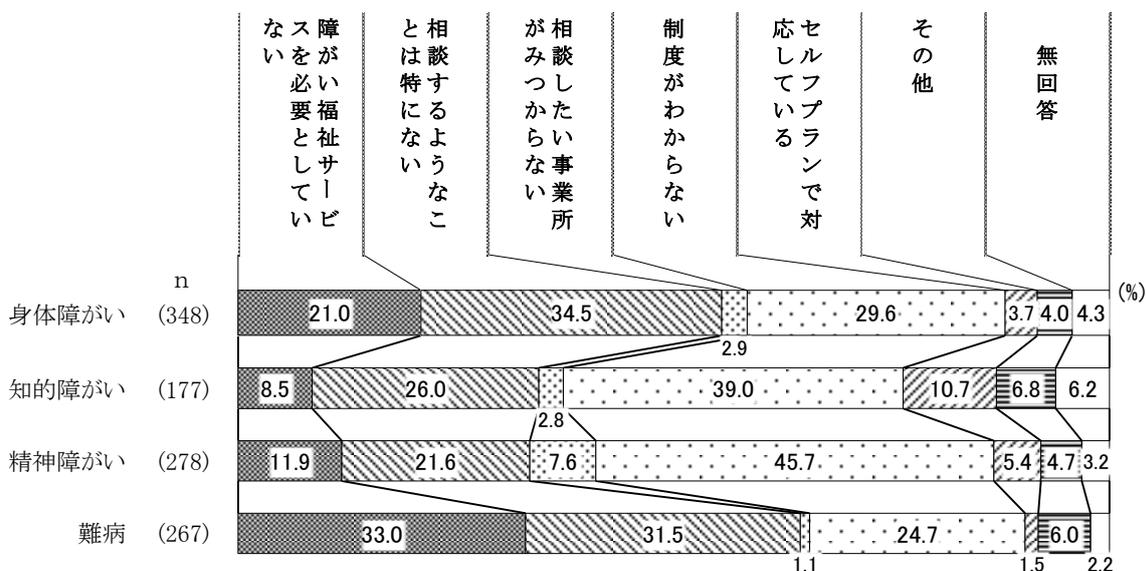
計画の満足度を聞いたところ、身体障がい者では 49.6%、知的障がい者では 48.6%、精神障がい者では 44.7%、難病の方では 40.8%と、いずれの属性も「どちらかといえば満足している」が高くなっています。



次の問は、問 30 で「2. 相談したことはない」と答えた方におうかがいします。

問 32 相談支援事業所を利用していない理由は何ですか。(〇は1つ)

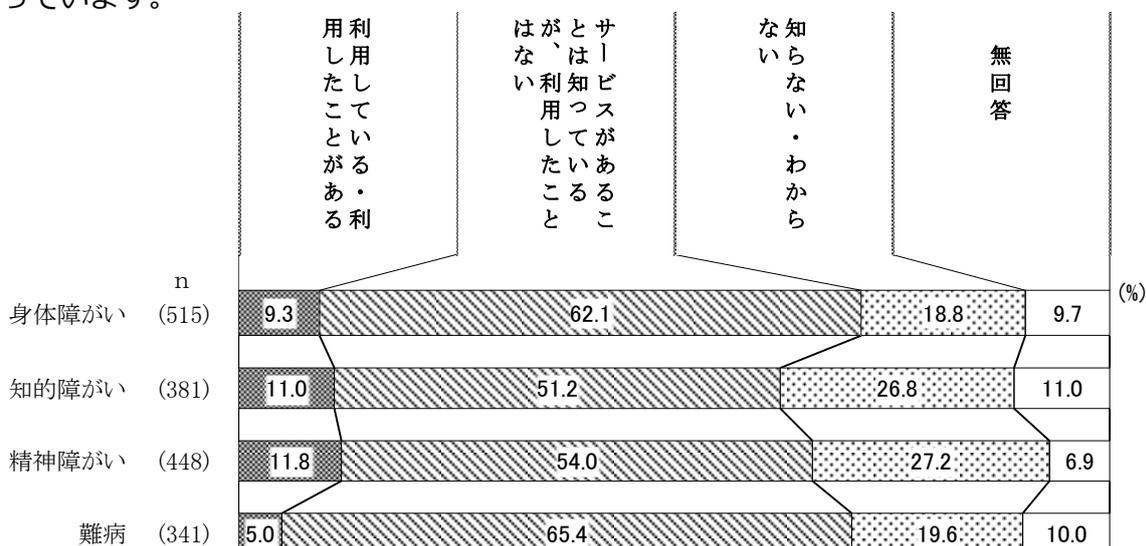
利用していない理由を聞いたところ、身体障がい者では「相談するようなことは特にない」が 34.5%と最も高く、次いで「制度がわからない」が 29.6%となっています。知的障がい者では 39.0%、精神障がい者では 45.7%と「制度がわからない」が最も高く、次いで知的障がい者では 26.0%、精神障がい者では 21.6%と「相談するようなことは特にない」となっています。難病の方では「障がい福祉サービスを必要としていない」が 33.0%と最も高く、次いで「相談するようなことは特にない」が 31.5%となっています。



問 33 あなたは、次のような障がい者サービスがあることを知っていますか。また、利用したことがありますか。(①~⑱のサービスごとに1つずつお答えください。)

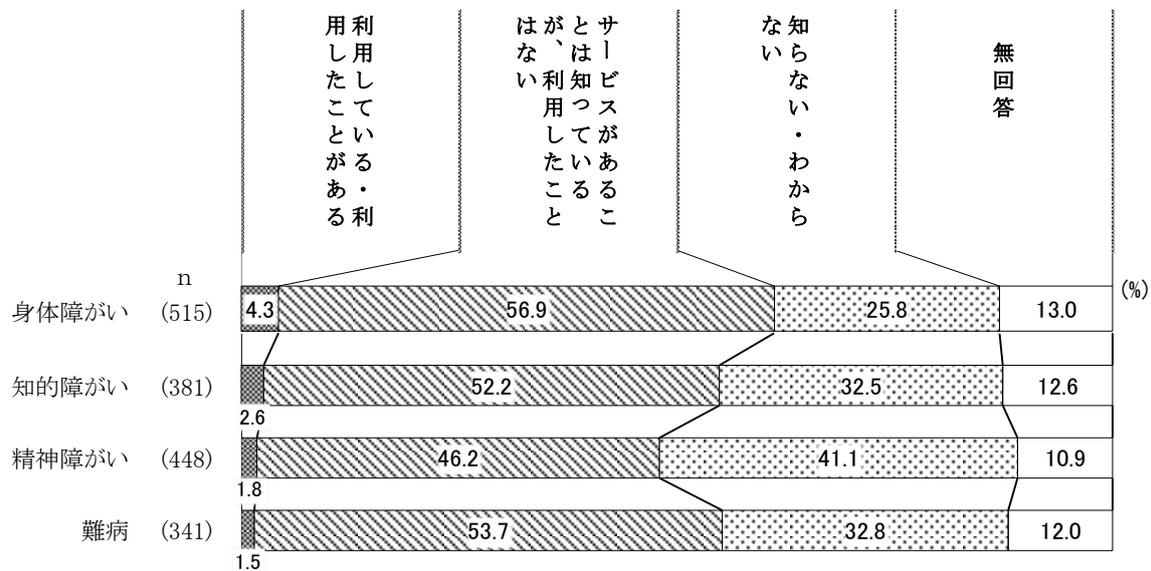
① 居宅介護 (ホームヘルプ)

身体障がい者では 62.1%、精神障がい者では 51.2%、精神障がい者では 54.0%、難病の方では 65.4%と、いずれの属性も「サービスがあることは知っているが、利用したことはない」が最も高くなっています。



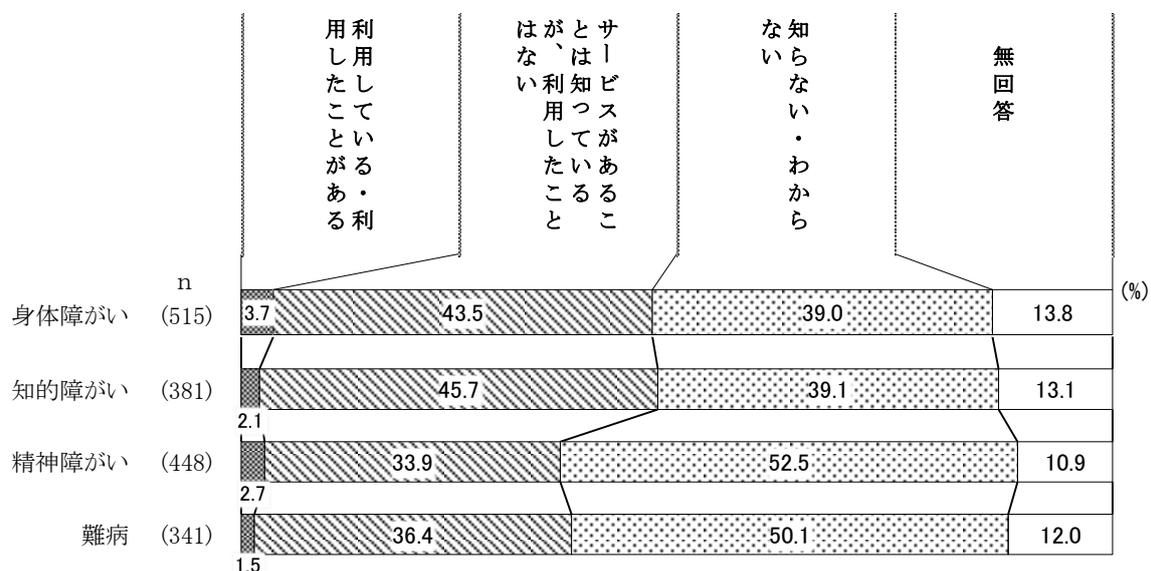
② 重度訪問介護

身体障がい者では56.9%、知的障がい者では52.2%、精神障がい者では46.2%、難病の方では53.7%と、いずれの属性も「サービスがあることは知っているが、利用したことはない」が最も高くなっています。



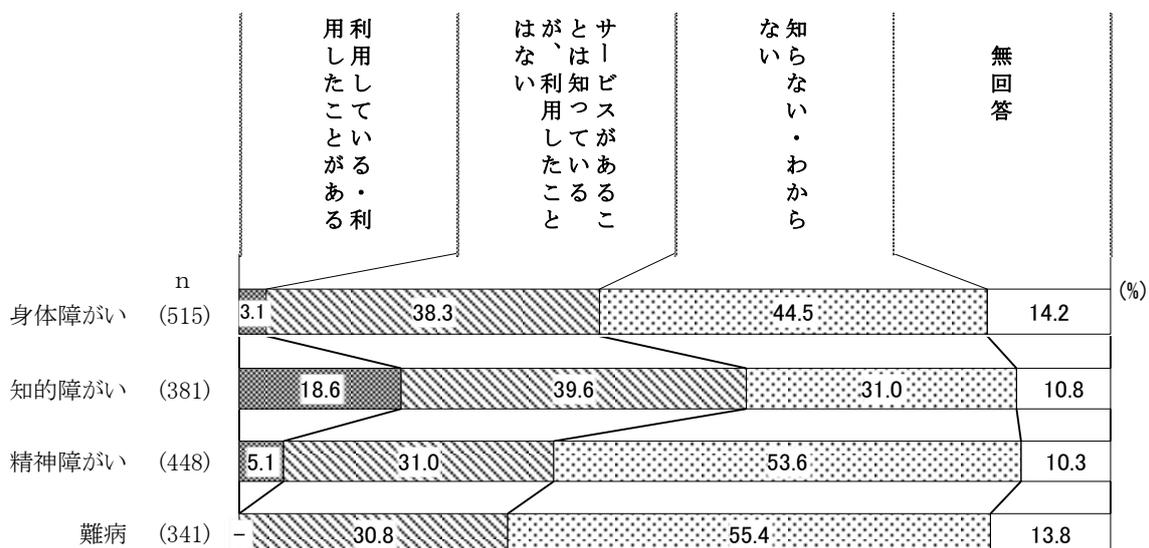
③ 同行援護

身体障がい者では43.5%、知的障がい者では45.7%と、「サービスがあることは知っているが、利用したことはない」が最も高くなっています。精神障がい者では52.5%、難病の方では50.1%と、「知らない・わからない」が最も高くなっています。



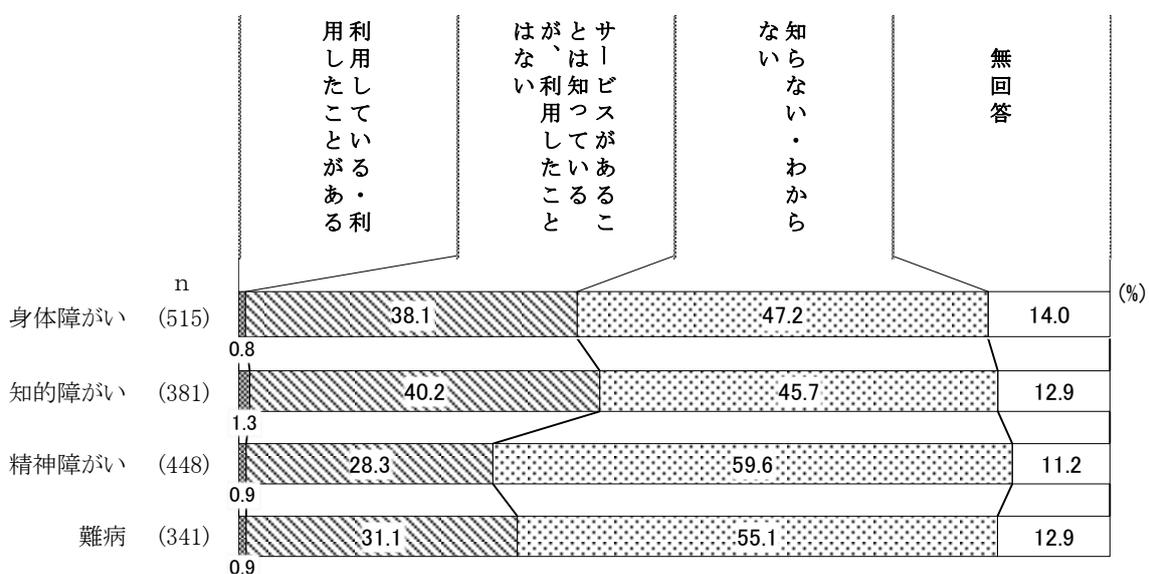
④ 行動援護

身体障がい者では44.5%、精神障がい者では53.6%、難病の方では55.4%と、「知らない・わからない」が最も高くなっています。知的障がい者では「サービスがあることは知っているが、利用したことはない」が39.6%と最も高くなっています。



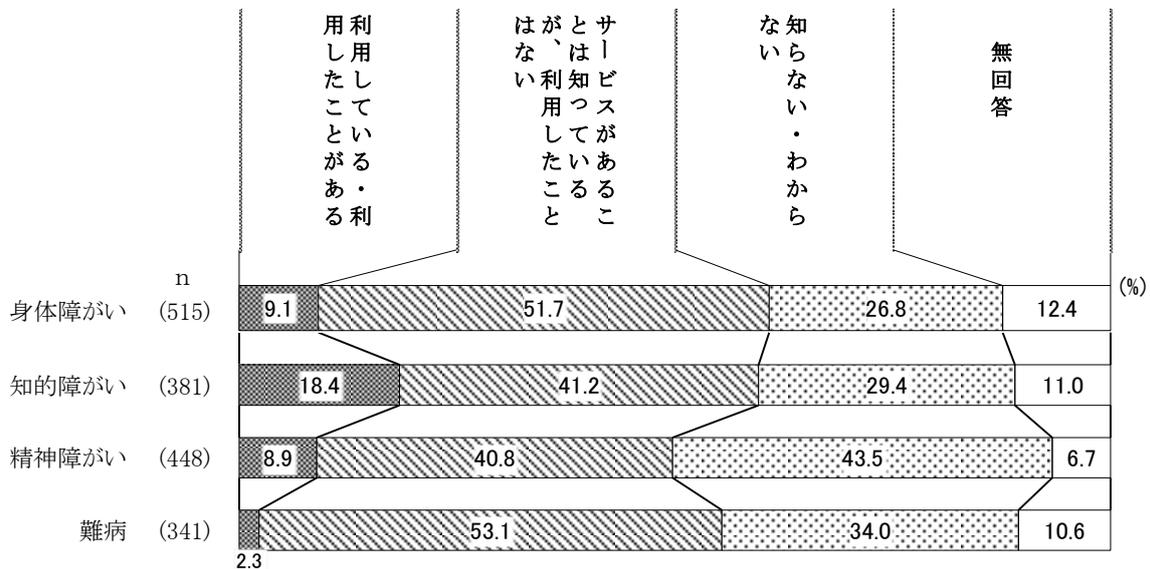
⑤ 重度障害者等包括支援

身体障がい者では47.2%、知的障がい者では45.7%、精神障がい者では59.6%、難病の方では55.1%と、いずれの属性も「知らない・わからない」が最も高くなっています。



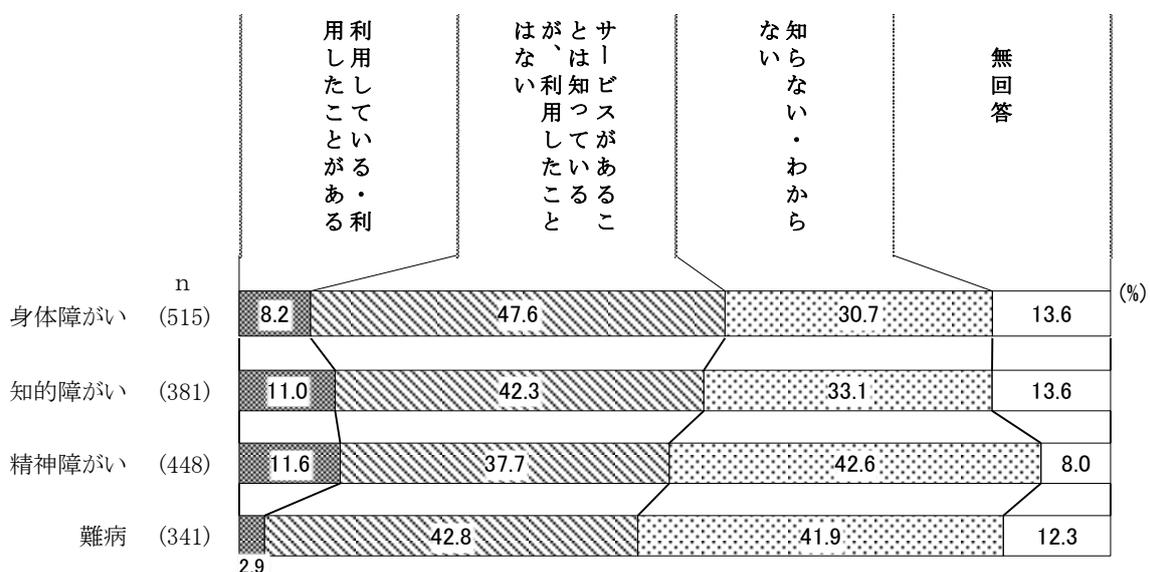
⑥ 生活介護

身体障がい者では51.7%、知的障がい者では41.2%、難病の方では53.1%と、「サービスがあることは知っているが、利用したことはない」が最も高くなっています。精神障がい者では「知らない・わからない」が43.5%と最も高くなっています。



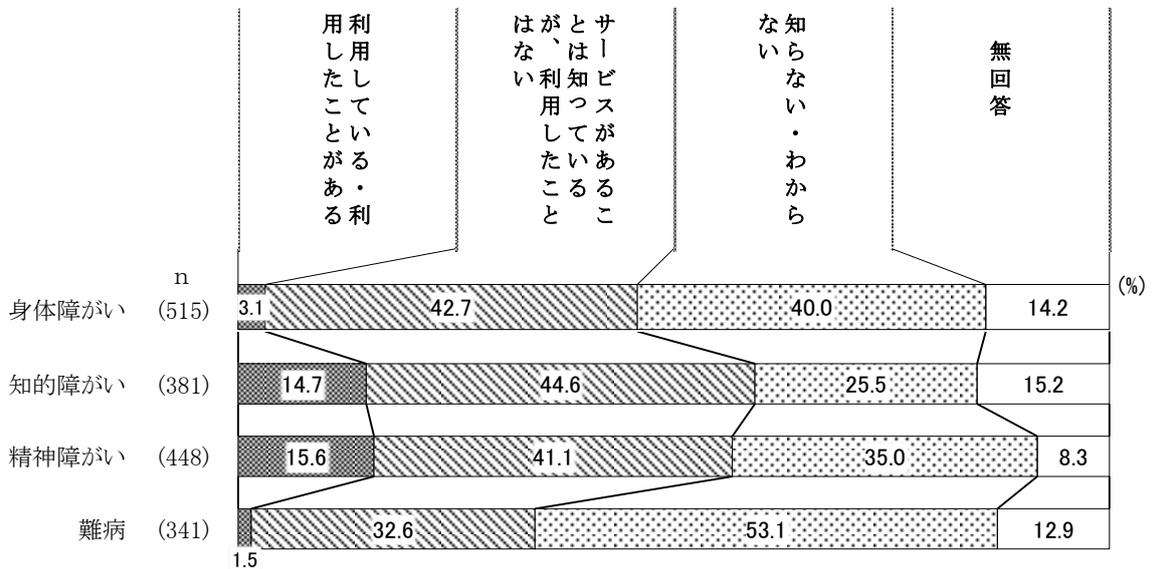
⑦ 自立訓練（機能訓練、生活訓練）

身体障がい者では47.6%、知的障がい者では42.3%、難病の方では42.8%と、「サービスがあることは知っているが、利用したことはない」が最も高くなっています。精神障がい者では「知らない・わからない」が42.6%と最も高くなっています。



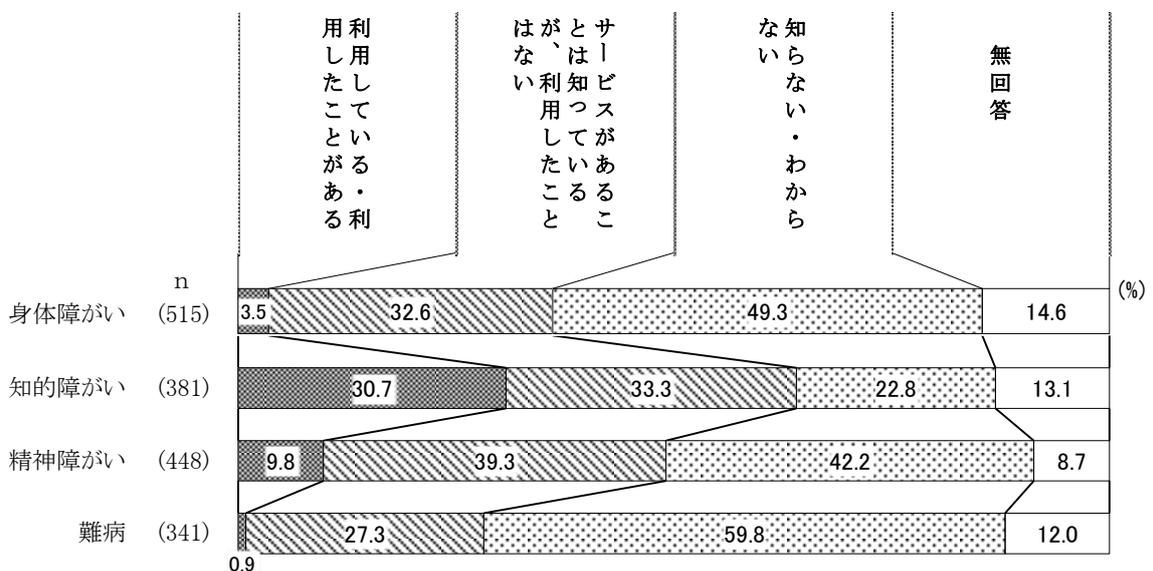
⑧ 就労移行支援

身体障がい者では42.7%、知的障がい者では44.6%、精神障がい者では41.1%と、「サービスがあることは知っているが、利用したことはない」が最も高くなっています。難病の方では「知らない・わからない」が53.1%と最も高くなっています。



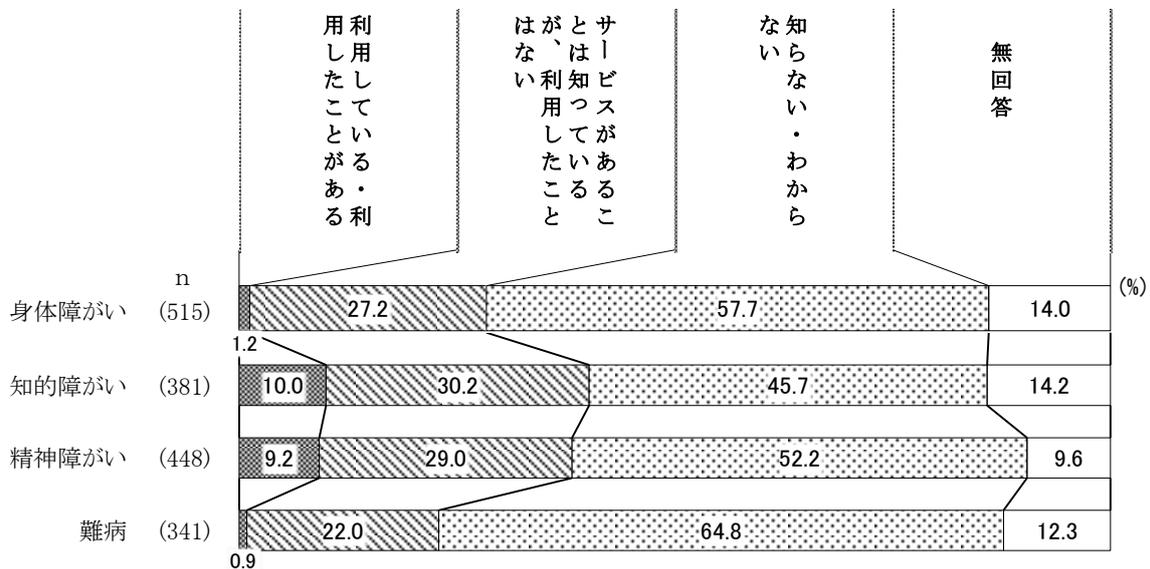
⑨ 就労継続支援（A型、B型）

身体障がい者では49.3%、精神障がい者では42.2%、難病の方では59.8%と、「知らない・わからない」が最も高くなっています。知的障がい者では「サービスがあることは知っているが、利用したことはない」が33.3%と最も高くなっています。



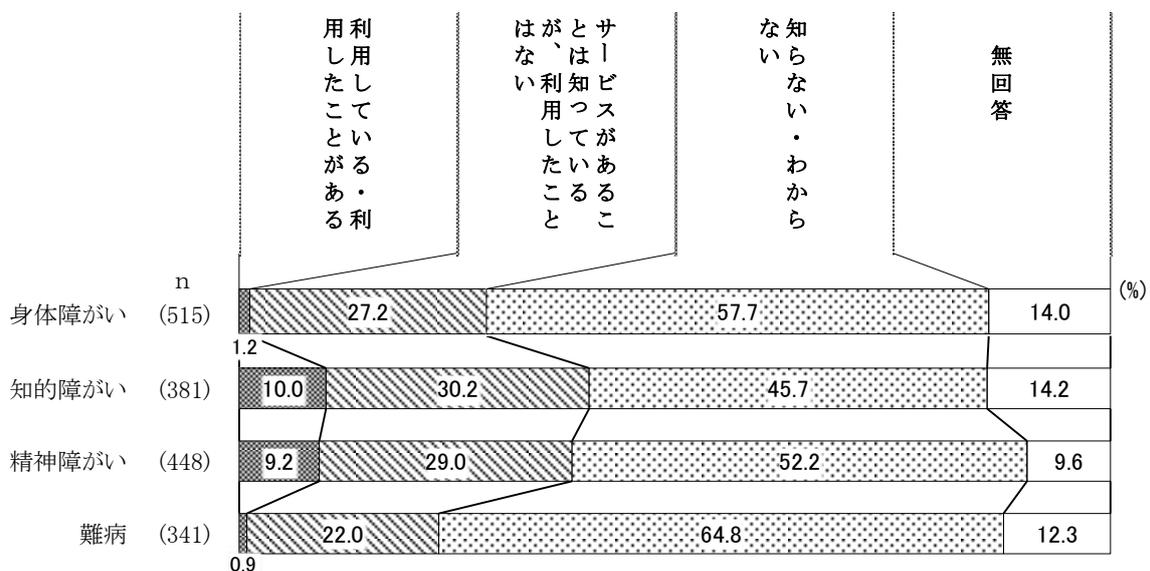
⑩ 就労定着支援

身体障がい者では57.7%、知的障がい者では45.7%、精神障がい者では52.2%、難病の方では64.8%と、いずれの属性も「知らない・わからない」が最も高くなっています。



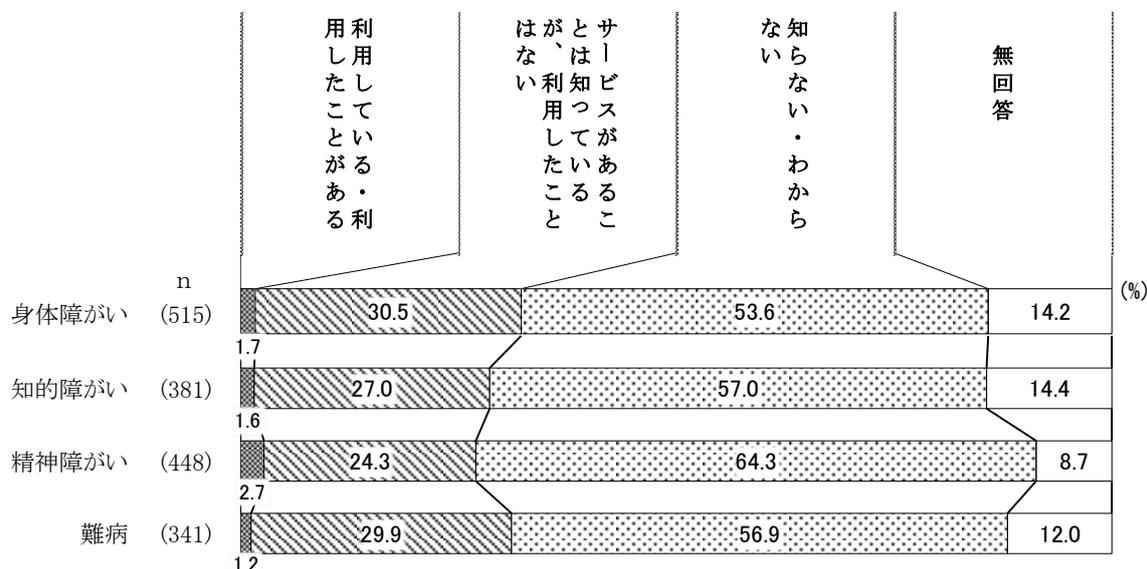
⑪ 療養介護

身体障がい者では57.7%、知的障がい者では45.7%、精神障がい者では52.2%、難病の方では64.8%と、いずれの属性も「知らない・わからない」が最も高くなっています。



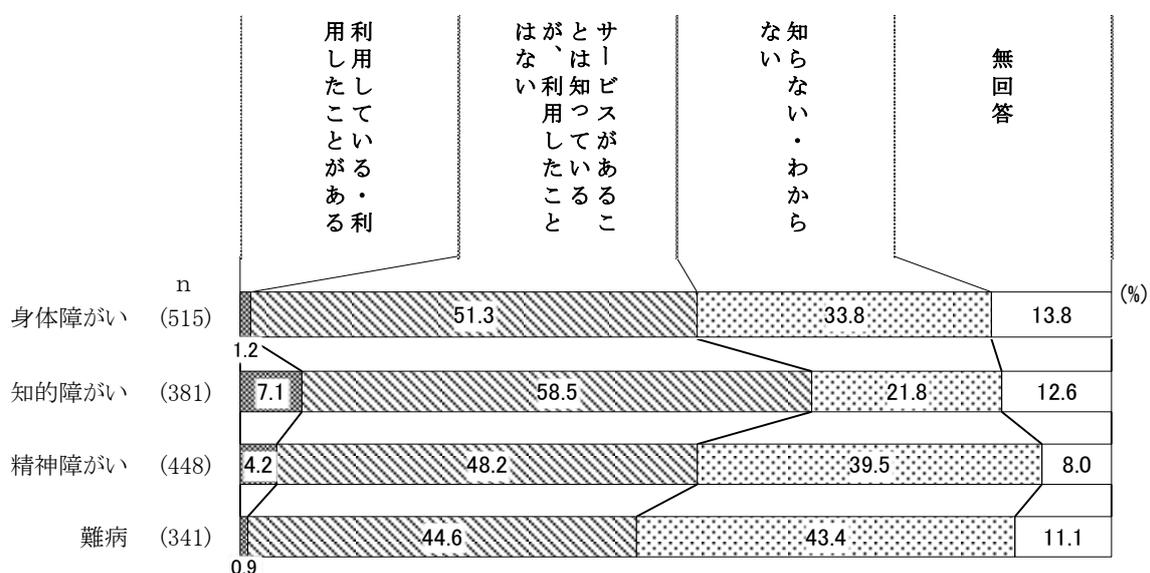
⑫ 短期入所（ショートステイ）

身体障がい者では53.6%、知的障がい者では57.0%、精神障がい者では64.3%、難病の方では56.9%と、いずれの属性も「知らない・わからない」が最も高くなっています。



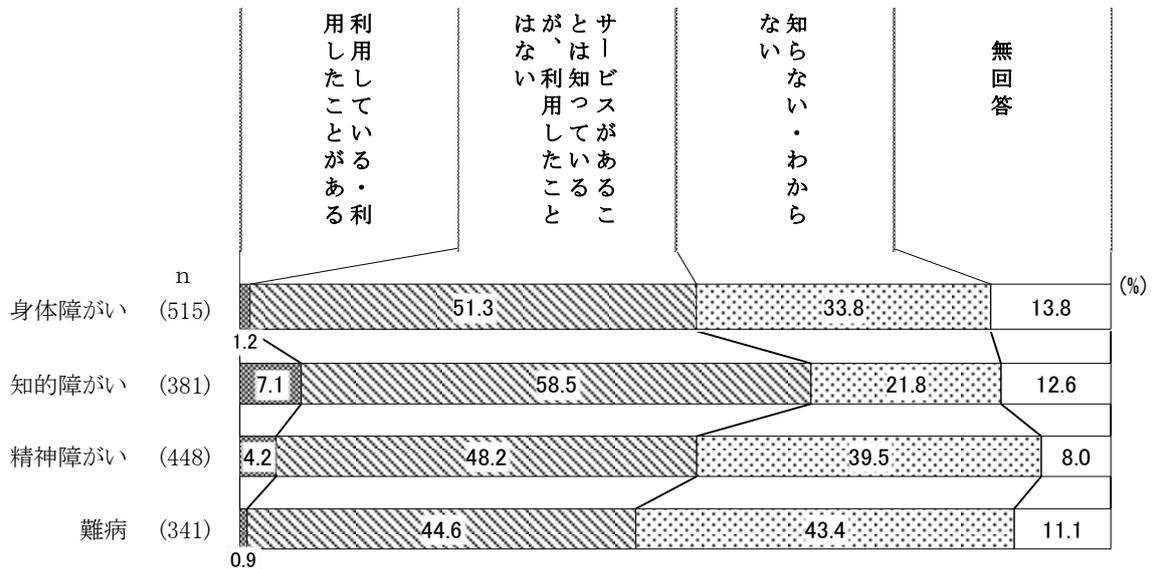
⑬ 共同生活援助（グループホーム）

身体障がい者では51.3%、知的障がい者では58.5%、精神障がい者では48.2%、難病の方では44.6%と、いずれの属性も「サービスがあることは知っているが、利用したことはない」が最も高くなっています。



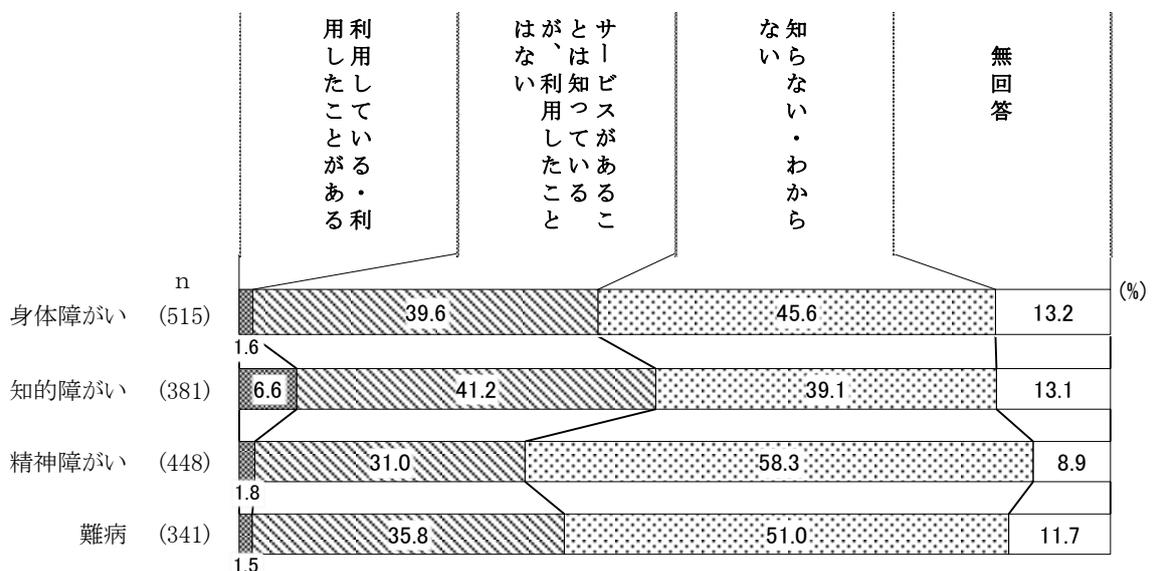
⑭ 施設入所支援

身体障がい者では51.3%、知的障がい者では58.5%、精神障がい者では48.2%、難病の方では44.6%と、いずれの属性も「サービスがあることは知っているが、利用したことはない」が最も高くなっています。



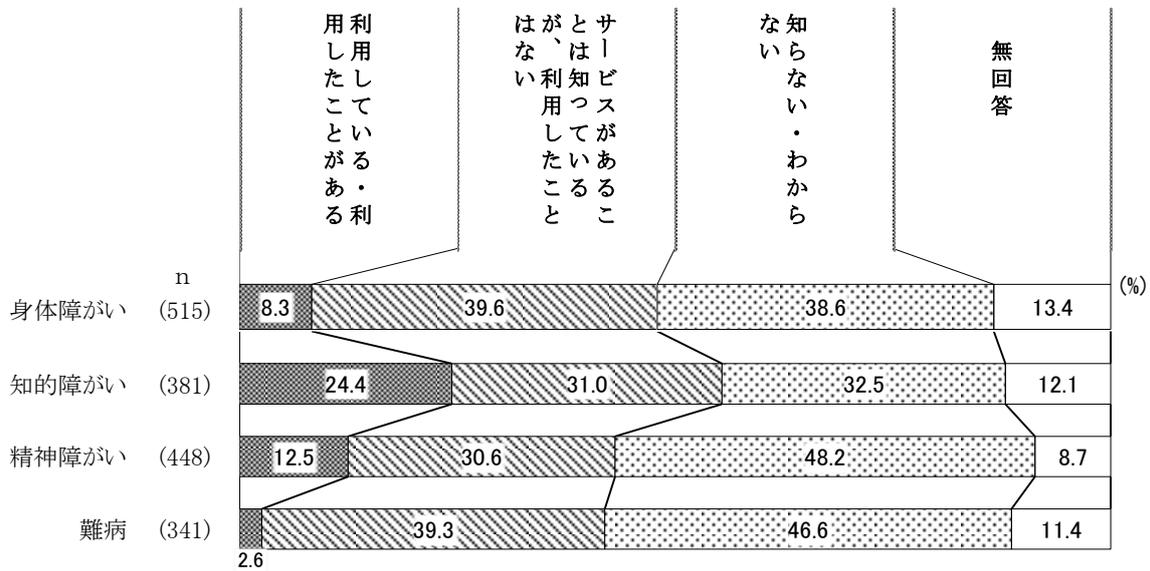
⑮ 相談支援

身体障がい者では45.6%、精神障がい者では58.3%、難病の方では51.0%と、「知らない・わからない」が最も高くなっています。知的障がい者では「サービスがあることは知っているが、利用したことはない」が41.2%と最も高くなっています。



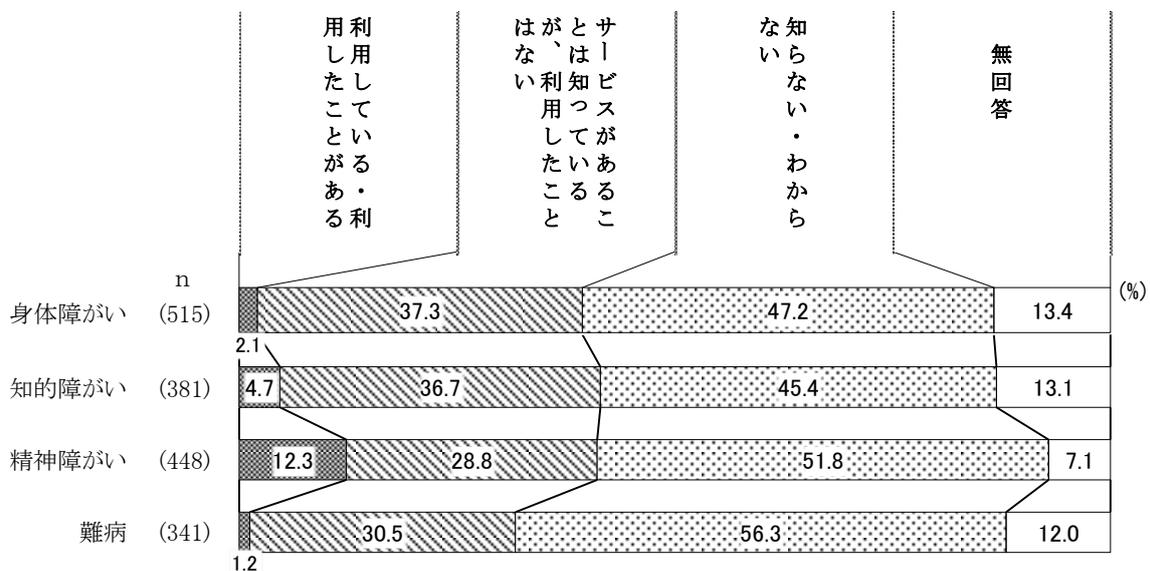
⑩ 自立生活援助

身体障がい者では「サービスがあることは知っているが、利用したことはない」が39.6%と最も高くなっています。知的障がい者では32.5%、精神障がい者では48.2%、難病の方で46.6%と、「知らない・わからない」が最も高くなっています。



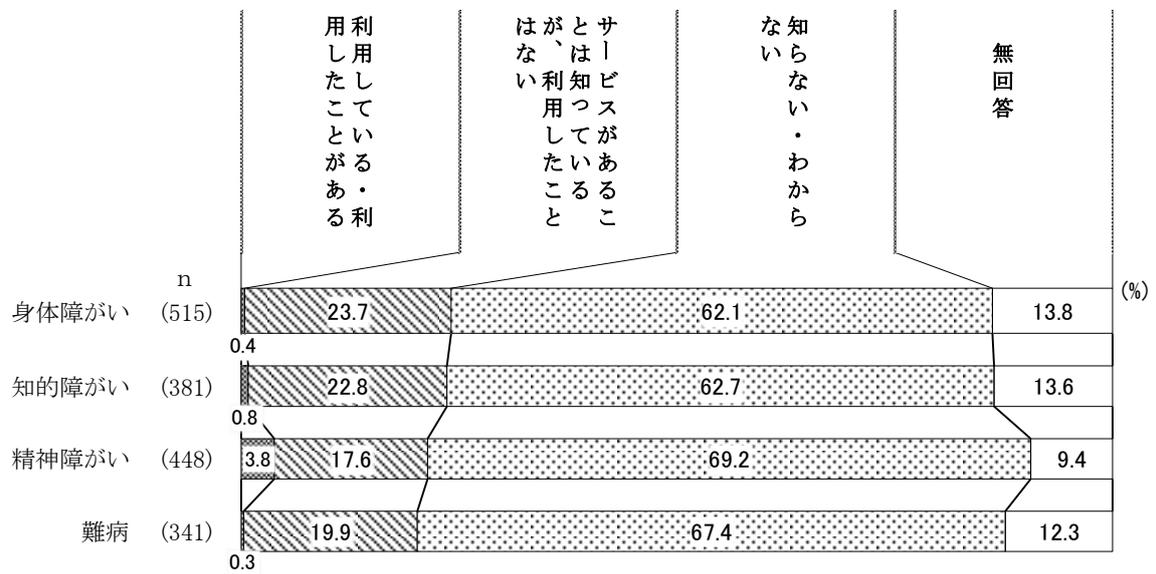
⑪ 地域移行支援

身体障がい者では47.2%、知的障がい者では45.4%、精神障がい者では51.8%、難病の方では56.3%と、いずれの属性も「知らない・わからない」が最も高くなっています。



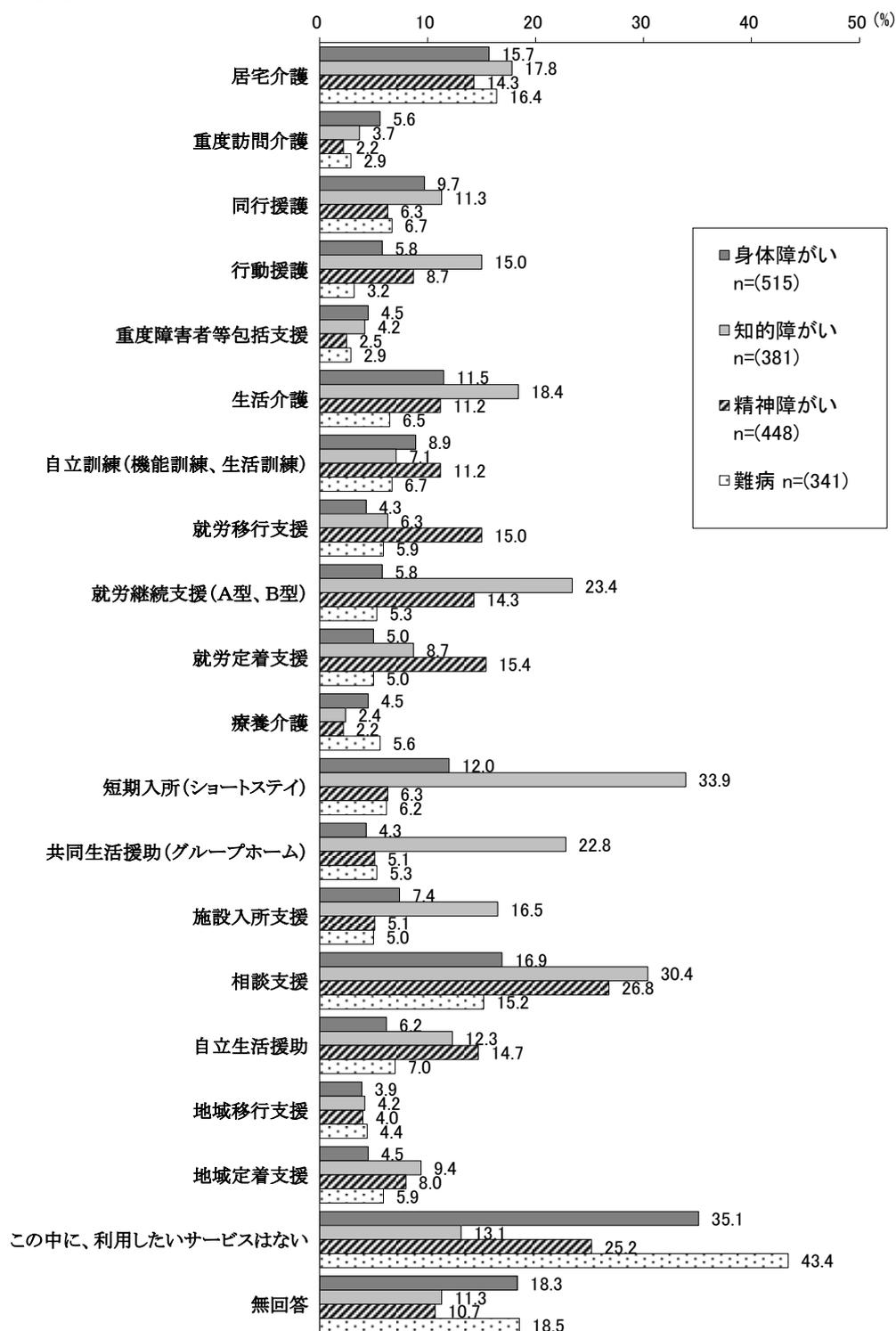
⑩ 地域定着支援

身体障がい者では62.1%、知的障がい者では62.7%、精神障がい者では69.2%、難病の方では67.4%と、いずれの属性も「知らない・わからない」が最も高くなっています。



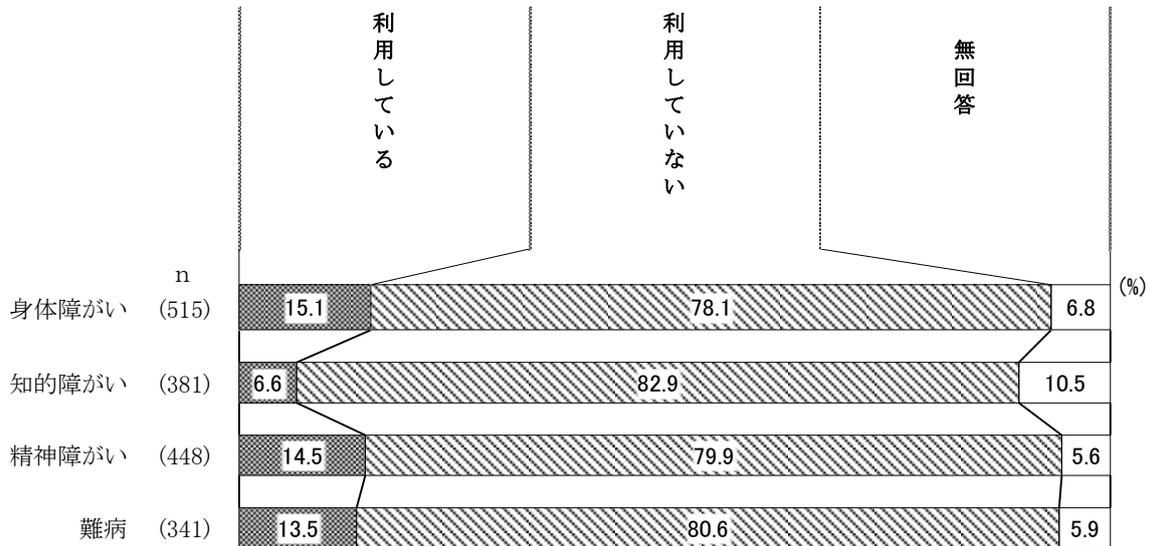
問 34 次のサービスの中で、今後も引き続き利用したい、あるいは、新たに利用したいと思うサービスはありますか。利用したいものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

利用希望のサービスを聞いたところ、「この中に、利用したいサービスはない」を除くと、身体障がい者では「相談支援」が16.9%と最も高く、次いで「居宅介護」が15.7%となっています。知的障がい者では「短期入所(ショートステイ)」が33.9%と最も高く、次いで「相談支援」が30.4%となっています。精神障がい者では「相談支援」が26.8%と最も高く、次いで「就労定着支援」が15.4%となっています。難病の方では「居宅介護」が16.4%と最も高く、次いで「相談支援」が15.2%となっています。



問 35 あなたは介護保険によるサービスを利用していますか。(○は1つ)

介護保険によるサービスの利用有無を聞いたところ、身体障がい者では 78.1%、知的障がい者では 82.9%、精神障がい者では 79.9%、難病の方では 80.6%と、いずれの属性も「利用していない」が高くなっています。

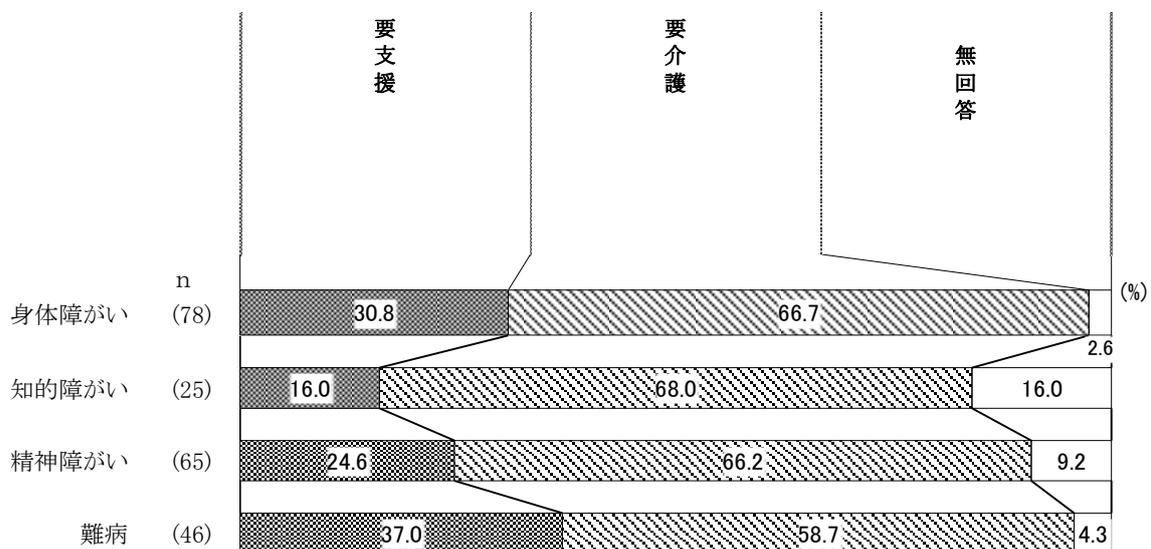


次の問は、問 35 で「1. 利用している」と答えた方におうかがいします。

問 36 該当する要介護度はどれですか。(○は1つ)

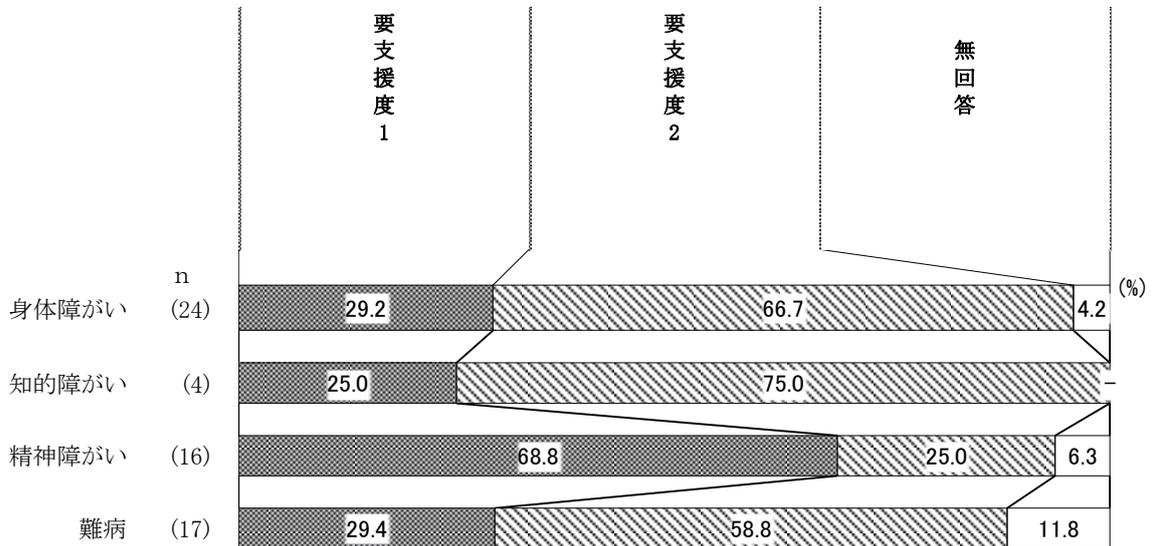
・要支援、要介護

身体障がい者では 66.7%、知的障がい者では 68.0%、精神障がい者では 66.2%、難病の方では 58.7%と、いずれの属性も「要介護」が高くなっています。



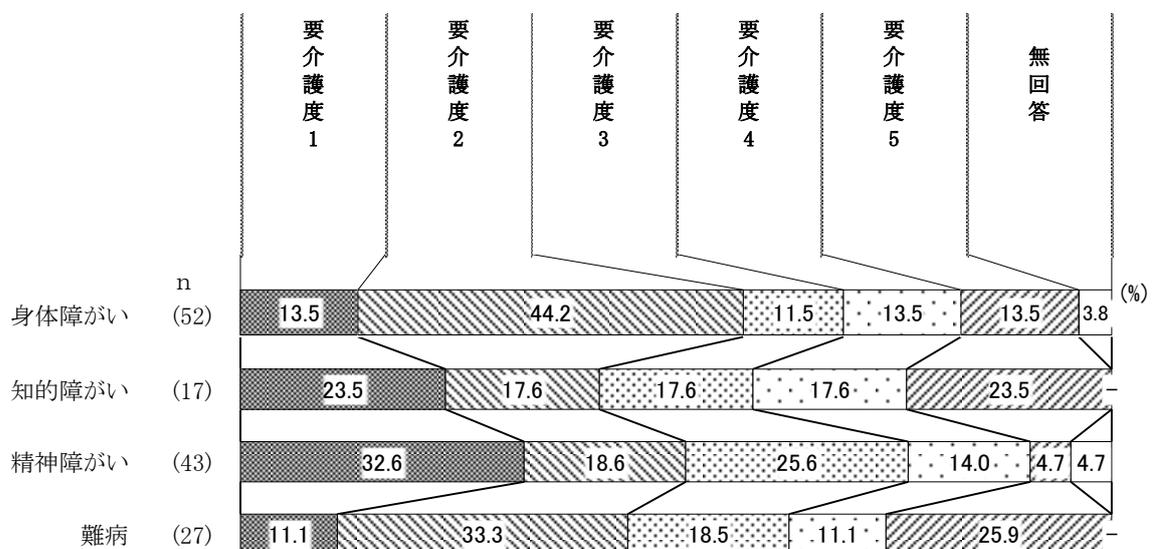
・ 要支援度

身体障がい者では66.7%、知的障がい者では75.0%、難病の方では58.8%と、「要支援度2」が高くなっています。精神障がい者では「要支援度1」が68.8%と高くなっています。



・ 要介護度

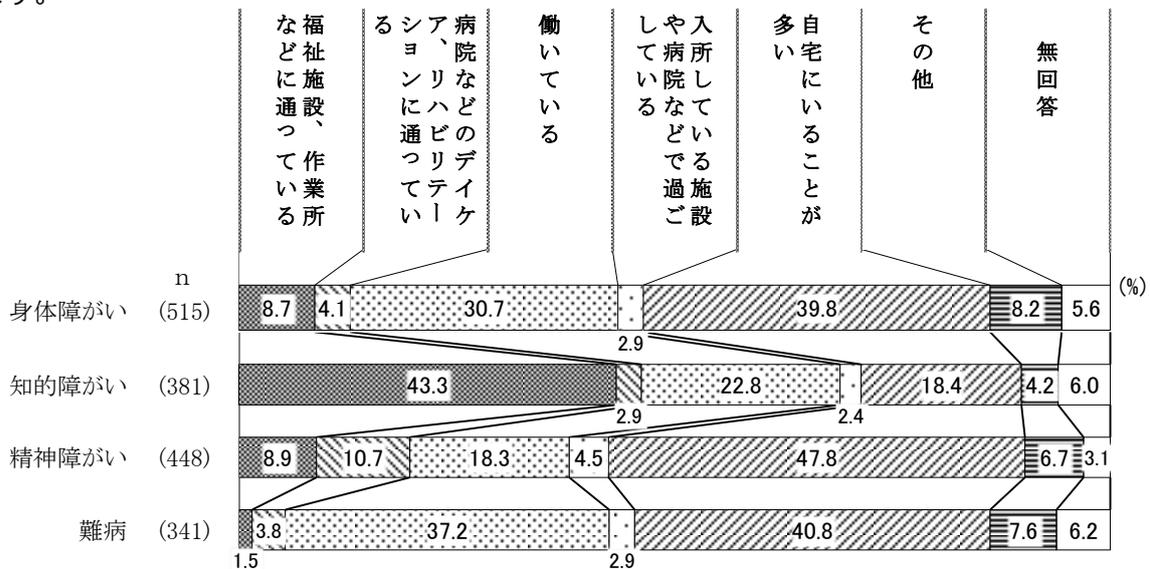
身体障がい者では44.2%、難病の方では33.3%と、「要介護度2」が最も高くなっています。知的障がい者では「要介護度1」と「要介護度5」がともに23.5%で最も高くなっています。精神障がい者では「要介護度1」が32.6%と最も高くなっています。



(8) 日中の過ごし方について

問 37 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(○は1つ)

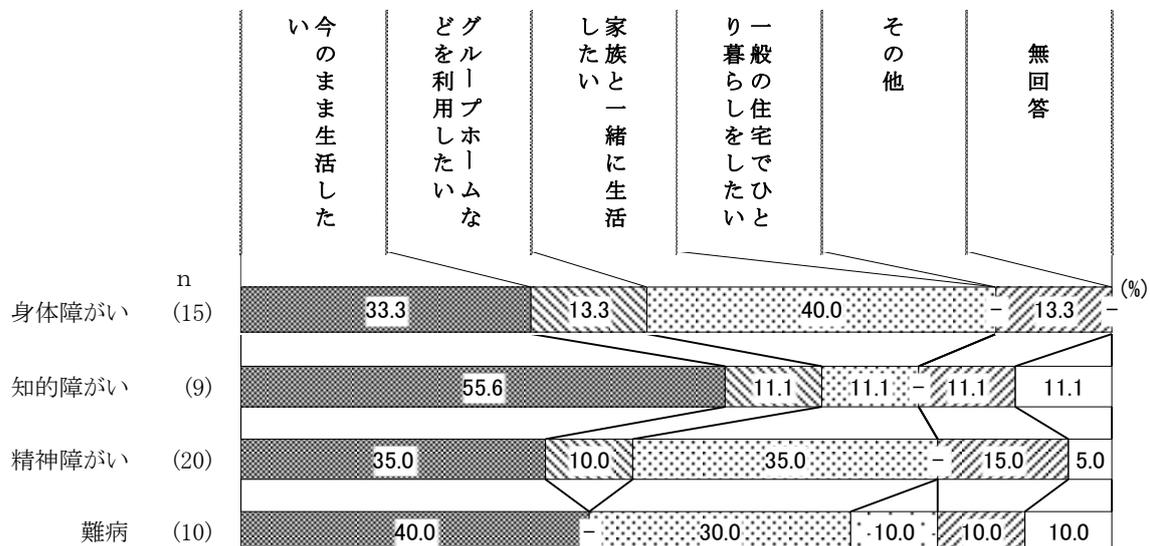
日中の過ごし方を聞いたところ、身体障がい者では39.8%、精神障がい者では47.8%、難病の方では40.8%と、「自宅にすることが多い」が最も高く、次いで身体障がい者では30.7%、精神障がい者では18.3%、難病の方では37.2%が「働いている」となっています。知的障がい者では「福祉施設、作業所などに通っている」が43.3%と最も高く、次いで「働いている」が22.8%となっています。



次の問は、問37で「4. 入所している施設や病院などで過ごしている」と答えた方におうかがいします。

問 38 あなたは将来、地域で生活したいと思いますか。(○は1つ)

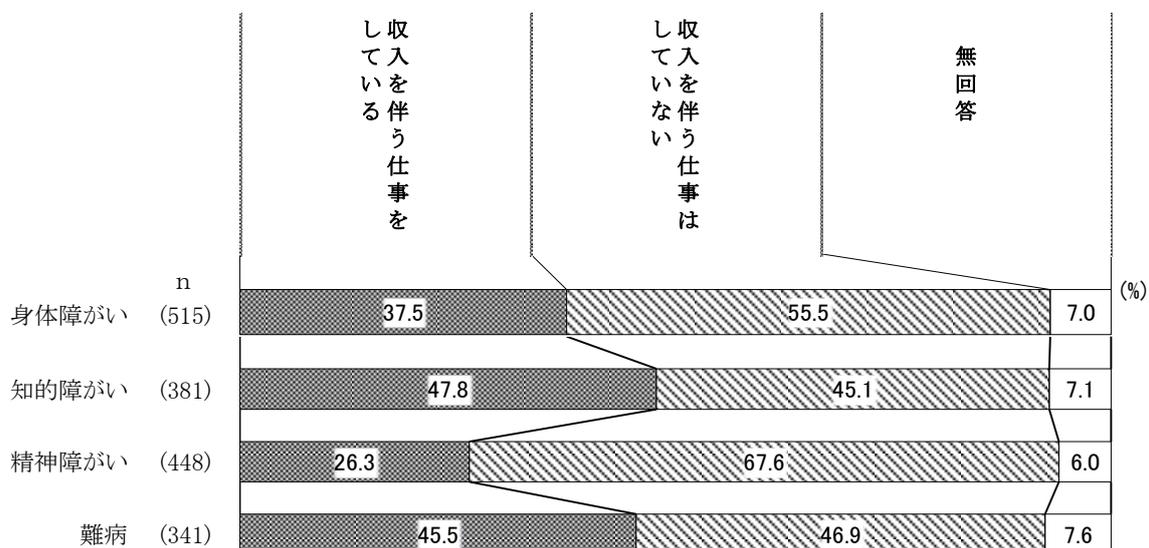
地域で生活したいかを聞いたところ、身体障がい者では「家族と一緒に生活したい」が40.0%と最も高くなっています。知的障がい者では「今のまま生活したい」が55.6%と最も高くなっています。精神障がい者では「今のまま生活したい」と「家族と一緒に生活したい」がともに35.0%と最も高くなっています。難病の方では「今のまま生活したい」が40.0%と最も高くなっています。



(9) 就労の状況について

問 39 現在、あなたは収入を伴う仕事をしていますか。(○は1つ)

収入を伴う仕事をしているか聞いたところ、身体障がい者では55.5%、精神障がい者では67.6%、難病の方では46.9%と、「収入を伴う仕事はしていない」が高くなっています。知的障がい者では「収入を伴う仕事をしている」が47.8%と高くなっています。



次の問 40～問 42 は、問 39 で「1. 収入を伴う仕事をしています」と答えた方におうかがいします。

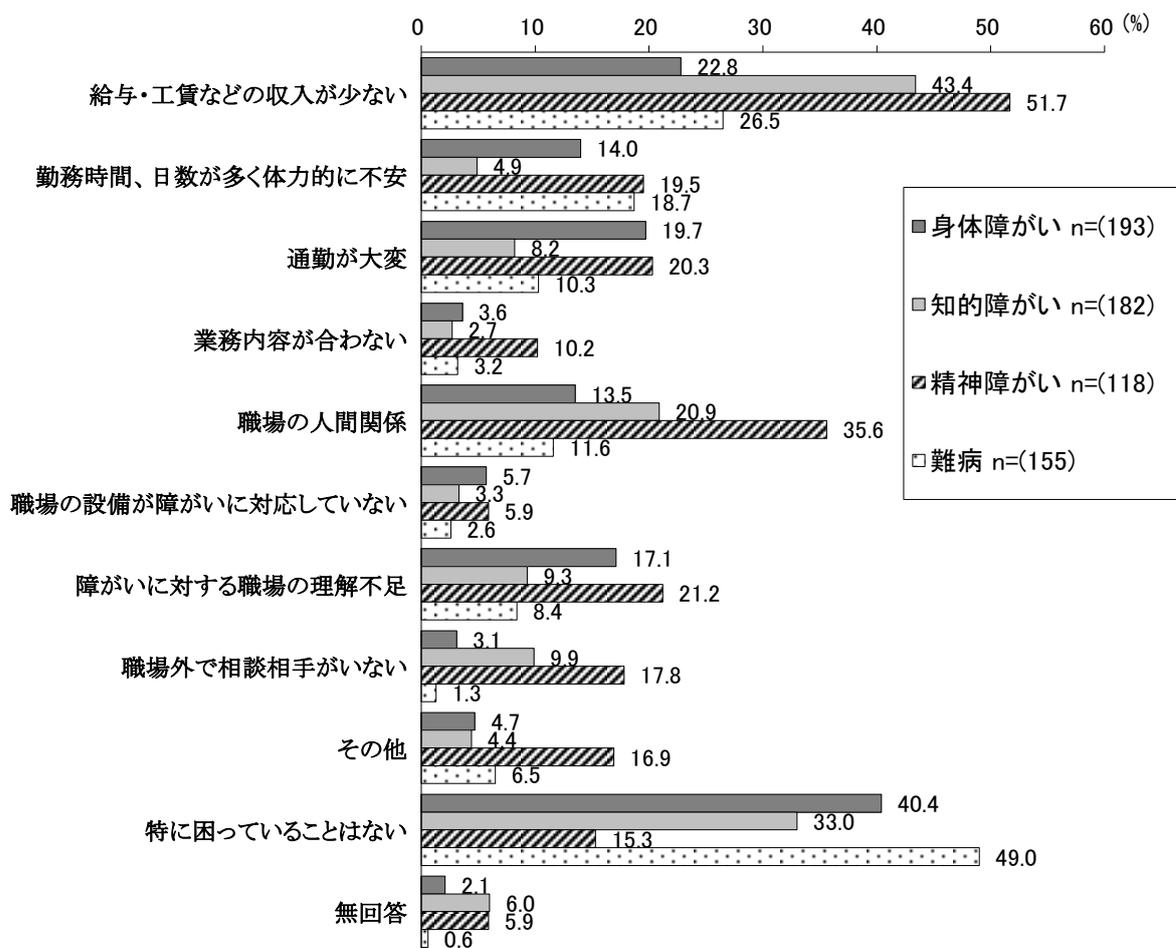
問 40 仕事の形態は次のうちどれですか。(○は1つ)

仕事の形態を聞いたところ、身体障がい者では57.0%、難病の方では53.5%と、「会社・団体等の正規の職員」が最も高くなっています。知的障がい者では「就労継続支援・就労移行支援などの福祉就労」が51.1%と最も高くなっています。精神障がい者では「アルバイト、臨時、パート、嘱託等」が44.9%と最も高くなっています。

	自営業(家業の手伝いを含む)	会社・団体等の正規の職員	アルバイト、臨時、パート、嘱託等	内職	就労継続支援・就労移行支援などの福祉的就労	その他	無回答
身体障がい (n=193)	10.4	57.0	25.9	-	4.7	1.0	1.0
知的障がい (n=182)	1.1	15.4	28.0	-	51.1	3.3	1.1
精神障がい (n=118)	8.5	24.6	44.9	1.7	15.3	5.1	-
難病 (n=155)	12.3	53.5	30.3	0.6	0.6	1.9	0.6

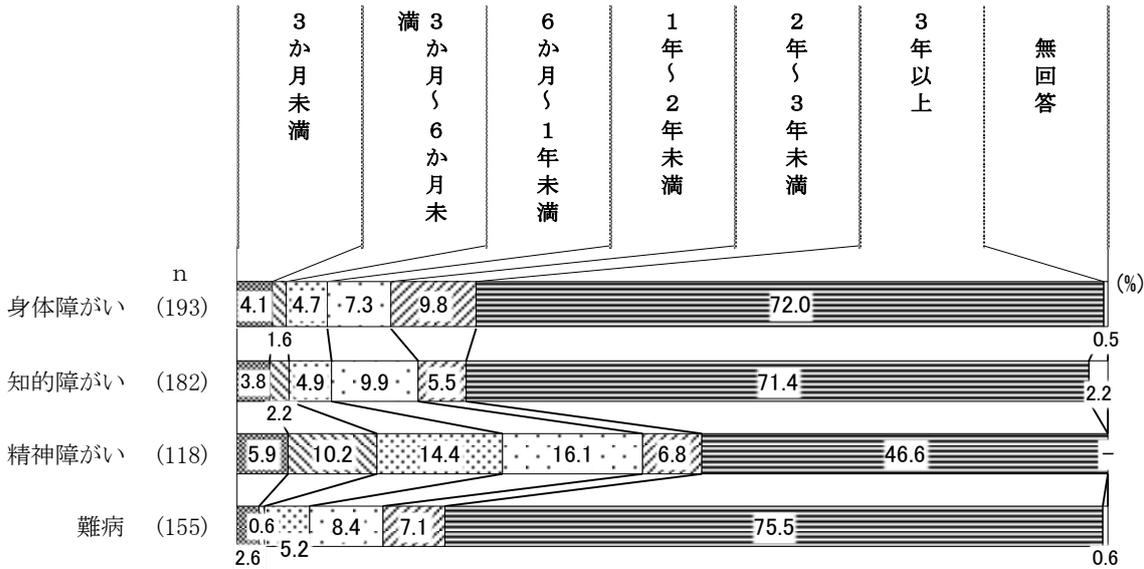
問 41 仕事をする上で困っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

仕事をする上で困っていることを聞いたところ、「特に困っていることはない」を除くと、いずれの属性も「給与・工賃などの収入が少ない」が最も高くなっています。次いで、身体障がい者では「通勤が大変」が 19.7%となっています。知的障がい者では 20.9%、精神障がい者では 35.6%と、「職場の人間関係」となっています。難病の方では「通勤時間、日数が多く体力的に不安」が 18.7%となっています。



問 42 今の仕事はどれくらい続けていますか。(〇は1つ)

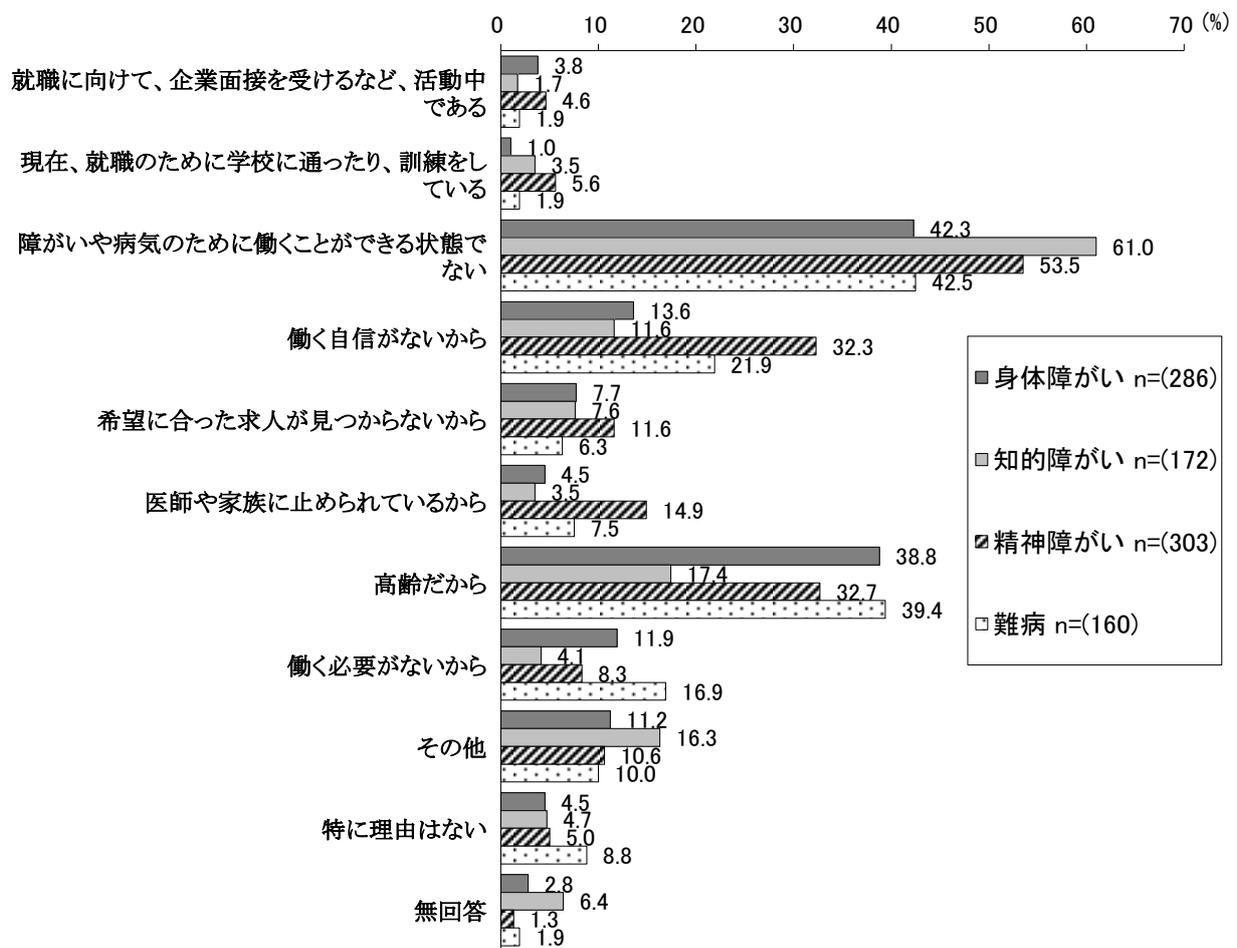
今の仕事歴を聞いたところ、身体障がい者では72.0%、知的障がい者では71.4%、精神障がい者では46.6%、難病の方では75.5%と、いずれの属性も「3年以上」が最も高くなっています。



次の問 43 は、問 39 で「2. 収入を伴う仕事はしていない」と答えた方におうかがいします。

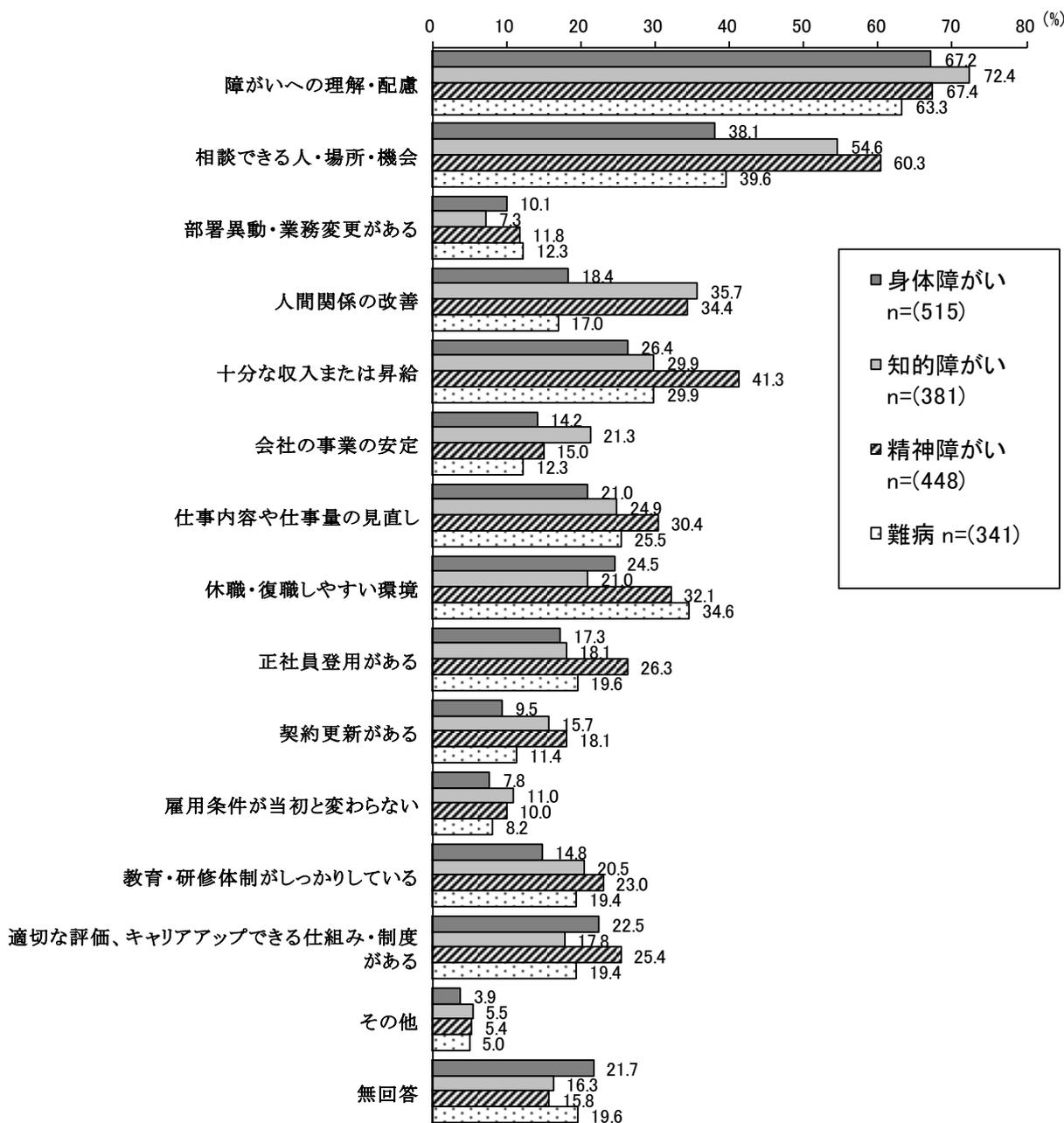
問 43 仕事をしていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

仕事をしていない理由を聞いたところ、身体障がい者では 42.3%、知的障がい者では 61.0%、精神障がい者では 53.5%、難病の方では 42.5%と、いずれの属性も「障がいや病気のために働くことができる状態でない」が最も高く、次いで、身体障がい者では 38.8%、知的障がい者では 17.4%、精神障がい者 32.7%、難病の方では 39.4%と、いずれの属性も「高齢だから」となっています。



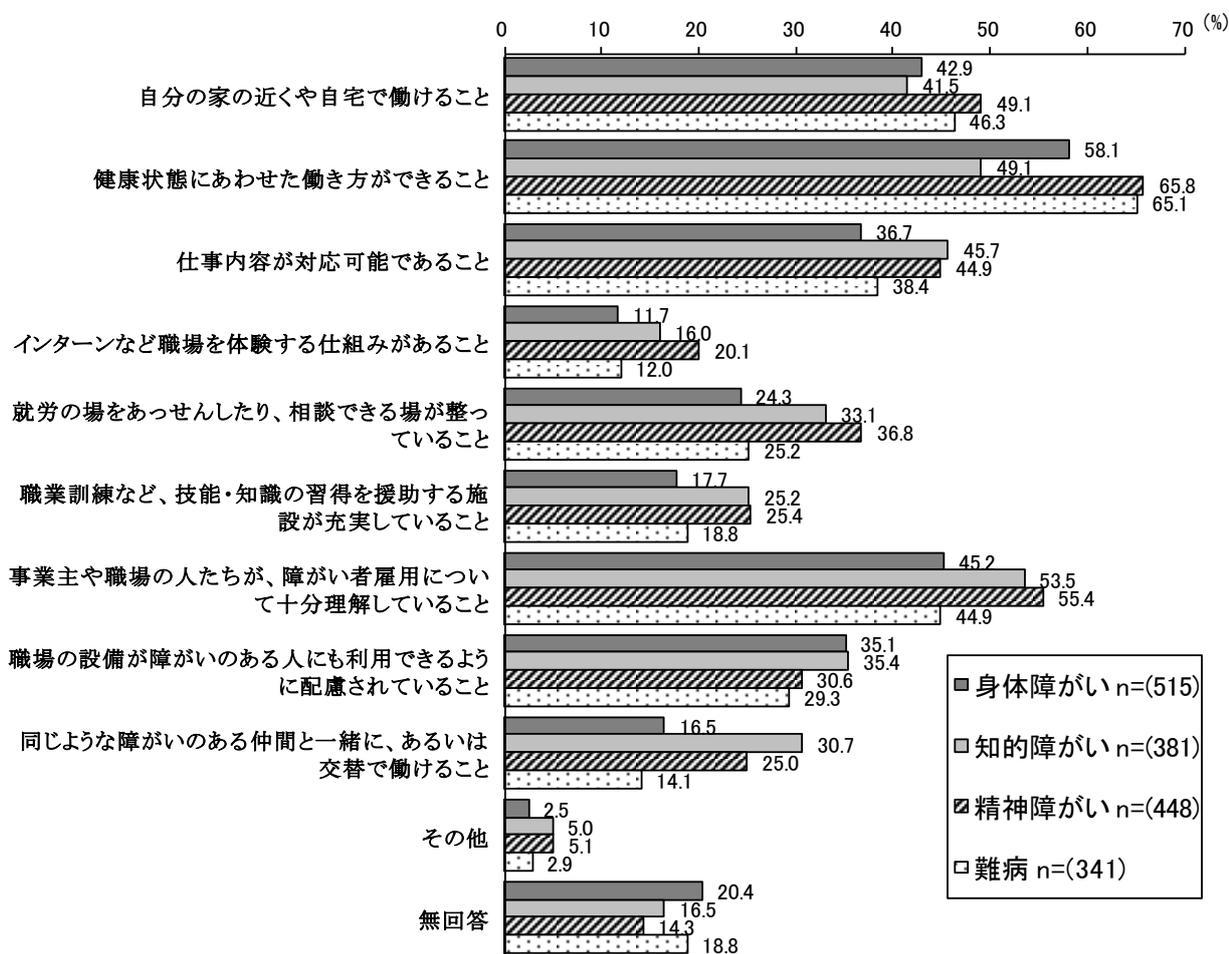
問 44 障がいのある方の職場定着に必要な対応は何だと思いますか。(〇はいくつでも)

必要な対応を聞いたところ、身体障がい者では67.2%、知的障がい者では72.4%、精神障がい者では67.4%、難病の方では63.3%と、いずれの属性も「障がいへの理解・配慮」が最も高く、次いで、身体障がい者では38.1%、知的障がい者では54.6%、精神障がい者では60.3%、難病の方では39.6%と、いずれの属性も「相談できる人・場所・機会」となっています。



問 45 障がいのある方が長く働くためにはどのような環境が整っていることが大切だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

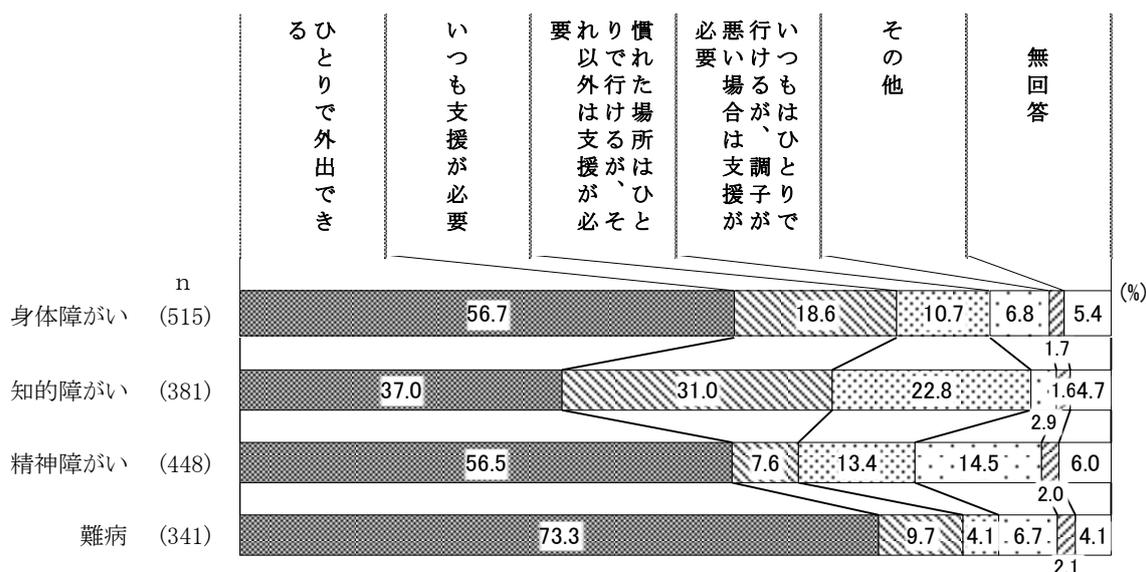
どのような環境が大切かを聞いたところ、身体障がい者では「健康状態にあわせた働き方ができること」が58.1%と最も高く、次いで「事業主や職場の人たちが、障がい者雇用について十分理解していること」が45.2%となっています。知的障がい者では「事業主や職場の人たちが、障がい者雇用について十分理解していること」が53.5%と最も高く、次いで「健康状態にあわせた働き方ができること」が49.1%となっています。精神障がい者では「健康状態にあわせた働き方ができること」が65.8%と最も高く、次いで「事業主や職場の人たちが、障がい者雇用について十分理解していること」が55.4%となっています。難病の方では「健康状態にあわせた働き方ができること」が65.1%と最も高く、次いで、「自分の家の近くや自宅で働けること」が46.3%となっています。



(10) 外出や余暇の過ごし方について

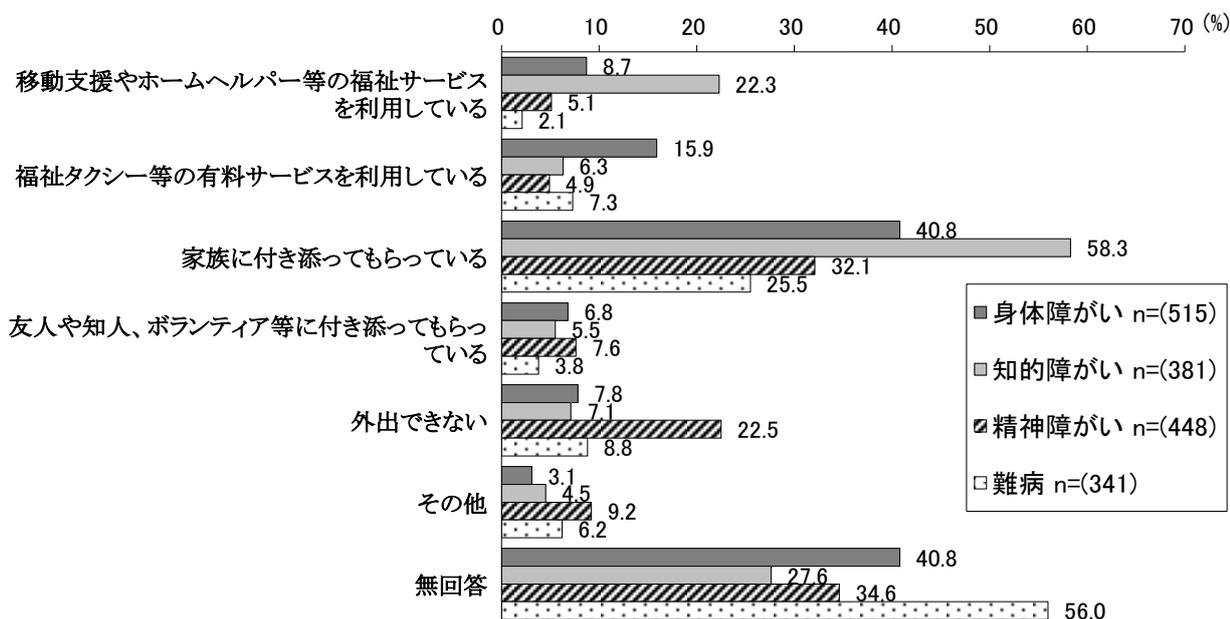
問 46 あなたは、外出するときには支援が必要ですか。(○は1つ)

外出の支援について聞いたところ、身体障がい者では56.7%、精神障がい者では56.5%、難病の方では73.3%と、「ひとりで外出できる」が最も高くなっています。知的障がい者では「ひとりで外出できる」が37.0%と最も高くなっているものの、「いつも支援が必要」が31.0%と他の属性よりもおよそ20ポイント高くなっています。



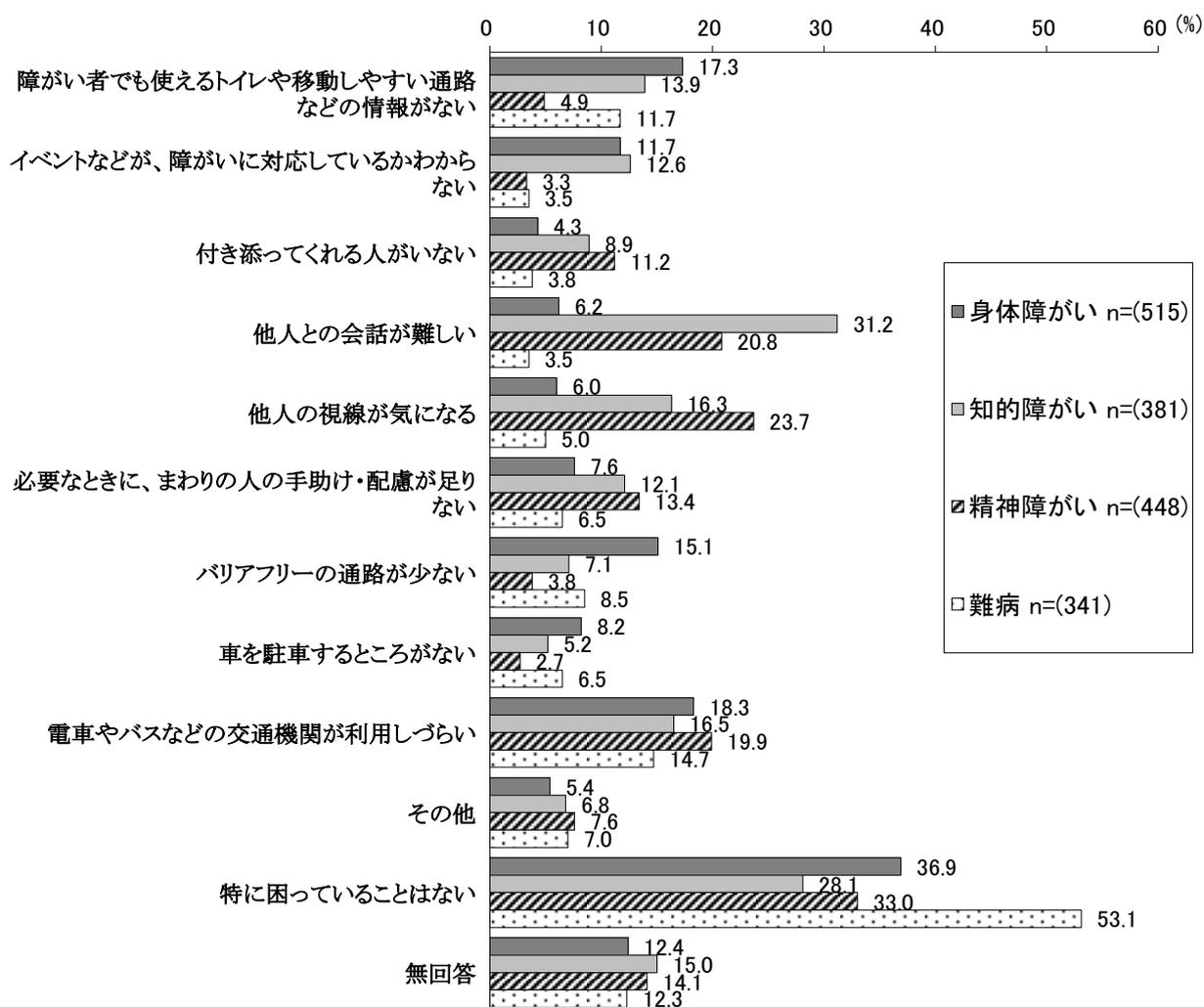
問 47 ひとりで外出できない場合、どのように外出していますか。(○はいくつでも)

外出する時の支援を聞いたところ、身体障がい者では40.8%、知的障がい者では58.3%、精神障がい者では32.1%、難病の方では25.5%と、いずれの属性も「家族に付き添ってもらっている」が最も高くなっています。



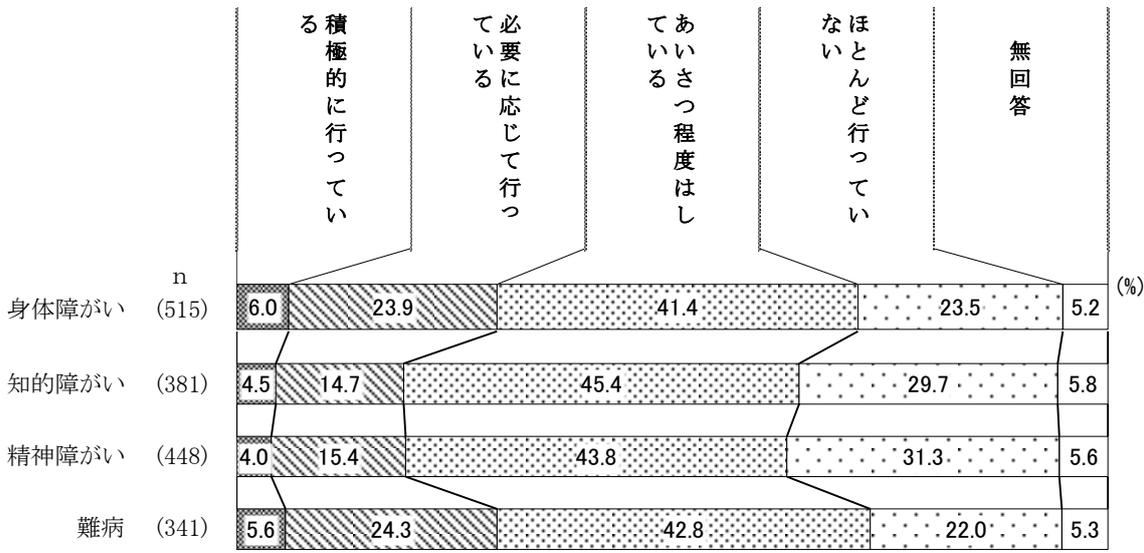
問 48 外出の際に困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

外出で困っていることを聞いたところ、「特に困っていることはない」を除くと、身体障がい者では「電車やバスなどの交通機関が利用しづらい」が18.3%と最も高く、次いで「障がい者でも使えるトイレや移動しやすい通路などの情報がない」が17.3%となっています。知的障がい者では「他人との会話が難しい」が31.2%と最も高く、次いで「電車やバスなどの交通機関が利用しづらい」が16.5%となっています。精神障がい者では「他人の視線が気になる」が23.7%と最も高く、次いで「電車やバスなどの交通機関が利用しづらい」が19.9%となっています。難病の方では「電車やバスなどの交通機関が利用しづらい」が14.7%と最も高く、「障がい者でも使えるトイレや移動しやすい通路などの情報がない」が11.7%となっています。



問 49 地域の人との交流は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

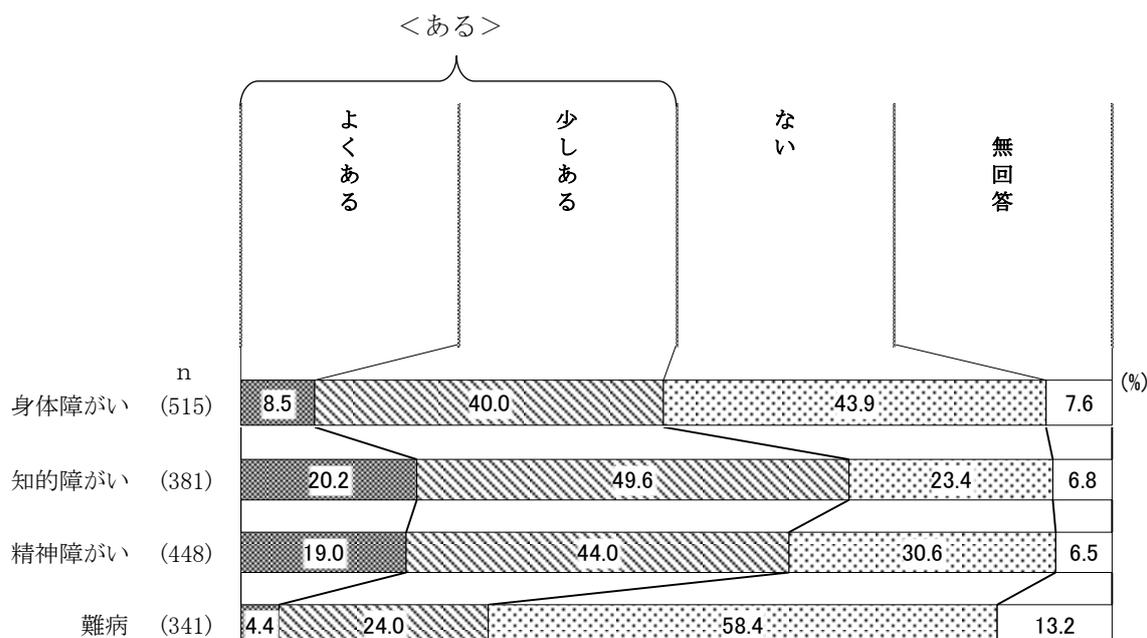
地域の人との交流をしているか聞いたところ、身体障がい者では 41.4%、知的障がい者では 45.4%、精神障がい者では 43.8%、難病の方では 42.8%と、いずれの属性も「あいさつ程度はしている」が最も高くなっています。



(11) 差別や権利擁護などについて

問 50 障がいがあることで、差別を感じたり、嫌な思いをしたことがありますか。
(○は1つ)

差別を感じたことはないか聞いたところ、難病の方では 58.4%と、差別を感じたことは「ない」が最も高くなっています。一方、「よくある」と「少しある」を合わせて〈ある〉とした場合、身体障がい者では 48.5%、知的障がい者では 69.8%、精神障がい者では 63.0%と、差別が〈ある〉が最も高くなっています。



問 51 具体的には、どのようなときに差別を感じたり、嫌な思いをしましたか。
(自由記入)

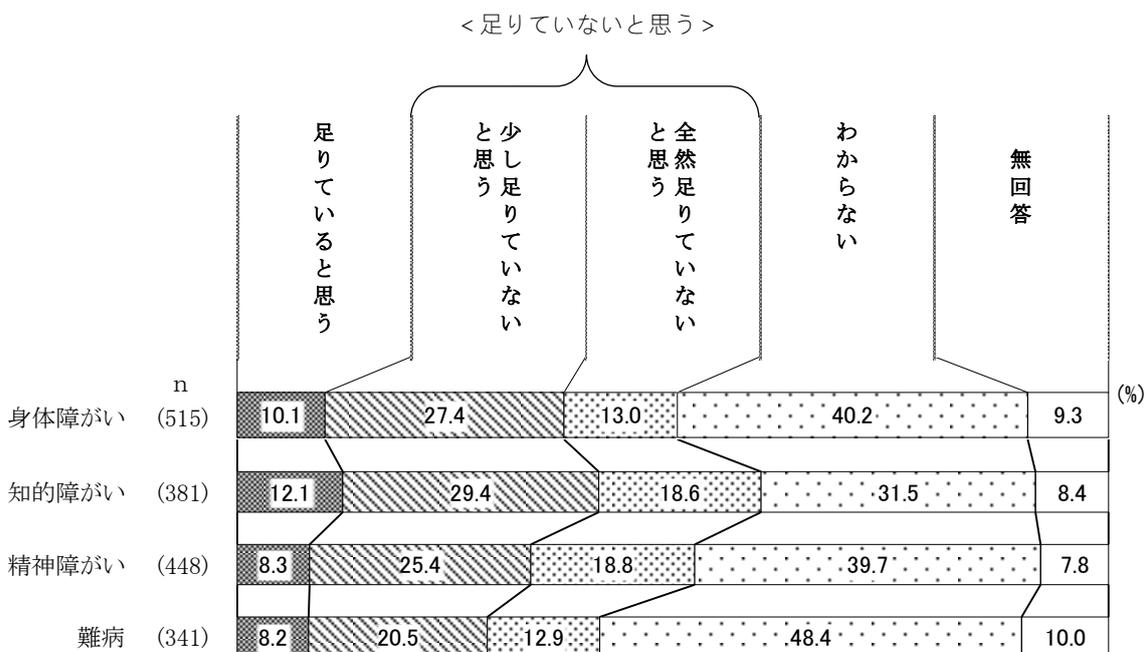
- ・ジロジロふり返って何度も見られる。大きい声で一人言をいうので、ジロジロ見られる。公共交通機関を利用した時、常に声を出しているのを奇異な目で見られた。いろいろな障がいがあることを理解して欲しい。自閉症なので、大声を突然出したり、奇妙な行動をするので、嫌味な言葉や冷たい視線を感じる。
- ・障がい者の人達を、同じ人間として見てくれない。
- ・電車等、露骨に隣の車両に移動したり、バイ菌でも見るようにさけたり、ヒソヒソ話をする。
- ・通院時、タクシーに連続 5 台乗車拒否されたことがあります。車椅子ということではやな顔をされたりすることもよくあります。バスでは迷惑だとお客さんから言われました。公共交通機関を利用して、歩行困難で杖を使っても配慮されない。諸外国では、実に自然に席を譲ってもらったりできたことを思えば、日本の障がい者への対応はまだまだだと思う。

- ・目に見えるだけでは伝わらないので、健康に見られて、色々任せられる。区外の人に「障がい者ってお金もらったり、控除されるからいいよねー。」と、目の前で発言されたこと。
- ・仲間に入れてもらえない、無視される。
- ・障がいがない人と比べられて心に傷ができる。人と距離をとる。理解ができない人にいじめを受けた。
- ・暴言を吐かれののしられる時。
- ・面接の際に、障がいでのハローワーク紹介であったにもかかわらず、責任者から「障がい者は家で寝ている」と言われた。
- ・生命保険、がん保険以外の医療保険に入れないので大きな病気にかかり、長期入院した時の医療補助の保証がなにもない。通院費だけでも1割負担は非常にきつい。
- ・車イス移動がほとんどですが、通路などどいてもらえず、ベビーカーの人は平気なのに何が違うのだろうと思うし、電車に乗った時もいやな顔される。
- ・現在、障がい者として今の会社に採用されているが、学生の際は障がいを理由にアルバイトを拒否されたことありました。障がい者採用にて働いたが、給料は低い（障がい者の賃金形態）のに、仕事内容等は他社員と同様だったため、転職しました（転職後は総合職にて就職）。人事院規則により、昇給・昇格が健康な人より遅れる。健康な人より仕事の量もこなしているのに、あきらかに差別がある。
- ・結婚相談所で、障がいを利用に断わられた。
- ・子ども同士で遊んでいても、大人の障がいに対する偏見で友達の中をこわすことが多い。子どもがそばに来ると、親がさげさせる。
- ・私が道を歩いていたら、小学生2人が何だかんだと言ってきて、最後には私に向けてつばを吐いた。学校でも教育はいかがなもんですか。
- ・優先席に座っていたら、年寄りに文句を言われたこと（ヘルプマーク付けていて）。
- ・筆談をお願いすると露骨にイヤな顔をされたり、対応してくれなくなる。白杖にいたずらされたり、進行方向の路上に物を置かれたりする。
- ・「障がい者は健常者の邪魔にならないようにしていなければいけない」と、仲が良いと思っていた人にはっきり言われた。

- ・うつは甘えだと思われていること。仕事ができないと思われ、よく思われない。
- ・自分の精神的な病気のことを話したら、人が去って行ったとき。自分の病気のことを、明らかに正直に言えないのだと分かった。生保や障がい者であることで、去っていった友がたくさんいる。病気のことを友人に話したら、疎遠になってしまった。
- ・精神科に通院していると言うと、診てくれない病院があったり、あきらかに自分を頭がおかしい人扱いされているのが分かる。
- ・病院に行き、精神科の薬（手帳）をみせたとたんに、態度がかわり雑に扱われる。正直に病気のことを話したら相手の態度が変わった。メンタルクリニックに通っている、と言うだけで音信不通になったり差別をされている。また、引越しを考えているが、不動産屋に聞いたら新しく入居する際、オーナーや管理会社には身体障がいがあると言わなければ、今の世の中的に99%審査が通らないと。医師が診療を嫌がる。整形外科医に統合失調症であることを告げたら、精神科病院の整形外科に行くように言われた。症状（膝がめりめりと音を立てた）を伝えた時、本当に聞こえたのかと言われた。
- ・姉に自分が統合失調症であるから嫌いと言われた。性同一性障がい者への理解が大変少なすぎる。
- ・家族や医師（精神科の）以外には絶対に障がいがあることを言えない。職場では仕事を失うリスクがあるし（うつで退職した上司がいたが、職場で全く理解されず、弱い人間扱いされていた。うつでさえそうなら、私のそううつ病は？と考えると恐ろしい）、話を理解できない能力のない人間として、必要な情報を与えられないのではという不安がある。
- ・赤いヘルプマークを下げているが無視される。理解されていないこと。
- ・調子が良い時だけしか会わないし、見た目ではパッと分かりづらいので本当に病気なの？と思われやすい。具合悪い所を見ないと信じてもらえない。
- ・過去に、店先で商品を見てただけで「入って来ないでよ！」と言われたことがトラウマで、ハッピーロードでの買物時は、お店の人に声をかけづらい。レストランに入りたくても、断られてしまう。
- ・頭がおかしいなどとひどい言葉を言われた。
- ・精神・身体の疾患に誰でもなり得るのに、「自分はならない」という危機管理能力の低下や空気感に流されるのは非常にあぶないと思う。

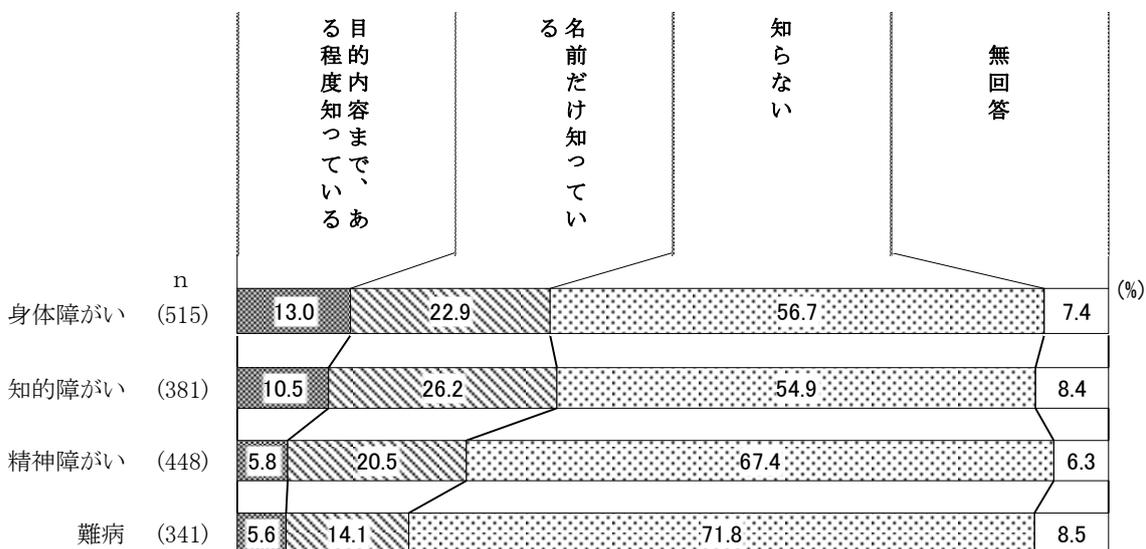
問 52 あなたは、区民の、障がいのある人への対応や理解が足りていると思いますか。
(○は1つ)

障がい者への理解が足りているか聞いたところ、「わからない」を除き、「少し足りてないと思う」と「全然足りてないと思う」を合わせて「足りていないと思う」とした場合、身体障がい者で40.4%、知的障がい者で48.0%、精神障がい者で44.2%、難病の方で33.4%と、いずれの属性も「足りていないと思う」が最も高くなっています。



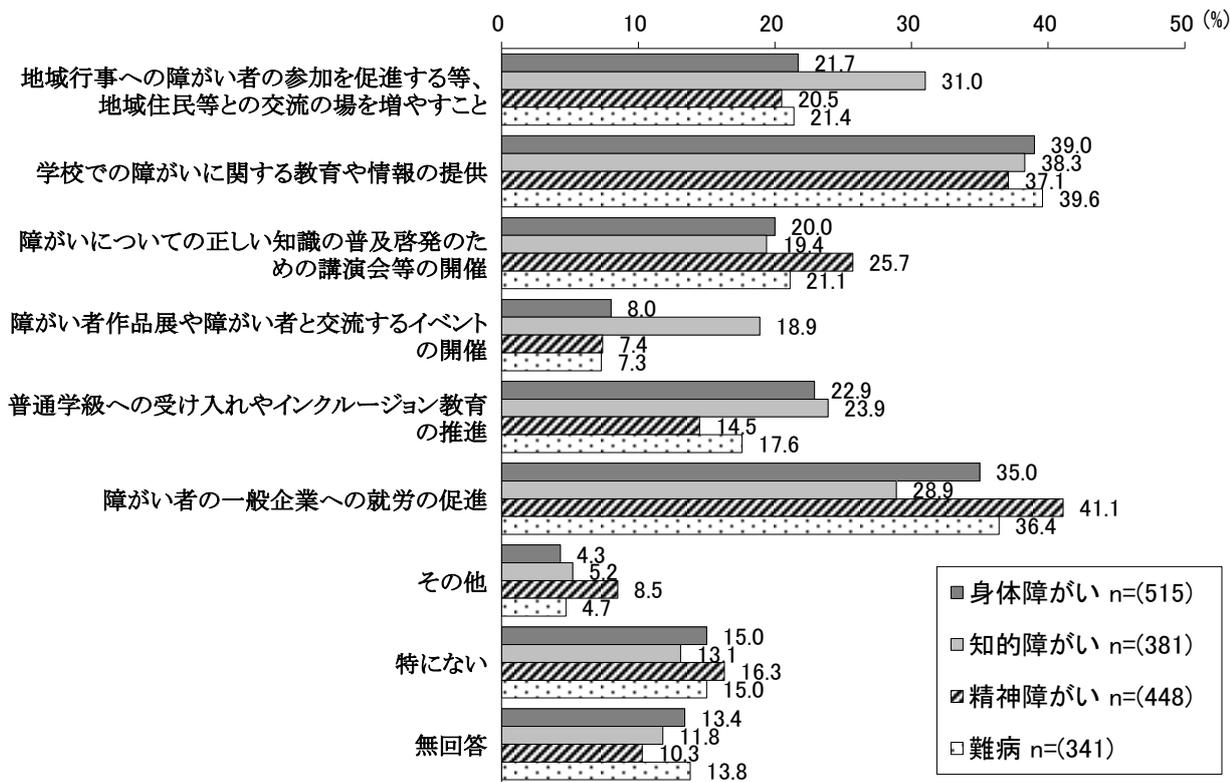
問 53 障がいのある方々への差別をなくすことを目的として、平成 28 年 4 月 1 日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、このことを知っていますか。(○は1つ)

障害者差別解消法を知っているか聞いたところ、身体障がい者では56.7%、知的障がい者では54.9%、精神障がい者では67.4%、難病の方では71.8%と、いずれの属性も「知らない」が最も高くなっています。



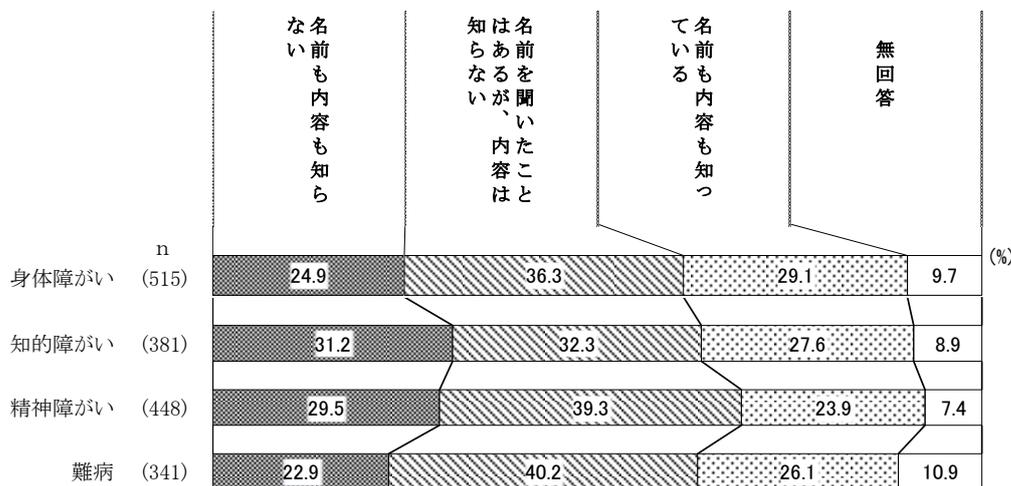
問 54 障がいのある人もない人も共に地域で普通に生活できるように地域の理解を進めていくために、特に力を入れるべきことは何だと思えますか。(〇は3つまで)

地域の理解を進めていくために、特に力を入れるべきことを聞いたところ、身体障がい者では39.0%、知的障がい者では38.3%、難病の方では39.6%と、「学校での障がいに関する教育や情報の提供」が最も高くなっています。精神障がい者では「障がい者の一般企業への就労の促進」が41.1%と最も高くなっています。



問 55 成年後見制度とは、知的障がいや精神障がいなどの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、成年後見制度について知っていますか。(〇は1つ)

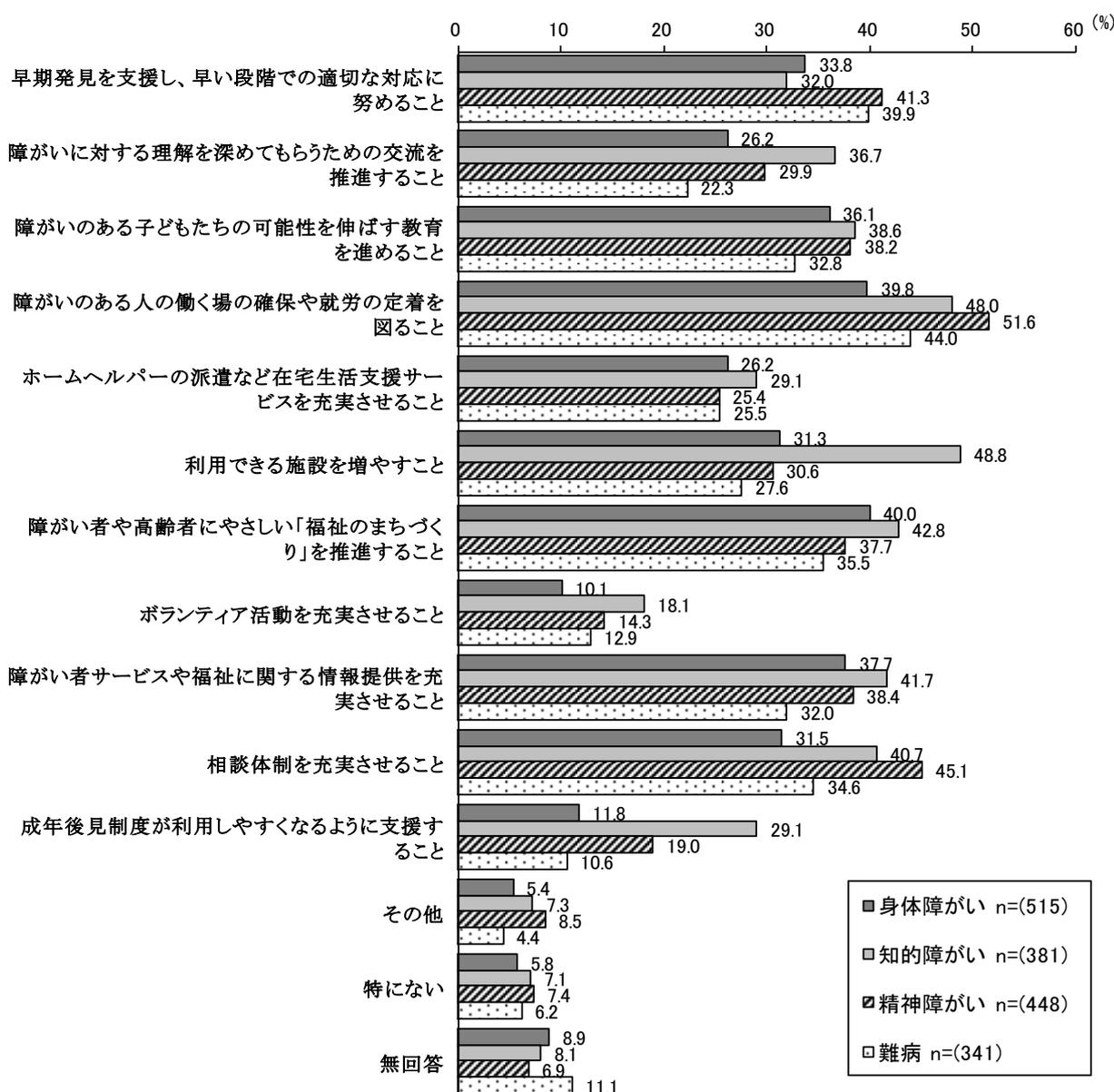
成年後見制度について聞いたところ、身体障がい者では36.3%、知的障がい者では32.3%、精神障がい者では39.3%、難病の方では40.2%と、いずれの属性も「名前は聞いたことはあるが、内容は知らない」が最も高くなっています。



(12) 区の取り組みなどについて

問 56 今後、障がい者施策を進めていくにあたって、区は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。(〇はいくつでも)

障がい者施策の推進にあたり、何を充実させていけばよいか聞いたところ、身体障がい者の第2位、知的障がい者の第2位、精神障がい者の第1位、難病の方の第1位は「障がいのある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」となっています。なお、身体障がい者の第1位は「障がい者や高齢者に優しい「福祉のまちづくり」を推進すること」、知的障がい者の第1位では「利用できる施設を増やすこと」となっています。



問 57 最後に、この調査を通じて、選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことがありましたら、自由にお書きください。(自由記入)

(例) サービスの満足度、現在はないがあったら利用したいサービス、サービスの問題点、ご意見・ご要望、区の計画に盛り込んで欲しいことなど

- ・今後(今も)高齢化する障がい者、特に知的障がい者を受け入れてくれる施設、制度の充実を望みます。親族も高齢化しているので、一人になってしまう障がい者が安心して終末まで暮らせる、特養への入居制度の見直しをお願いしたい。特養への入居特例とあっても、現場は介護度3度～5度でなければと断られるのは、実状を考慮していない(特例を設けて下さった意味がないように思っています)。今後の検討を切にお願い致します。障がい者の年金では民間の施設入居は無理です。
- ・地域支援センターの方には相談したり、希望を聞いてもらったり良くして頂いている。安心してサービスや支援が受けられるよう、金銭面や介護施設が充実して欲しい。障がいのあることは特別ではないけれど、普通の方と同じ様に出来ないことを理解して欲しいと思う。
- ・介護する家族の高齢化、病気、死などで大変な目に合われた御家族が周囲に増えてきた。ショートステイの利用をしなければと決意し、施設に声をかけ相談させてもらったが、後日電話で返事を聞くと、職員の手が足りないということで受け入れてもらえなかった。近い将来訪れるであろう親の現実と、施設の現実の狭間で途方にくれた。区で施設をつくってくれないだろうか?他区(全国でも)が参考するような入所施設が欲しいと願っている。
- ・一般企業や区役所等で、障がい者が楽しく働ける場所を作って下さい。障がい者の無料パスを、国際興業のバスも無料で乗れるようにして下さい。年寄りのシルバーパスは乗れるのに障がい者の定期は乗れないのはおかしいと思います。バスを利用することが多いので、ぜひ無料にして下さい。
- ・調子が悪い日の通院用に、近距離で使えるタクシーチケットがあったら助かります。
- ・健常者の方々もいつ障害者になるかはわからないので、偏見な目で見ないで、共々に共存して頂きたいといつも思っております。
- ・福祉の網の目から落ちている人がたくさんいる。誰にどのような相談をしたらよいかわからない。どのような支援が受けられるのかわからない。自分で何とかしなければならぬ。自分でできなければ怠け者だと見なされる風潮があり、ますます相談しづらい。障害者は、障害があると主張すればするほど生きづらくなる。私などは、障害があっても障害を隠して正規のように働かなければ、障害者パートでは1人では子どもを養っていけないと思っている。子どもへの偏見も心配です。障害者だからと、健常者と生きる空間を分けなくてほしい。できることをして、健常の人と同じものを協力して作り出して行けるように導いてもらいたい。

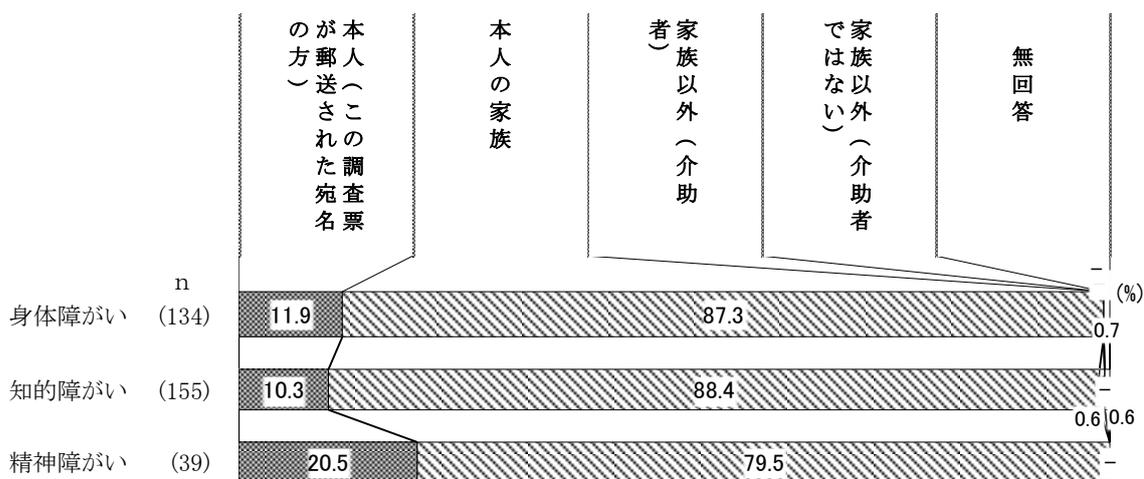
- ・障害者の方々が暮らしやすくしてくださることは良いことだと思いますが、障害を持っているから優遇されるべきとか、過保護な人たちによって周りが迷惑していることに気づいていなかったり、障害を持っている側も勘違いしている人が多くいる気がします。障害のことを理解してもらうために情報発信することは大切だと思いますが、障害を持っているこちら側も感謝の気持ちがないと、受け入れてもらえず意味がないと思います。そのあたりの、障害者自身に対する教育も必要なのではないかと思っています。
- ・車イスを常時利用している障害者が道路を通行する時、道路の傾斜が大きい道が多い（道路のほとんどが蒲鉾状に設計されている）。又、補修不十分でデコボコや段差が大きく、障害者が車から落ちそうなこともある。道路の形状について、車イス利用者のことも考えてほしい。
- ・大災害が起きた時の障害者への支援をどうするかを、区として対応を考えてほしい。例えば、知的障害者の避難所への移動と世話や、医者に出さないように言われている病気の在宅避難者への支援物資の提供をどうするのかなど。
- ・介護する人が急に体調が悪くなり、ヘルパーさんをお願いしたいと思っても、手続きが大変。と言うより時間がかかり、その間、病気で体調が悪くても子どもを介助することになり、より体調（病気）を悪化させてしまうことがあります。もう少し早く色々な手続きが出来るようになると助かります。
- ・最近発達障害の理解を深めようとメディア情報が増え、配信、情報提供が増えてきたことは非常にありがたいです。しかし、施設が少なく、申し込んだ後、待機にかなり時間がかかっています。当方も子どものことで、1年待つてやっと受けられました。施設が少ないのと、医者不足で専門医が少ないことが原因だそうで、遅れが目立つような気がします。施設を増やすことなど、環境をつくっていただければと思います。
- ・自分自身、障がいを抱えておりますが、特別な配慮に甘えず、健常者と同じように必死に毎日を過ごしております。「〇〇だから、こうしてあげるべき」という考え方が、かえって障がい者の方々を苦しめると思います。同じ人間で、たかが人よりも弱点があるだけなのだから、特別という言葉はなくして、健常者の方と障がい者の方々、お互いが気持ち良く共存できる社会になったらと心から思います。理解がある所に、もっと人は自然と寄り添えられるものだと思います。
- ・障がいに関する問い合わせや相談する窓口の一本化を希望します。学校関係はここ、年金はここ、手帳についてはここ……とわかりにくいです。また、親が元気なうちはよいですが、今後いなくなったらどうなるか心配です。色々と縛りがあったり、手続きがあたり複雑です。

3 障がい児診断者調査

(1) 回答者属性

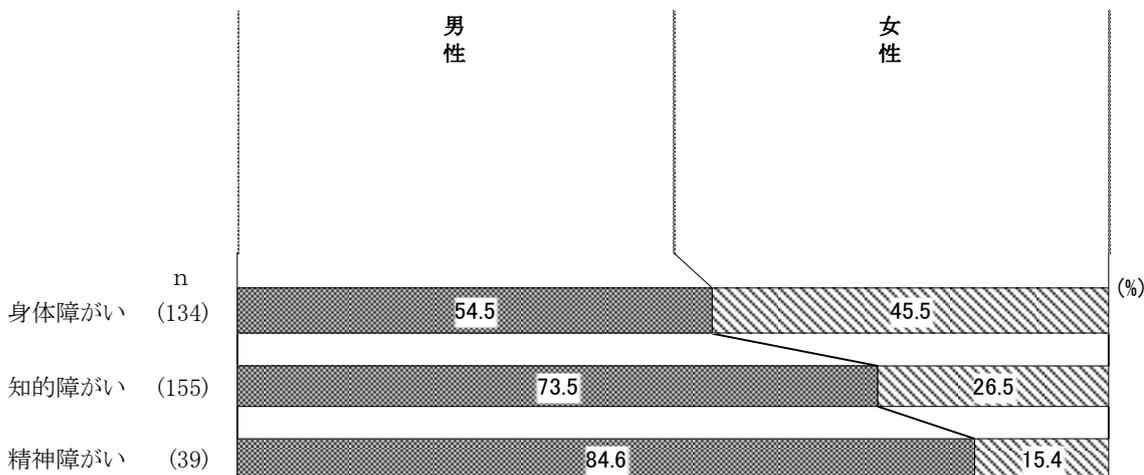
問1 お答えいただくのはどなたですか。(○は1つ)

回答者の属性は、身体障がい児では87.3%、知的障がい児では88.4%、精神障がい児では79.5%と、「本人の家族」が最も高くなっています。



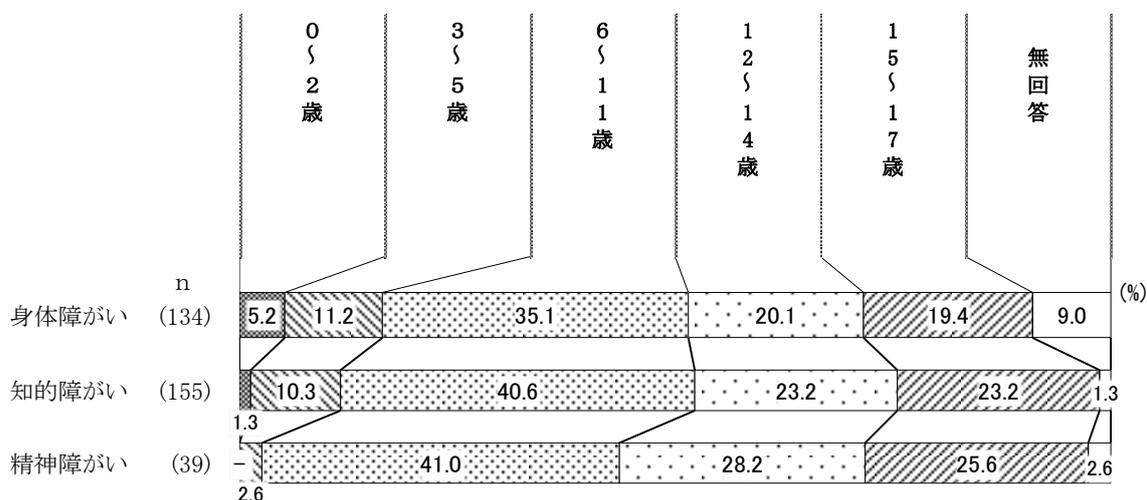
問2 あなたの性別をお答えください。(○は1つ)

回答者の性別は、身体障がい児 54.5%、知的障がい児 73.5%、精神障がい児 84.6%と、いずれの属性も「男性」が過半数となっています。



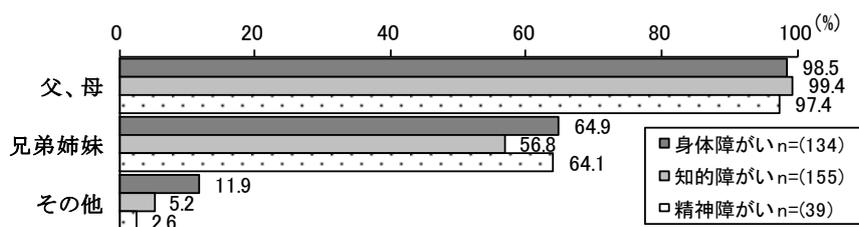
問3 年齢（令和2年2月1日現在）を記入してください。

対象児の年齢は、身体障がい児では35.1%、知的障がい児では40.6%、精神障がい児では41.0%と、いずれの属性も「6～11歳」が最も高くなっています。



問4 現在、あなたは、どなたと一緒に暮らしていますか。（○はいくつでも）

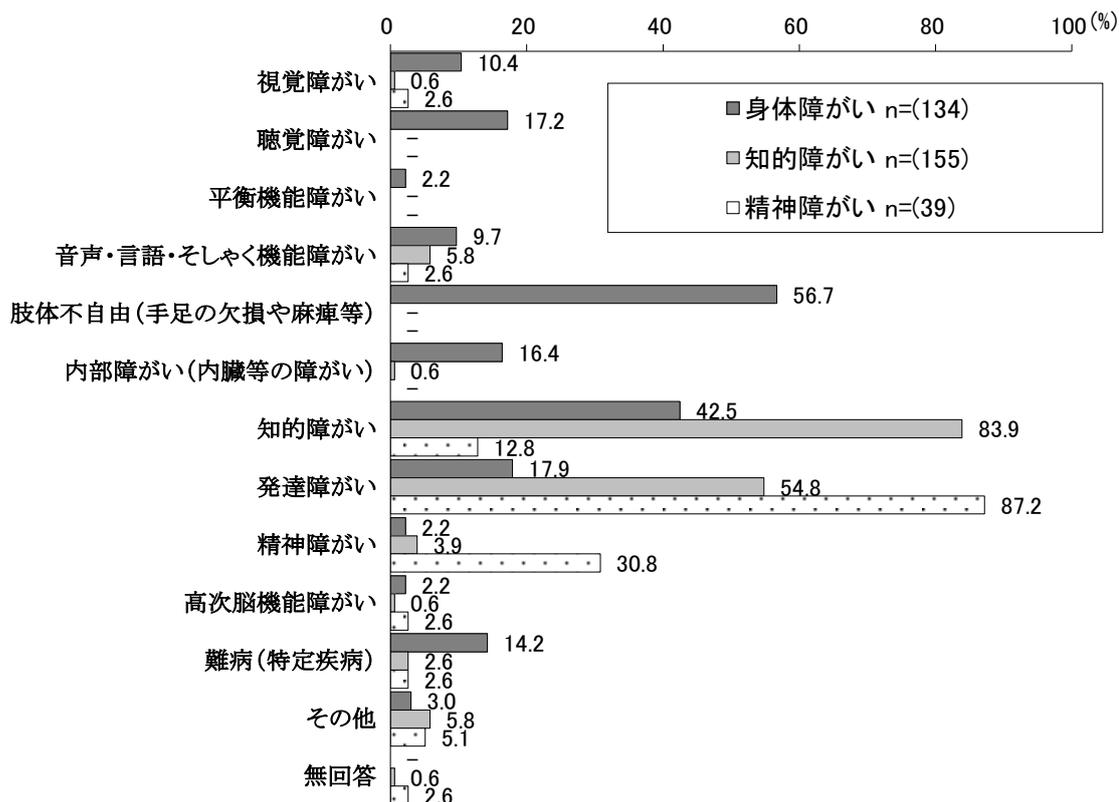
誰と一緒に暮らしているかを聞いたところ、身体障がい児では98.5%、知的障がい児では99.4%、精神障がい児では97.4%と、いずれの属性も「父、母」が最も高くなっています。



(2) 障がいの状況について

問5 あなたの障がいは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

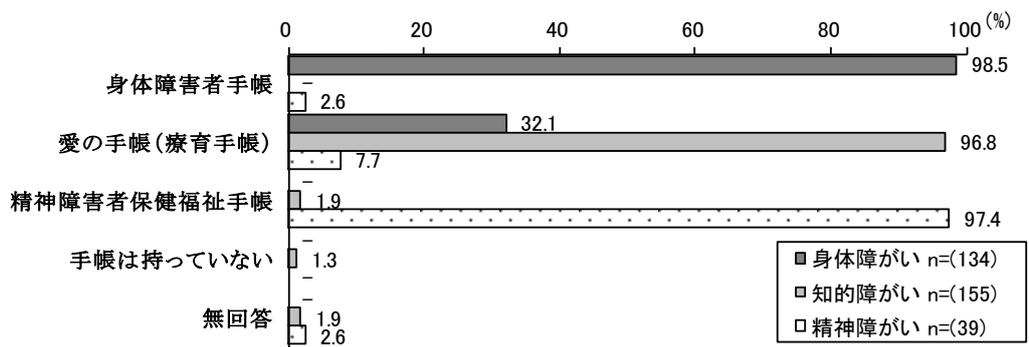
障がいは何かを聞いたところ、身体障がい児では「肢体不自由」が56.7%に次いで、「知的障がい」が42.5%となっています。知的障がい児では「知的障がい」が83.9%に次いで、「発達障がい」が54.8%となっています。精神障がい児では「発達障がい」が87.2%に次いで、「精神障がい」が30.8%となっています。



問6 あなたがお持ちの手帳の等級はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

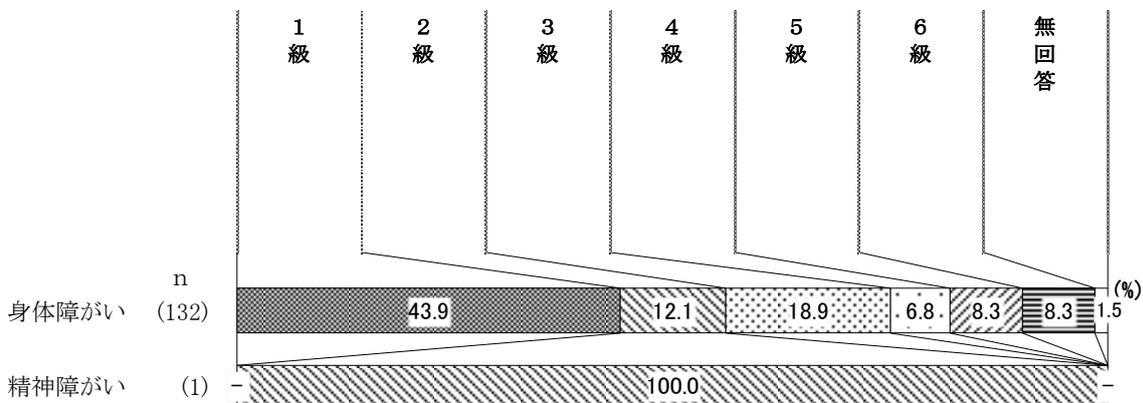
・手帳の種類

手帳の種類を聞いたところ、身体障がい児では「身体障害者手帳」が98.5%に次いで、「愛の手帳」が32.1%となっています。知的障がい児では「愛の手帳（療育手帳）」が96.8%に次いで、「精神障害者保健福祉手帳」が1.9%となっています。精神障がい児では「精神障害者保健福祉手帳」が97.4%に次いで、「愛の手帳（療育手帳）」が7.7%となっています。



1. 身体障害者手帳

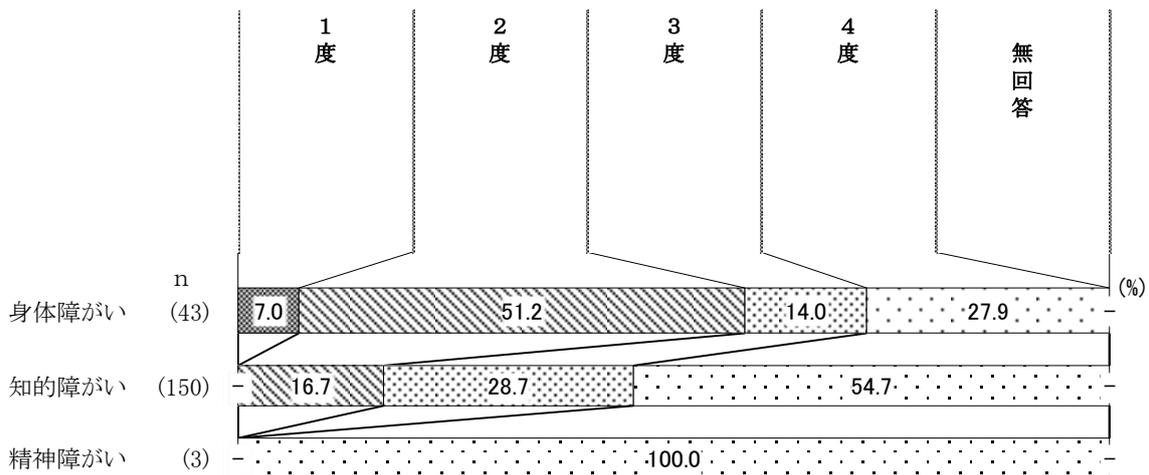
身体障害者手帳の等級を属性別でみると、身体障がい児では43.9%と「1級」が最も高く、次いで「3級」が18.9%となっています。精神障がい児では「2級」が100%となっています。



※「知的障がい」は回答者がいないため、グラフ化を省略しています。

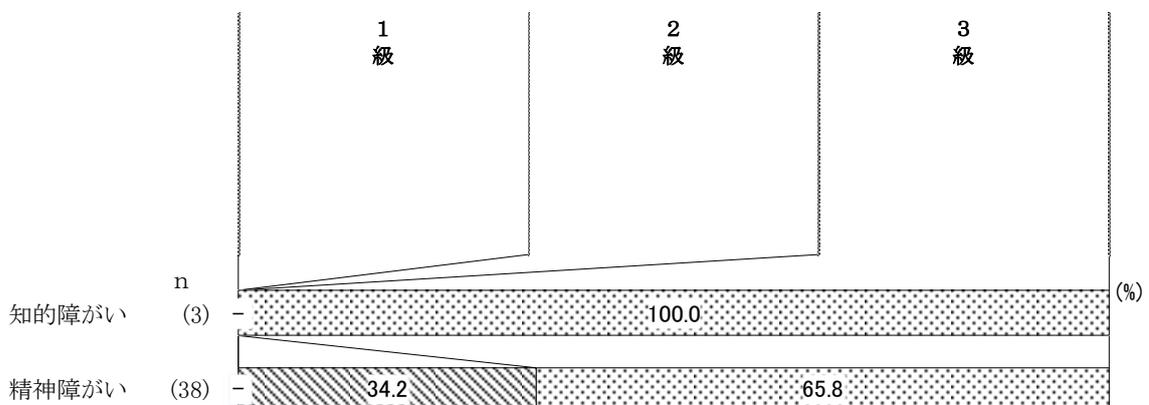
2. 愛の手帳（療育手帳）

愛の手帳の等級を属性別で見ると、身体障がい児では「2度」が51.2%と最も高く、次いで「4度」が27.9%となっています。知的障がい児では「4度」が54.7%と最も高く、次いで「3度」が28.7%となっています。精神障がい児では「4度」が100%となっています。



3. 精神障害者保健福祉手帳

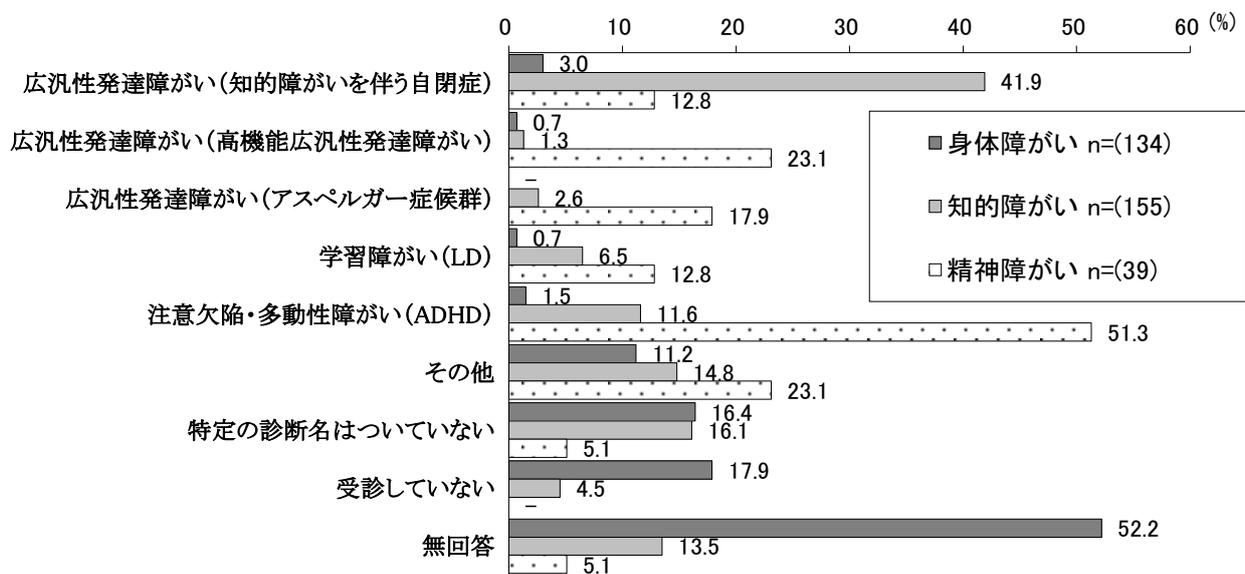
精神障害者保健福祉手帳の等級を属性別で見ると、知的障がい児では「3級」が100%となっています。精神障がい児では「3級」が65.8%と最も高く、次いで「2級」が34.2%となっています。



※「身体障がい」は回答者がいないため、グラフ化を省略しています。

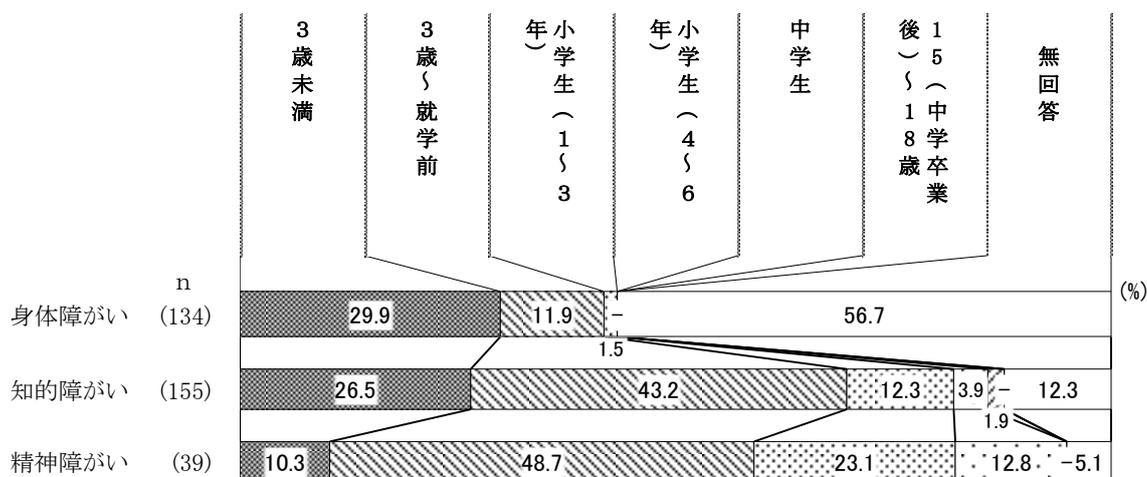
問7 発達障がいに関する診断名などありましたらお答えください。(あてはまるものすべてに○)

発達障がいの診断名を聞いたところ、「受診していない」を除くと、身体障がい児では「特定の診断名はついていない」が16.4%で最も高く、次いで「その他」が11.2%となっています。知的障がい児では「広汎性発達障がい(知的障がいを伴う自閉症)」が41.9%と最も高く、次いで「特定の診断名はついていない」が16.1%となっています。精神障がい児では「注意欠陥・多動性障害(ADHD)」が51.3%と最も高く、次いで「広汎性発達障がい(高機能広汎性発達障がい)」が23.1%となっています。



問8 最初に問7のどれかの診断を受けたのは何歳のころですか。(1つに○)

最初の診断をいつ受けたか聞いたところ、身体障がい児では「3歳未満」が29.9%と最も高く、次いで「3歳～就学前」が11.9%となっています。知的障がい児では「3歳～就学前」が43.2%と最も高く、次いで「3歳未満」が26.5%となっています。精神障がい児では「3歳～就学前」が48.7%と最も高く、次いで「小学生(1～3年)」が23.1%となっています。

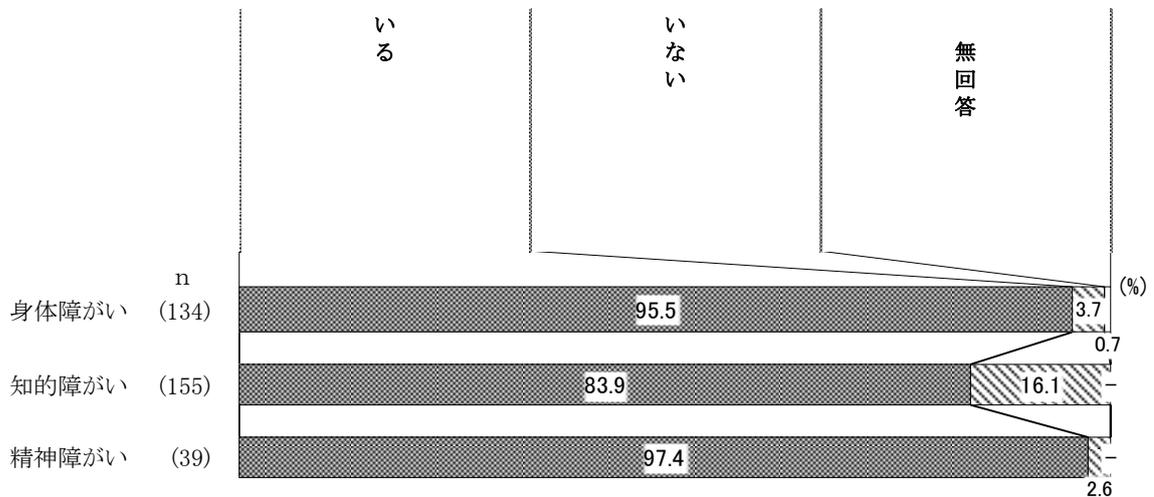


(3) 医療や健康管理について

※ あなた自身やあなたの家族の健康相談や治療をしてくれる身近な医師等（かかりつけ医）はいますか。（〇は、かかりつけ医、かかりつけ歯科医、それぞれ1つ）

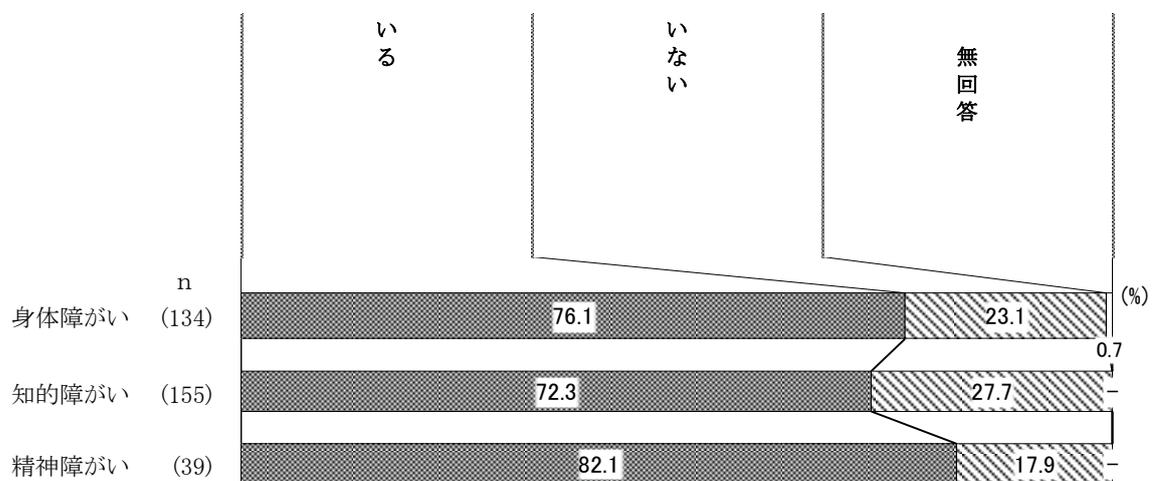
問9 かかりつけ医

すべての属性で、かかりつけ医が「いる」と答えた人が8割以上となっています。



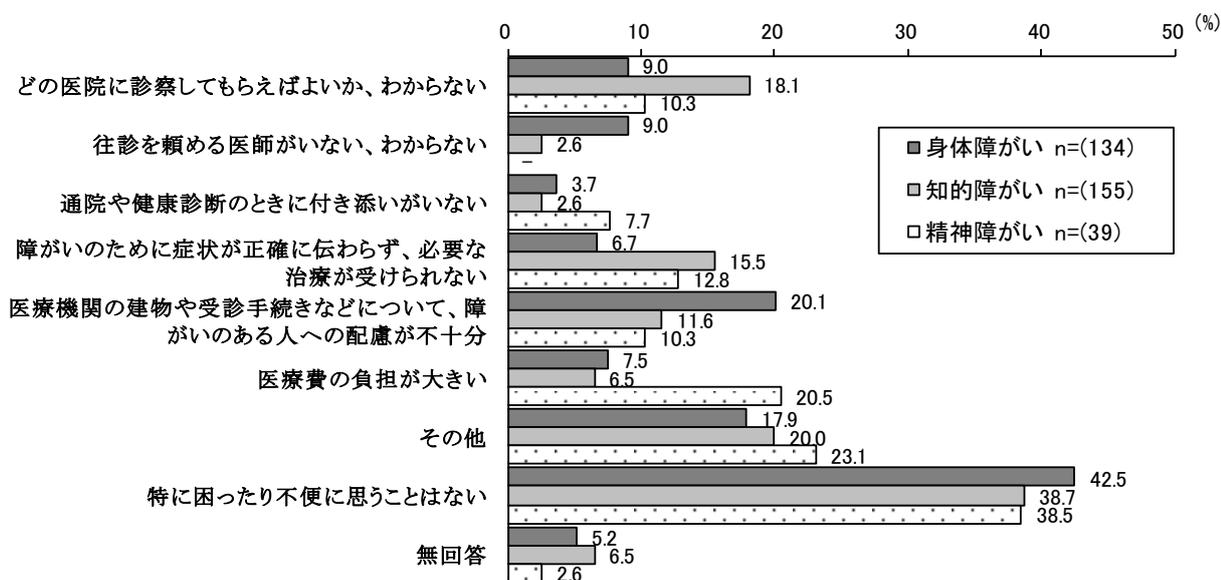
問10 かかりつけ歯科医

すべての属性で、かかりつけ歯科医が「いる」と答えた人が7割以上となっています。



問11 健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありますか。(〇はいくつでも)

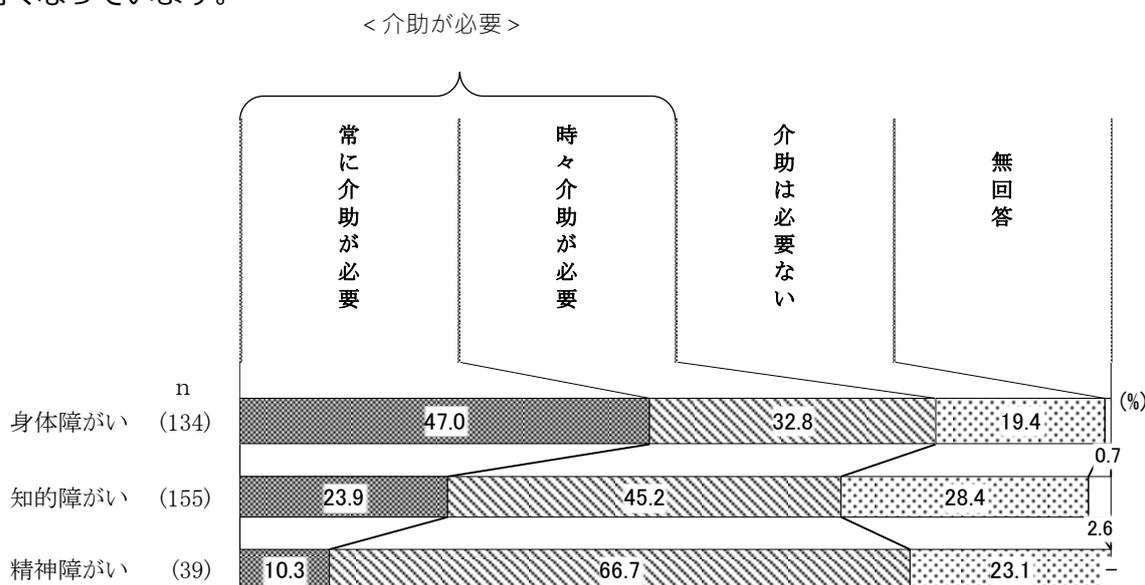
健康管理や医療について、困ったことを聞いたところ、すべての属性で「特に困ったり不便に思うことはない」が約4割と最も高くなっている一方、身体障がい児では、「医療機関の建物や受診手続きなどについて、障がいのある人への配慮が不十分」が20.1%となっています。知的障がい児では、「その他」が20.0%、「どの医院に診察してもらえばよいか、わからない」が18.1%となっています。精神障がい児では「その他」が23.1%、「医療費の負担が大きい」が20.5%となっています。



(4) 介助・援助の状況について

問 12 ふだん、あなたは日常生活で介助・支援が必要ですか。(○は1つ)

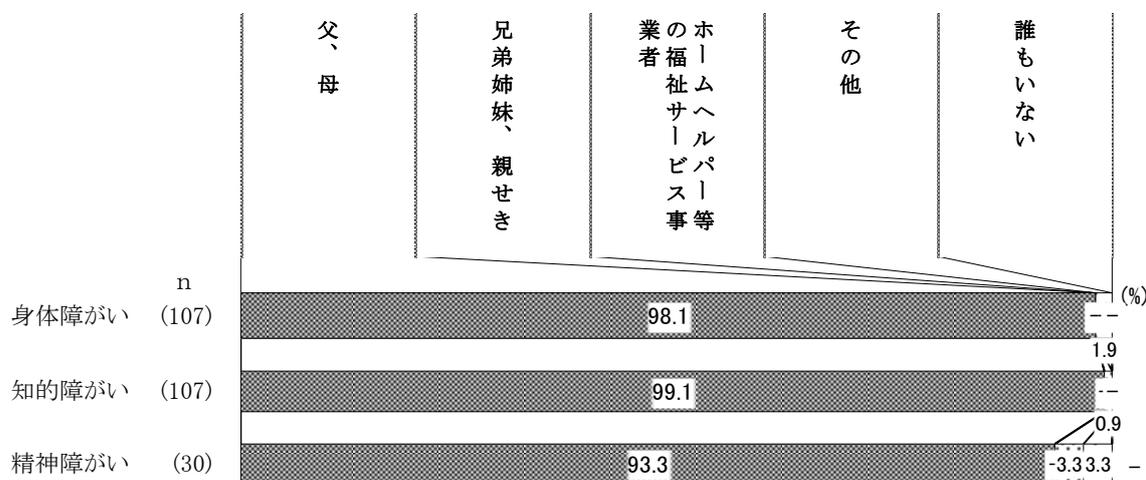
「常に介助が必要」と「時々介助が必要」を合わせて<介助が必要>とした場合、身体障がい児では79.8%、知的障がい児では69.1%、精神障がい児では77.0%と、いずれの属性も<介助が必要>が高くなっています。



次の問は、問 12 で「1. 常に介助が必要」「2. 時々介助が必要」と答えた方におうかがいします。

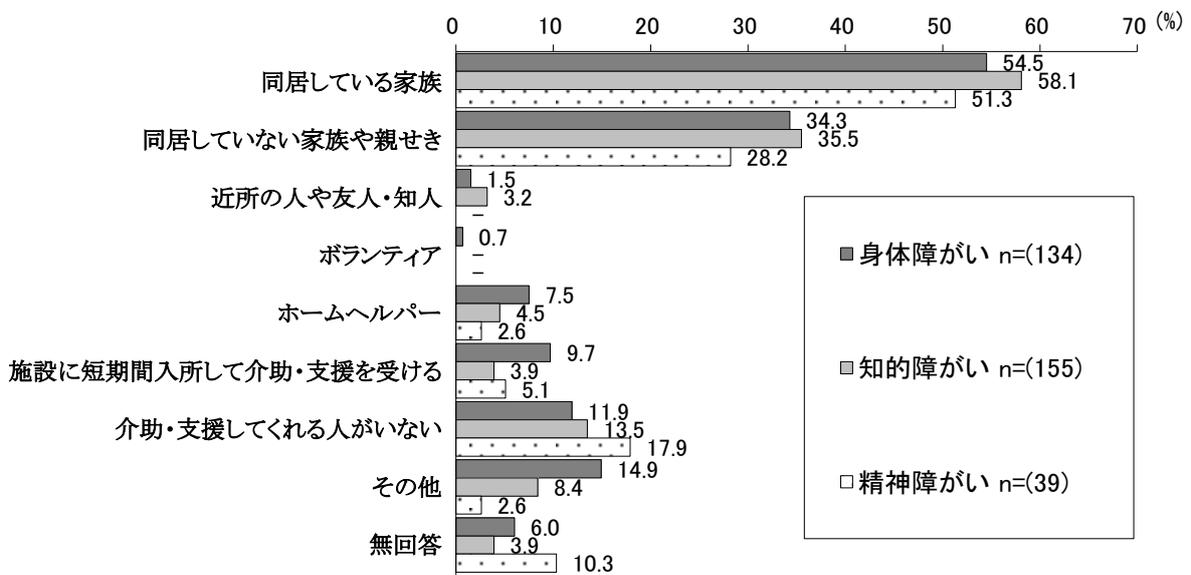
問 13 ふだん、あなたを主に介助・支援しているのはどなたですか。(○は1つ)

主な介助者を聞いたところ、身体障がい児では98.1%、知的障がい児では99.1%、精神障がい児では93.3%と、いずれの属性も「父、母」が最も高くなっています。



問 14 あなたを主に介助・支援している方が、病気のときや外出をしなければならないときなどは、代わりにどなたが介助・支援していますか。(〇は3つまで)

主な介助者の代わりに介助・援助してくれる人を聞いたところ、身体障がい児では 54.5%、知的障がい児では 58.1%、精神障がい児では 51.3%と、いずれの属性も「同居している家族」が最も高く、次いで身体障がい児では 34.3%、知的障がい児では 35.5%、精神障がい児では 28.2%と、いずれの属性も「同居していない家族や親せき」となっています。

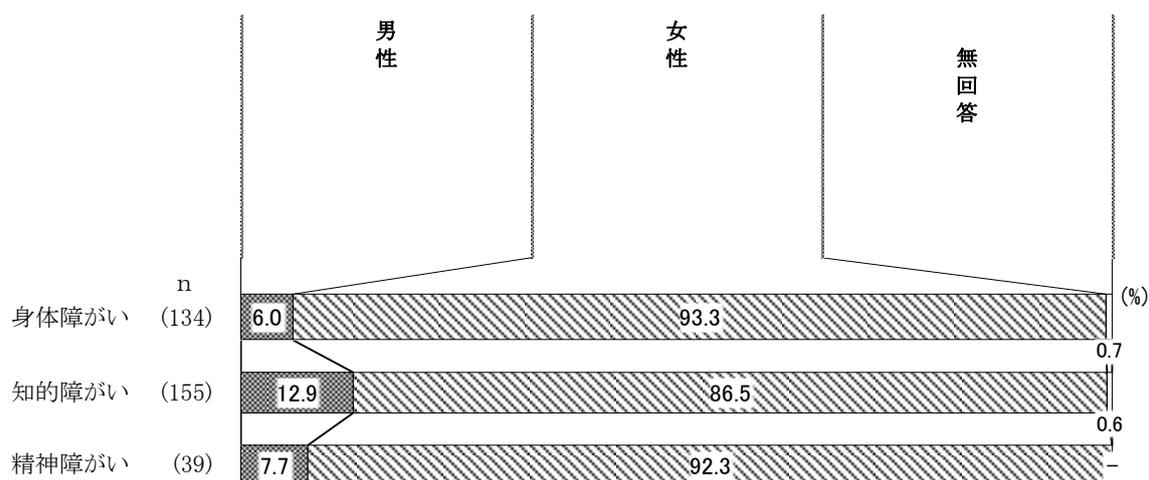


(5) 保護者の方について

問 15 保護者の方の性別・年齢についてお答えください。

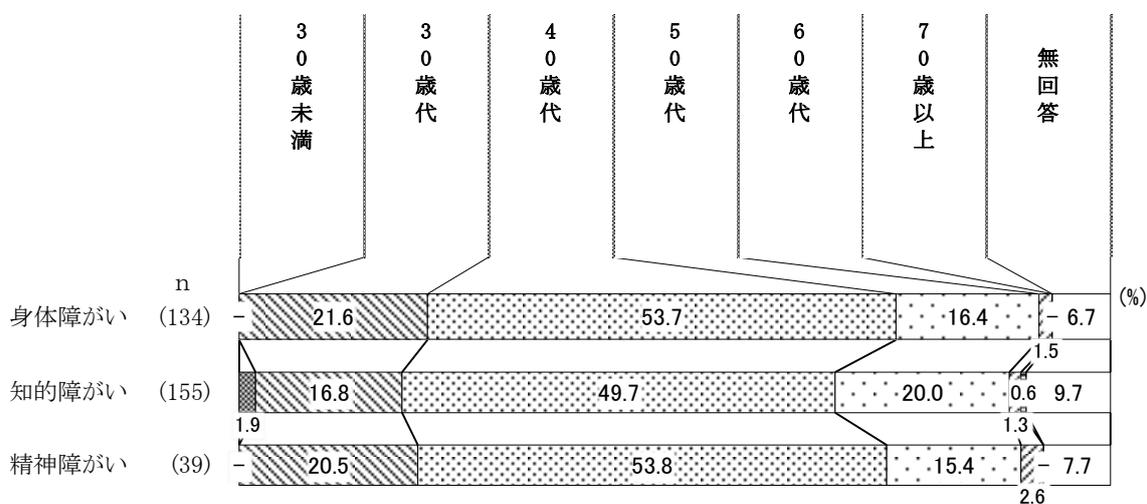
① 性別

保護者の方の性別は、属性に関係なく「女性」が最も高くなっています。



② 年齢 (令和2年2月1日現在)

保護者の方の年齢を聞いたところ、身体障がい児では 53.7%、知的障がい児では 49.7%、精神障がい児では 53.8%と、いずれの属性も「40 歳代」が最も高くなっています。



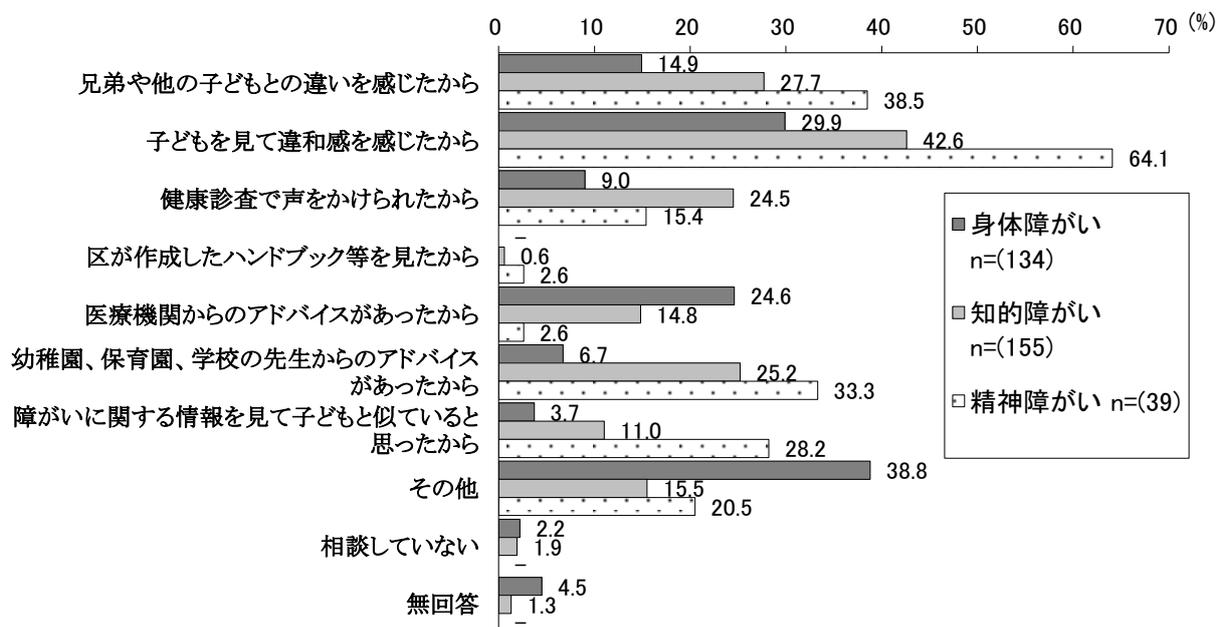
問 16 保護者がお子さんの発達や行動などについて気になり始めたのは何歳のころですか。
(1つに○)

発達や行動などについて気になり始めたのはいつかを聞いたところ、身体障がい児では「6か月健診」が52.2%と最も高く、知的障がい児では「1歳半健診」が27.1%と最も高く、精神障がい児では「3歳～就学前」が43.6%と最も高くなっています。

	6か月健診	1歳半健診	3歳未満	3歳～就学前	小学生 (1～3年)	小学生 (4～6年)	中学生	15 (中学卒業後) ～18歳	無回答
身体障がい (n=134)	52.2	9.0	14.2	4.5	0.7	-	-	-	19.4
知的障がい (n=155)	18.7	27.1	24.5	16.8	6.5	1.3	1.3	-	3.9
精神障がい (n=39)	10.3	23.1	15.4	43.6	5.1	2.6	-	-	-

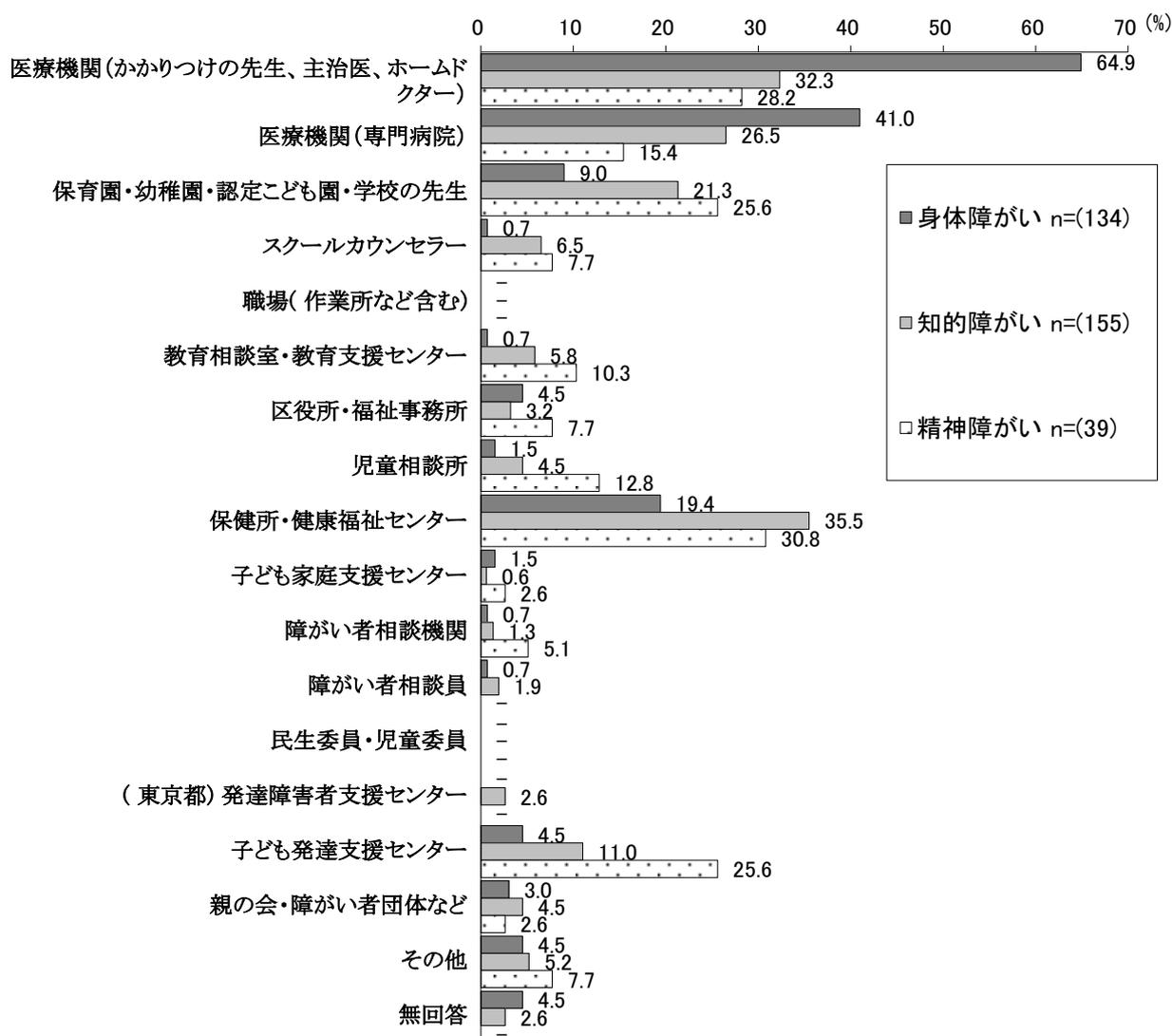
問 17 保護者がお子さんの障がいや発達、行動などについて相談した直接のきっかけは何でしたか。(〇は3つまで)

相談した直接のきっかけを聞いたところ、「その他」を除くと、身体障がい児では 29.9%、知的障がい児では 42.6%、精神障がい児では 64.1%と、いずれの属性も「子どもを見て違和感を感じたから」が最も高く、次いで身体障がい児では「医療機関からのアドバイスがあったから」が 24.6%と高く、知的障がい児では 27.7%、精神障がい児では 38.5%と「兄弟や他の子どもとの違いを感じたから」が高くなっています。



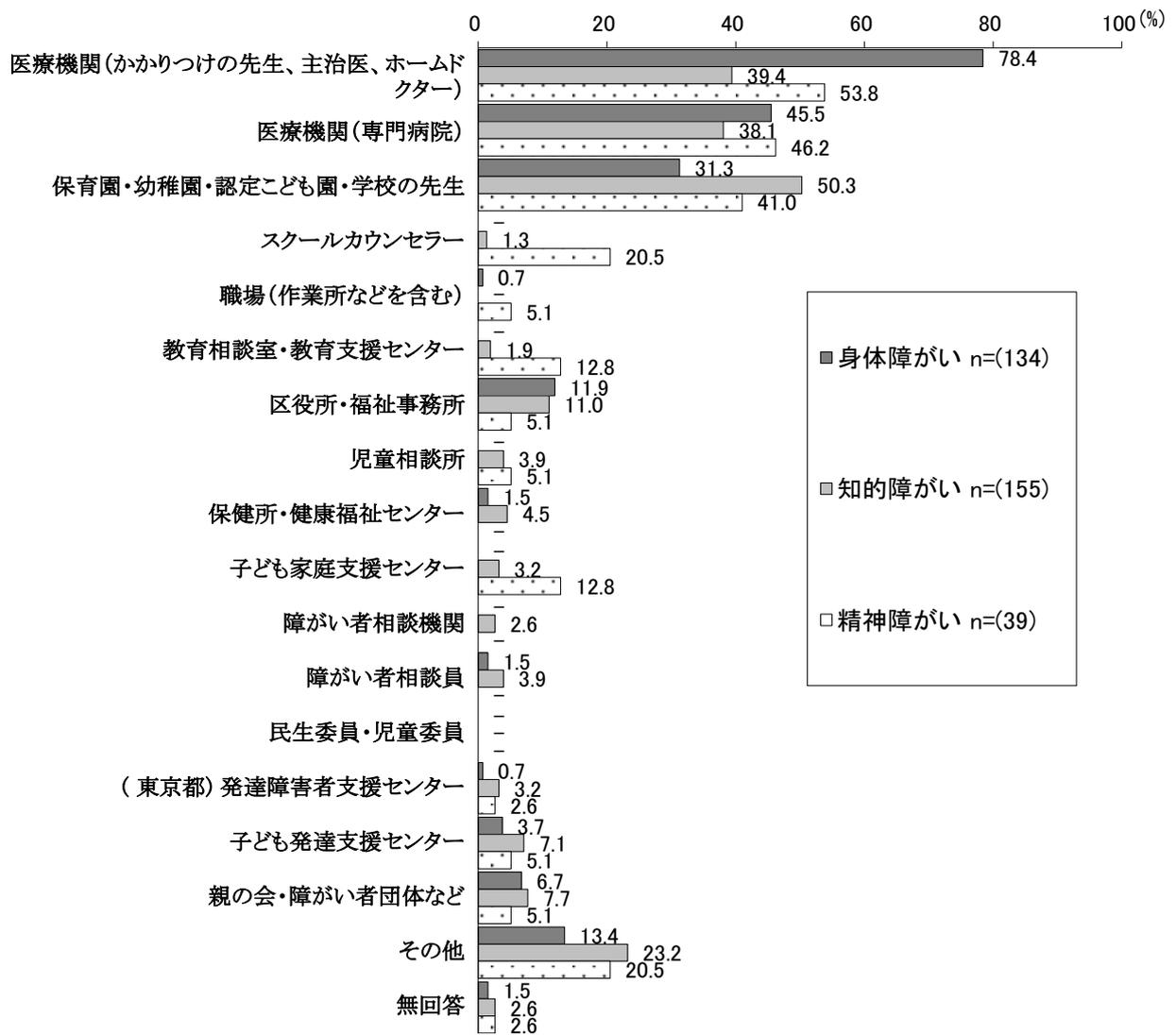
問 18 保護者の方は家族、知人以外で、気になったことについて最初にどこで（誰に）相談しましたか。（〇は3つまで）

最初に誰に相談したかを聞いたところ、身体障がい児では「医療機関（かかりつけの先生、主治医、ホームドクター）」が64.9%と最も高く、次いで「医療機関（専門病院）」が41.0%となっています。知的障がい児では35.5%、精神障がい児では30.8%と、「保健所・健康福祉センター」が最も高く、次いで知的障がい児では32.3%、精神障がい児では28.2%と、「医療機関（かかりつけの先生、主治医、ホームドクター）」が高くなっています。



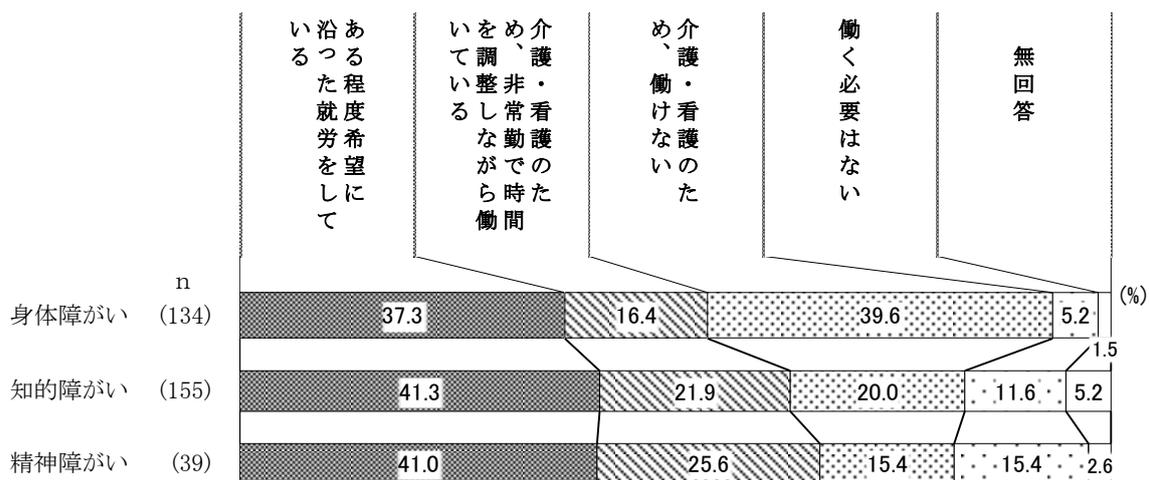
問 19 保護者の方は、今、障がいについて、主にどこで相談していますか。(〇はいくつでも)

保護者の方が主にどこで相談しているか聞いたところ、身体障がい児では78.4%、精神障がい児では53.8%と「医療機関（かかりつけの先生、主治医、ホームドクター）」が最も高く、次いで「医療機関（専門病院）」が身体障がい児では45.5%、精神障がい児では46.2%と高くなっています。知的障がい児では「保育園・幼稚園・認定こども園・学校の先生」が50.3%と最も高く、次いで「医療機関（かかりつけの先生、主治医、ホームドクター）」が39.4%となっています。



問 20 保護者の方の現在の就労状況をお答えください。(1つに○)

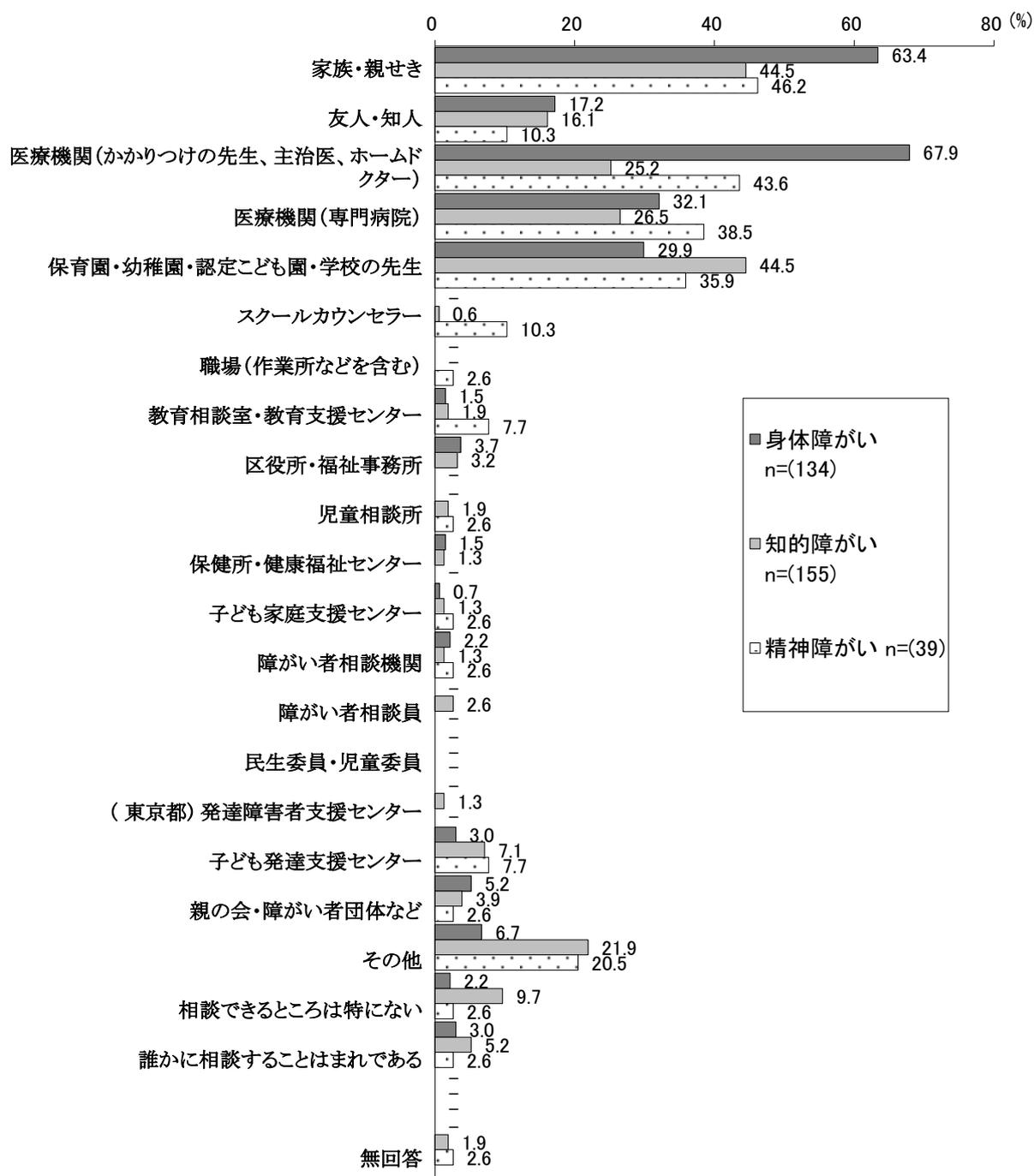
保護者の方の就労状況を聞いたところ、身体障がい児では「介護・看護のため、働けない」が39.6%と最も高くなっています。知的障がい児では41.3%、精神障がい児では41.0%と、「ある程度希望に沿った就労をしている」が最も高くなっています。



(6) 相談や情報入手の状況について

問 21 あなたは、障がいについての悩みごとや心配ごとがあるとき、まず相談するところはどこですか。(〇は3つまで)

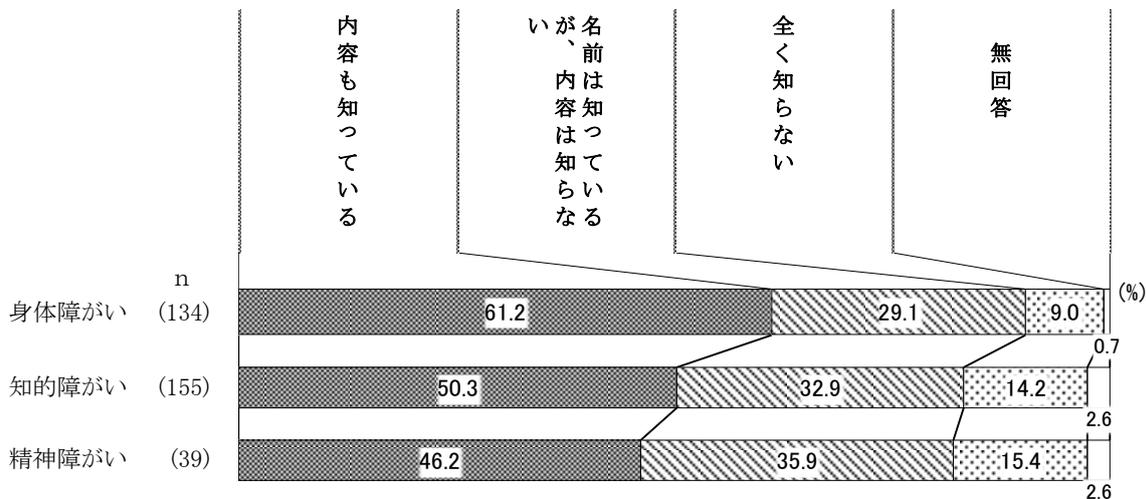
最初の相談先を聞いたところ、身体障がい児では「医療機関（かかりつけの先生、主治医、ホームドクター）」が67.9%と最も高く、次いで「家族・親せき」が63.4%となっています。知的障がい児では「家族・親戚」と「保育園・幼稚園・認定こども園・学校の先生」がともに44.5%と最も高く、次いで「医療機関（専門病院）」が26.5%となっています。精神障がい児では「家族・親せき」が46.2%と最も高く、次いで「医療機関（かかりつけの先生、主治医、ホームドクター）」が43.6%となっています。



問 22 悩みごとや心配ごとを相談する場として、知っているものはどれですか。
 (①～⑫ごとに1つずつお答えください。)

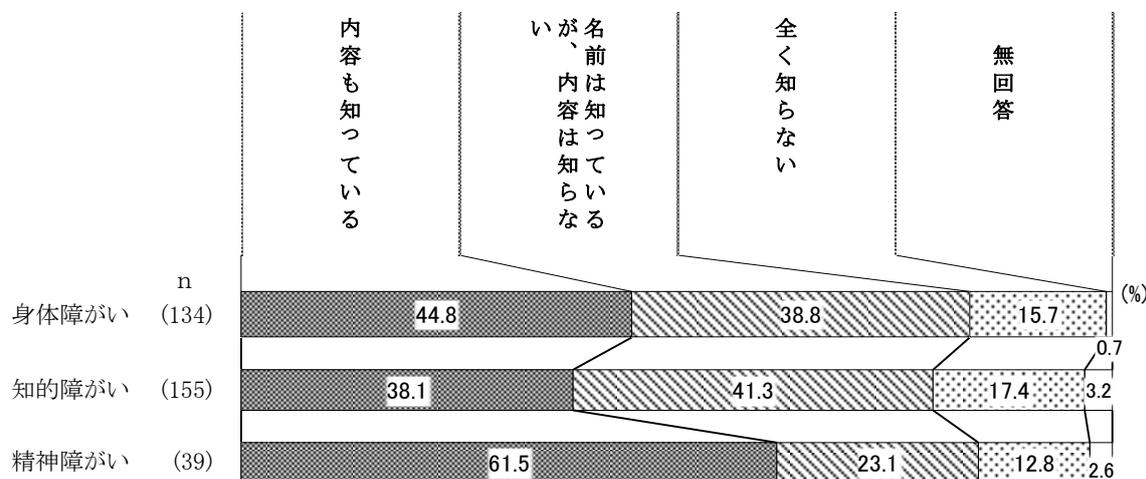
① 福祉事務所（板橋、志村、赤塚）

身体障がい児では61.2%、知的障がい児では50.3%、精神障がい児では46.2%と、いずれの属性も「内容も知っている」が最も高くなっています。



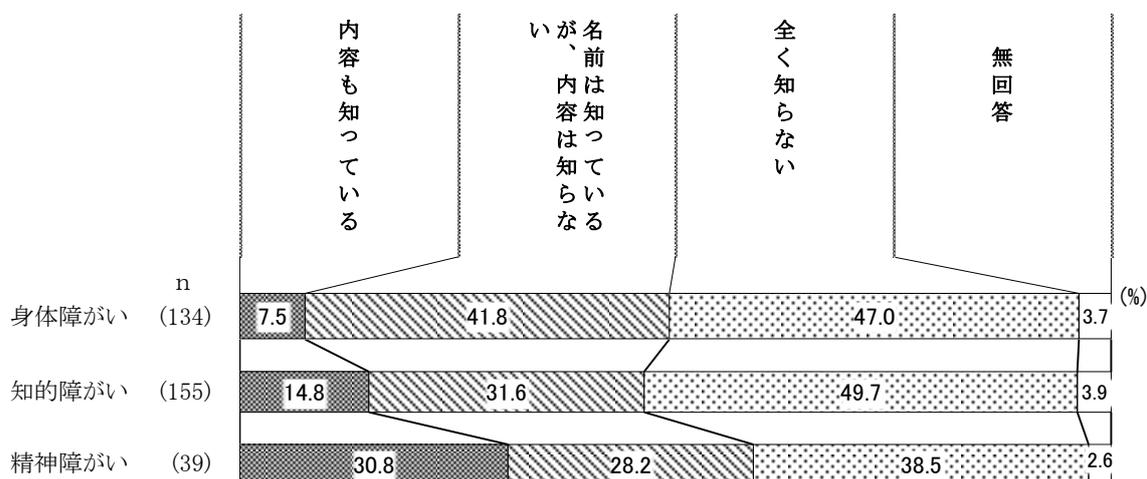
② 健康福祉センター（板橋、上板橋、赤塚、志村、高島平）

身体障がい児では44.8%、精神障がい児では61.5%と、「内容も知っている」が最も高くなっています。知的障がい児では「名前を知っているが、内容は知らない」が41.3%と最も高くなっています。



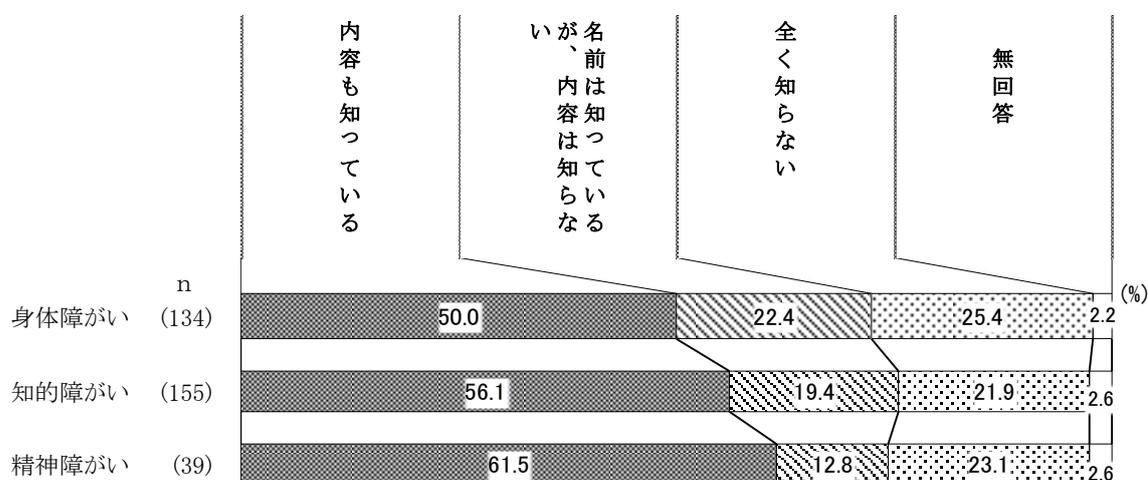
③ 子ども家庭支援センター

身体障がい児では 47.0%、知的障がい児では 49.7%、精神障がい児では 38.5%と、いずれの属性も「全く知らない」が最も高くなっています



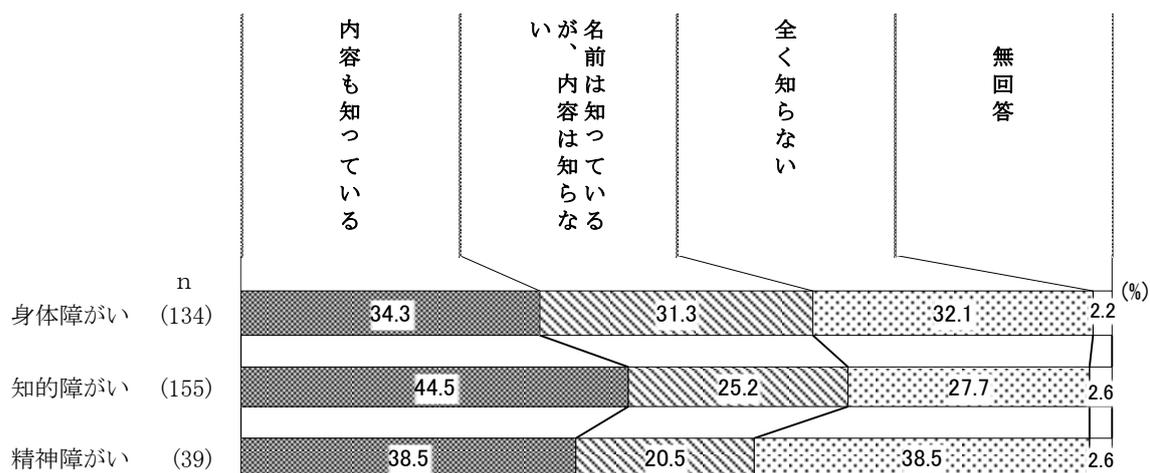
④ 子ども発達支援センター（小茂根療育）

身体障がい児では 50.0%、知的障がい児では 56.1%、精神障がい児では 61.5%と、いずれの属性も「内容も知っている」が最も高くなっています。



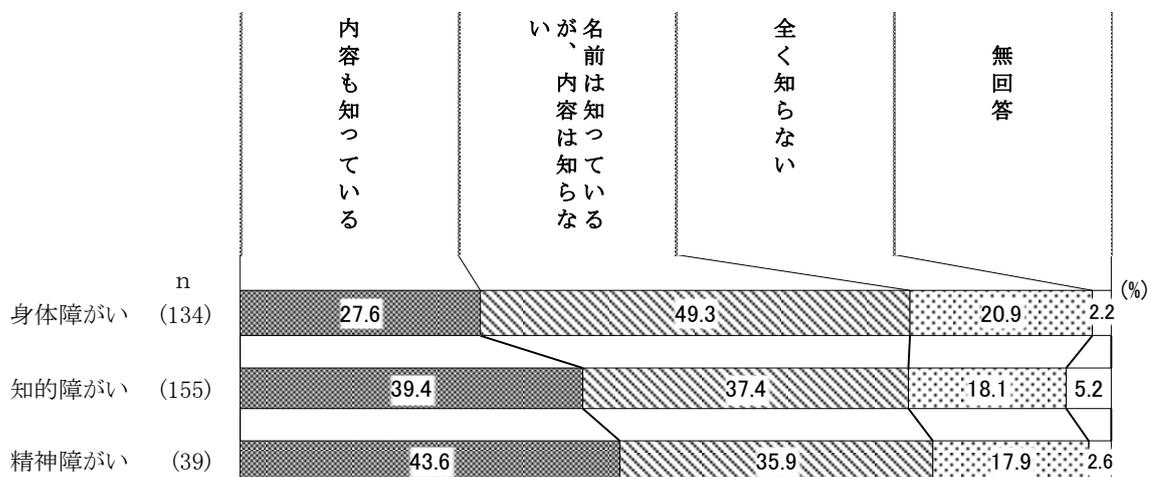
⑤ 児童発達支援センター（加賀福祉園児童ホーム、東京 YWCA キッズガーデン）

身体障がい児では 34.3%、知的障がい児では 44.5%と、「内容も知っている」が最も高くなっています。精神障がい児では「内容も知っている」と「全く知らない」がともに 38.5%となっています。



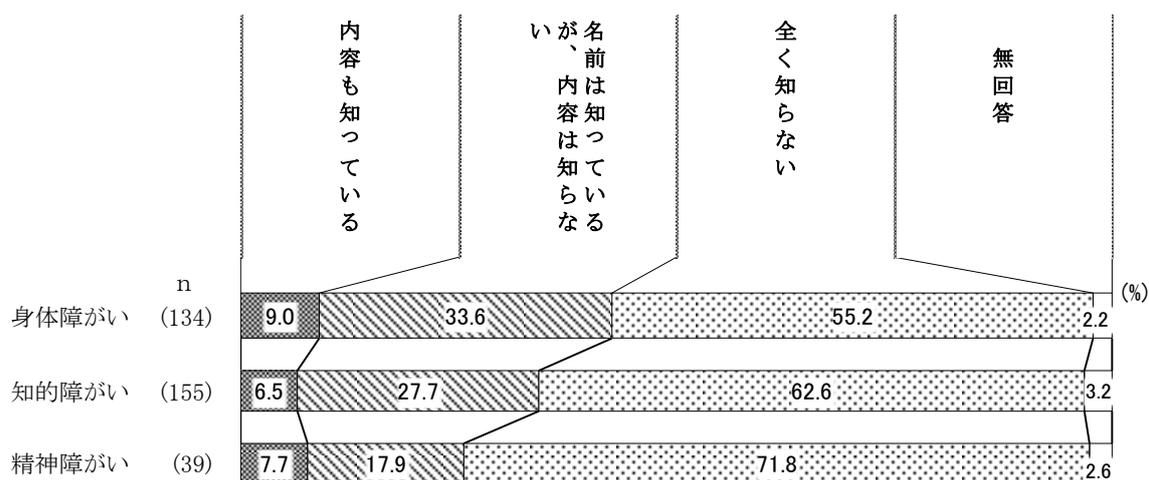
⑥ 児童相談所

身体障がい児では「名前を知っているが、内容は知らない」が 49.3%と最も高くなっています。知的障がい児では 39.4%、精神障がい児では 43.6%と、「内容も知っている」が最も高くなっています。



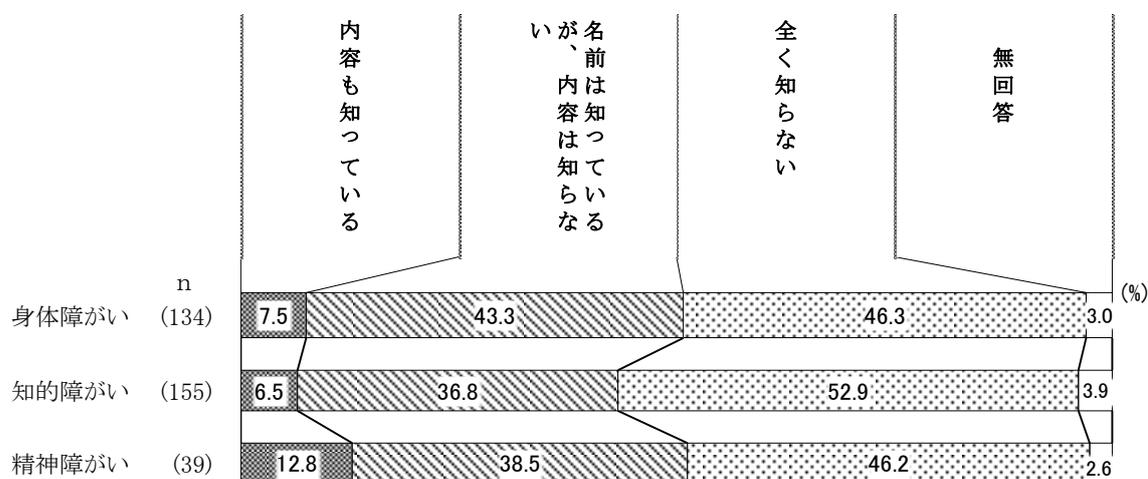
⑦ ハートワーク（障がい者就労支援センター）

身体障がい児では55.2%、知的障がい児では62.6%、精神障がい児では71.8%と、いずれの属性も「全く知らない」が最も高くなっています。



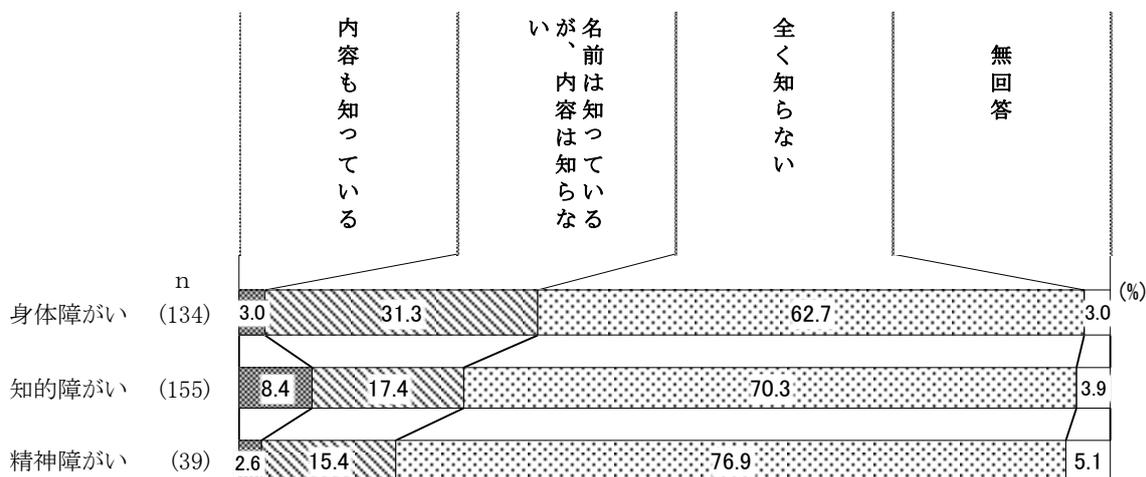
⑧ 障がい者福祉センター（高島平）

身体障がい児では46.3%、知的障がい児では52.9%、精神障がい児では46.2%と、いずれの属性も「全く知らない」が最も高くなっています。



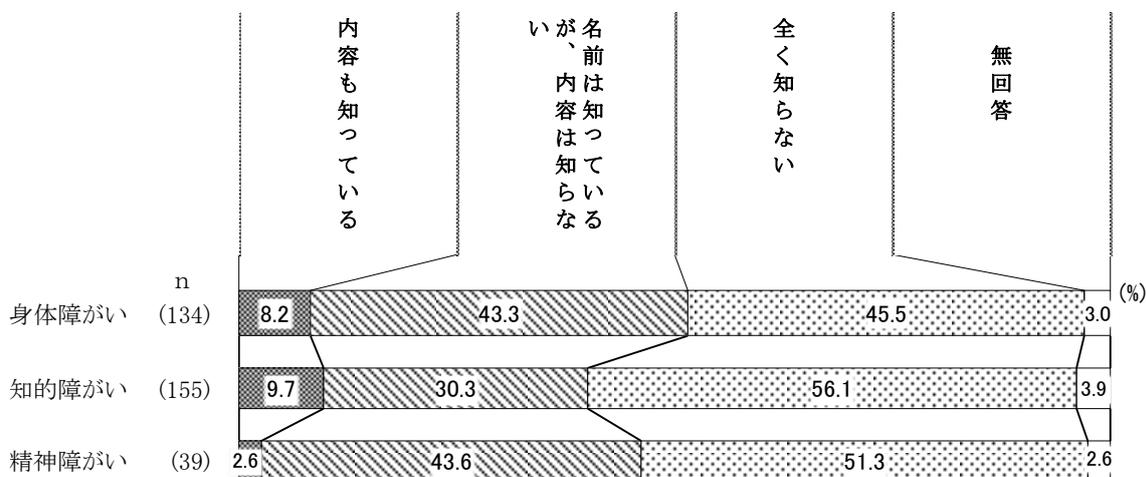
⑨ (身体・知的) 障がい者相談員

身体障がい児では 62.7%、知的障がい児では 70.3%、精神障がい児では 76.9%と、いずれの属性も「全く知らない」が最も高くなっています。



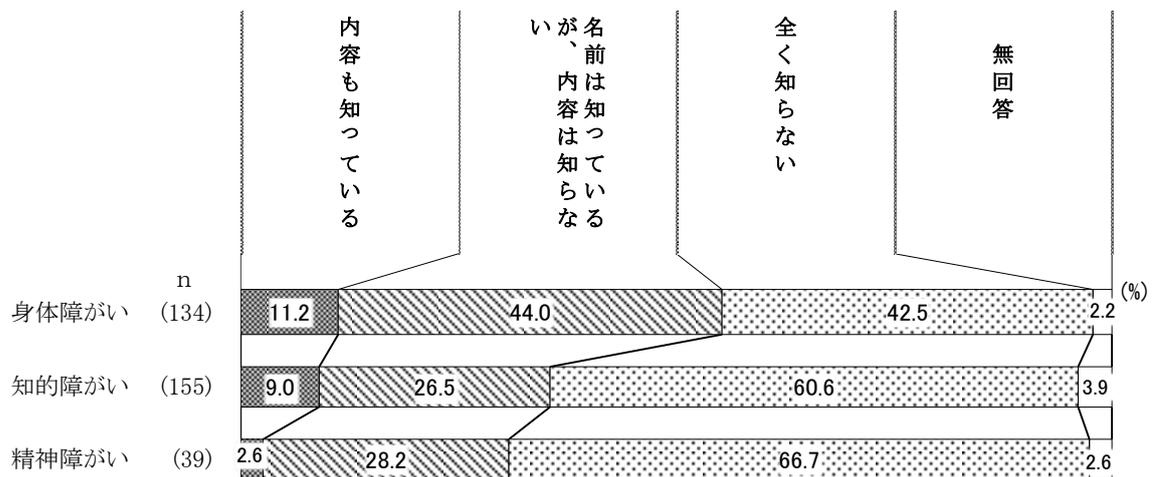
⑩ 民生委員・児童委員

身体障がい児では 45.5%、知的障がい児では 56.1%、精神障がい児では 51.3%と、いずれの属性も「全く知らない」が最も高くなっています。



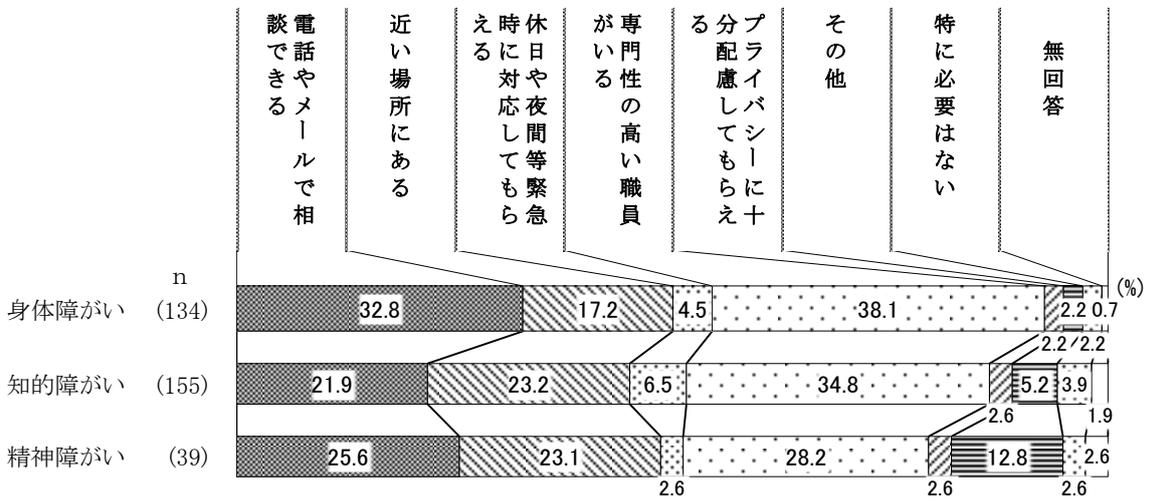
⑪ 障がい者団体

身体障がい児では「名前は知っているが、内容は知らない」が44.0%と最も高くなっています。知的障がい児では60.6%、精神障がい児では66.7%と、「全く知らない」が最も高くなっています。



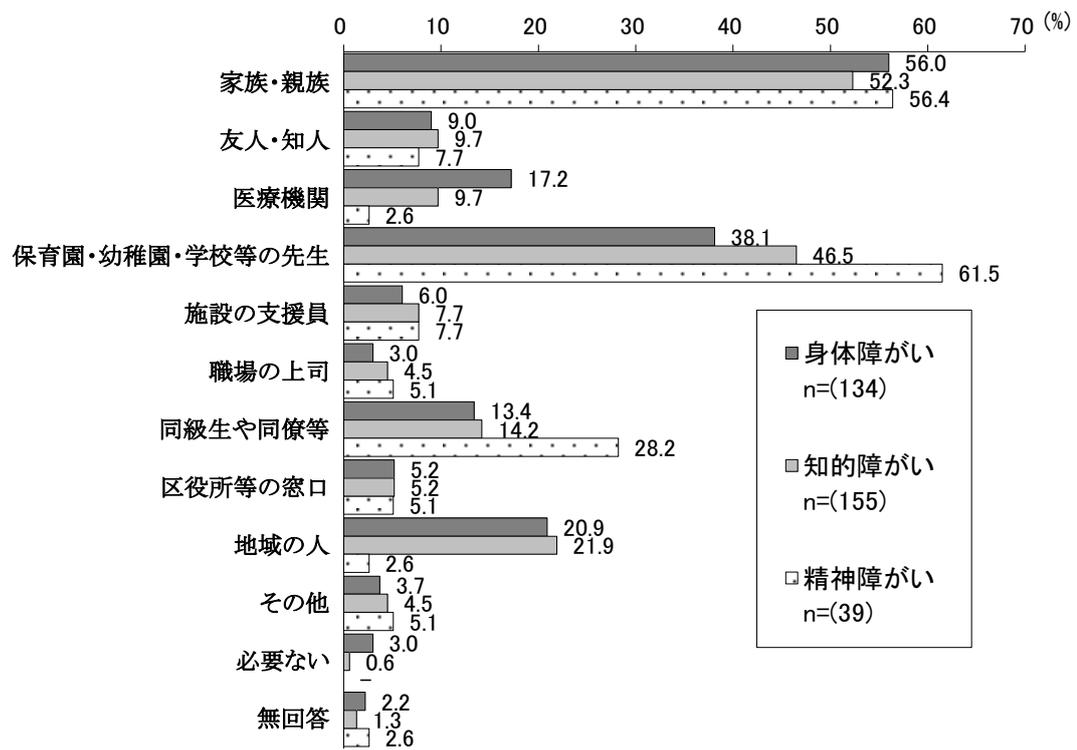
問 23 必要なときに気軽に相談するためには、特に、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は1つ)

相談するために必要なことを聞いたところ、身体障がい児では38.1%、知的障がい児では34.8%、精神障がい児では28.2%と、いずれの属性も「専門性の高い職員がいる」が最も高くなっています。



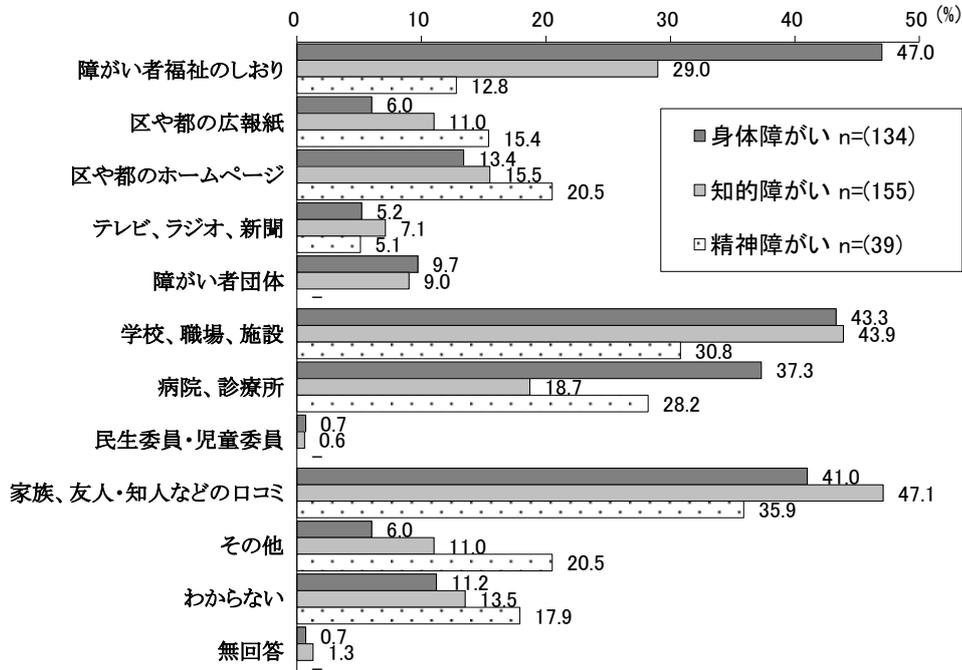
問 24 障がいについて、最も理解してほしい人はだれですか。(2つまでに〇)

理解してほしい人を聞いたところ、身体障がい児では56.0%、知的障がい児では52.3%と、「家族・親族」が最も高くなっています。精神障がい児では「保育園・幼稚園・学校等の先生」が61.5%と最も高くなっています。



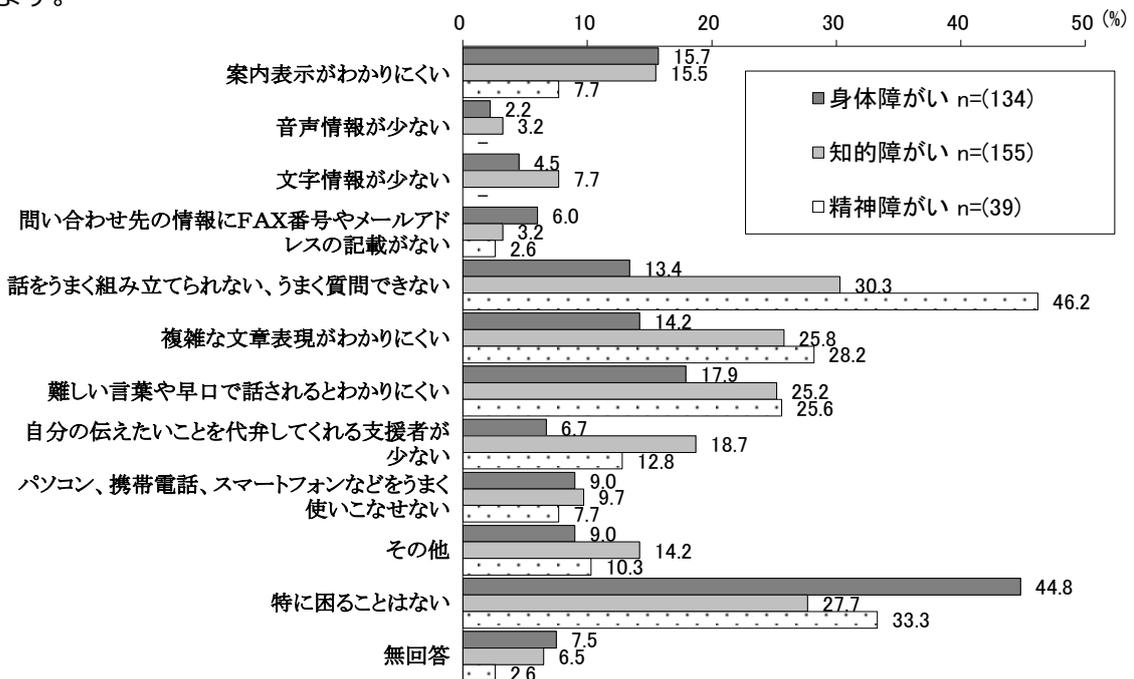
問 25 障がい支援に関する情報を主にどこから得ていますか。(〇はいくつでも)

情報をどこから得ているか聞いたところ、身体障がい児では「障がい者福祉のしおり」が47.0%と最も高くなっています。知的障がい児では47.1%、精神障がい児では35.9%と、「家族、友人・知人などの口コミ」が最も高くなっています。



問 26 相談でのコミュニケーションや情報取得をするうえで困ることはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

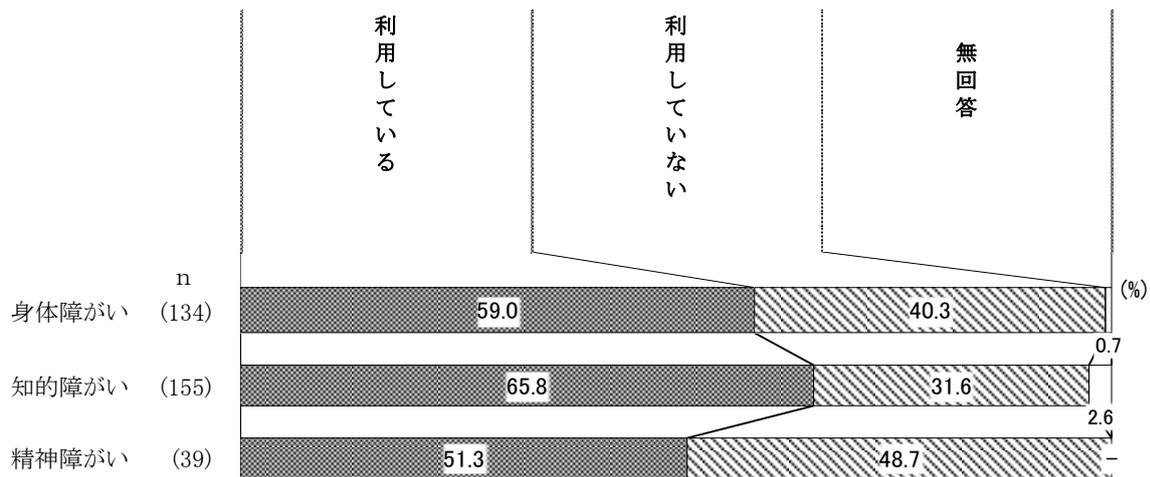
困ることは何か聞いたところ、「特に困ることはない」を除くと、身体障がい児では「難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい」が17.9%と最も高くなっています。知的障がい児では30.3%、精神障がい児では46.2%と、「話をうまく組み立てられない、うまく質問できない」が最も高くなっています。



(7) 福祉サービスについて

問 27 あなたは、障がい者サービスを利用していますか。(○は1つ)

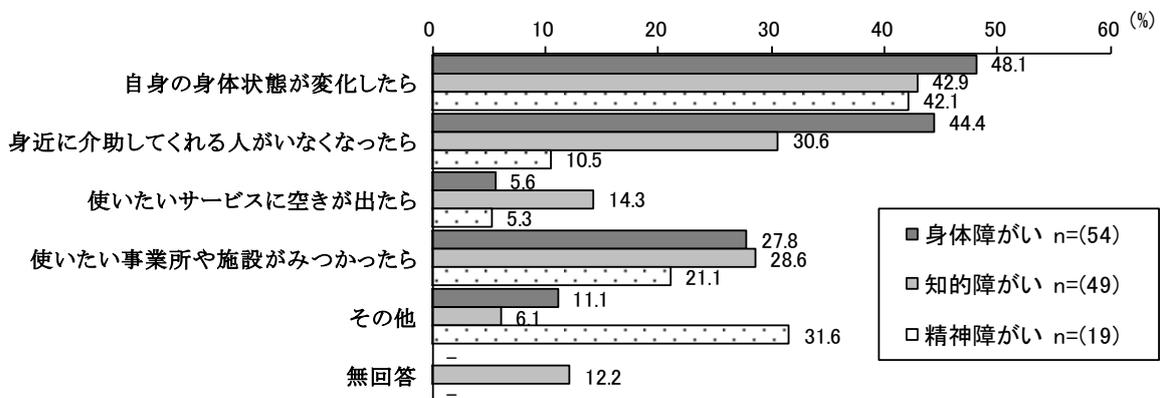
障がい者サービスの利用有無を聞いたところ、身体障がい児では 59.0%、知的障がい児では 65.8%、精神障がい児では 51.3%と、いずれの属性も「利用している」が高くなっています。



次の問は、問 27 で「2. 利用していない」と答えた方におうかがいします。

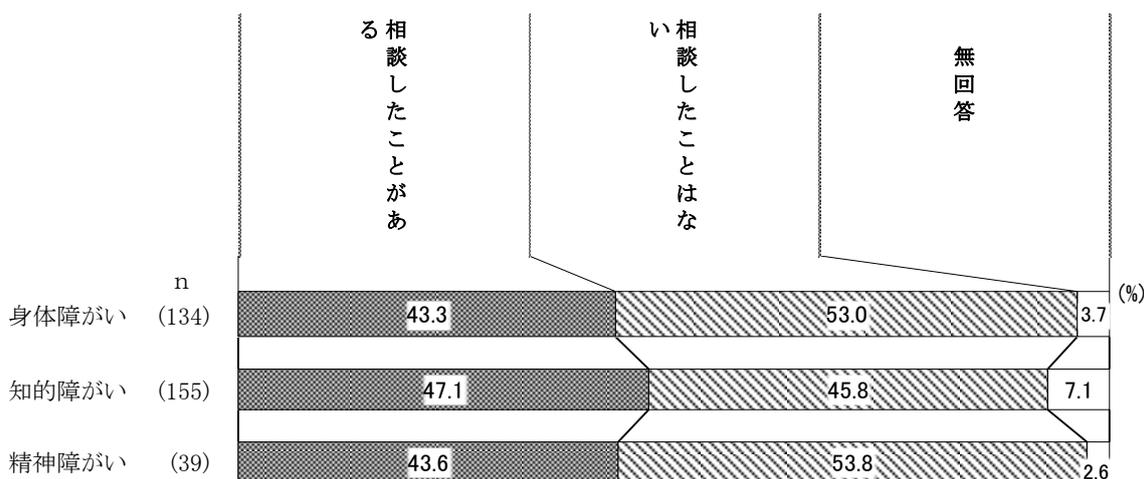
問 28 どのような状況になったら障がい者サービスを利用したい、または必要になると考えていますか。(○はいくつでも)

利用が必要になる状況を聞いたところ、身体障がい児では 48.1%、知的障がい児では 42.9%、精神障がい児では 42.1%と、いずれの属性も「自身の身体状態が変化したら」が最も高くなっています。



問 29 あなたは、サービスの利用に関して相談支援事業所に相談したことはありますか。(〇は1つ)

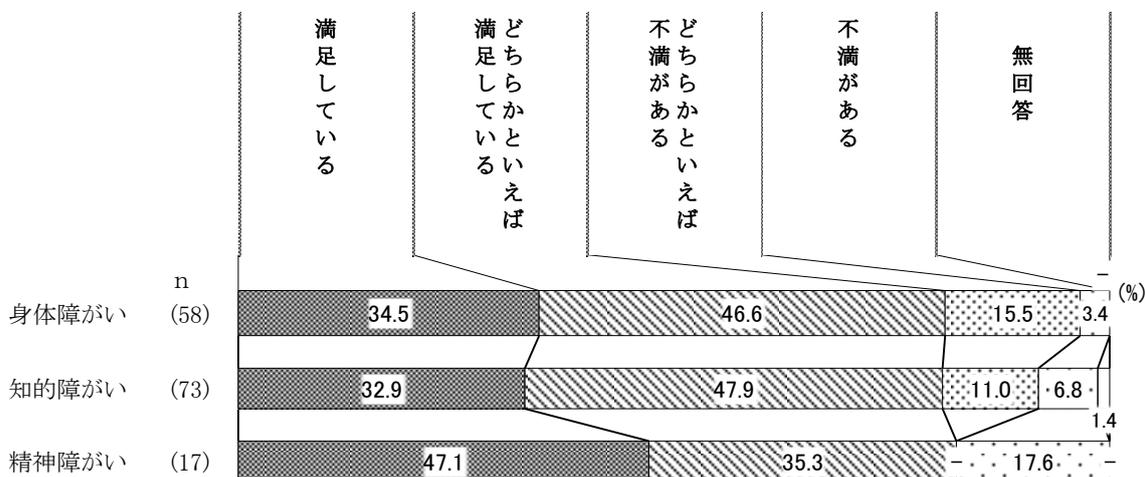
相談支援事業所に相談したかを聞いたところ、身体障がい児では 53.0%、精神障がい児では 53.8%と、「相談したことはない」が高くなっています。知的障がい児では 45.8%と「相談したことがある」が高くなっています。



次の問は、問 29 で「1. 相談したことがある」と答えた方におうかがいします。

問 30 サービス等利用計画の満足度はどうですか (〇は1つ)

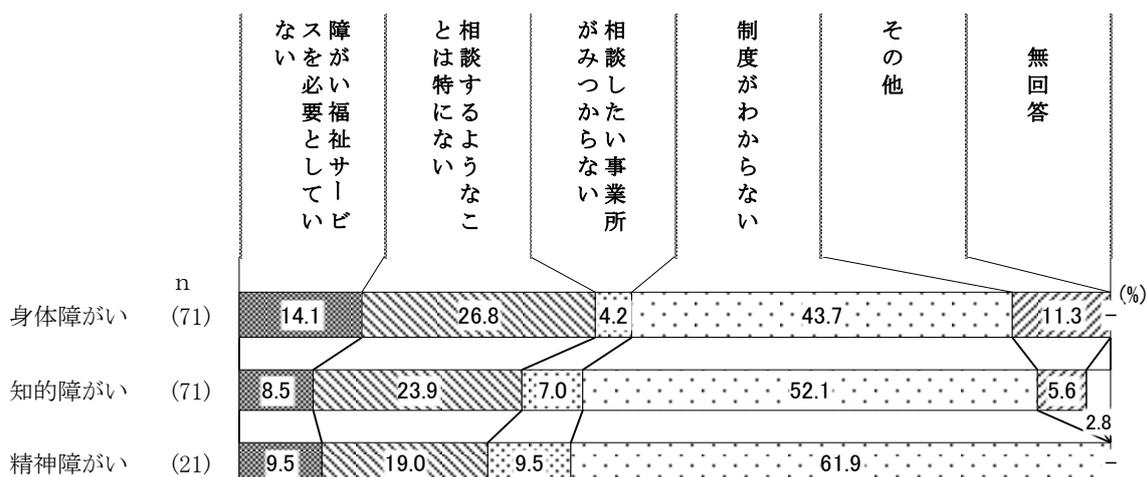
計画の満足度を聞いたところ、身体障がい児では 46.6%、知的障がい児では 47.9%と、「どちらかといえば満足している」が最も高くなっています。精神障がい児では「満足している」が 47.1%と最も高くなっています。



次の問は、問 29 で「2. 相談したことはない」と答えた方におうかがいします。

問 31 相談支援事業所を利用していない理由は何ですか。(○は1つ)

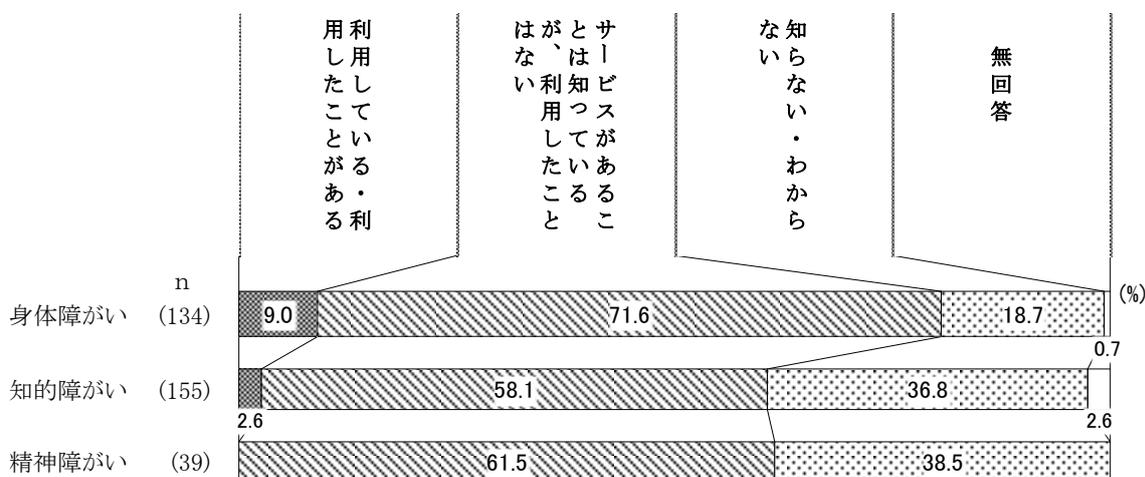
利用していない理由を聞いたところ、身体障がい児では 43.7%、知的障がい児では 52.1%、精神障がい児では 61.9%と、いずれの属性も「制度がわからない」が最も高くなっています。



問 32 あなたは、次のような障がい者サービスがあることを知っていますか。また、利用したことがありますか。(①～⑪のサービスごとに1つずつお答えください。)

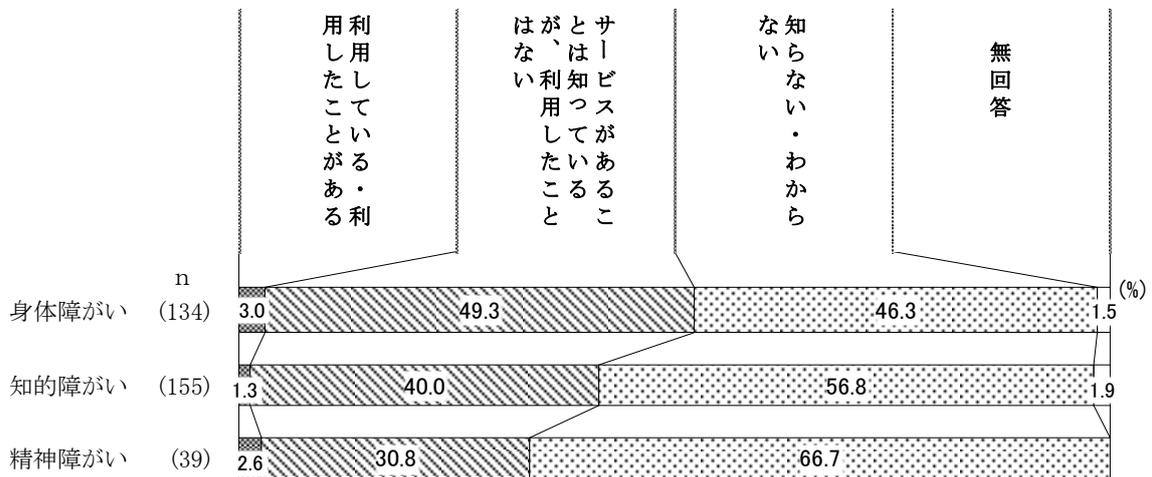
① 居宅介護（ホームヘルプ）

身体障がい児では 71.6%、知的障がい児では 58.1%、精神障がい児では 61.5%と、「サービスがあることは知っているが、利用したことはない」が最も高くなっています。



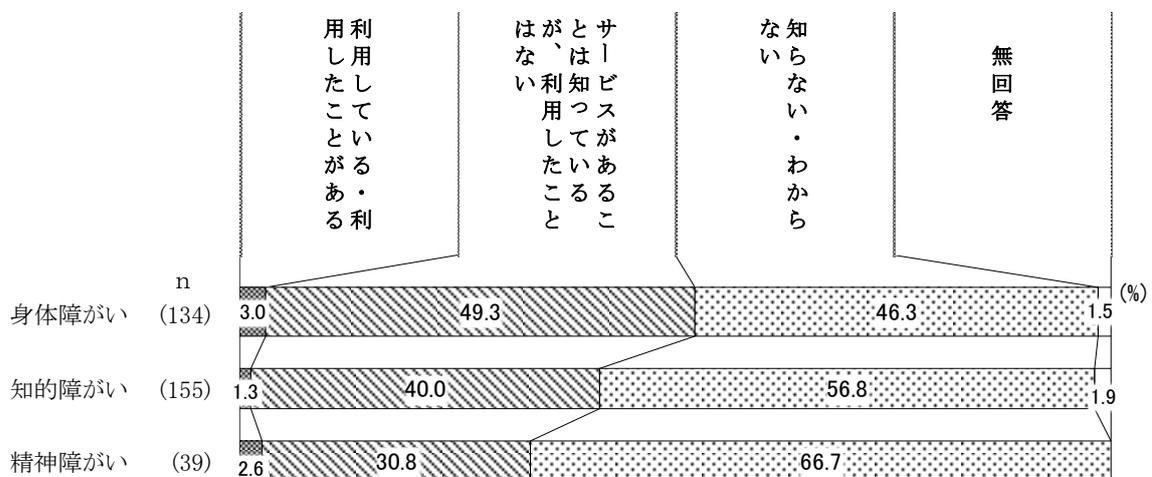
② 同行援護

身体障がい児では「サービスがあることは知っているが、利用したことはない」が 49.3%と最も高くなっています。知的障がい児では 56.8%、精神障がい児では 66.7%と、「知らない・わからない」が最も高くなっています。



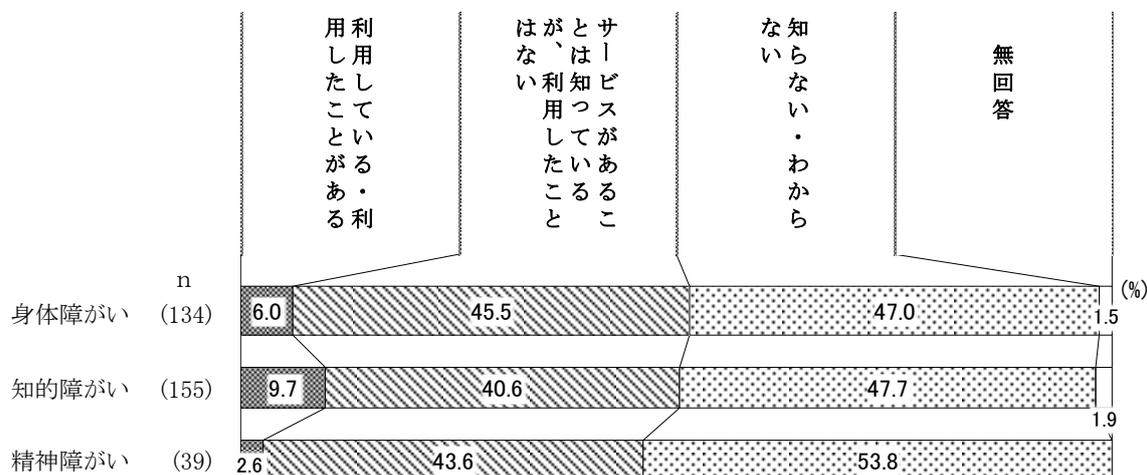
③ 行動援護

身体障がい児では「サービスがあることは知っているが、利用したことはない」が 49.3%と最も高くなっています。知的障がい児では 56.8%、精神障がい児では 66.7%と、「知らない・わからない」が最も高くなっています。



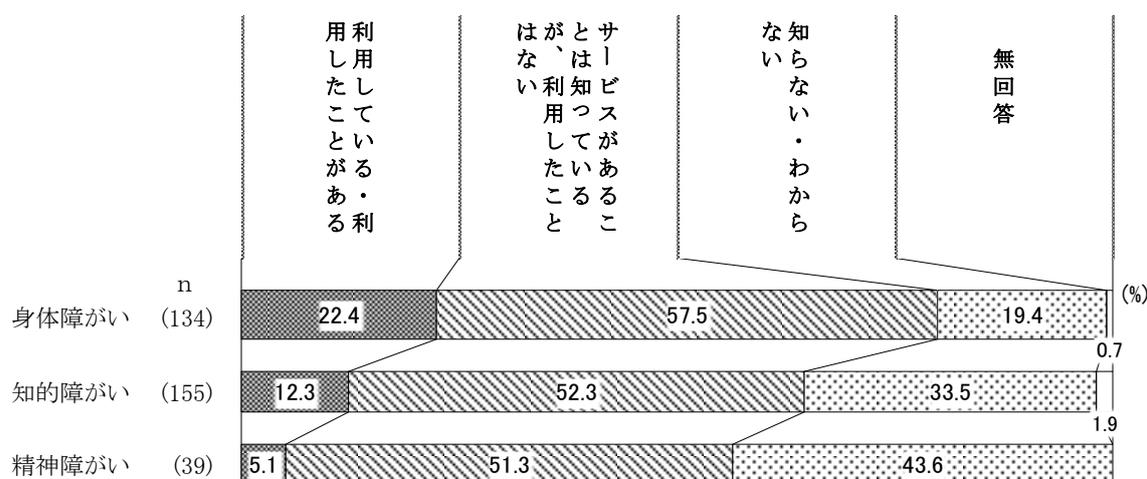
④ 短期入所（ショートステイ）

身体障がい児では47.0%、知的障がい児では47.7%、精神障がい児では53.8%と、いずれの属性も「知らない・わからない」が最も高くなっています。



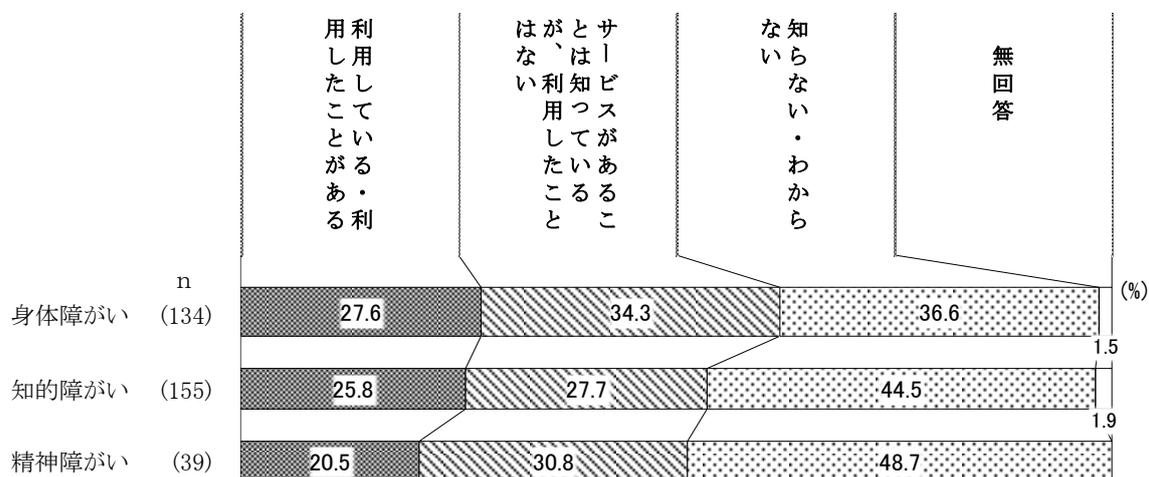
⑤ 相談支援

身体障がい児では57.5%、知的障がい児では52.3%、精神障がい児では51.3%と、いずれの属性も「サービスがあることは知っているが、利用したことはない」が最も高くなっています。



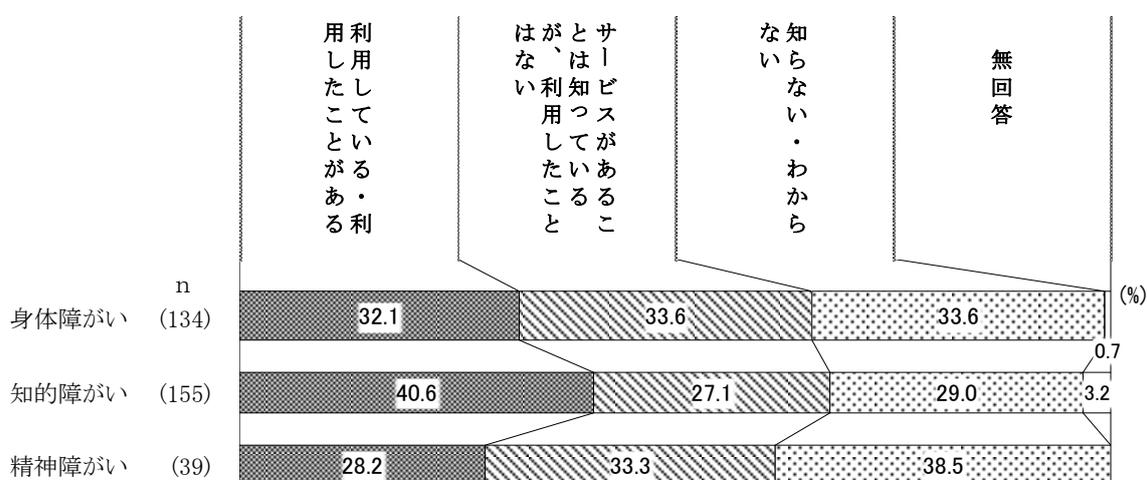
⑥ 児童発達支援

身体障がい児では36.6%、知的障がい児では44.5%、精神障がい児では48.7%と、いずれの属性も「知らない・わからない」が最も高くなっています。



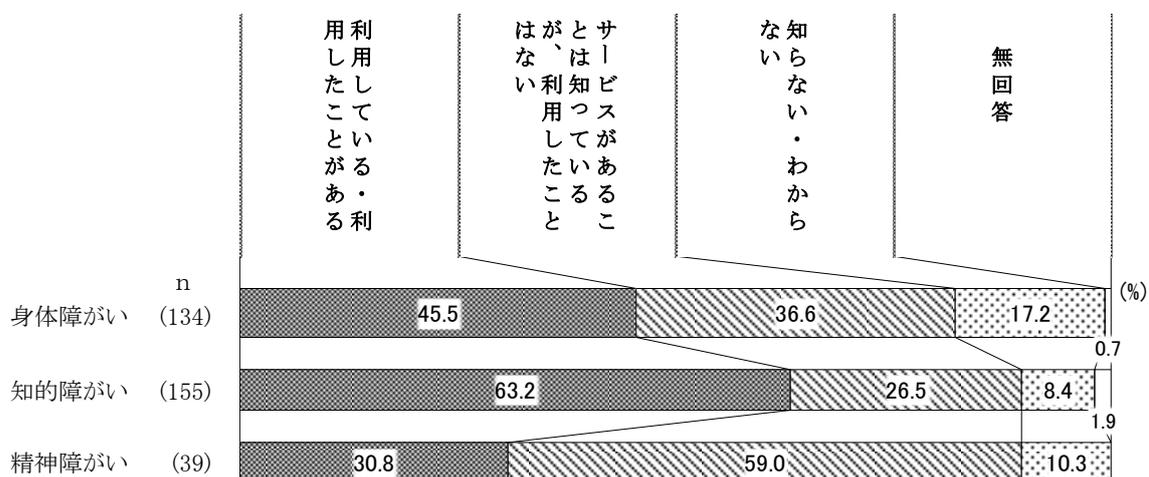
⑦ 放課後等デイサービス

身体障がい児では「サービスがあることは知っているが、利用したことはない」と「知らない・わからない」がともに33.6%となっています。知的障がい児では「利用している・利用したことがある」が40.6%と最も高くなっています。精神障がい児では「知らない・わからない」が38.5%と最も高くなっています。



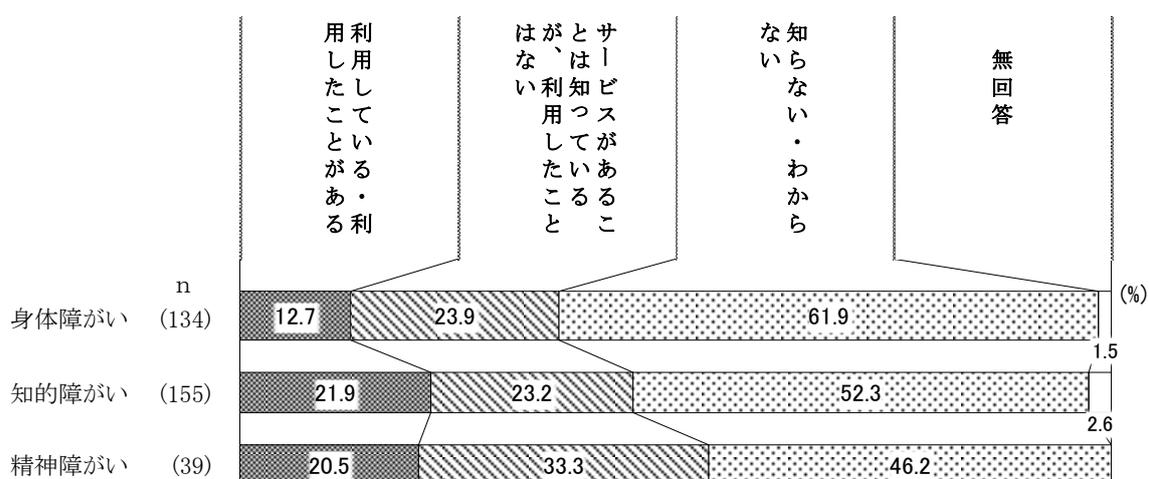
⑧ 保育所等訪問支援

身体障がい児では45.5%、知的障がい児では63.2%と、「利用している・利用したことがある」が最も高くなっています。精神障がい児では「サービスがあることは知っているが、利用したことはない」が59.0%と最も高くなっています。



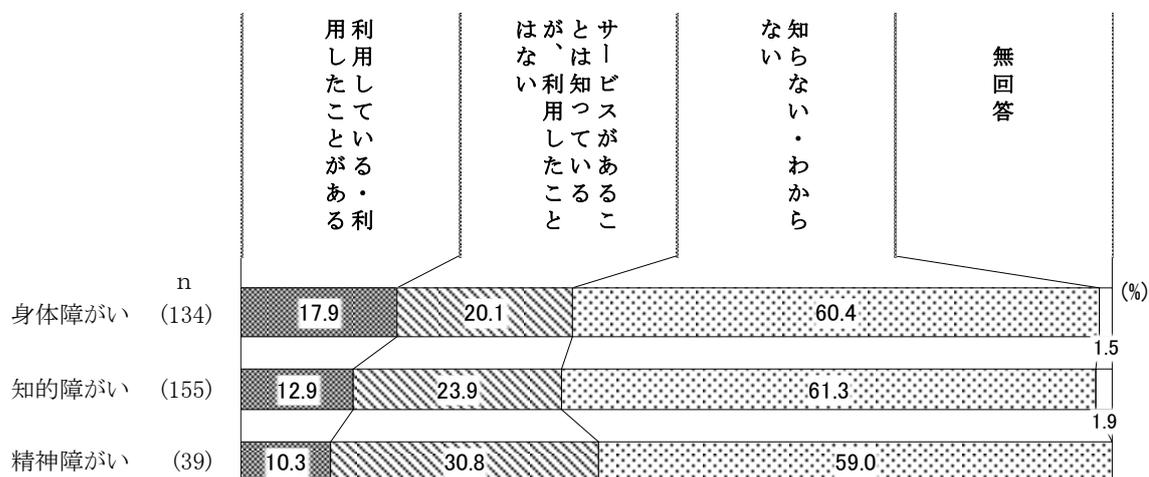
⑨ 医療型児童発達支援

身体障がい児では61.9%、知的障がい児では52.3%、精神障がい児では46.2%と、いずれの属性も「知らない・わからない」が最も高くなっています。



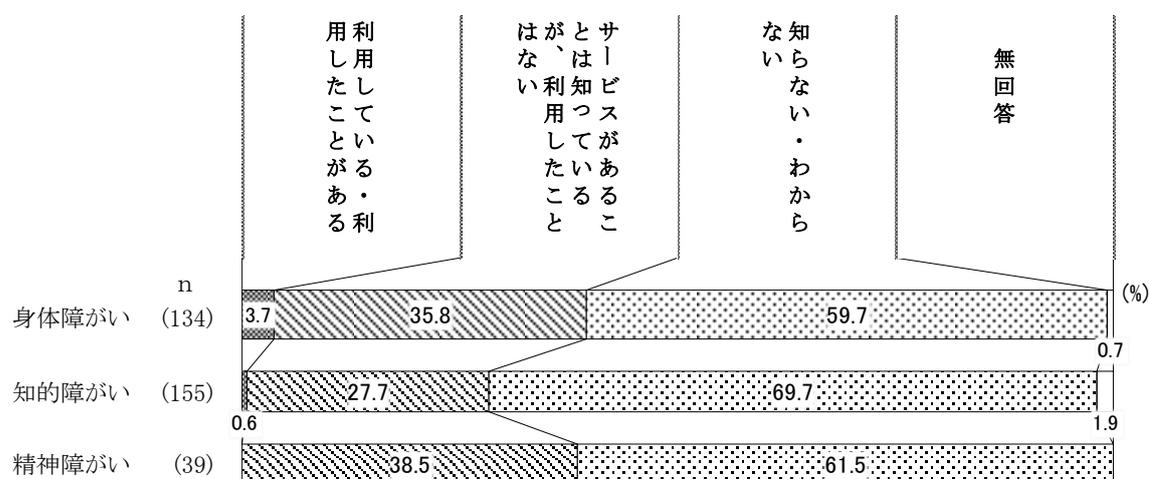
⑩ 福祉型障害児入所支援

身体障がい児では60.4%、知的障がい児では61.3%、精神障がい児では59.0%と、いずれの属性も「知らない・わからない」が最も高くなっています。



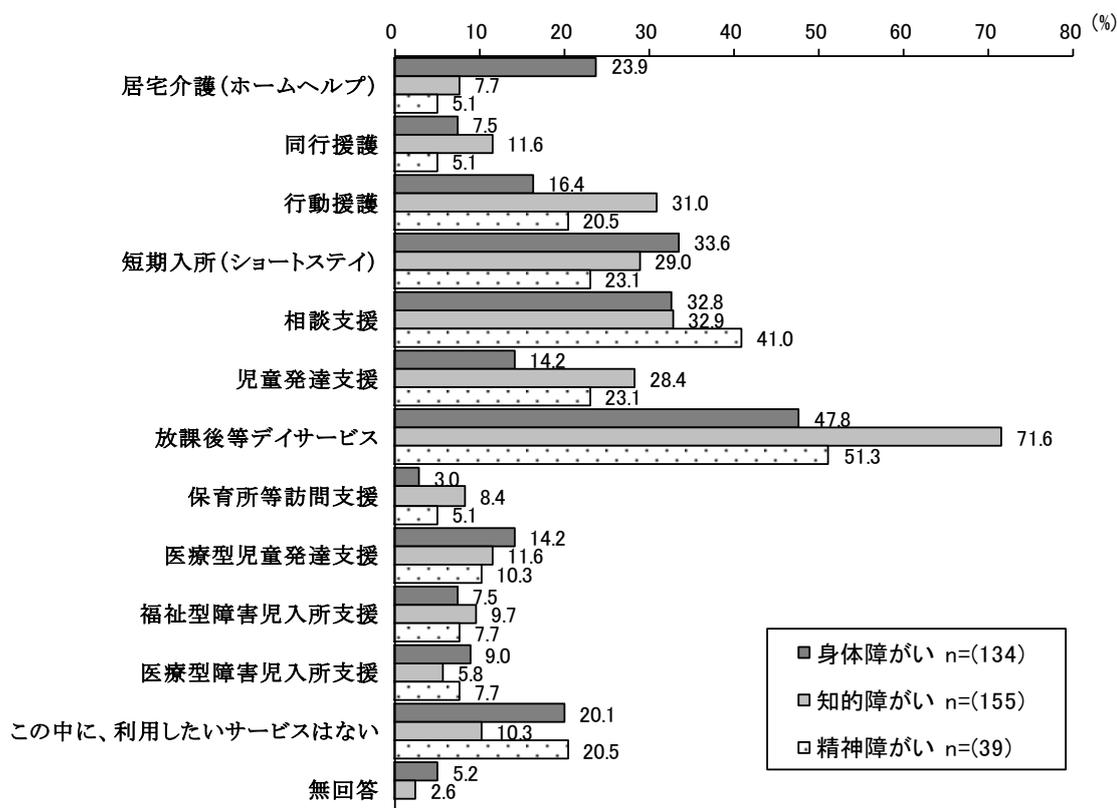
⑪ 医療型障害児入所支援

身体障がい児では59.7%、知的障がい児では69.7%、精神障がい児では61.5%と、いずれの属性も「知らない・わからない」が最も高くなっています。



問 33 次のサービスの中で、今後も引き続き利用したい、あるいは、新たに利用したいと思うサービスはありますか。利用したいものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

利用希望のサービスを聞いたところ、身体障がい児では47.8%、知的障がい児では71.6%、精神障がい児では51.3%と、いずれの属性も「放課後等デイサービス」が最も高く、次いで身体障がい児では「短期入所(ショートステイ)」が33.6%、知的障がい児では「相談支援」が32.9%、精神障がい児では「相談支援」が41.0%となっています。



(8) 日中の過ごし方について

問 34 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(○は1つ)

日中の過ごし方を聞いたところ、身体障がい児では82.1%、知的障がい児では87.7%、精神障がい児では87.2%と、いずれの属性も「幼稚園・保育園、学校などに通っている」が最も高くなっています。

	幼稚園や保育園、学校などに通っている	福祉施設、作業所などに通っている	病院などのデイケア、リハビリテーションに通っている	働いている	入所している施設や病院などで過ごしている	自宅にすることが多い	その他	無回答
身体障がい (n=134)	82.1	5.2	0.7	-	1.5	9.0	0.7	0.7
知的障がい (n=155)	87.7	1.3	1.9	0.6	-	3.2	1.9	3.2
精神障がい (n=39)	87.2	-	-	-	-	12.8	-	-

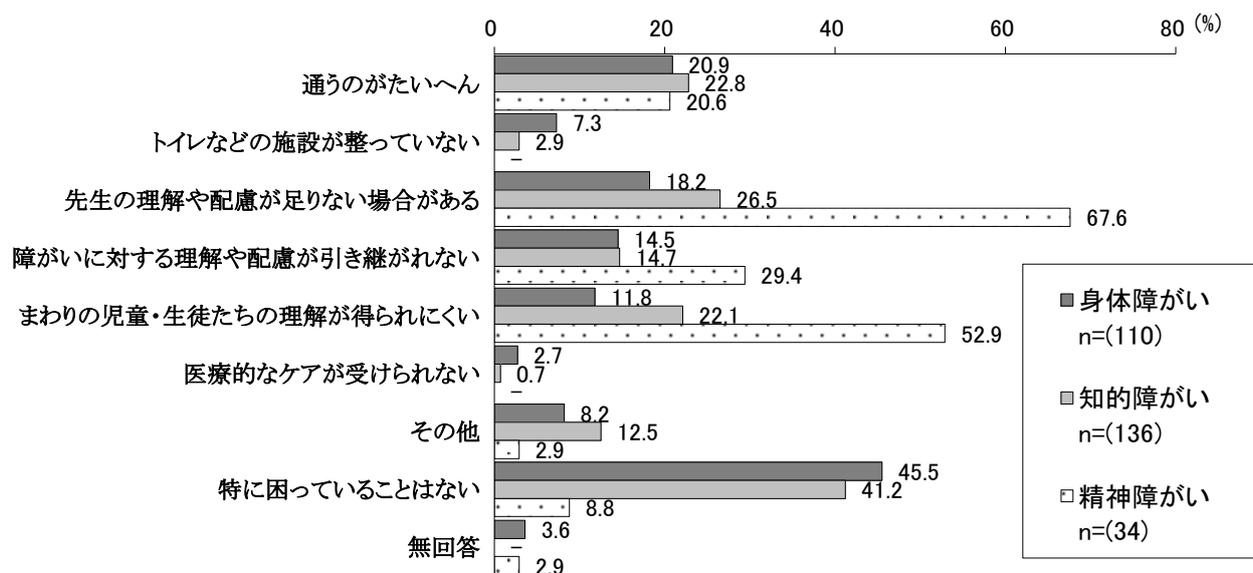
問 34-2 問 34 で○をした他に毎週4時間以上利用、まる1日通園・通所している施設がある場合、どちらの施設になりますか？

- ・大塚ろう学校
- ・中央愛児園
- ・小学校
- ・私立幼稚園
- ・東京YWCAキッズガーデン
- ・若葉ゆめの園
- ・放課後等デイサービス
- ・ことばの森
- ・このこのリーフ成増
- ・放課後等デイサービス など

次の問 35～問 36 は、問 34 で「1. 幼稚園や保育園、学校などに通っている」と答え
た方におうかがいします。

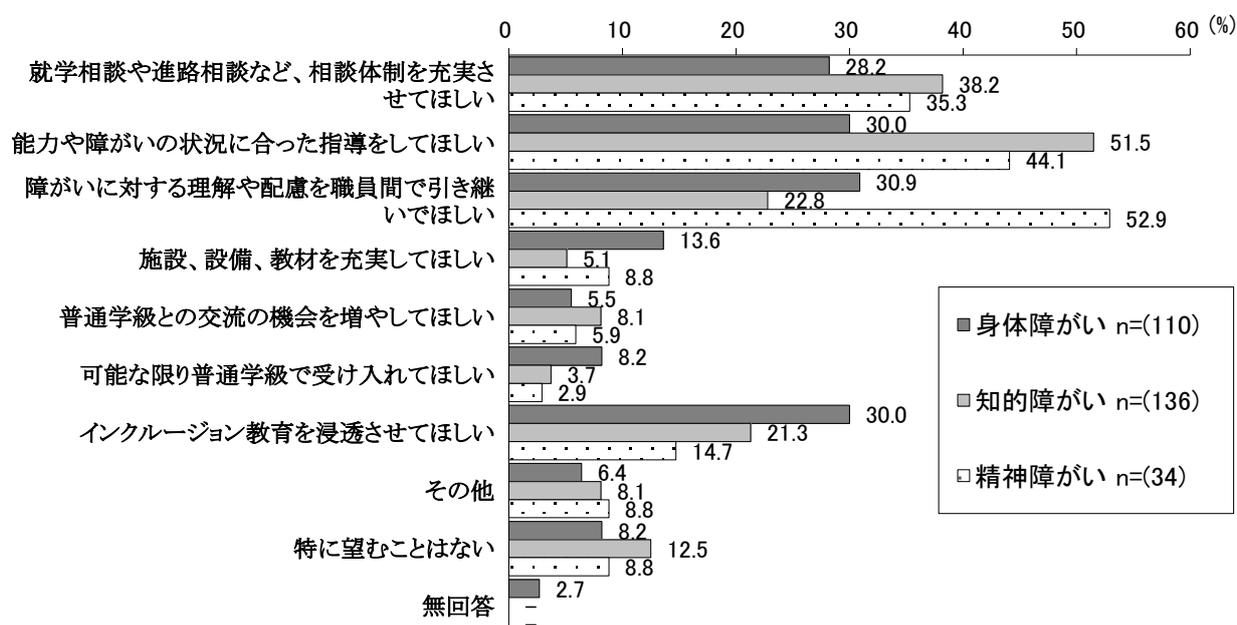
問 35 幼稚園・学校などに通っていて困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

通っていて困ることを聞いたところ、「特に困っていることはない」を除くと、身体障がい児では「通うのが大変」が 20.9%と最も高くなっています。知的障がい児では 26.5%、精神障がい児では 67.6%と、「先生の理解や配慮が足りない場合がある」が最も高くなっています。



問 36 学校教育に望むことはどのようなことですか。(〇は2つまで)

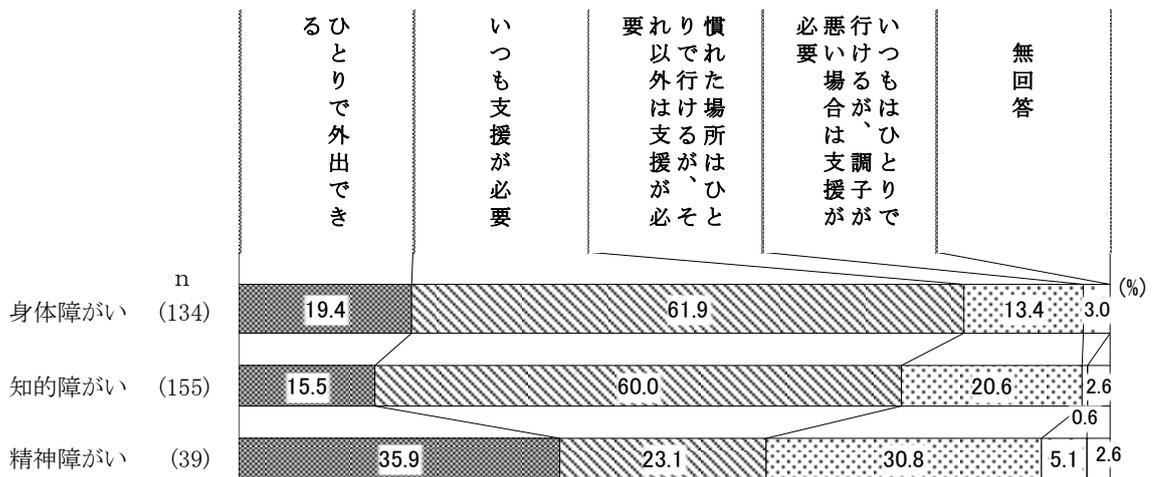
学校教育に望むことを聞いたところ、身体障がい児では 30.9%、精神障がい児では 52.9%と、「障がいに対する理解や配慮を職員間で引き継いでほしい」が最も高くなっています。知的障がい児では「能力や障がいの状況に合った指導をしてほしい」が 51.5%と最も高くなっています。



(9) 外出や余暇の過ごし方について

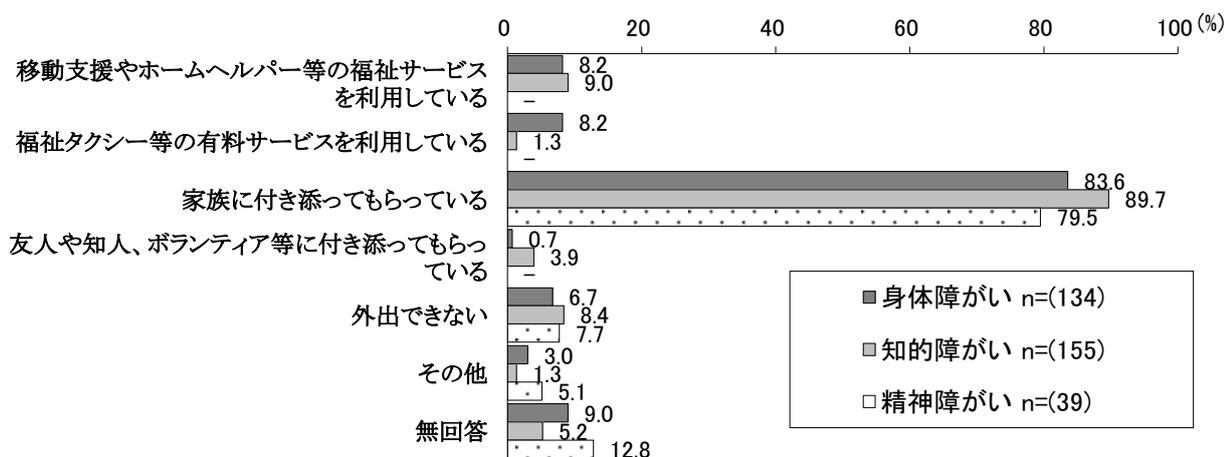
問 37 あなたは、外出するときには支援が必要ですか。(○は1つ)

外出の支援について聞いたところ、身体障がい児では61.9%、知的障がい児では60.0%と、「いつも支援が必要」が最も高くなっています。精神障がい児では「ひとりで外出できる」が35.9%と最も高くなっています。



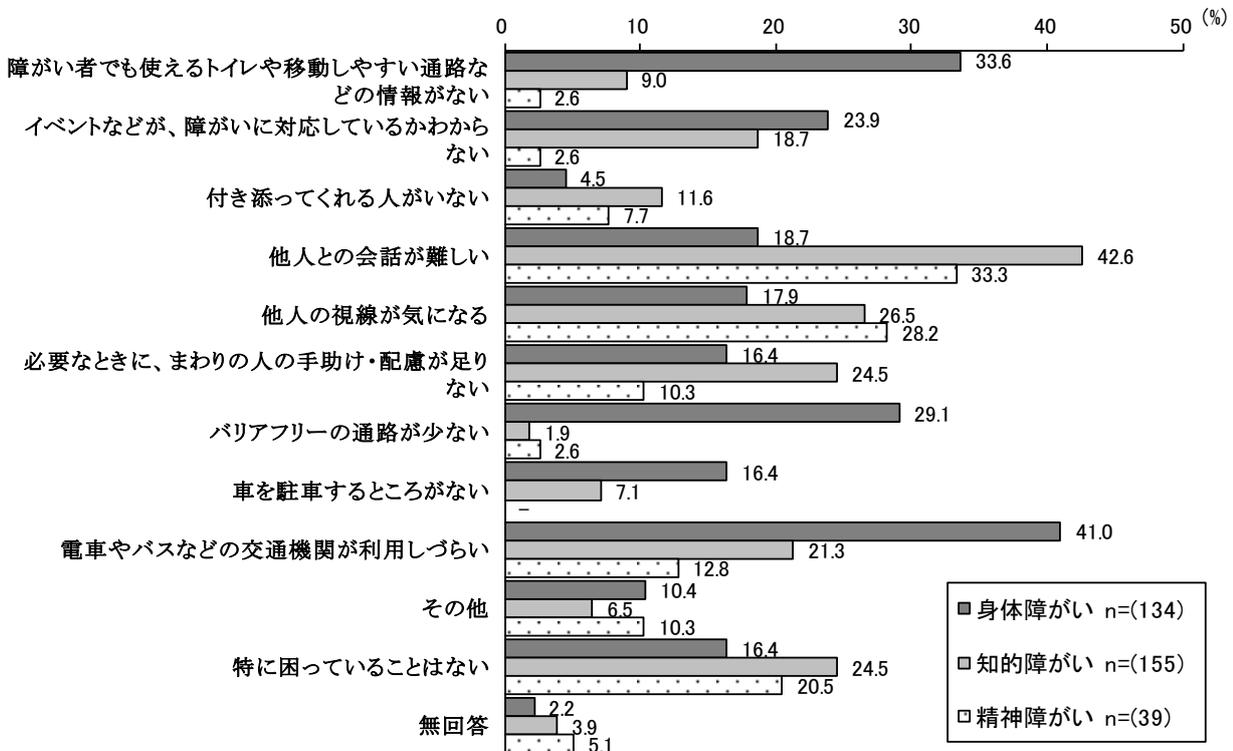
問 38 ひとりで外出できない場合、どのように外出していますか。(○はいくつでも)

外出する時の支援を聞いたところ、身体障がい児では83.6%、知的障がい児では89.7%、精神障がい児では79.5%と、いずれの属性も「家族に付き添ってもらっている」が最も高くなっています。



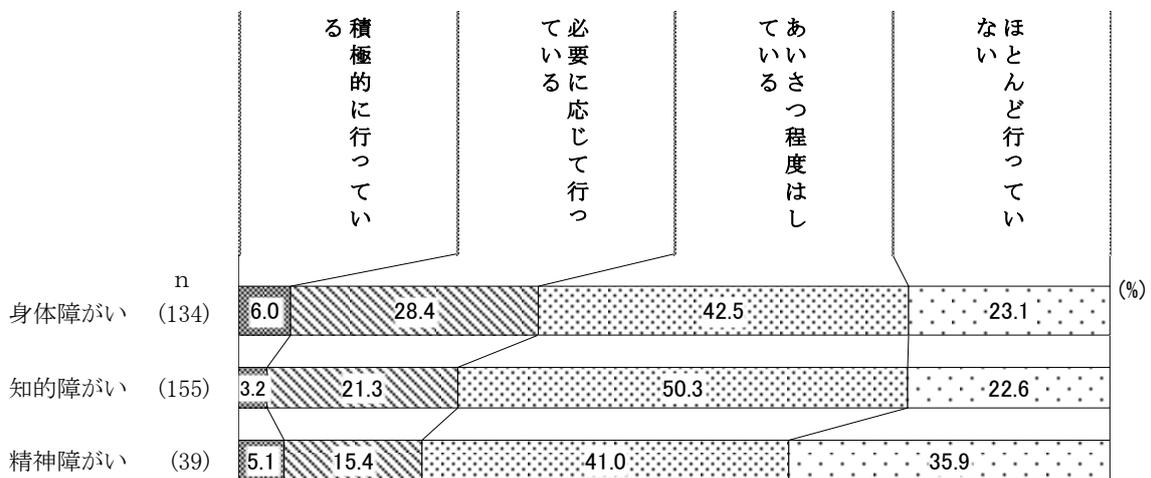
問 39 外出の際に困っていることはありますか。(○はいくつでも)

外出で困っていることを聞いたところ、身体障がい者では「電車やバスなどの交通機関が利用しづらい」が41.0%と最も高くなっています。知的障がい児では42.6%、精神障がい児では33.3%と、「他人との会話が難しい」が最も高くなっています。



問 40 地域の人との交流は、次のどれにあてはまりますか。(○は1つ)

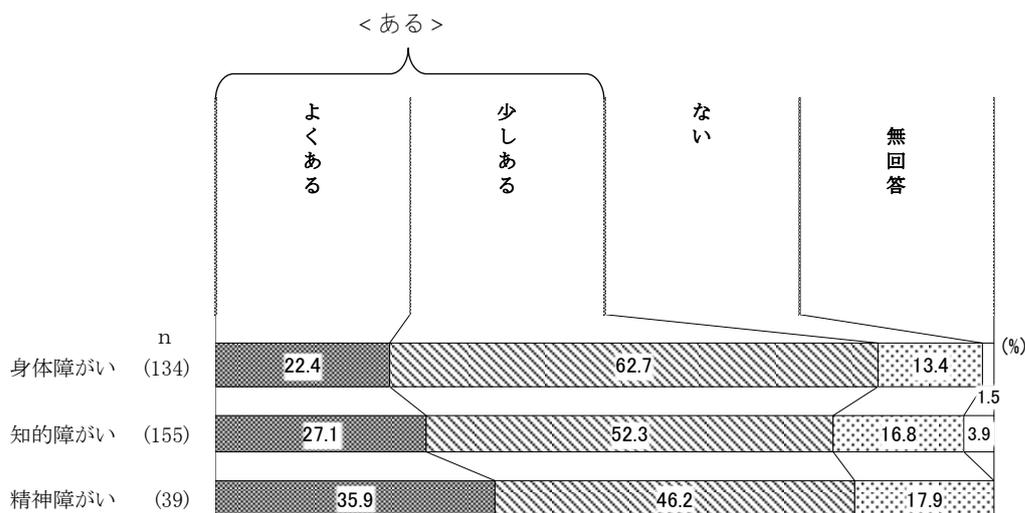
地域の人との交流について聞いたところ、身体障がい児では42.5%、知的障がい児では50.3%、精神障がい児では41.0%と、いずれの属性も「あいさつ程度はしている」が最も高くなっています。



(10) 差別や権利擁護などについて

問 41 障がいがあることで、差別を感じたり、嫌な思いをしたことがありますか。(〇は1つ)

差別を感じたことはないか聞いたところ、「よくある」と「少しある」を合わせて「ある」とした場合、身体障がい児では 85.1%、知的障がい児では 79.4%、精神障がい児では 82.1%と、いずれの属性も差別を感じたことが「ある」が高くなっています。



問 42 具体的には、どのようなときに差別を感じたり、嫌な思いをしましたか。(自由記入)

- ・ 家族、特に兄弟は、一緒にいるのがかわいそうに思う時があります。話すことはできなくても、本人もイヤな思いはしていると思います。ジロジロ見られます。学校等で嫌がらせを受けます。
- ・ 学校でいじめに遭った。また、支援学級の子どもに対するいじめを耳にしたことがある（校長の校内プリントで）。支援学級に通う親に対しても、PTA（会長）が差別的な発言をしていたのを聞いた。
- ・ 電車に乗る時、車いすで乗車したら、舌打ちされ嫌がられた。車いすスペースに乗車したら、人が移動してくれなかった。バスに乗る時も嫌な思いをした。
- ・ 映画（邦画）の字幕がない時。また、駅の改札で駅員を呼ぶ時、ベルが無い時は声を出さねばならないが、発声が難しいため、出来ない。聴覚障がい者に対応しているやりとりボード等の準備がまだまだ少ない（混んでいる時は筆談だと周りに迷惑がかかるため、指差し等でやりとり出来るボードがあればうれしい）。

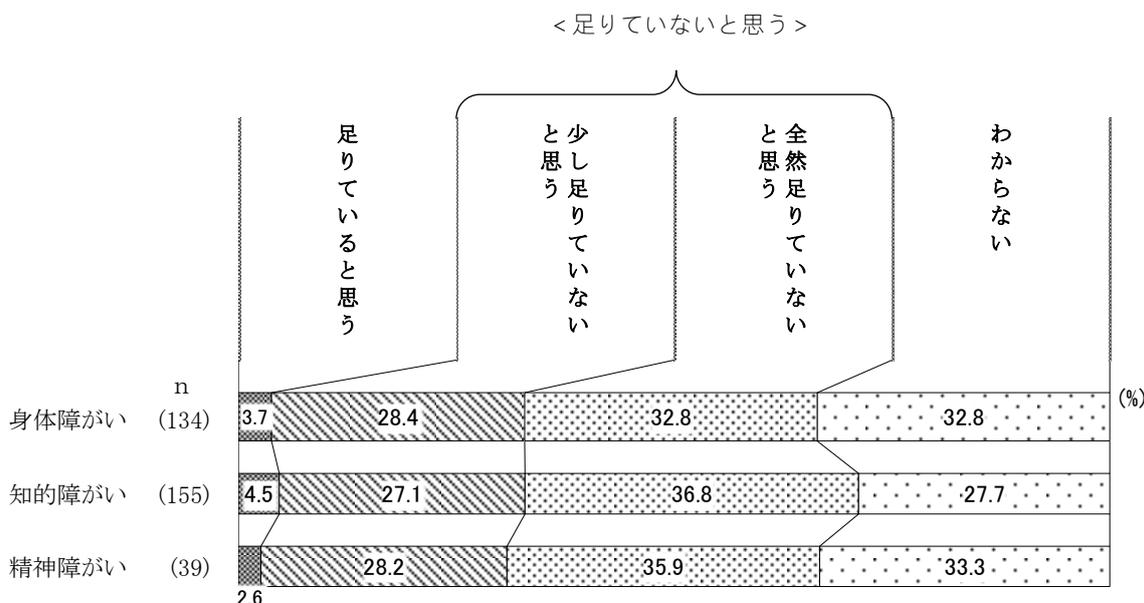
- ・出先で満員のエレベーターを待ち続ける。障がい者用トイレにオムツ交換できるベッドやソファがない。お店に段差があったり狭かったりして入れない。
- ・ジロジロ見られる（特に子どもに）。他人に「かわいそうだね」という目で見られたり、言われたりすること。同じ年の子の輪に本人が加わろうとした際、発声が独特なため、あからさまに嫌がられた。耳が聞こえないことを同級生から蔑まされた。面と向かって「かわいそうね」等と、年配者から言われた。
- ・保育園入園に関して、たくさん面談をして受け入れてもらえる所を探さなくてはならなかった。園によっては「障がいのある子がいるのに働くのは無理なのでは」と言われた。
- ・顔を知ってる人に暴力を受ける。
- ・心ない言葉をかけられる。大人も子どもも、目で見えてわからない障がいがあること、本人の怠慢でないことを理解してほしい。
- ・公園で遊んでいる時に、他の子の親に、かかわってはダメと言われたりしました。
- ・うるさくもしていないのに、電車内でカバンで子どもがなぐられてから、一度も電車は使っていない（東上線）。
- ・あいキッズでは1年生の時、ズボンを下ろされ下着を見られ笑われた。誰も助けてくれなかった。2年生になり、ひどい言葉を吐かれ、学校をやめたい、行きたくないと不登校になり、転校することにした。障がいを理解していない友達や同級生に、仲間外れにされたり、バカにされたりする。
- ・幼稚園の先生の対応で、クラス全員の前で障がいについて話され、できないことに対して“かわいそうな子だからみんなががまんするように”と言われた。道行く人が「かわいそうに」と言ってくる。
- ・ティーンエイジャーの集団に、指差されて「変な子がいる」と言われたりする。
- ・駅や電車、エレベーター等で、「邪魔だ！」「外に連れて来るな！」と言われる。あっちに行つてと言われる。補聴器、人工内耳を付けているのをずっと見られたりして、気分がとても悪くなる時がある。入店拒否や短期入所施設の利用規定。
- ・異様なものを見る視線に親の心がくじける。子どもたちの正直な意見。

- ・入学先の校長先生に、一般的な話と前置きしつつ子どもの様子を見ながら、「職員が少ない中、自由に動くような子がいたら、授業中ほかの子たちはどうなる？」と言われた。教育委員会や区からの〇〇指定校だから、などの発言も。子どもに対してできるだけのことを言いつつも、結局、障がいに理解がなく、平均的な子どもを求めていると感じた。校長という立場の人だっただけにがっかりした。ある教員に「正直通常級では無理だと思った」と言われた。無理を前提とした学校運営だった。発達、成長を信じた指導ではなかった。学校で、「頭の病気と親が言ってた」ということを子ども同士が話しているのを耳にした。先生に「わざと」と思われ、障がいによるものと理解していただけないことが低学年の頃に多かった。校長に、クラスの前で、障がいについて言及されたこともあった。
- ・鴨川シーワールドへ遊びに行った時、車いす障がい者のスペースが健常者で埋めつくされていて、入れなかった。駐車場の障がい者スペースに、短時間のつもりでしょうが、健常者が駐車している。
- ・車イスで通りたい道を、ゆずってもらえなかった（無視）。
- ・過去のことで、認可保育園の相談をしに役所に行った際、「そういうお子さんは、そういう施設に行かれた方が、設備等もあるので良いのでは？」と言われた（姉の通っていた認証保育園にすんなり受け入れてもらえました）。
- ・中学校の時、理解してもらえなくて、修学旅行に行けなかった。息子にとって、一生忘れられない嫌な思い出となった。
- ・アパートの大家に障がい者であることを話していたのに、うるさいからアパートを退去してほしいと言われたことがあります。
- ・同級生から、支援学級はおかしい人の集まりと言われた時、どうしようもないくらい悲しくなります。
- ・歳相応の扱いをしてもらえない。遊園地でアトラクション利用拒否。
- ・声や行動で障がいに気づくと、ずっと見られる。
- ・幼児が好きな本人が幼児に寄っていくと、若い親御さんに、うちの子には寄らないで感が出る時。
- ・見た目ではわからないので、少し騒いだり小さい子どもがする様なことをしてしまうと、「なんなのあのこ」というような冷たい視線、コソコソ話をされると、すごく嫌や気持ちになります。

- ・外出先のあらゆる所で、奇異な目で見られます。大声で歌ったり、同じ言葉をずっと繰り返し言っていたり、怒ってパニック状態になっていたりしてない時でさえ、変な目で見られ辛いです。こんなにも珍しく見られるのは、発達障がい人間が身近に存在するのを全く知らないのだろうと思います。小学生の頃から学校と一緒に生活していれば、世の中にはこういう人達がいるんだと理解できるから、珍しい目で見ることもなくならないと思います。
- ・光や音に過敏なため、サングラスや耳栓の使用で色々と言われたり、取られたりする。学校では支援学級に在ること、同級生に遊んでももらえない。
- ・大きな声を出した時など、止める様に注意されるが、止まらない時など、しつけができていないと注意される。ヘルプマーク（バッヂ等）を本人に付けられると良いです。
- ・見た目ではわからないため、「なまけている」「サボっている」と言われたり、いじめられてしまう。
- ・色々な所で、障がい特性からの行動を理由に、利用を遠慮してほしいと言われたり、クラスメイトの保護者から理解されず、子ども同士あまり仲良くしないでほしいと言われる時。偏見の目で見られやすいため。
- ・言語に障がいがあり、文章を上手に組み立てて話せず、なかなか理解してもらえず、誤解され、叱られたり、避けられたりしたことがよくある。「バカがうつる」と言われたこともある。
- ・トラブルが起こった際に、自分のせいにされたり、友達の親から、白い目で見られる。

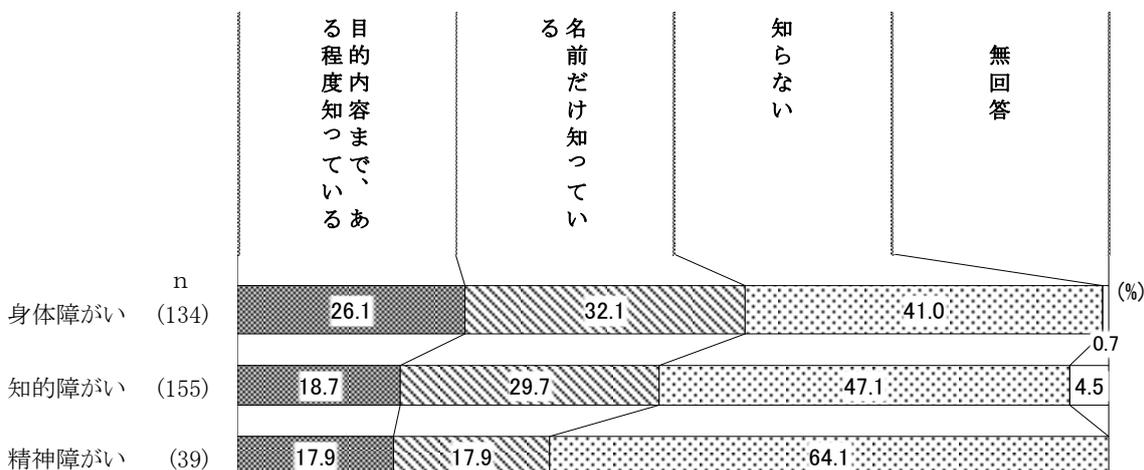
問 43 あなたは、区民の、障がいのある人への対応や理解が足りていると思いますか。
(○は1つ)

障がい者への理解が足りているか聞いたところ、「少し足りていないと思う」と「全然足りていないと思う」を合わせて「足りていないと思う」とした場合、身体障がい児では 61.2%、知的障がい児では 63.9%、精神障がい児では 64.1%と、いずれの属性も「足りていないと思う」が最も高くなっています。



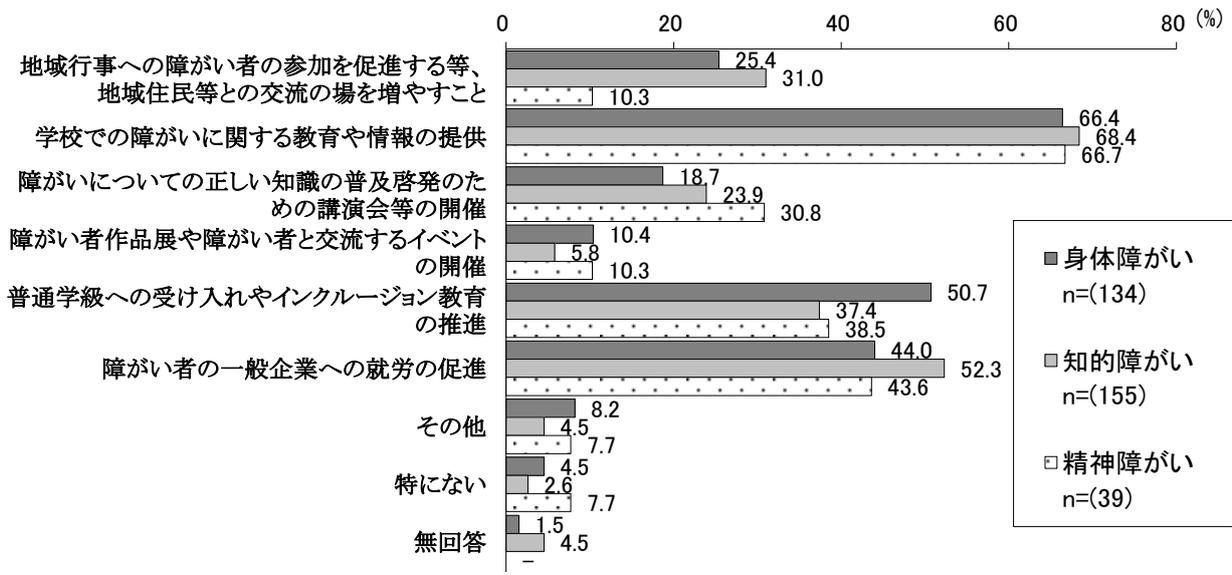
問 44 障がいのある方々への差別をなくすことを目的として、平成 28 年 4 月 1 日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、このことを知っていますか。(○は1つ)

障害者差別解消法を知っているか聞いたところ、身体障がい児では 41.0%、知的障がい児では 47.1%、精神障がい児では 64.1%と、いずれの属性も「知らない」が最も高くなっています。



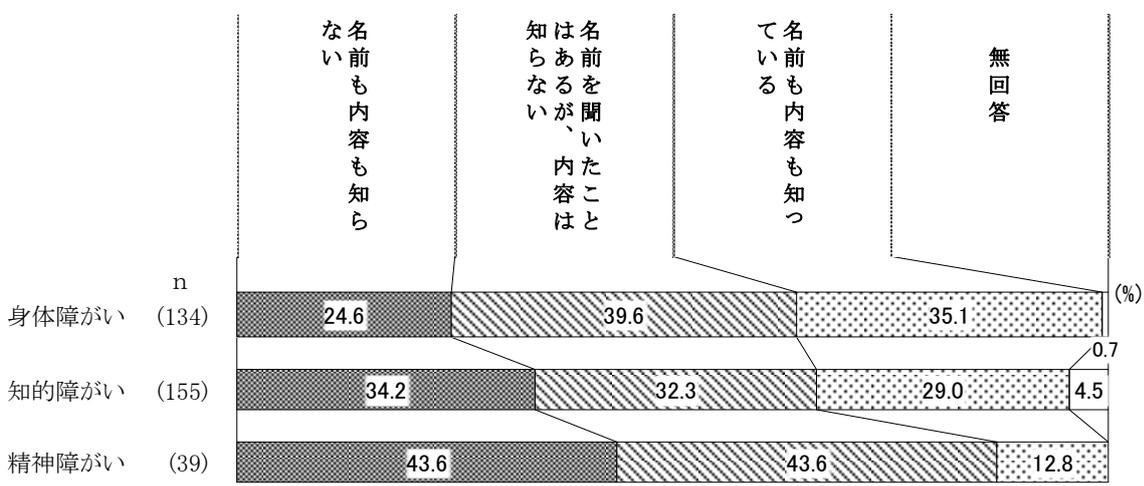
問 45 障がいのある人もない人も共に地域で普通に生活できるように地域の理解を進めていくために、特に力を入れるべきことは何だと思えますか。(〇は3つまで)

地域の理解を進めていくために特に力を入れることを聞いたところ、身体障がい児では66.4%、知的障がい児では68.4%、精神障がい児では66.7%と、いずれの属性も「学校での障がいに関する教育や情報の提供」が最も高く、次いで身体障がい児では「普通学校への受け入れやインクルージョン教育の推進」が50.7%、知的障がい児では52.3%、精神障がい児では43.6%と、「障がい者の一般企業への就労の促進」となっています。



問 46 成年後見制度とは、知的障がいや精神障がいなどの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、成年後見制度について知っていますか。(〇は1つ)

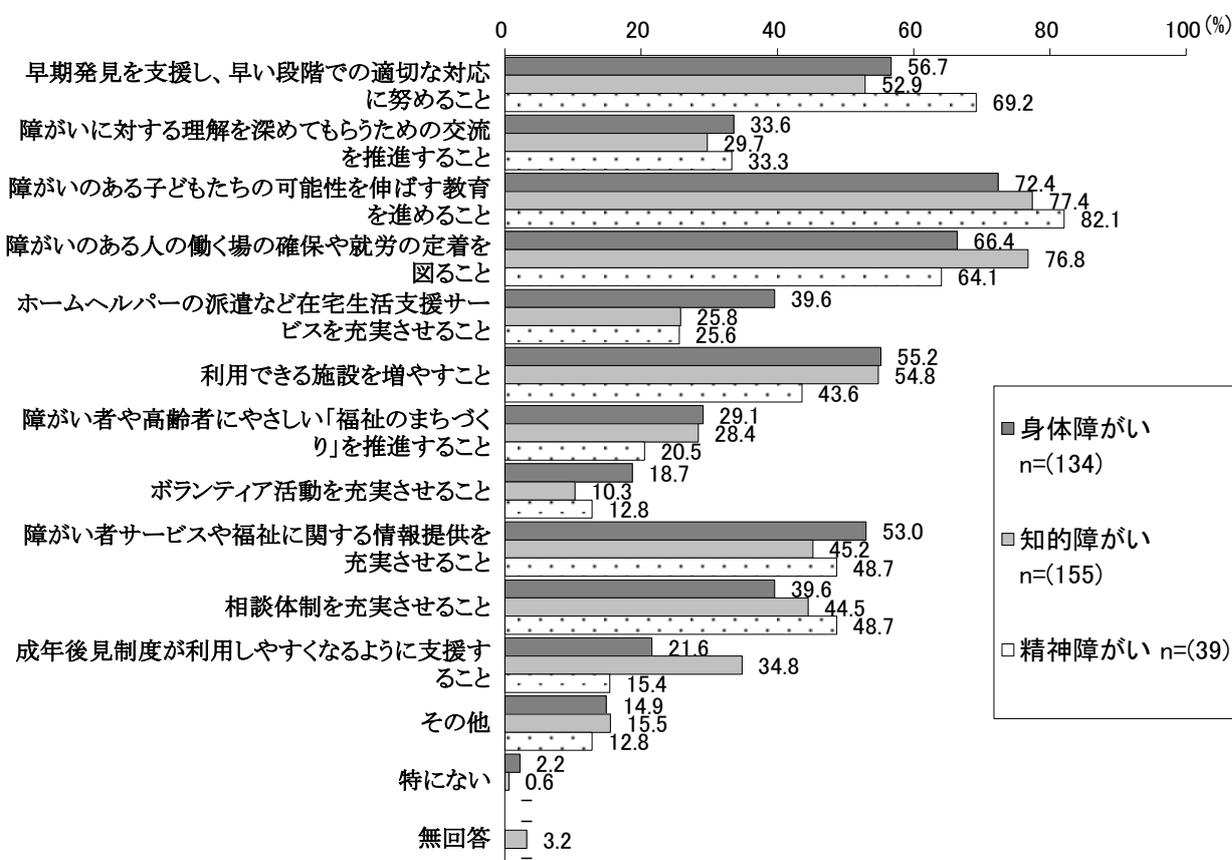
成年後見制度について聞いたところ、身体障がい児では39.6%と「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」が最も高く、知的障がい児では「名前も内容も知らない」が34.2%が最も高く、精神障がい児では43.6%と「名前も内容も知らない」、「名前を聞いたことはあるが、内容は知らない」が同等となっています。



(11) 区の取り組みなどについて

問 47 今後、障がい者施策を進めていくにあたって、区は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。(〇はいくつでも)

障がい者施策を進めていくにあたり、何を充実させていけばよいか聞いたところ、身体障がい児では72.4%、知的障がい児では77.4%、精神障がい児では82.1%と、いずれの属性も「障がいのある子どもたちの可能性を伸ばす教育を進めること」が最も高く、次いで身体障がい児では66.4%、知的障がい児では76.8%と、「障がいのある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」となっています。精神障がい児では「早期発見を支援し、早い段階での適切な対応に努めること」が69.2%となっています。



問 48 最後に、この調査を通じて、選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことがありましたら、自由にお書きください。(自由記入)

(例) サービスの満足度、現在はないがあったら利用したいサービス、サービスの問題点、ご意見・ご要望、区の計画に盛り込んで欲しいことなど

- ・23区で、障がい者に対する取り組み方を統一してほしいです。引っ越しが多くある家庭なので、大変です。
- ・聴覚障がいについて。①手帳(6級)の取得は聴力が60db以上となっているようですが、60dbで手帳が受け取れなくなるのはとても理解できません。50~40dbでも、補聴器なしでは生活できないレベル。せめて、60dbのお子さんにも、5級、4級といったレベルでの障がい者手帳を取得できるようにして頂きたい!60db以下で手帳なしというのは、差があります。②板橋区内に「きこえとことばの教室」がある中学校がなく、練馬区にも通わせてもらえず、仕方なく近所の中学へ通い、とても苦労しました。①を早急に検討して頂きたいです。
- ・福祉事務所に相談に行く日、時間がなかなかとれない。休日(土曜日の午前中)に相談出来ると大変ありがたい。
- ・以前に行動援護をお願いした際に初めて、利用できる条件があることを知って驚いた。障害者がいる家であれば利用できると思っていたのに、非常に納得がいかなかった。教育委員会の就学相談に行っても、高次脳機能障害への理解がなく、なかなか話が進まず、かみ合わなくて何度も同じ話をした。東京都の障がい児への配慮は、他府県の自治体と比べると遅れていると思う。高次脳機能障害を持つ息子が入れる学校を選択肢に幅がなく、進学先に非常に迷った。日本のインクルーシブ教育がもっと早く進むことを切に願います。
- ・医療的ケアが必要で、でもそこまで重度ではないというグレーゾーンの障がい児者も増えていきます。ショートステイをお願いしたいが、板橋区は少ないです(ほとんどないに等しい)。介護者が病気になって入院になった時に、本当に困りました。看護師の確保が大変なのはわかります。民間ばかりに頼っていては、なかなか進まないと思います。区で何とか補助をしていただけたらと思います。今は、医ケアでも学校で何とか対応できていますが、その先、卒業してからも同じようにできるようにしてほしい。これからも、まだまだ人数的には多くなると思うので。親なき後、安心して暮らせる板橋区になりますように。よろしくお願い致します。
- ・小学校・中学校に支援学級が少なすぎる。引っ越しや、通わせるのがとても大変。全学校にあるべき。放課後デイを利用しているが、もっと入れる日を増やしたいのだが、どこの施設も空きがなく入ることができない。デイをもっと増やすことはできないのか?デイの開所時間が遅い(夏休み、冬休みの時)。放課後デイで、もう少し療育的なことをしてほしい。
- ・支援学校卒業後の通所施設が増えたらと思う。障害者のしおりを改訂した時は、郵送してもらえるか、改訂したことを知らせてほしい(古い物をずっと使っているの)。

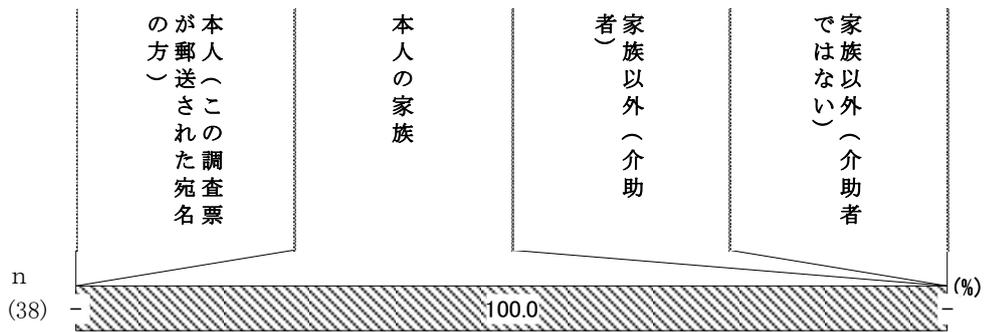
- ・リハビリが出来る放課後等デイサービスを増やしてほしい。「早期療育」とよく言われていて、未就学児には療育の場があるが、小学生になると急にリハビリ出来るところが少なくなった。でも、その子どもには小学生以上でもリハが必要と感じたり、SSTもやってみたいと思っけていても、どこで出来るか情報が得にくかったり、そういう機会がない。
- ・区内で住み続け、働き続けるための施設は、これからももっと必要だと思います。そして、余暇活動の支援を子ども（18以下）だけでなく、就労しても遊び方を知らず友達も作れない人にとって、子どもの時から集まっていた余暇の場が必要です。これはすぐにでも継続してほしいです。よろしくお願い致します。
- ・ファミリーサポートを利用しようとした時に、障害のある娘を預かる自信がないと言われてしまい、結局利用できませんでした。利用できるなら良かったです。今は放課後デイサービスがあるので助かっています。また、小学校の先生にご配慮いただいておりますが、先生の人数が足りなく、もう少し先生の数が増えると、娘の学習環境が変わるのかな？と思っています。
- ・発達障害を持つ子どもですが、どこに相談すれば良いのか、本当にわからなく困っています。わかりやすく発達障害の相談窓口の一覧表等を作ってもらい、支援センター等、正門のわかりやすい所などに置いてもらいたい。介護の相談窓口の一覧表も同様にしてほしいです。
- ・福祉園の利用時間が短くなるため、フルタイム就業に支障がでる。時間延長か、放課後デイサービスでの受け入れを早急に実施してほしい。その分費用が発生しても、利用者は助かると思う。
- ・赤塚ホームみたいに、レスパイトできる所があるといいと思います。1日に利用できる上限の人数も3人とかで少なく、予約も取りづらいです。希望日に予約取れる日が少ないです。あとは、障がい者の人がもっと気軽に遊びに行ける場所など。付き添いの方も、周りの目を気にせずに連れて歩けると、外出もしやすいです。
- ・今、支援学級に在籍していますが、子どもや保護者から差別を受けることもたまには感じますが、理解を得ることも、私たちが子どもの時よりは増えてきていると感じます。教育の場や、区の大人向けの啓蒙活動のおかげかと思います。板橋区は、障害者の方が結構いらっしゃるので、区民の方々の理解も田舎に比べてあるのかなと思います。
- ・区の中で、パラリンピックのような目標となるイベントを開催して頂きたいです。習い事も、障がいに応じた受け入れがあると、小さい時からの積み重ねが出来るようになり、生活の場が広がると思います。

4 発達障がい等診断者調査

(1) 回答者属性

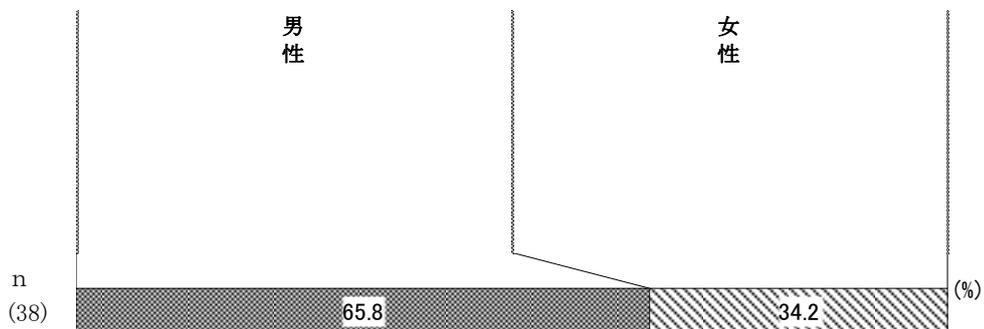
問1 お答えいただくのはどなたですか。(〇は1つ)

対象者の属性は、「本人の家族」が100%となっています。



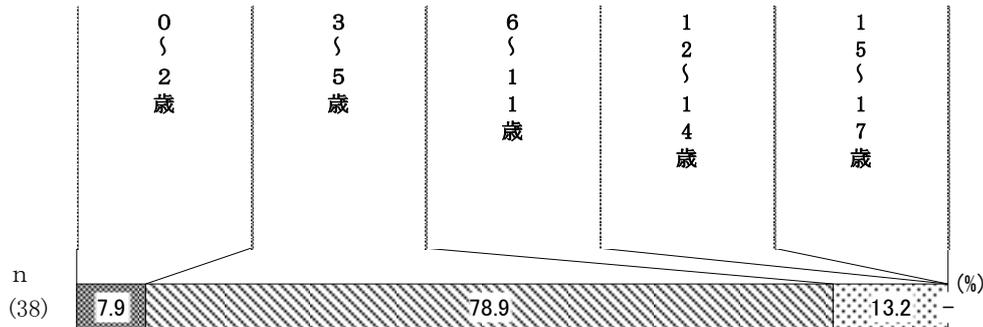
問2 あなたの性別をお答えください。(〇は1つ)

対象者の性別は、「男性」が65.8%、「女性」が34.2%となっています。



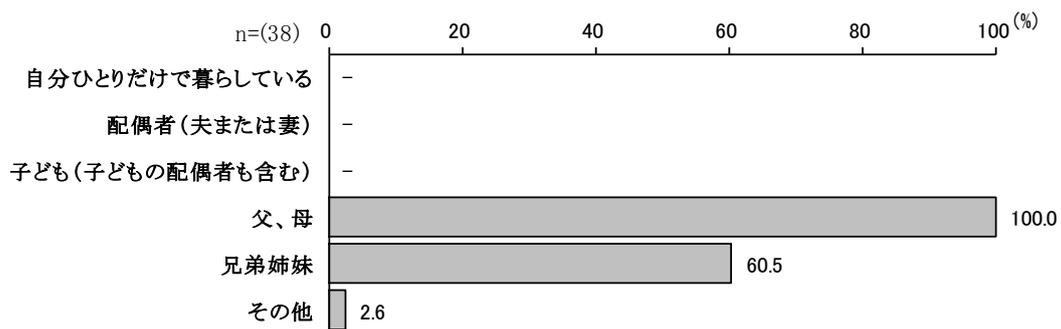
問3 あなたの年齢（令和2月1日現在）を記入してください。

対象者の年齢は、「3～5歳」が78.9%と最も高く、次いで「6～11歳」が13.2%となっています。



問4 あなたは現在、どなたと一緒に暮らしていますか。（〇はいくつでも）

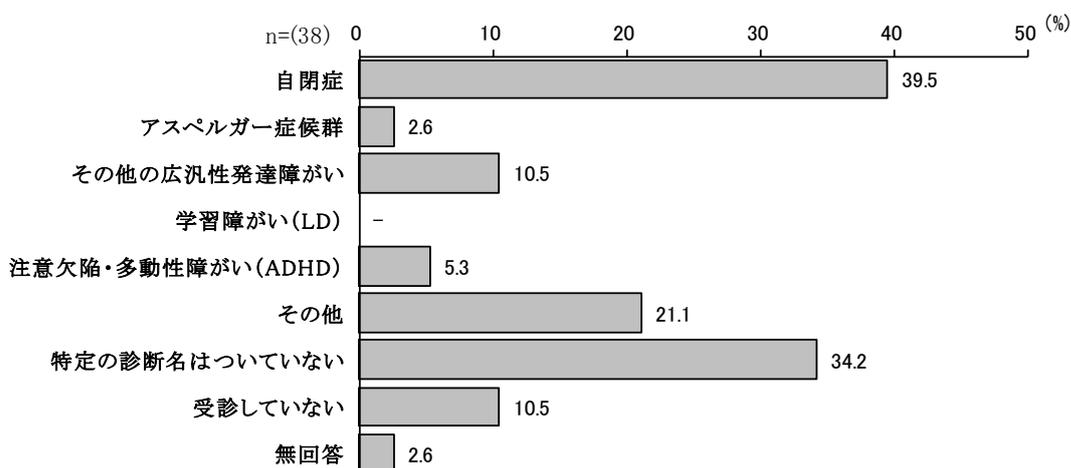
誰と一緒に暮らしているかを聞いたところ、「父、母」が100%と最も高くなっています。



(2) 障がいの状況について

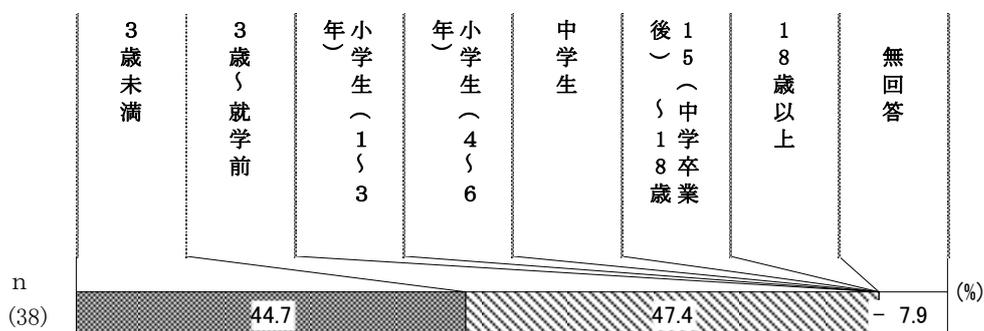
問5 発達障がいに関する診断名などありましたらお答えください。(あてはまるものすべてに○)

診断名は何かを聞いたところ、「自閉症」が39.5%と最も高く、次いで「特定の診断名はついていない」が34.2%となっています。



問6 最初に問5のどれかの診断を受けたのは何歳のころですか。(1つに○)

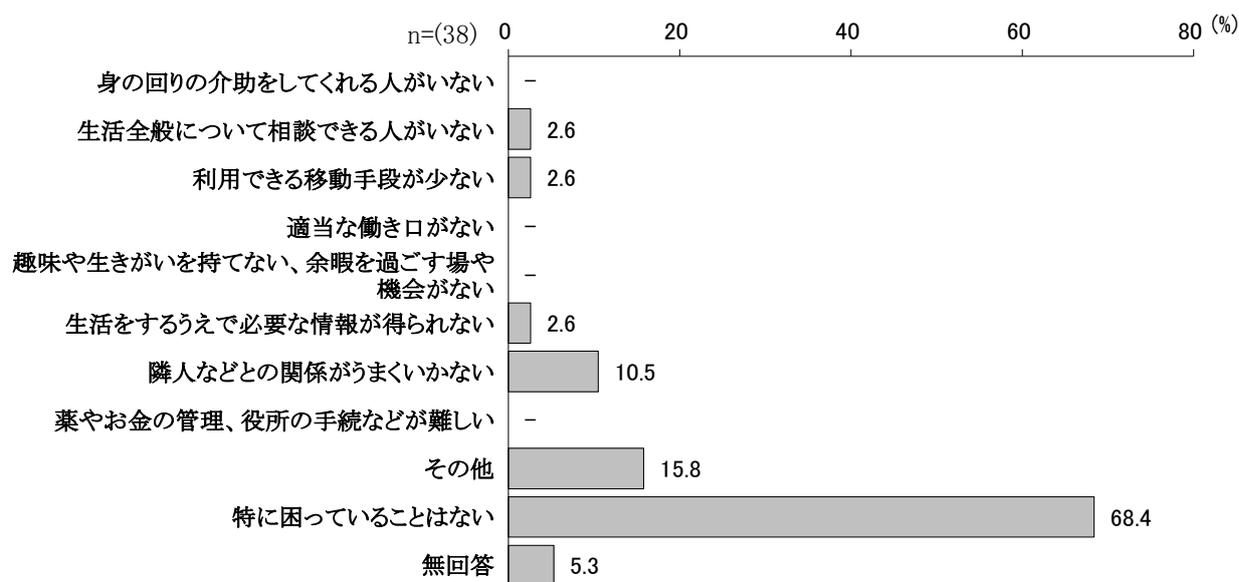
最初の診断をいつ受けたか聞いたところ、「3歳～就学前」が47.4%と最も高く、次いで「3歳未満」が44.7%となっています。



(3) 介助・援助の状況について

問7 現在、あなたが特に困ったり、不安に思っていることは何ですか。(〇は3つまで)

困ることは何か聞いたところ、「特に困ることはない」、「その他」を除くと、「隣人などとの関係がうまくいかない」が10.5%と最も高くなっています。

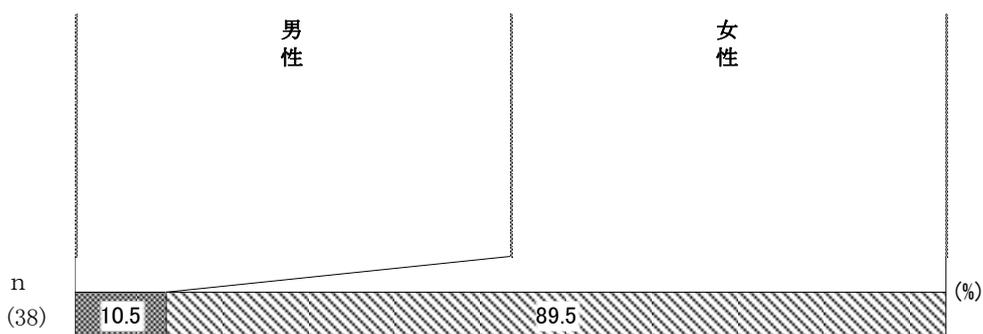


(4) 保護者の方について

問8 保護者の方の性別・年齢についてお答えください。

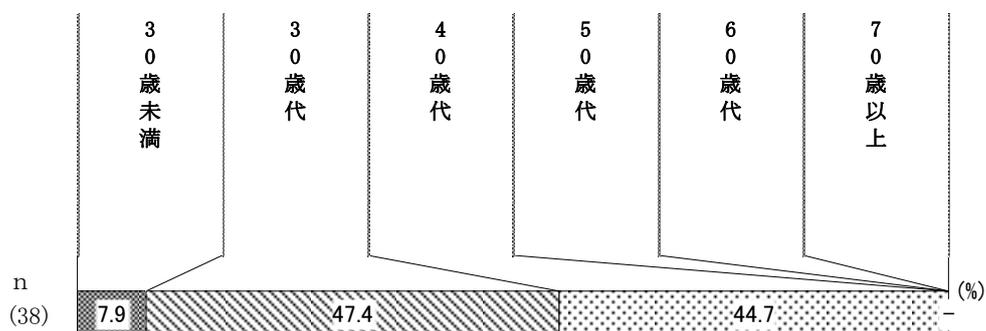
① 性別

主に保護している、保護者の方の性別は「女性」が89.5%となっています。



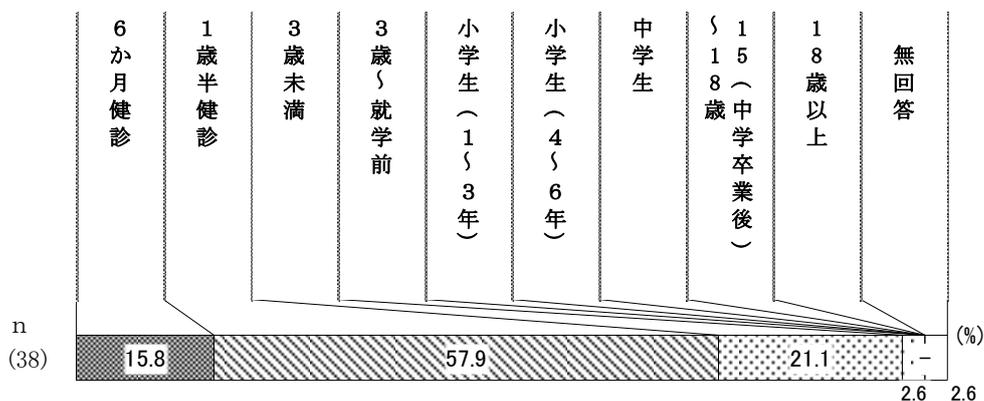
② 年齢（令和2年2月1日現在）

主に保護している、保護者の方の年齢は「30歳代」が47.4%と最も高く、次いで「40歳代」が44.7%となっています。



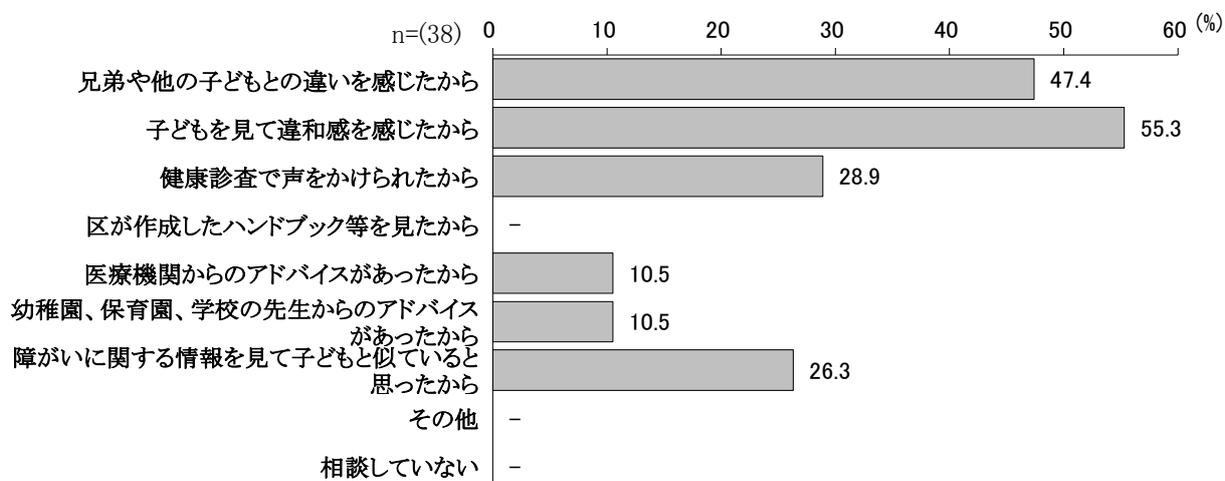
問9 保護者がご本人の発達や行動などについて気になり始めたのは何歳のころですか。
(○は1つ)

発達や行動などについて気になり始めたのはいつかを聞いたところ、「1歳半健診」が57.9%と最も高く、次いで「3歳未満」が21.1%となっています。



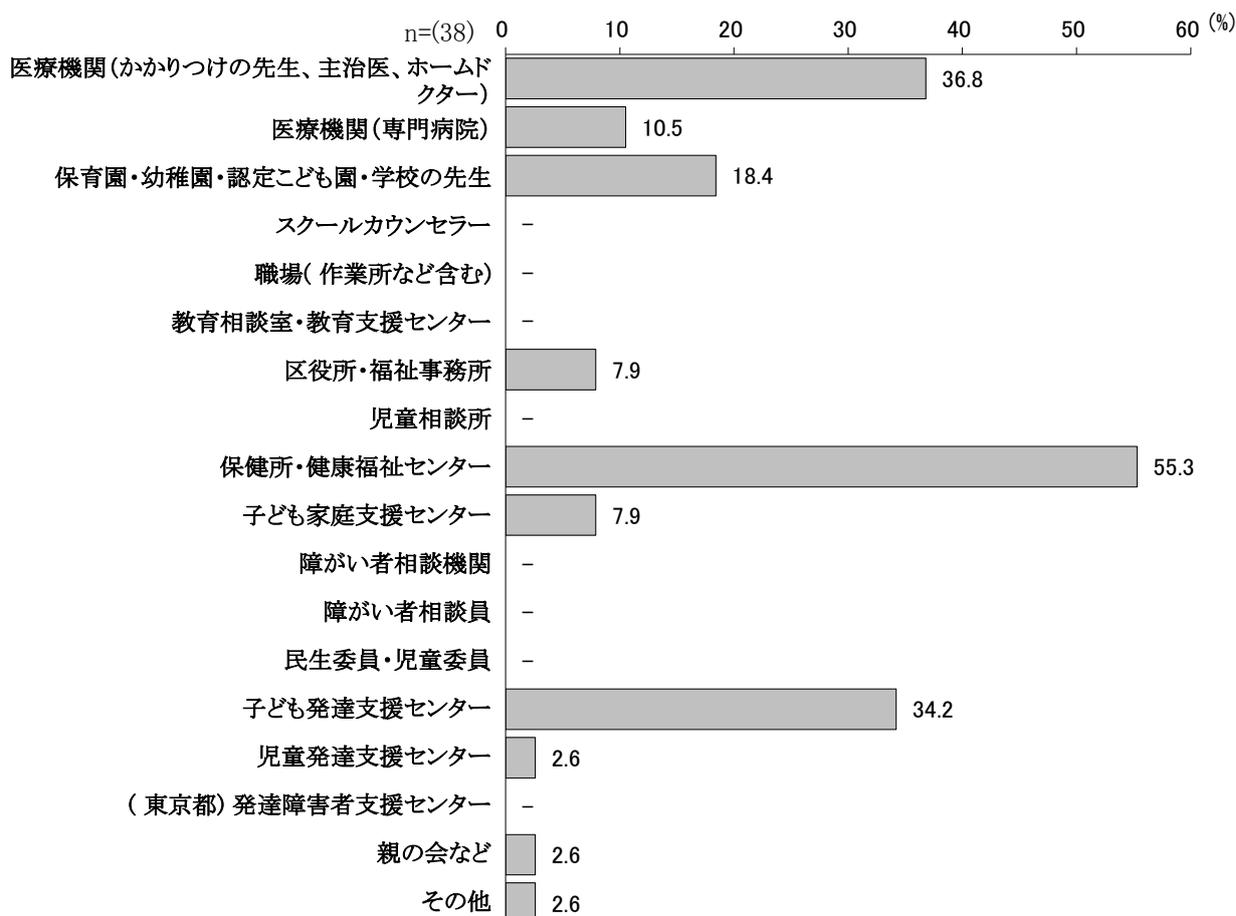
問10 保護者がご本人の障がいや発達、行動などについて相談した直接のきっかけは何でしたか。(○は3つまで)

相談した直接のきっかけを聞いたところ、「子どもを見て違和感を感じたから」が55.3%と最も高く、次いで「兄弟や他の子どもとの違いを感じたから」が47.4%となっています。



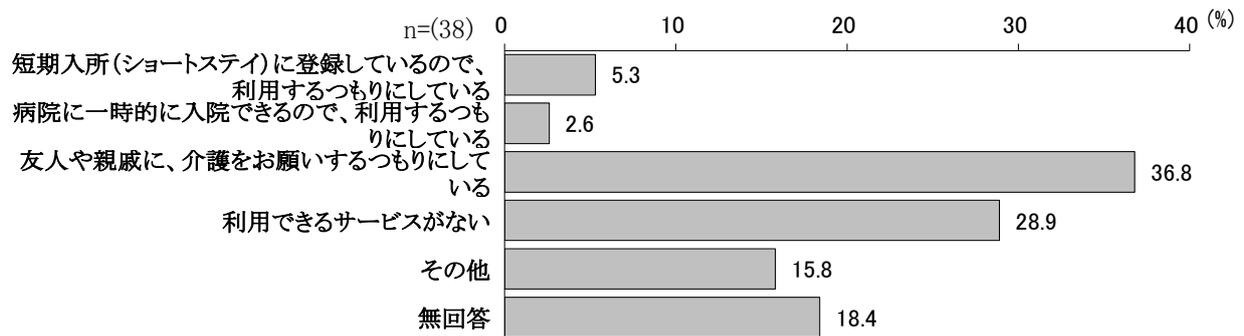
問 11 保護者の方は、家族、知人以外で、気になったことについて最初にどこで（誰に）相談しましたか。（〇は3つまで）

最初に誰に相談したかを聞いたところ、「保健所・健康福祉センター」が55.3%と最も高く、次いで「医療機関（かかりつけの先生、主治医、ホームドクター）」が36.8%となっています。



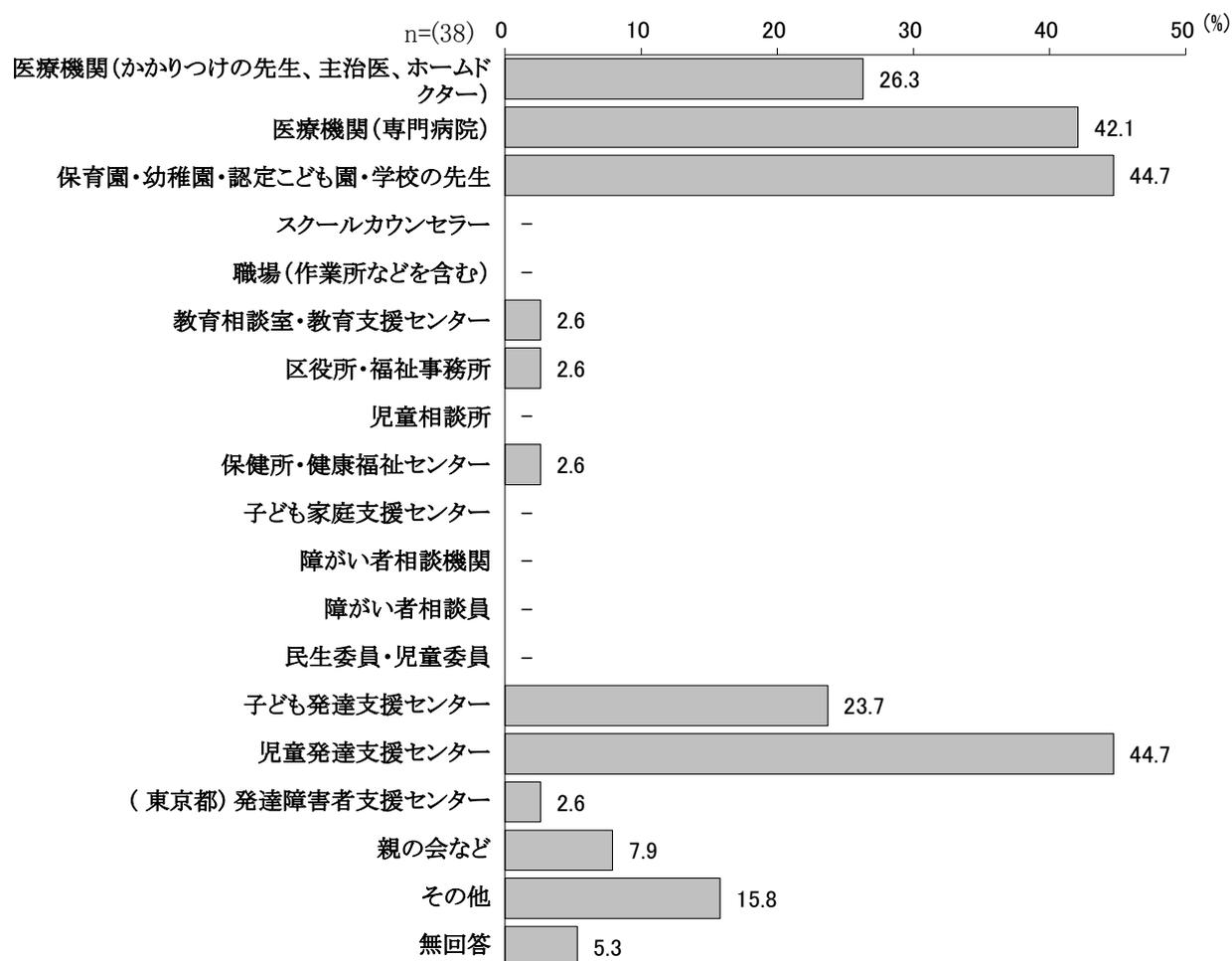
問 12 介護、看護が必要で、主な介護・看護者が何らかの理由により介護・看護ができない場合、どのように対応しますか。(〇はいくつでも)

主な介助者の代わりに介助・援助してくれる人を聞いたところ、「友人や親戚に、介護をお願いするつもりになっている」が 36.8%と最も高く、次いで「利用できるサービスがない」が 28.9%となっています。



問 13 保護者の方は、今、障がいについて、主にどこで相談していますか。
(〇はいくつでも)

保護者の方が主にどこで相談しているか聞いたところ、「保育園・幼稚園・認定こども園・学校の先生」、「児童発達支援センター」がともに 44.7%で最も高く、次いで「医療機関（専門院）が 42.1%となっています。

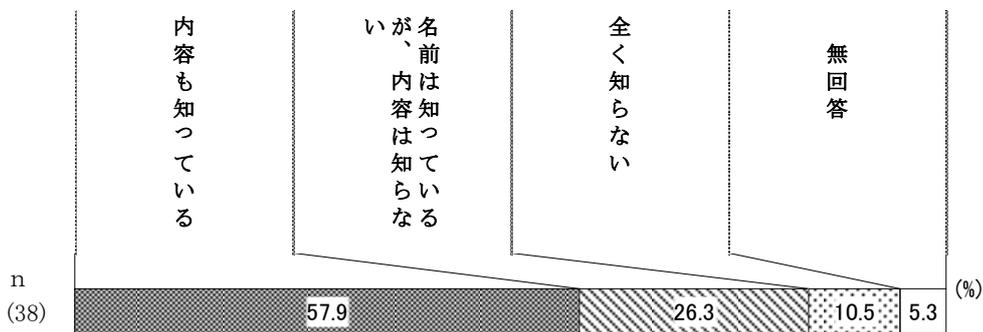


(5) 相談や情報入手の状況について

問 14 悩みごとや心配ごとを相談する場として、知っているものはどれですか。
(①～⑪ごとに1つずつお答えください。)

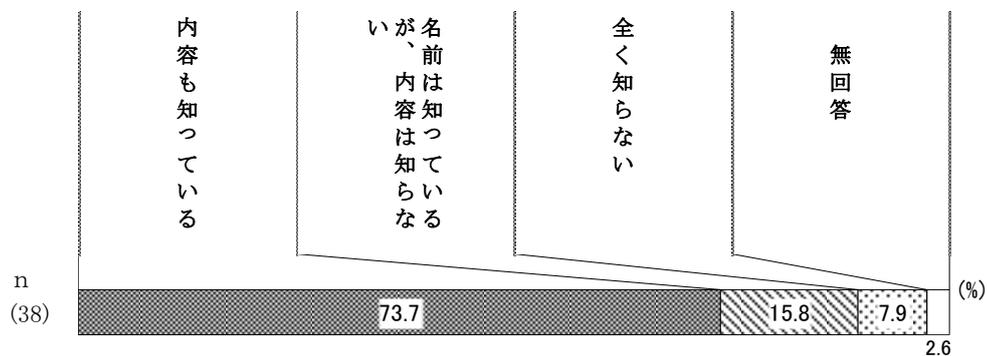
① 福祉事務所（板橋、赤塚、志村）

「内容も知っている」が57.9%と最も高くなっています。



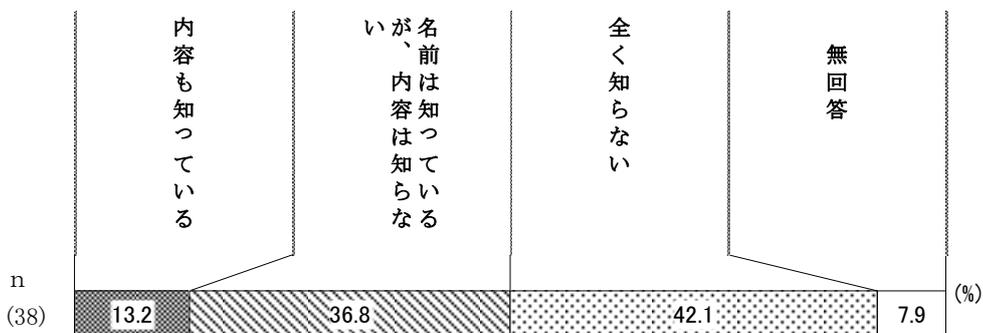
② 健康福祉センター（板橋、上板橋、赤塚、志村、高島平）

「内容も知っている」が73.7%と最も高くなっています。



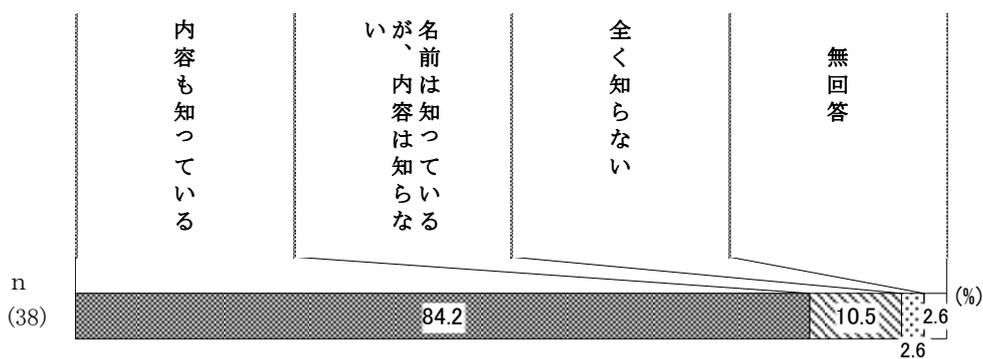
③ 子ども家庭支援センター

「全く知らない」が42.1%と最も高くなっています。



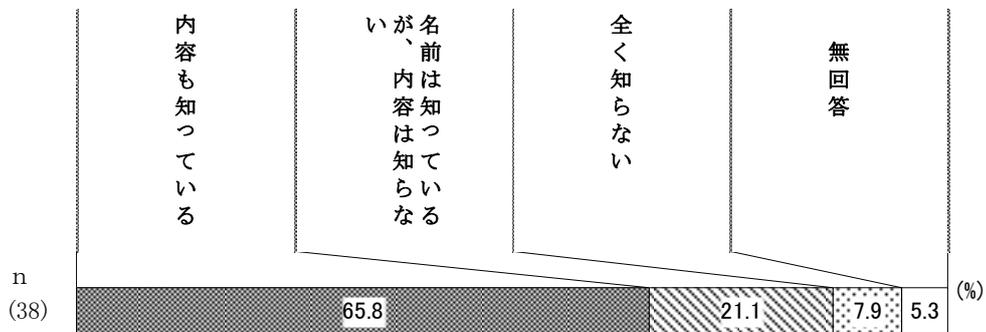
④ 子ども発達支援センター（小茂根療育センター）

「内容も知っている」が84.2%と最も高くなっています。



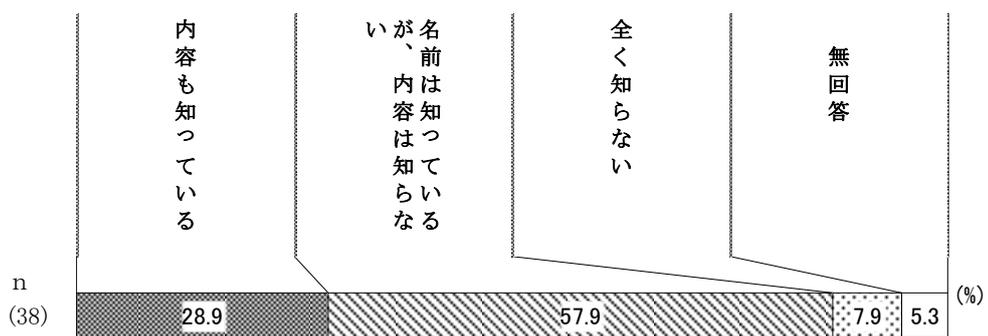
⑤ 児童発達支援センター（加賀福祉園児童ホーム、東京 YWCA キッズガーデン）

「内容も知っている」が 65.8%と最も高くなっています。



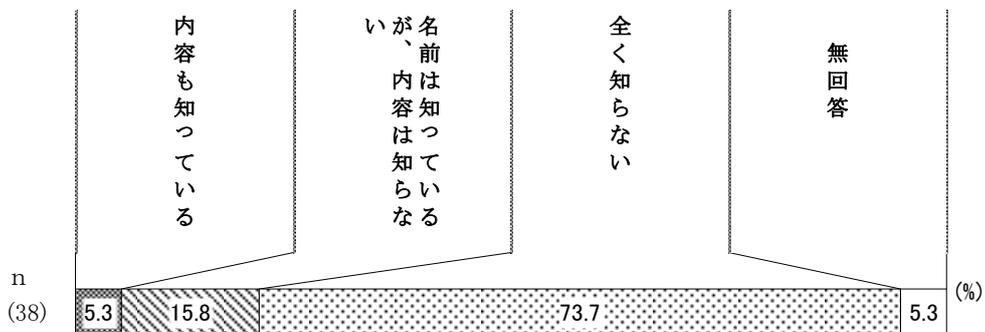
⑥ 児童相談所

「名前を知っているが、内容は知らない」が 57.9%と最も高くなっています。



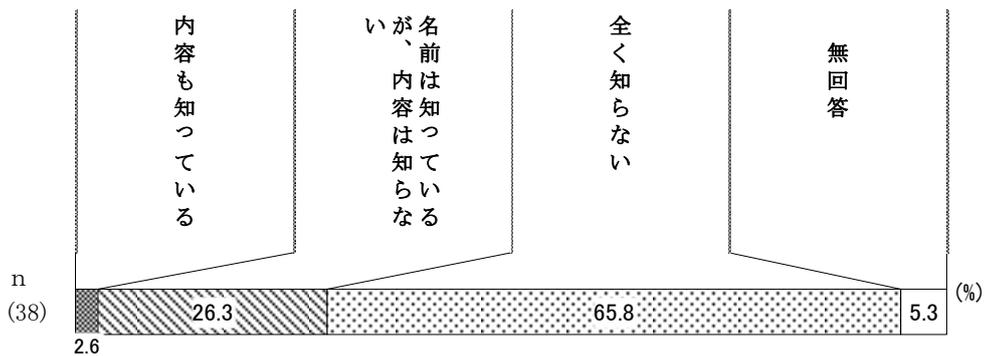
⑦ ハートワーク（障がい者就労支援センター）

「全く知らない」が73.7%と最も高くなっています。



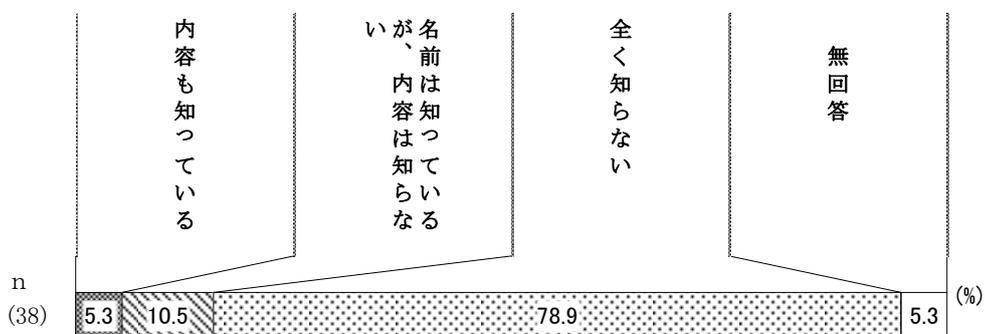
⑧ 障がい者福祉センター（高島平）

「全く知らない」が65.8%と最も高くなっています。



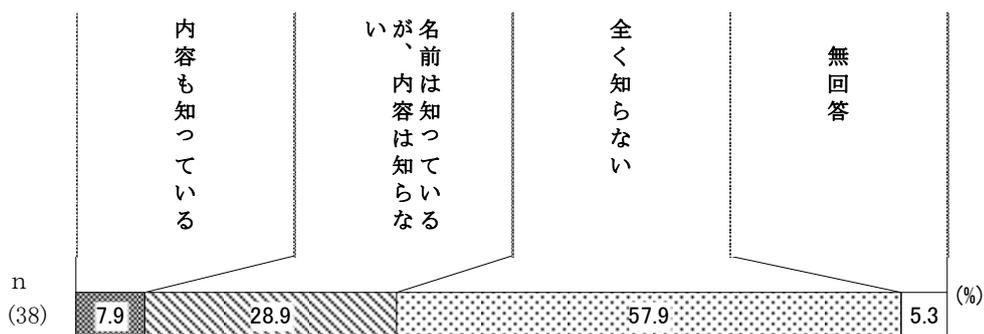
⑨ (身体・知的) 障がい者相談員

「全く知らない」が78.9%と最も高くなっています。



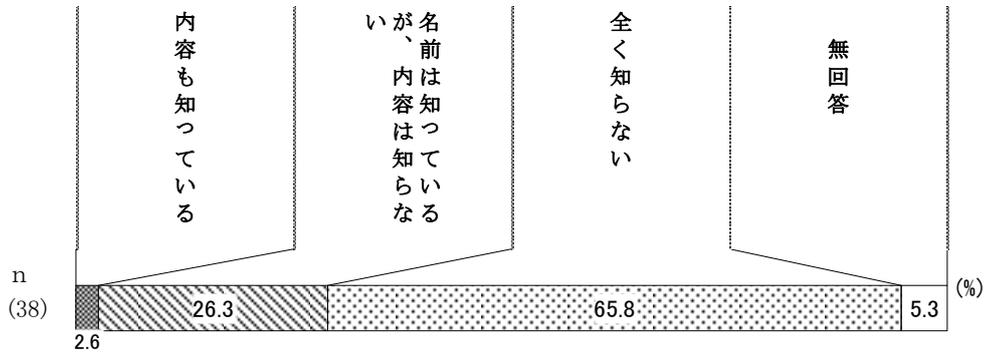
⑩ 民生委員・児童委員

「全く知らない」が57.9%と最も高くなっています。



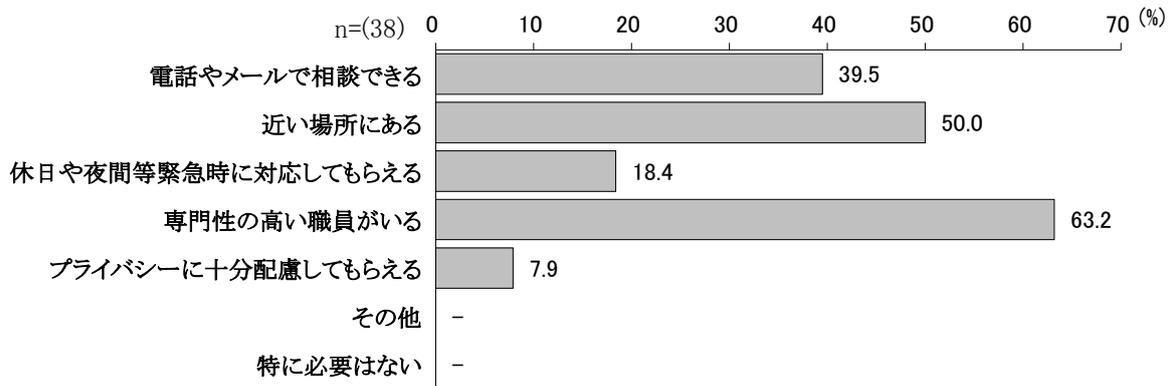
⑪ 障がい者団体

「全く知らない」が65.8%と最も高くなっています。



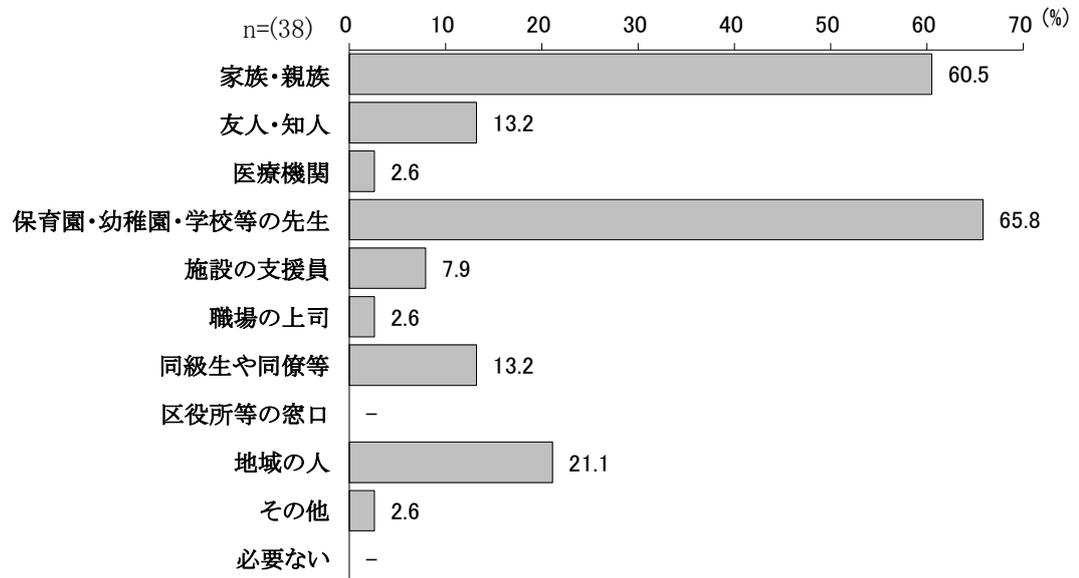
問 15 必要なときに気軽に相談するためには、特に、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

相談するために必要なことを聞いたところ、「専門性の高い職員がいる」が63.2%と最も高く、次いで「近い場所にある」が50.0%となっています。



問 16 発達障がいについて、最も理解してほしい人はだれですか。(〇は2つまで)

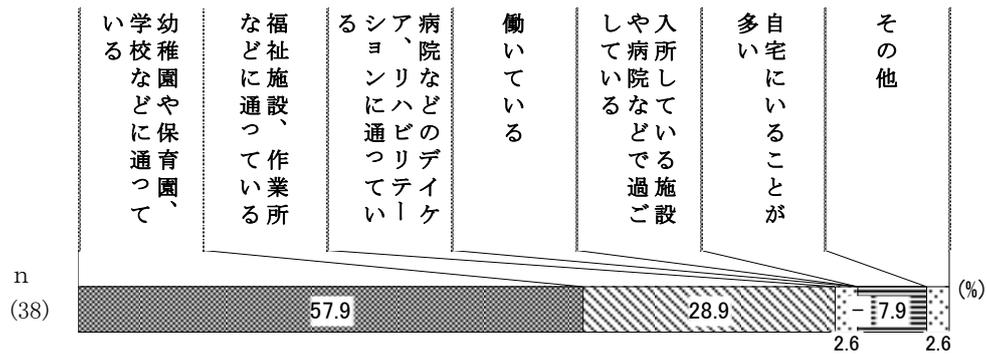
理解してほしい人を聞いたところ、「保育園・幼稚園・学校等の先生」が65.8%と最も高く、次いで「家族・親族」が60.5%となっています。



(6) 日中の過ごし方について

問 17 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(○は1つ)

日中の過ごし方を聞いたところ、「幼稚園や保育園、学校などに通っている」が 57.9%と最も高く、次いで「福祉施設、作業所などに通っている」が 28.9%となっています。



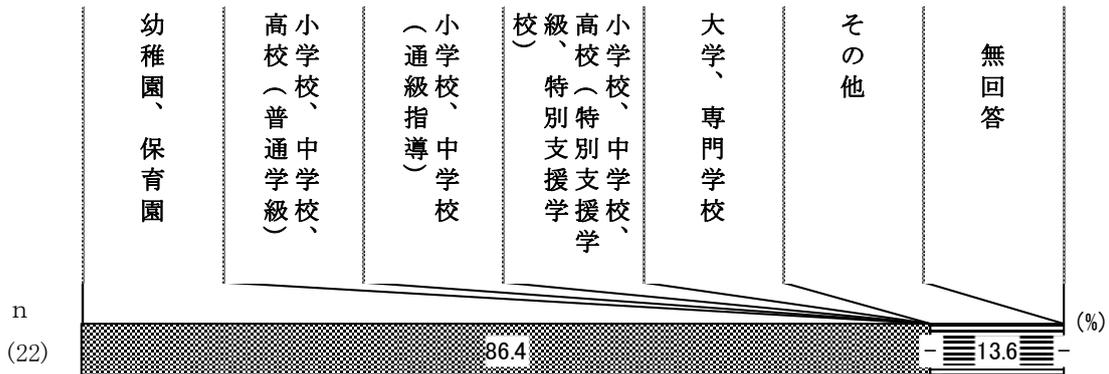
問 17-2 問 17 で○をした他に毎週 4 時間以上利用、まる 1 日通園・通所している施設がある場合、どちらの施設になりますか？

- ・ハビー上板橋教室
- ・あゆみ
- ・加賀福祉園児童ホーム
- ・東京 YWCA キッズガーデン
- ・まるやま保育園

次の問 18～問 20 は、問 17 で「1. 幼稚園や保育園、学校などに通っている」と答え
 かつ
 た方におうかがいします。

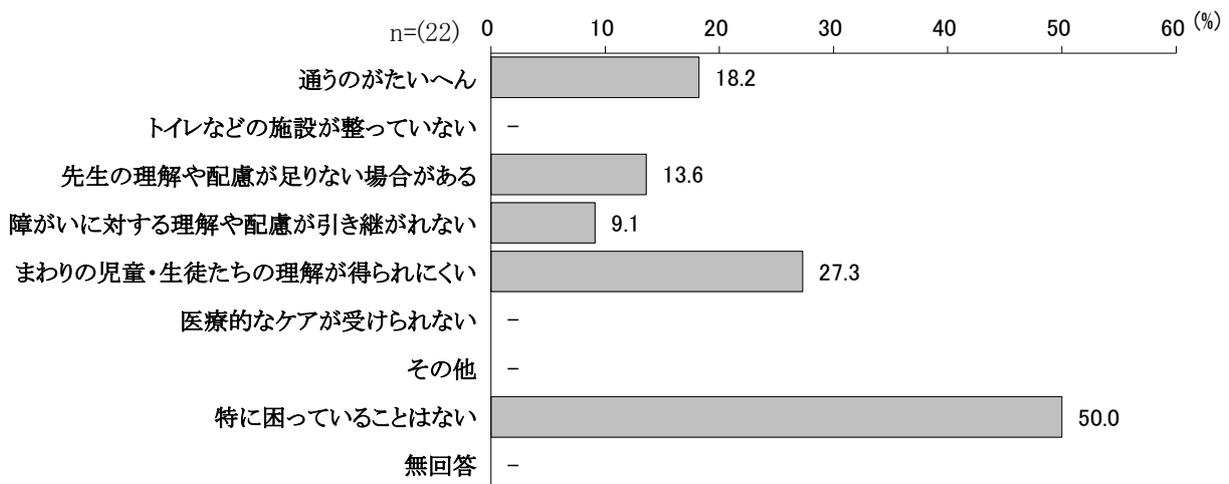
問 18 通っているのは次のうちどれですか。(○は1つ)

「幼稚園、保育園」が 86.4%と最も高くなっています。



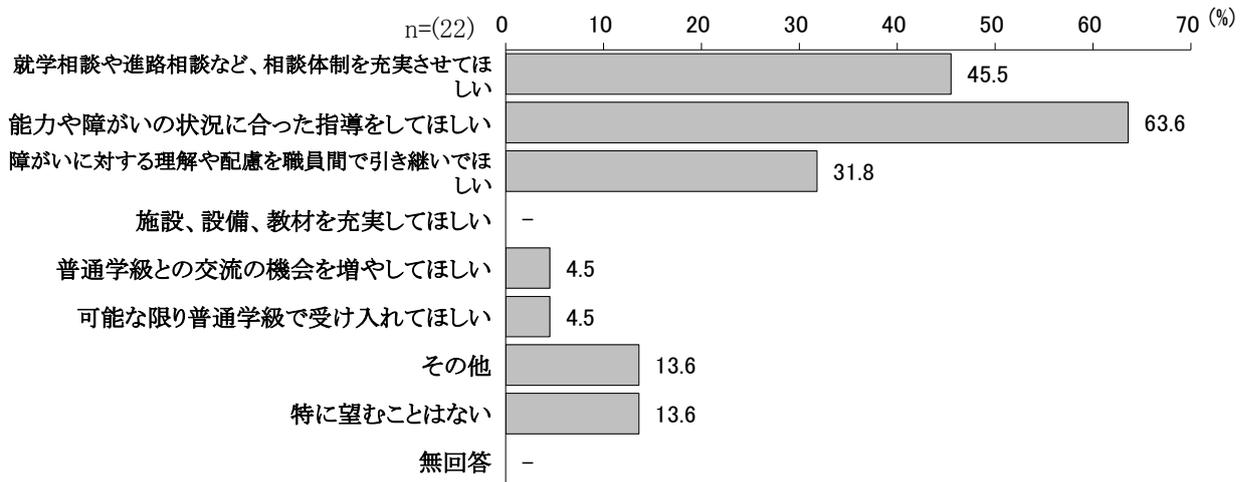
問 19 幼稚園・学校などに通っていて困っていることはありますか。(○はいくつでも)

通っていて困ることを聞いたところ、「特に困っていることはない」を除くと、「まわりの児童・生徒たちの理解が得られにくい」が 27.3%と最も高く、次いで「通うのがたいへん」が 18.2%となっています。



問 20 学校教育に望むことはどのようなことですか。(〇は2つまで)

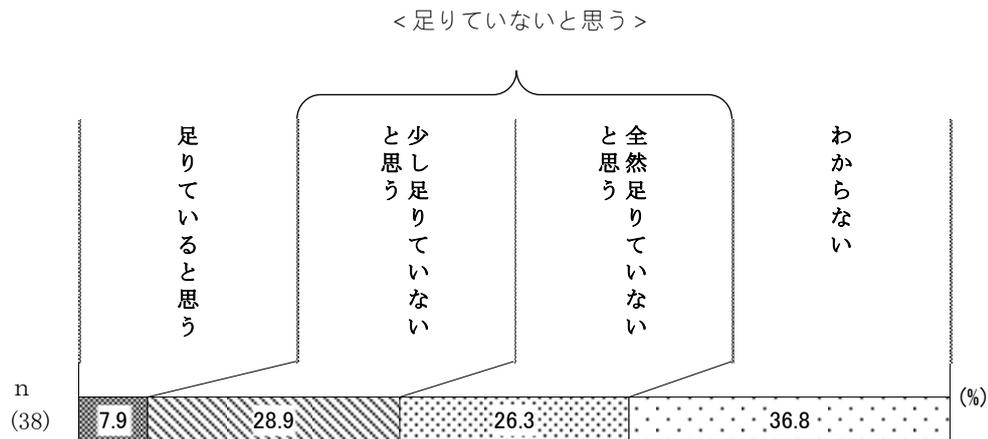
学校教育に望むことを聞いたところ、「能力や障がいの状況に合った指導をしてほしい」が63.6%と最も高く、次いで「就学相談や進路相談など、相談体制を充実させてほしい」が45.5%となっています。



(7) 差別や権利擁護などについて

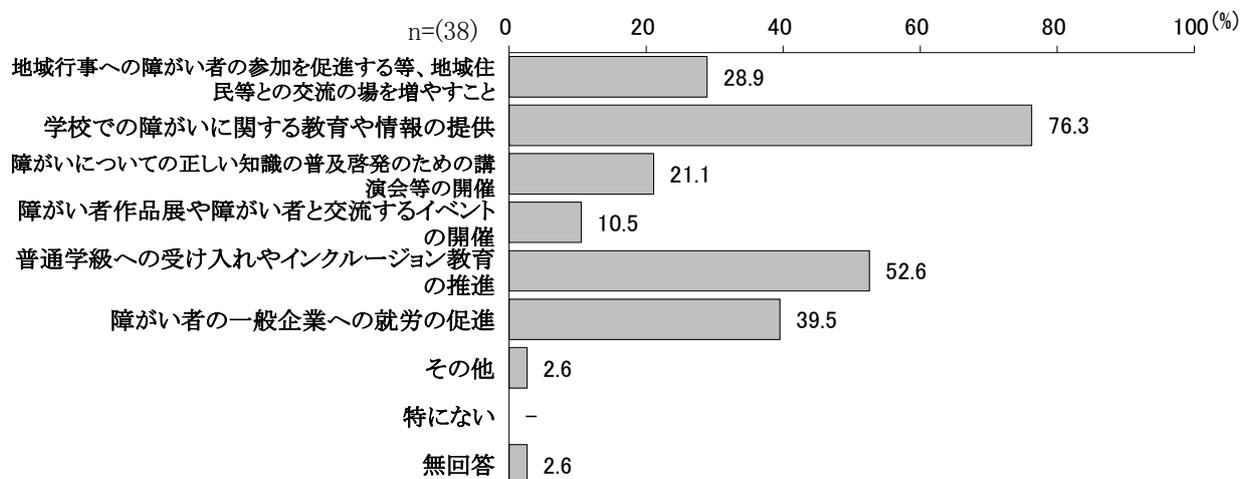
問 21 あなたは、区民の、障がいのある人への対応や理解が足りていると思いますか。
(○は1つ)

障がい者への理解が足りているか聞いたところ、「少し足りていないと思う」と「全然足りていないと思う」を合わせて「足りていないと思う」とした場合、理解は「足りていないと思う」が55.2%と高くなっています。



問 22 障がいのある人もない人も共に地域で普通に生活できるように地域の理解を進めていくために、特に力を入れるべきことは何だと思いますか。(○は3つまで)

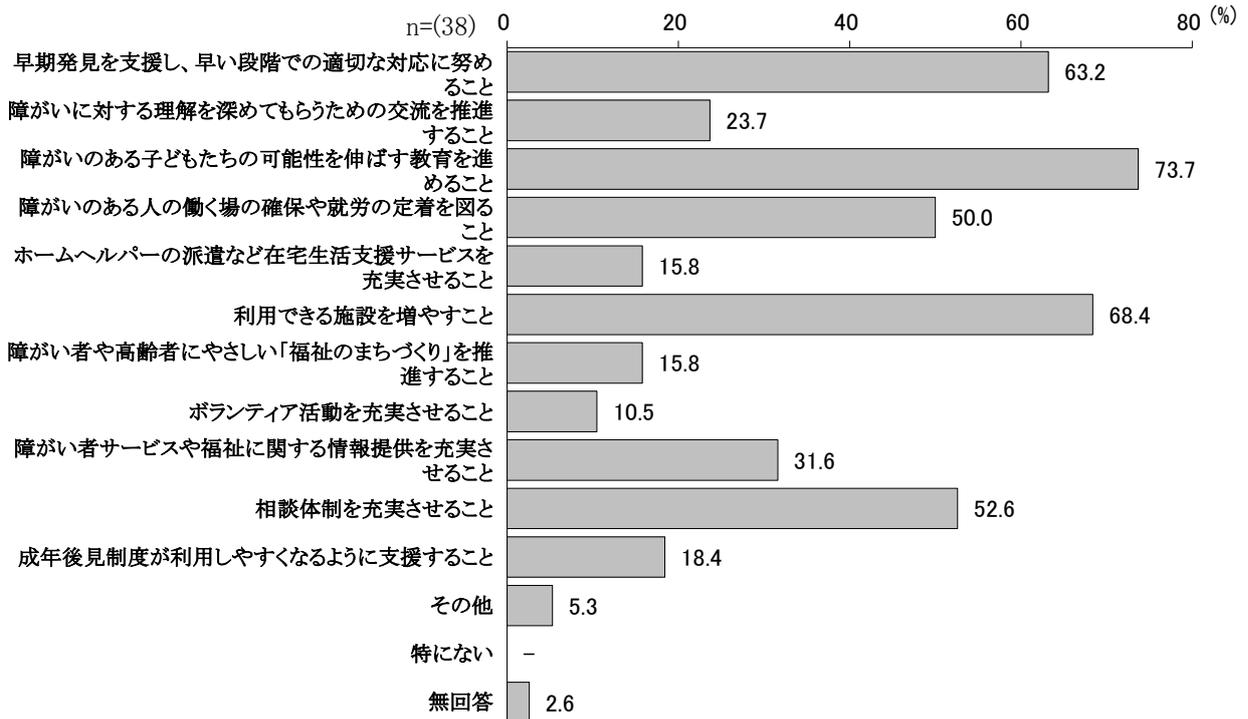
地域の理解を進めていくために特に力を入れるべきことを聞いたところ、「学校での障がいに関する教育や情報の提供」が76.3%と最も高く、次いで「普通学級への受け入れやインクルージョン教育の推進」が52.6%となっています。



(8) 区の取り組みなどについて

問 23 今後、障がい者施策を進めていくにあたって、区は特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。(〇はいくつでも)

障がい者施策を進めていくために、何を充実させていけばよいか聞いたところ、「障がいのある子どもたちの可能性を伸ばす教育を進めること」が73.7%と最も高く、次いで「利用できる施設を増やすこと」が68.4%となっています。



問 24 最後に、この調査を通じて、選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことがありましたら、自由にお書きください。(自由記入)

(例) サービスの満足度、現在はないがあったら利用したいサービス、サービスの問題点、ご意見・ご要望、区の計画に盛り込んで欲しいことなど

- ・療育施設を探す時の情報の少なさが大変でした。運良く新設園に入所(週1回)できましたが、本人にとってどこが合うのか、どういう専門的な療育ができるのかは比較検討することもできませんでした。区でも、どのような療育施設があるのか、保育園のような、情報をまとめて開示いただけると不安も少なくなるはずです。
- ・児童発達支援センターに3月まで通わせて頂き、4月から特別支援学校へ入学します。電車や、街を歩いていて、我が子はひとり言をたくさん話します。周りが「変な子ね」などと、小声で言われることがあります。本人は理解していないのですが、親としてはとても悲しくなります。偏見のない世界になるよう、少しでも生活しやすくなるよう、お願い致します。
- ・同じ悩みを持つ親同士の交流の場が欲しい。
- ・全ての小学校に支援学級を設けてほしい。支援学級のある小学校は限られるので、送り迎えの時間と兄弟の登園時間を考えると、あまり遠い小学校は選べないので。
- ・知的障害はない(IQがグレーゾーンにも当てはまらない)けれど、情緒に問題のある子どもです。就学相談では、知的検査の結果から普通学級でスタートすることになりましたが、正直不安でいっぱいです。板橋区にも、情緒の支援学級を開設して頂ければ、息子のように行き場のない子ども達が少し減るのではないかと思います。インクルーシブ教育は、日本ではなかなか難しいと思います。もし目指すのであれば、インテグレーションではなくインクルージョンを目指して頂きたいです。
- ・受給者証を取るのが大変なので、もっと簡単にしてほしいです。面談もほとんど親との会話で、子ども(本人)を連れていく意味があまりなかったような…。何も無い部屋で長時間子どもが待たなければならぬのが大変でした…。親への質問や書類は、事前に電話でしたり、郵送でやり取りして、当日は子どもの面談のみにすると良いと思いました。
- ・発達障がいや言語発達に関する情報を知ることと、気軽に相談できる体制があるといいなと思います。専門機関(病院など)への予約が困難で、受診をあきらめてしまうお母さま方が多かったです。その結果、相談できず、療育のスタートが遅れたり、1人で抱えこんでしまうことがあるので、少しでも、相談できる場所や一時的に預かりをしてくれる所があれば助かります。